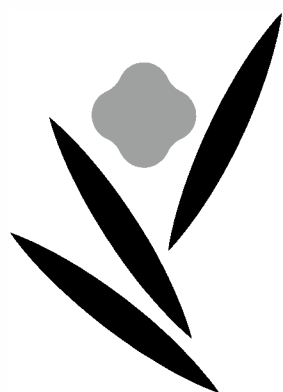


授 業 計 画

平成 30 年度



福 島 学 院 大 学

福祉学部 こども学科



福島学院大学の教育

I. 建学の精神

本学は学則第1条に、『教育基本法、学校教育法に則り、学院創立者の信念である「真心こそすべてのすべて」という建学の精神に基づき Sincerity（真心）と Hospitality（思いやり）を教育の根本におき、広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的および応用的能力を展開させ、地域社会に積極的かつ実践的に貢献することを目的とする』とうたっています。

「真心」を身につけた学生を育成することが、本学の創立者故菅野慶助先生の建学の理想だったのです。

(1) 真 心

真心とはいってもなく、誠とか至誠とか呼ばれるものと相通じ、一般的な考え方を示すものとして、広辞苑では、「誠の心。いつわりのない真実の心」と記しています。また、「誠」の項では、「真」、「実」などの文字とともに、「真実の通りであること。うそでないこと」また、「人に対して親切にして欺かぬこと」と記しています。

このように、真心はまず、自己に対していつわりのないこと。すなわち「自らの良心の声に聞いて恥じないこと」を意味しています。

また、他人に対しては、自己に対するいつわりのない心で接し、その人の身になって考える思いやりがあり、他人を決して欺かないことを意味しています。

(2) すべてのすべて

以上のような意味の「真心」こそは、人間の行為のすべてを貫くものでなければならないのであって、菅野慶助先生が「一にも真心、二にも真心」と述べているのはこのことを指しています。

さらに、真心はすべての徳の中でも根本に位するものとして、これらをとらえることができます。

この二つの意味を込めて「すべてのすべて」と言っているのです。

(3) 信念のことは

真心を以上のように誠、至誠と解するとき、それはまず、儒学における重要な概念として、儒学者の諸説があり、また、国学においても「真心」について説くところがあります。さらに、その他の倫理・哲学者においても説きかたは様々です。

しかし、本学における言葉並びにその精神は、創立者菅野先生の日常の実践の中において体得されたものであり、また、これを体現すべく努めに努めた体験の中から生まれてきた信念であって、思弁的な産物ではありません。

したがって、この言葉の真の意味は、菅野先生がこれまで歩んできた「足あと」そのものの中から見出すことができるものと言って過言ではありません。

本学においては、真心とその実践を基盤とする国際平和の実現のための教育を、ひとつの特色として打ち出しており、これもまた、菅野先生の信念から生み出されたものです。

われわれは、建学当初の「真心こそすべてのすべて」の精神を基本として、人々の信頼と幸福を求め、さらに世界平和の実現のための教育の重視へと発展してきたその経緯をたずね、さらに将来を展望し、建学の精神の高揚に努めなければなりません。

II. 教育の理念

本学は、感銘と感動を与え、知的好奇心を喚起する授業の実施を目指すとともに、自らの人生を創造的に生きようとする学生を受け入れ、支援します。

本学が求め、そして育成しようとする人間像については次の通りです。

(1) 真心を持って人に接し、人の立場を考えて行動できるひとを育てます。

真心は人間社会を築く礎であり、人間関係の基本です。

心のこもった対応や接遇を心掛け、相手や他人の立場を理解しようとする謙虚さを失うことなく行動ができる人間を育成します。

(2) 夢とロマンを胸に、自らの人生を創造的に生きようとするひとを育てます。

夢をもって生きること、ロマンを求めて生きること、その実現に努力すること、それは自らの青春を美しく磨くことです。

(3) 的確な判断ができ、自らの知識と技能を生かして社会に貢献できるひとを育てます。

的確な判断は、現代社会に必要な知識と教養の獲得と、社会のいろいろな人との多様な人間関係の錬磨の中から生まれてくるものです。

自らの知識を深め、自らの技能を高めて、社会に貢献できる人材の育成につとめます。

(4) 国際的な視野に立ち、多様性を理解し、相互理解の心を持つひとを育てます。

情報は一瞬にして世界を駆け巡ります。世界は日本に、日本はまた世界へ影響を与えます。国際的な視野に立って相手のことを理解することのできる人間の育成につとめます。

(5) 感銘と感動を素直に表現できるひとを育てます。

感銘と感動のある人生ほど素晴らしいものではありません。

一つひとつの発見や驚きが、人生に若さと新鮮さを与えてくれます。そうした「ひとを育てる教育」でありたいと思います。

こうした学生を育成することを建学の精神として掲げ、本学はこれを学是としています。

授業計画について

授業計画はシラバスとも呼ばれ、本学が学生の皆さんに提供する授業に関する計画書です。授業ごとに、担当教員、授業概要、目標、各回の授業内容、評価方法などが記載されています。

また、それぞれの授業の事前・事後の学修についても明記されていますので、予習・復習を励行するようにしてください。

この授業計画は、学生の皆さんが、授業を学ぶための基本的な資料になりますので、熟読して自分の履修計画を立ててください。

I. 福祉学部こども学科の教育

1. 入学者受入れ、教育課程の編成および学位授与の方針

(1) 入学者受入れ方針（アドミッションポリシー）

こども学科では、教育・福祉両面にわたる発達支援、子育て支援を担う専門領域において、地域社会に根ざし、将来に渡って保育および幼児教育の領域における指導者として地域の発展に寄与しようとする気概を持つ人、現代社会に必要な知識と教養を身に付け、自らを高める努力をしようとする人を求めています。

こども学科においては、学修するための基本となる学力要素を、高等学校での学習を通して学科毎に形成された知識や技能に求めています。この知識や技能を証明するものとして、各学科に定める高等学校での評定平均を重視し、その中でも特に、人間関係構築の基本であり、コミュニケーション能力の基礎となる国語力を身につけていることを希望しています。

別に定める学科による各選考方法の基本は、高等学校における学習成果を前提に、こども学科において新たな知識を獲得するための希望者本人の意欲や論理的思考能力を確認することです。各選考に共通して設けられた面接では、学科への適性のほか、生徒会・部活動や地域ボランティアなど課外活動の実績も評価していきます。

(2) 教育課程の編成方針（カリキュラムポリシー）

教育課程の編成にあたっては、学部及び学科にかかる専門の学芸を教授するとともに、幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養するように配慮しています。

こども学科の教育課程は、教養教育科目と専門教育科目からなり、さらに各授業科目を必修科目、選択科目に分け、これを各年次に配当して編成しています。

教養教育科目では、学生・社会人としての現代的教養観、即ち表現力やコミュニケーション能力・情報リテラシー、および生活教養などを重視した科目で編成しています。

専門教育課程の編成は、幼稚園教諭一種免許状を取得しようとする者のために教育職員免許法および同法施行規則に規定する科目を置き、保育士の資格を取得しようとする者のために児童福祉法および同法施行規則に規定する科目を置き、幼稚園教諭養成課程と保育士養成課程を設置しています。また、幼稚園教諭一種免許状と保育士資格双方の取得により認定こども園に勤務した場合は、保育教諭となることを可能としています。

教養教育・専門教育科目それぞれに、知識や技能、論理的思考力、文章・身体・感性等に関する表現力、課題対処力、多様性の理解力や対人関係構築力の獲得など対応する教育目標が設定されており、これら個々の評価を合わせ、総合的な学修経験を通して学科教育、人材育成の目的に到達できるよう各年次に配当して編成しています。

(3) 学位授与の方針（ディプロマポリシー）

こども学科においては、教育・福祉両面にわたる発達支援、子育て支援を担う専門職の育成を目指す学科教育に基づき、教養教育科目及び専門教育科目において指定された科目を履修し、その他、学則に示された所定の要件を満たすことを基本としています。

単位の修得にあたっては、各科目にそれぞれに対応する教育目標として、知識や技能、論理的思考力、文章・身体・感性等に関する表現力、課題対処力、多様性の理解力や対人関係構築力の獲得などが設定されており、これら個々の評価を合わせ、総合的な学修経験を通して修学したことを学科教育、人材育成の目的に適う者とし、かつ、学士の学位を授与するにふさわしい人格識見と健全な精神を有しているところども学科会議で判定された学生について、学長が教授会の議を経て卒業を認定し、「学士（こども学）」の学位を授与します。

2. 学生の努力目標

福祉学部こども学科は、教育・福祉両面に渡る発達支援、子育て支援を担う人材育成を目指し、多様な保育ニーズに対応できる教養と専門的な知識・技術を持った人材を養成することを目的とし将来的に幼稚園教諭、保育士、さらには保育教諭としての活躍を期待しています。

幼児教育・保育に関わる知識は、次世代を育む社会の一員として皆さんに等しく求められていくもので、免許・資格の取得そのものを卒業時の必須要件とはしていませんが、学生のみなさんには本学科における学びの証として、卒業と同時に幼稚園教諭一種免許状と保育士資格を取得できるよう努力してください。

3. 保育者に求められるもの

多様な保育ニーズに対応できる教養と専門的な知識・技術を持った保育者になるために次の点が求められますので、よく理解して努力しましょう。

- (1) 保育者は子どもを愛する強い信念が必要です。本学の学是「真心こそすべてのすべて」に基づいた誠実さや思いやりを持つようにしましょう。
- (2) 子どもに接する保育者にとって、明るく、豊かな人間性は必要不可欠です。子どもの心にそって物事を考え対応できるようにしましょう。
- (3) 世の中の新しい動きにも関心を持ち、幅広い知識を身につけ保育やその周辺領域の理解を深めるため、日ごろから新聞などに親しみましょう。
- (4) コミュニケーション能力の優れた保育者を目指しましょう。保育者は子どもの思いを大切にしながら、同僚や保護者とも良好な関係作りが必要です。
- (5) 子ども自身の事柄ばかりでなく、保護者の要望や地域社会の要請など、現場では様々な問題や課題が生じます。どのような場面でもゆとりを持って対応できる強くてしなやかな「心」を持った保育者を目指しましょう。
- (6) 保育現場は日進月歩でマンネリ化は許されません。常に探究心を持ち、授業などで疑問に思ったことは積極的に質問したり調べたりしましょう。
- (7) 自分の人間力を向上させるため進学も視野に入れましょう。

注：「保育者」

保育者（ほいくしゃ）とは、乳幼児、児童の教育・保育に直接かかわっている、保育士、幼稚園教諭・保育教諭の総称として理解され、それぞれを示す言葉ではありません。

Ⅱ. 教育課程と履修の方法

1. 教育課程(カリキュラム)

(1) 基本的な考え方

開講される授業は「教育課程表」(P14～P16)のとおりです。

教育課程(カリキュラム)は、「教養教育科目」と「専門教育科目」に分かれています。

そして科目ごとに、授業の方法(講義・演習・実習)、履修できる学年、科目の種類(必修・選択)、単位数が決められています。

これらの科目の中から、どの科目を履修するのかを自分で決めていくのが大学でのシステムです。ただし、履修にはいくつかの約束事がありますので、しっかりと理解し、確認してください。

自分で決めた科目(授業)を受講して、学期末の試験(筆記試験、レポート試験等)に合格すると「単位」が認定されます。「単位」については、下記に取りあげていますが、卒業や資格取得への目安になる「数」を示します。

(2) 履修方法

4年間で学ぶ全ての授業科目は、教育課程にまとめられています。この中から、卒業および幼稚園教諭一種免許状、保育士資格を取得するために必要な科目と単位数を確認して、履修する科目を決めていきます。

(3) 科目の種類

科目には、「必修科目」「選択必修科目」「選択科目」に大別されます。

卒業までに必ず取得しなければならないのが「必修科目」であり、どちらかを選択して必ず取得しなければならないのが「選択必修科目」です。それ以外の科目が「選択科目」となっています。

「必修科目」と「選択必修科目」は皆さんが、取得する必要がある科目であり、この科目が卒業時までにならなくても取得できていなければ、卒業することができません。

(4) 授業の開講期

授業科目は、教育課程表にまとめられています。この中から卒業、幼稚園教諭一種免許状、保育士指定科目を取得するために必要な科目と単位数を確認して、履修する授業科目を決めていきます。

学修期間は年間を前期（4月1日～9月30日）と後期（10月1日～3月31日）の2期に分け、1期15週とします。授業科目によっては前後各1期で完結する「半期科目」と、1か年（通年）30週で完結する「通年科目」があります。

(5) 単 位 制

① 単位とは学修時間を表したものであって、ある科目について所要の時間数を履修し、その試験に合格したとき、あるいは授業科目担当者がその科目を履修したことを認定した時に単位を取得したことになります。

② 単位の計算方法は「大学設置基準」に基づいて本学学則に定められています。各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間以外に必要な学修を考慮して、次の基準により計算します。

- 講義および演習については、15時間から30時間の範囲で、本学が定める時間の授業をもって1単位とします。
- 実験・実習および実技については、30時間から45時間の範囲で、本学が定める時間の授業をもって1単位とします。
- 授業時間は2時間連続（正味90分）を「時限」としていますので、各時限を2時間として単位の計算をします。
- 授業時間以外に必要な学修時間の計算方法は、講義2単位の場合90時間の学修量が必要です。1回2時間（90分）で15回の授業では、2時間×15回＝30時間（90時間の1/3）の学修になります。90－30＝60時間は授業外の学修時間（予習・復習）となり、この場合60時間分の予習・復習等の学修が必要となります。

(6) 卒業に必要な単位数

「単位」は決められただけの数を取っていないと卒業できません。

こども学科の「卒業に必要な単位数」は、次のとおりです。

最低必要単位数				
科目別	必修	選択必修	選択	卒業
教養教育科目	15単位	6単位	7単位	28単位以上
専門教育科目	47単位	2単位	47単位	96単位以上
合 計				124単位以上

(7) 科目ごとの授業期間

授業期間は、「通年科目」と「半期科目」があり、科目ごとに定められています。

「通年科目」とは、1年間を通じて授業を開講する科目で、原則として30回の授業です。ただし、後期末試験を行う場合は31回となります。

「半期科目」とは、前期か後期のどちらかに授業を開講する科目で、原則として15回の授業です。ただし、期末試験を行う場合は16回となります。

2. 履修の方法

教育課程表により、卒業に必要な科目と単位、資格・免許状取得に必要な科目と単位とを兼ね合わせて、その授業科目の授業計画と時間割表を参照して、履修する科目を決めます。そして別に配布される「履修届」に記入して、指定の期日までに必ず教務課に提出してください。大学では高等学校と違い、自分で履修科目を選び履修届を提出しなければなりません。

履修届の記入方法、提出期日等は、オリエンテーションで教務課から説明がありますので、しっかりと聞いてください。提出期限に遅れると履修することができません。

また、教員や教務課員が早く出すよう一人ひとりに指示をしたりはしません。全て自分の責任で届出を行い、履修確認を完了させるようにしてください。

3. 履修の制限

履修には制限のある場合があります。

(1) 履修科目の制限 履修規程第26条

実習に出るには、それぞれの学年で取るべき単位を落とさずにとっておくことが大切です。1、2年次の必修科目を落としてしまうと、3、4年次で実習に向けて履修する科目に支障をきたします。

(2) 履修科目登録の上限 学則第34条

取得しようとする1年間の単位数は、資格・免許状取得に必要な単位数や一人ひとりの能力によっても異なってきます。学生が各年次にわたり授業科目を適切に履修するため、**1年間に登録できる履修単位の上限をおおむね50単位**としています。

4. 免許状・資格の取得

こども学科において指定された単位を取得すると、次の免許状・資格が取得できます。

詳しくは、免許状・資格取得の方法（P 9～P13）をよく読んでください。

こども学科

(1) 幼稚園教諭一種免許状

(2) 保育士資格

*幼稚園教諭一種免許状と保育士資格を取得することにより、幼保連携型認定こども園において保育教諭を名乗ることができます。

Ⅲ. 科目履修

1. 授業時間

大学では1回の授業を1コマと数えます。そして、授業時間は1回90分で設定されています。

時 限	1	2	3	4	5
時 間	8:50～10:20	10:30～12:00	12:50～14:20	14:30～16:00	16:10～17:40

2. 成績評価と単位認定

各科目の成績評価は以下のとおりです。その他に本学では、評価の公正化と厳格性を確保するため、「素点」と「単位数」をもとに、本学独自のGPA（Grade Point Average：成績評定平均点）を算出する方法を取っています。

(1) 本学独自のGPA（以下単にGAPと表記）成績評価とは、

- ① 授業科目はシラバスにより学修目標、成績評価基準を明示したうえ100点満点で成績評定し、単位取得科目（60点以上）の評価点（素点）に単位数を乗じた点数をその科目のグレード・ポイントとします。
- ② 入学以来の取得単位科目のグレード・ポイントを累計し、累計した総取得単位数の1単位あたりの平均点を算出します。これをGPA（グレード・ポイント・アベレージ）と呼びます。すなわち、各科目の評価点に単位数をかけたものの総点を総取得単位数で割ったものです。

- ③ GPAは、次項に詳しく示しますが、進級・卒業・実習科目の履修に利用されます。それ以外にも、各学年の学期末に算出されたGPAが70点に満たない学生については、個別に学科長並びに学生主任、クラスアドバイザー等が学修指導、生活指導を行い、学力の向上の助言を行います。
- ④ C評価（60点～69点）の科目については再履修が認められ、評価点を向上させる機会が与えられます。しかし、その再履修の結果、点数が下がる、もしくは不合格になった場合でも、再履修時の評価が採用されますので注意してください。

- (2) 成績評価は、100点を満点として、60点以上を合格、59点以下を不合格とします。成績は6段階となっており、評価点ごとのグレードは次のとおりとなっています。

A+ (100～90点)	A (89～80点)	B (79～70点)
C (69～60点)	D (59～50点)	F (50点未満)

※ GPAの向上のため、C以下の評価点を得た授業科目については、「再履修願」により再履修をすることができます。

- (3) 単位の認定は、必要な課程として定められた時数について、学外実習および実習指導科目等、別に定める場合を除き、3分の2以上出席し、本学の行う試験その他による成績審査に合格したものに対して行います。

学外実習および実習指導科目等別に定める科目の必要な出席時数は次のとおりです。

1. 学外実習科目の事前・事後指導については5分の4以上。
2. 学外実習については所定の全日数。ただし、実習中、病気、忌引等やむを得ない事情により欠席した場合で、実習期間の延長が可能な場合は当該欠席日数分を延長して補充することができます。
3. 海外実習または演習を行う場合は、当該実習または演習における所定の全プログラム。ただし、体調不良もしくは病気・怪我等で所定のプログラム（オプションプログラムを除く。）に参加できなかった場合は、1プログラムごとに5点の減点として成績の評価を行います。

成績評価への補足的対応措置

成績評価の際、私語や欠席などに対して、以下の措置が取られ、成績評価点から減点されます。また、教員が禁止した事項等によっても、減点されることもありますので注意が必要です。補足的な措置として、以下のような例があげられます。

○授業内容に関係のない私語、授業の流れを阻害する学生の私語

・注意1回につき1点減点

※ 同一学生の注意3回以降は、1回につき2点減点。そして、必要と判断した場合は履修制限に関する細則に従い、退席指示、履修取消などの措置が取られます。

○遅刻・早退・欠席

・遅刻・早退1回につき1点減点

・欠席1回につき3点減点

※ 遅刻・早退3回で1回の欠席となった場合は、その欠席分は減点されません。また、次の場合の欠席等は減点の対象から除外されます。該当したときは、各授業担当教員に事前、もしくは事後に「事由書」を文書（書式自由）で提出してください。

- ① 学内外における本学所定の実習を実施する場合（認定こども園基本実習、保育実習、幼稚園教育実習等）
- ② 学校保健安全法の規定に基づく、学長による出席停止の指示に従う場合
- ③ 裁判員制度による裁判員に選任された場合
- ④ 就職試験（面接を含む）を受験する場合
- ⑤ 公共交通機関の遅延や運休による場合
- ⑥ 悪天候または事故等により、やむを得ない場合
- ⑦ 親族の不幸等やむを得ない場合

授業受講上の留意点

授業を受講する際の留意点は「学生受講規程」に定められています。この規程の第2条には、下記のようなマナーに反した受講態度は禁じられています。よく読んで授業に臨んでください。

- コート類、小物類（マフラー、帽子等）着用の教室入室、及び受講
- 授業の進行を妨げるような私語
- 携帯電話等の送信や交信
- 飲食や喫煙行動
- 授業担当者の意欲を阻害するマナーの悪い居眠り
- 授業に関係のない荷物（バッグ・紙袋など）を机上に置くこと
- 授業中の教室への無断入退室

3. 試験【履修規程】【試験規程】

学修成績の判定の方法は中間試験、期末試験、レポート、調査、作品、実技、出席状況、口頭試問等、担当の教員の定めた方法で行われます。試験には、他に追試験、再試験があります。

試験に関わる情報は、教務課の掲示板に掲示されます。学生に配布されたりすることはありませんので注意してください。

(1) 試験の種類

- ① 定期試験（中間試験、期末試験等）
授業期間の途中や、前期末・後期末に実施される試験です。
- ② 追 試 験
履修規程第11条による事由により定期試験に出席できなかった場合は、速やかに教務課に連絡し、その事由を証明する書類を添付して、追試験願を事前もしくは事後1週間以内に提出すれば追試験を受けることができます。
ただし、本人の不注意だった場合には、80点満点とし1科目につき追試験料5千円がかかります。（年度内3科目以内）
- ③ 再試験【履修規程第12条】参照
卒業学年に在籍し、履修規程第13条に定める再履修を行う場合、卒業年度内の再履修が困難で、卒業に必須の科目が2科目以内である場合は、再試験願を教務課に提出して、試験等の再試験を受けることができます。再試験料は1科目につき5千円です。

(2) 試験の方法【試験規程】参照

- ① 筆記試験
筆記試験は通常90分です。
試験開始から20分以上の遅刻は認められません。20分経過すると退出が認められます。
科目によって、教科書やノートを持ち込んで良いという指示がある場合もあります。試験日程とともに持ち込みの可否も掲示されていますので、よく確認してください。
- ② レポート
レポート用紙や形式は、担当教員からの指示に従い、指定期限内に指示された場所に提出します。
- ③ その他の方法
調査、作品、実技、口頭試問等、試験方法はさまざまです。

4. 「情報機器操作」の履修

科目名	レベル	履修年次	単位数
情報機器操作Ⅰ	初級レベル	1年	2単位
情報機器操作Ⅱ	中級レベル	1・2年	2単位
情報機器操作ⅢA	—	3・4年	2単位
情報機器操作ⅢB	—	3・4年	2単位

入学時の能力検定により履修レベルを決定します。2単位以上を必修としますが、「情報機器操作Ⅰ（初級レベル）」の履修者は、「情報機器操作Ⅱ（中級レベル）」まで計4単位以上を必修とします。

5. 「英会話」の履修

科目名	レベル	履修年次	単位数
英会話Ⅰ	ベーシックレベル	1年	2単位
英会話Ⅱ	アドバンスレベル	1・2年	2単位
英書リーディング	—	2年	2単位

入学時の能力検定により履修レベルを決定します。英語教育の履修については、以下のとおりです。

• 1年次に「英会話Ⅰ（ベーシックレベル）」を指定された者

「英会話Ⅰ（ベーシックレベル）」を履修して2単位を取得した後、2年次で「英会話Ⅱ（アドバンスレベル）」（2単位）も履修して合計4単位を取得してください。

• 1年次に「英会話Ⅱ（アドバンスレベル）」を指定された者

「英会話Ⅱ（アドバンスレベル）」の2単位を取得した後、2年次で「英書リーディング」（2単位）も履修して合計4単位を取得してください。

6. ゼミナール

「ゼミナール」は、教育・保育に関する課題や問題点を自ら見出し、解決する方法を研究する力の涵養を目的に、専門教育科目における卒業必修科目（4単位）として設定されています。履修学年は3年次4年次と2カ年の継続履修で、2学年が同じ空間で学修に励むことも学科の特徴的な科目となっています。

「ゼミナール」の単位は各ゼミナールにおける研究成果として、研究論文の提出（研究過程上に制作物が伴う場合は制作物を含みます）が必須の条件となります。

各ゼミナールの履修定員は当該学年学生数の20%～25%とし、事前希望調査により極端な偏りを防ぐよう計画されています。こども学科の学生のみなさんは1年次より教育・保育に関する問題意識を持ち、3年次履修時までには自分自身の研究課題を絞り込んでいきましょう。

また、4年次には各ゼミナールの研究領域に関わらず「研究発表会」にて研究成果の発表をおこなっていきます。1、2年生にとっては先輩方の研究結果を聞くことにより、より具体的な研究課題を見つける機会となるでしょう。

IV. 免許状・資格取得の方法

1. 幼稚園教諭一種免許状

(1) 幼稚園教諭一種免許状とは

幼稚園教諭一種免許状は、教育職員免許法、教育職員免許法施行規則に基づく国家資格です。この免許状は、次の(2)に定められた科目を履修し、必要単位を修得して卒業することが条件です。

(2) 指定科目

教育職員免許法に基づく免許状の取得に必要な科目を履修し、単位を修得することによって、幼稚園教諭一種免許状を取得することができます。本学では、「幼稚園教諭一種免許状資格取得に必要な科目一覧」のとおり、必修科目として配当しています。

必修科目については、「教養教育科目」5科目8単位、「専門教育科目」の教科に関する科目5科目10単位、教職に関する科目18科目40単位、教科又は教職に関する科目1科目1単位の単位を必ず履修しなければなりません。

以上、幼稚園教諭一種免許状を取得するためには、59単位取得することが必要となります。

幼稚園教諭一種免許状資格取得に必要な授業科目一覧

1. 教養教育科目

(1) 教養教育科目

免許法施行規則に定める科目区分	授 業 科 目	履修年次	単位数	備 考
日本国憲法	日本国憲法	2	2	
体 育	体育講義	1	1	
	体育実技 I	1	1	
外国語コミュニケーション	英会話 I (ベーシックレベル)	1	2	} レベルに応じ、いずれか2単位必修。ただし、レベル I の履修者は II まで必修
	英会話 II (アドバンスレベル)	1・2	2	
情報機器の操作	情報機器操作 I (初級レベル)	1	2	} レベルに応じ、いずれか2単位必修。ただし、レベル I の履修者は II まで必修
	情報機器操作 II (中級レベル)	1・2	2	
合 計			12	

※ 教育職員免許法に基づく幼稚園教諭一種免許状の指定科目の他に、「本学の教育」、「国語表現」、「会話演習」「生活教養」、「英書リーディング」(「英会話 II (アドバンスレベル)」を履修した者) の5科目を必修科目としています。

2. 専門教育科目

(1) 教科に関する科目

免許法施行規則に定める科目区分	授 業 科 目	履 修 年 次	単 位 数
国 語	国 語	3	2
算 数	算 数	3	2
生 活	—	—	—
音 楽	音 楽	1	2
図 画 工 作	図 画 工 作	1	2
体 育	体 育	2	2
合 計			10

(2) 教職に関する科目

第一欄	免許法施行規則に定める科目区分		授 業 科 目	履修年次	単位数
第二欄	教職の意義等に関する科目	教職の意義及び教員の役割	保育者論	1	2
		教員の職務内容			
		進路選択に資する各種の機会の提供等			
第三欄	教育の基礎理論に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育原理	2	2
		幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	教育心理学	2	1
			発達心理学	1	4
		教育に関する社会的、制度的又は経営的事項	教育行政	3	2

	免許施行規則に定める科目区分		授 業 科 目	履修年次	単位数
第四欄	教育課程及び指導法に関する科目	教育課程の意義及び編成の方法	保育・教育課程論	1	2
		保育内容の指導法	保育内容総論	1	2
			保育内容指導法 健康	3	2
			保育内容指導法 人間関係	3	2
			保育内容指導法 環境	2	2
			保育内容指導法 言葉	2	2
			保育内容指導法 表現Ⅰ	2	2
			保育内容指導法 表現Ⅱ	3	2
	教育の方法及び技術	教育方法及び技術	3	2	
生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目	幼児理解の理論及び方法	幼児理解の理論と方法	3	2	
	教育相談の理論及び方法	教育相談	3	2	
第五欄	教育実習		幼稚園教育実習 *事前事後指導1単位を含む	3・4	5
第六欄	教職実践演習		保育・幼稚園教職実践演習	4	2
合			計		40

(3) 教科又は教職に関する科目

免許法施行規則に定める科目区分	授 業 科 目	履 修 年 次	単 位 数
教科又は教職に関する科目	認定こども園基本実習	2	1

(4) そ の 他

こども学科では、教育職員免許法に基づく幼稚園教諭一種免許状の取得に必要な科目の他に、本学独自の科目として「ゼミナール」を必修科目としています。

2. 保育士資格

(1) 保育士とは

保育士は、「児童福祉法」に基づく国家資格です。その仕事の内容は、児童福祉施設（保育所、施設など）で児童の健全な育成をめざし保育にあたるとともに、ソーシャルワークの視点からカウンセリング能力や対話能力を身につけ、児童の保護者に対しても子育ての支援を行うことです。この保育士の資格の取得は、次の(2)に定められた指定科目を履修し、必要単位を修得して卒業することが条件です。

(2) 指 定 科 目

児童福祉法に基づく資格の取得に必要な科目を履修することによって、保育士資格を取得することができます。本学では、「保育士資格取得に必要な科目一覧」のとおり、必修科目、選択必修科目を配当しています。

必修科目については、「教養教育科目」9科目19単位以上、「専門教育科目」30科目61単位を必ず履修しなければなりません。

選択必修科目については、「専門教育科目」15科目27単位の中から、いずれか9単位以上履修しなければなりません。

以上、保育士資格を取得するためには、必修科目と選択必修科目合わせて、89単位以上取得する必要があります。

保育士資格取得に必要な科目一覧

1. 必修科目

(1) 教養教育科目

教科目	単位数	授業科目	履修年次	単位数	備考
外国語・体育 以外の科目	6以上	本学の教育	1	2	
		国語表現	1	4	
		会話演習	2	1	
		情報機器操作Ⅰ（初級レベル）	1	2	2単位以上必修。Ⅰの履修者はⅡまで計4単位必修
		情報機器操作Ⅱ（中級レベル）	1・2	2	
		生活教養	1	4	
		国際理解論	1	2	
外国語	2以上	英会話Ⅰ（ベーシックレベル）	1	2	2単位以上必修。Ⅰの履修者はⅡまで計4単位必修
		英会話Ⅱ（アドバンスレベル）	1・2	2	
体育	1	体育講義	1	1	
	1	体育実技Ⅰ	1	1	
合計	10以上			23	

※ 児童福祉法に基づく、保育士資格の必修科目の他に、「英書リーディング」（1年次英会話Ⅱの履修した者）を必修科目としています。

(2) 専門教育科目

系 列	教科目	最低修得単位数	授業科目	履修年次	単位数
保育の本質・目的に関する科目	保育原理	2	保育原理	1	2
	教育原理	2	教育原理	2	2
	児童家庭福祉	2	児童家庭福祉	1	2
	社会福祉	2	社会福祉	1	2
	相談援助	1	相談援助	2	1
	社会的養護	2	社会的養護	1	2
	保育者論	2	保育者論	1	2
保育の対象の理解に関する科目	保育の心理学Ⅰ	2	発達心理学	1	4
	保育の心理学Ⅱ	1	教育心理学	2	1
	子どもの保健Ⅰ	4	子どもの保健Ⅰ	1	4
	子どもの保健Ⅱ	1	子どもの保健Ⅱ	2	1
	子どもの食と栄養	2	子どもの食と栄養	2	2
	家庭支援論	2	家庭支援論	2	2
保育の内容・方法に関する科目	保育課程論	2	保育・教育課程論	1	2
	保育内容総論	1	保育内容総論	1	2
	保育内容演習	5	保育内容指導法 健康	3	2
			保育内容指導法 人間関係	3	2
			保育内容指導法 環境	2	2
			保育内容指導法 言葉	2	2
保育内容指導法 表現Ⅰ			2	2	

系 列	教 科 目	最低修得 単位数	授 業 科 目	履修年次	単位数
保育の内容・方法に関する科目	乳児保育	2	乳児保育	2	2
	障害児保育	2	障害児保育	3	2
	社会的養護内容	1	社会的養護内容	2	1
	保育相談支援	1	保育相談支援	2	1
保育の表現技術	保育の表現技術	4	音 楽	1	2
			図画工作	1	2
			体 育	2	2
保育実習	保育実習指導 I	2	保育実習指導 I	2・3	2
	保育実習 I	4	保育実習 I	3	4
総合演習	保育実践演習	2	保育・幼稚園教職実践演習	4	2
合 計		51	合 計		61

2. 選択必修科目

(1) 専門教育科目

系 列	単位数	授業科目	履修年次	単位数	備考
保育の本質・目的に関する科目	15以上	地域福祉論	4	2	この中から 6単位以上 必修
保育の対象の理解に関する科目		発達障害	4	2	
		子育て支援政策	4	2	
		臨床心理学	3	2	
保育の内容・方法に関する科目		カウンセリング概論	3	2	
		カウンセリング演習	3	1	
		幼児理解の理論と方法	3	2	
保育の表現技術		ピアノ演習(初級レベル)	1	2	
		ピアノ演習(中級レベル)	1	2	
		ピアノ演習(上級レベル)	1	2	
		器楽演習	1	2	
保育実習		1	保育実習指導 II	3・4	
	2	保育実習 II	4	2	
	1	保育実習指導 III	3・4	1	
	2	保育実習 III	4	2	
合 計	18以上	合 計		27	

※ 「ピアノ演習」または「器楽演習」のうちいずれか2単位を必ず履修しなければなりません。さらに、実習科目から「保育実習Ⅱ」・「保育実習指導Ⅱ」、または「保育実習Ⅲ」・「保育実習指導Ⅲ」のいずれか3単位は必ず履修しなければなりません。

(2) そ の 他

こども学科では、児童福祉法に基づく保育士資格の必修科目の他に、「認定こども園基本実習」と「ゼミナール」を必修科目としています。

平成30年度 福祉学部こども学科 教育課程表

科 目			単 位 数	授 業 形 態	授 業 回 数	履 修 年 次								卒 業		幼 稚 園 教 諭 一 種		保 育 士		備 考			
						1 年 次		2 年 次		3 年 次		4 年 次		必 修	選 択	必 修	選 択	必 修	選 択				
						前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期										
分 野	幼 一	保	授 業 科 目																				
教 養	教育方針		本学の教育	2	講義	15	○								2		2		2				
	表現力 向上分野		国語表現	4	講義 演習	30	○	○							4		4		4				
			会話演習	1	演習	15			○						1		1		1				
	情報教育 分野		情報機器操作Ⅰ (初級レベル)	2	演習	30	○	○							20	2	20	2	20	2	① 入学時の能力 検定により履修 レベルを決定す る。2単位以上 必修とするが、 初級レベルの履 修者は、中級レ ベルまで計4単 位以上を必修と する。		
			情報機器操作Ⅱ (中級レベル)	2	演習	30	○	○	○	○						2		2		2			
			情報機器操作ⅢA	2	演習	30				○	○	○	○		2		2		2				
			情報機器操作ⅢB	2	演習	30				○	○	○	○		2		2		2				
	人間関係 分野		生活教養	4	講義 演習	30	○	○							4		4		4				
			生活と安全	2	講義	15	○								2		2		2				
	教 育	教養分野		音楽演習	2	演習	30				○	○				2		2		2			
				美術演習	2	演習	30	○	○							2		2		2			
				文学演習	2	演習	30	○	○							2		2		2			
				食彩演習	1	演習	15					○					1		1		1		
				日本国憲法	2	講義	15						○				2	2			2		
	科 目	国際理解 分野		英会話Ⅰ (ベーシックレベル)	2	演習	30	○	○						②2科目4単位必修	2	②2単位必修	2	②2単位必修	2	② 入学時の能力 検定により履修 レベルを決定す る。Ⅰの履修者 はⅡまで、1 年次Ⅱの履修者 は、英書リーデ ィングまでの計4 単位必修とする。		
			英会話Ⅱ (アドバンスレベル)	2	演習	30	○	○	○	○				2		2		2					
			英書リーディング	2	演習	30				○	○					2		2		2		2	
			中国語会話Ⅰ	2	演習	30					○	○				2				2			2
			中国語会話Ⅱ	2	演習	30						○	○			2				2			2
			国際理解論	2	講義	15	○									2				2			2
			体育講義	1	講義	8						○				1				1			1
目	体育分野		体育実技Ⅰ	1	実技	23	○	○						1		1		1	バレーボール、テ ニス、バドミント ン、ヒップホップ &ジャズダンス、 ボディ・コンディ ショニング				
			体育実技Ⅱ	1	実技	23				○	○				1		1		1	バレーボール、テ ニス、バドミント ン、ヒップホップ &ジャズダンス、 ボディ・コンディ ショニング			
小 計				47 単位			12 科目	11 科目	5 科目	6 科目	4 科目	4 科目	3 科目	3 科目	21 単位	26 単位	21 単位	26 単位	21 単位	26 単位			

専 門 教 育 科 目	教 育 関 連 科 目	教 育 課 程 及 び 指 導 法 に 関 する 科 目	保 育 の 本 質 ・ 目 的 に 関 する 科 目	保 育 の 対 象 の 理 解 に 関 する 科 目	保 育 の 内 容 ・ 方 法 に 関 する 科 目	保 育 実 習	単 位 数	授 業 形 態	授 業 回 数	履 修 年 次								卒 業		幼 稚 園 教 諭 一 種		保 育 士		備 考						
										1 年 次		2 年 次		3 年 次		4 年 次		必 修	選 択	必 修	選 択	必 修	選 択							
										前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期													
専 門 教 育 科 目	保 育 の 本 質 ・ 目 的 に 関 する 科 目	保 育 の 本 質 ・ 目 的 に 関 する 科 目	○	○	保育者論	2	講義	15			○						2	2	2	2										
			○	○	教育原理	2	講義	15				○						2	2	2	2									
				○	保育原理	2	講義	15					○					2		2	2									
				○	社会的養護	2	講義	15						○				2		2	2									
				○	社会福祉	2	講義	15	○									2		2	2									
				◇	地域福祉論	2	講義	15								○			2		2		2							
				○	相談援助	1	演習	15						○					1		1	1								
				○	児童家庭福祉	2	講義	15	○										2		2	2								
				○	教育行政	2	講義	15							○				2	2				2						
				○	○	教育心理学	1	演習	15					○				1		1		1								
				○	○	発達心理学	4	講義	30	○	○							4	4	4	4									
				◇	臨床心理学	2	講義	15							○			2		2		2								
					心理査定法	2	演習	30							○	○			2	2	2	2								
					育児ストレス	2	講義	15								○			2	2	2	2								
		◇	発達障害	2	講義	15									○		2	2	2	2										
		◇	カウンセリング概論	2	講義	15									○		2	2	2	2										
		◇	カウンセリング演習	1	演習	15									○		1	1	1	1										
		○	○	子どもの保健Ⅰ	4	講義	30	○	○							4		4	4											
		○	○	子どもの保健Ⅱ	1	演習	15						○	○			1	1	1	1										
			母子保健Ⅰ	2	講義	15									○		2	2	2	2										
			母子保健Ⅱ	2	講義	15									○		2	2	2	2										
		○	○	子どもの食と栄養	2	演習	30						○	○			2	2	2	2										
			食物アレルギー事例研究	1	演習	15									○		1	1	1	1										
		○	○	家庭支援論	2	講義	15								○		2	2	2	2										
		◇	子育て支援政策	2	講義	15									○		2	2	2	2										
	専 門 教 育 科 目	保 育 の 内 容 ・ 方 法 に 関 する 科 目	保 育 の 内 容 ・ 方 法 に 関 する 科 目	○	○	保育・教育課程論	2	講義	15			○					2	2	2	2								オムニバス		
				○	○	保育内容総論	2	演習	30	○	○								2	2	2	2								
				○	○	保育内容指導演 健康	2	演習	30						○	○			2	2	2	2								
				○	○	保育内容指導演 人間関係	2	演習	30							○	○			2	2	2	2							
				○	○	保育内容指導演 環境	2	演習	30						○	○				2	2	2	2							
○				○	保育内容指導演 言葉	2	演習	30						○	○				2	2	2	2								
○				○	保育内容指導演 表現Ⅰ	2	演習	30						○	○				2	2	2	2								
○					保育内容指導演 表現Ⅱ	2	演習	30							○	○			2	2				2						
○					教育方法及び技術	2	演習	15							○				2	2				2					オムニバス	
○				○	社会的養護内容	1	演習	15						○					1	1	1	1								
○				○	保育相談支援	1	演習	15							○				1	1	1	1								
○				○	乳児保育	2	演習	30						○	○				2	2	2	2								
○				○	障害児保育	2	演習	30							○	○			2	2	2	2								
○				◇	幼児理解の理論と方法	2	講義	15								○			2	2			2							
○					教育相談	2	講義	15									○		2	2			2						カウンセリングを含む	
○					保護者対応事例研究	1	演習	15									○		1	1	1	1								
専 門 教 育 科 目	保 育 実 習	保 育 実 習	○	○	保育・幼稚園教職実践演習	2	演習	15							○		2	2	2	2										
					認定こども園基本実習	1	実習	時間割外						○	○			1	1	1	1									
			○		幼稚園教育実習	5	実習	時間割外								○	○	○	5	5			5					事前：事後指導1単位を含む 授業回数：7回 3年後期：7回 4年前期：10回 4年後期：3回		
			○	○	保育実習指導Ⅰ	2	演習	30						○	○	○			2	2	2	2						保育実習指導Ⅰ 授業回数：2回 2年前期：2回 2年後期：8回 3年前期：15回 3年後期：5回		
			○	○	保育実習Ⅰ	4	実習	時間割外								○	○		4	4	4	4								
			○	◇	保育実習指導Ⅱ	1	演習	15								○	○	○		1	1			3③						
			○	◇	保育実習Ⅱ	2	実習	時間割外								○	○		2	2			3③							
			○	◇	保育実習指導Ⅲ	1	演習	15								○	○	○		1	1			3④						
○	◇	保育実習Ⅲ	2	実習	時間割外									○		2	2			3④										
小 計		98 単位				5 科目	7 科目	12 科目	10 科目	11 科目	14 科目	9 科目	7 科目	35 単位	63 単位	41 単位	57 単位	59 単位	39 単位											

専 門 教 育 科 目	教員免許に關する科目	保育士資格に關する科目	履 修 年 次		単 位 数	授 業 形 態	授 業 回 数	履 修 年 次								卒 業		幼 稚 園 教 諭 一 種		保 育 士		備 考
			1 年 次					2 年 次		3 年 次		4 年 次		必 修	選 択	必 修	選 択	必 修	選 択			
			前 期	後 期				前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期									
教 科 目 關 係 の 科 目	保 育 の 表 現 技 術	◇	ピアノ演習 (初級レベル)	2	演習	30	○	○							26	2	2	2	⑤ この内より2単位必修			
		◇	ピアノ演習 (中級レベル)	2	演習	30	○	○								2	2	2				
		◇	ピアノ演習 (上級レベル)	2	演習	30	○	○								2	2	2				
		◇	器楽演習	2	演習	30	○	○								2	2	2				
	●		国 語	2	講義	15				○					2	2		2				
	●		算 数	2	講義	15				○					2	2		2				
	●	◎	音 楽	2	演習	30	○	○						2	2		2					
	●	◎	図画工作	2	演習	30	○	○						2	2		2					
	●	◎	体 育	2	演習	30			○	○				2	2		2					
	学 童 ク ラ ブ 指 導 科 目			学童保育	2	講義	15					○			2	2		2				
			学童保育実習	1	実習	時間割外					○	○		1	1		1					
			教育内容指導演法 国語	2	演習	15					○			2	2		2					
			教育内容指導演法 算数	2	演習	15					○			2	2		2					
			教育内容指導演法 音楽	2	演習	15						○		2	2		2					
			教育内容指導演法 図画工作	2	演習	15						○		2	2		2					
			教育内容指導演法 体育	2	演習	15						○		2	2		2					
			園芸	2	演習	30					○	○		2	2		2					
本 学 独 自 の 科 目			創作ミュージカル	2	演習	30					○	○	2			2						
			バリダンスレッスンとバリ島幼稚園交流	2	演習	時間割外	○	○	○	○				2		2						
			特別研究Ⅰ	1	演習	15					○			1		1						
			特別研究Ⅱ	1	演習	15						○		1		1						
			ゼミナール	4	演習	60				○	○	○	○	4		4		4	2年間継続履修			
小 計				43			7	7	2	2	2	2	8	8	14	29	14	29	10	33		
総 合 計				188			24	25	19	18	17	20	20	18	70	118	76	112	90	98		

最低必要単位数

授 業 科 目		卒 業		幼 稚 園 教 諭 一 種		保 育 士	
		必 修	選 択	必 修	選 択	必 修	選 択
教 養 教 育 科 目	教 育 方 針	2単位	7単位以上	2単位	7単位以上	2単位	7単位以上
	表 現 力 向 上 分 野	5単位		5単位		5単位	
	情 報 教 育 分 野	2単位		2単位		2単位	
	人 間 関 係 分 野	4単位		4単位		4単位	
	教 養 分 野	—		2単位		—	
	国 際 理 解 分 野	6単位		4単位		6単位	
	体 育 分 野	2単位		2単位		2単位	
小 計		21単位	7単位以上	21単位	7単位以上	21単位	7単位以上
合 計		28単位以上		28単位以上		28単位以上	
専 門 教 育 科 目	教 職	35単位	47単位以上	41単位	41単位以上	71単位	21単位以上
	教 科	8単位		10単位 (●印)		(◎印61単位+○印より6単位+●印より3単位+1単位)	
	学 童 ク ラ ブ 指 導 科 目	—		—		—	
	本 学 独 自 の 科 目	6単位		4単位		4単位	
小 計		49単位	47単位以上	55単位	41単位以上	75単位	21単位以上
合 計		96単位以上		96単位以上		96単位以上	
総 合 計		124単位以上		124単位以上		124単位以上	

平成30年度 福祉学部こども学科「授業計画」目次【1年生】

〔教養教育科目〕

授業科目	授業担当者	卒業		幼稚園教諭一種		保育士		備考	ページ
		必修	選択	必修	選択	必修	選択		
本学の教育	小松由美	2		2		2			25
	遠藤貞子								
国語表現	田上貞一郎	4		4		4			28
情報機器操作Ⅰ (初級レベル)	酒井 創	2①	2	2①	2	2①	2	① 入学時の能力検定により履修レベルを決定する。2単位以上必修とするが、初級レベルの履修者は、中級レベルまで計4単位以上を必修とする。	31
情報機器操作Ⅱ (中級レベル)	酒井 創		2		2		2		
生活教養	渡辺雅子	4		4		4			39
生活と安全	黒津康司		2		2		2		43
美術演習	古畑雅規		2		2		2		46
文学演習	菅野俊之		2		2		2		49
女性と保健	織田正昭		2		2		2		52
英会話Ⅰ (ベーシックレベル)	ブレント・スコット	② 2 単位 必修	2	② 2 単位 必修	2	② 2 単位 必修	2	② 入学時の能力検定により履修レベルを決定する。Ⅰの履修者はⅡまでを、1年次Ⅱの履修者は、英書リーディングまでの計4単位必修とする。	55
英会話Ⅱ (アドバンスレベル)	水野谷 龍之		2		2		2		
国際理解論	呂 学如	2			2	2			63
体育講義	島田貴広	1		1		1			66
体育実技Ⅰ (バレーボール)	島田貴広	1		1		1			68
体育実技Ⅰ (ボディ・コンディショニング)	島田貴広	1		1		1			71
体育実技Ⅰ (ヒップホップ&ジャズダンス)	石山波恵	1		1		1			73
体育実技Ⅰ (テニス)	藤本 要	1		1		1			76
体育実技Ⅰ (バドミントン)	藤本 要	1		1		1			79

〔専門教育科目〕

授業科目	授業担当者	卒業		幼稚園教諭一種		保育士		備考	ページ
		必修	選択	必修	選択	必修	選択		
保育者論	長島輝子	2		2		2			81
保育原理	佐藤菊子	2			2	2			83
社会的養護	神戸信行	2			2	2			86
社会福祉	日下輝美	2			2	2			89
児童家庭福祉	井上秀之		2		2	2			92
発達心理学	西村 學	4		4		4			95
子どもの保健Ⅰ	佐藤 理	4			4	4			98
保育・教育課程論	渡辺博志	2		2		2			102
	磯部裕子								
保育内容総論	鈴木智子	2		2		2			105
ピアノ演習 (初級レベル)	浅野洋子	2③	2		2		2	③ この内より2単位必修	109
ピアノ演習 (中級レベル)	ミハウ・ソヴコヴィアク		2		2		2		112
ピアノ演習 (上級レベル)	ミハウ・ソヴコヴィアク		2		2		2		115
器楽演習	伊藤俊彦		2		2		2		118
音楽	伊藤俊彦	2		2		2			121
図画工作	古畑雅規	2		2		2			124
バリダンスレッスンと バリ島幼稚園交流	佐藤敦子		2		2		2		127

平成30年度 福祉学部こども学科「授業計画」目次【2年生】

〔教養教育科目〕

授業科目	授業担当者	卒業		幼稚園教諭一種		保育士		備考	ページ
		必修	選択	必修	選択	必修	選択		
会話演習	藤間久子	1		1		1			129
	荒川守								
情報機器操作Ⅱ (中級レベル)	酒井 創	2①	2	2①	2	2①	2	① 1年次、初級レベルの履修者は、中級レベルまで計4単位以上を必修とする。	35
食彩演習	橋本ヨシイ		1		1		1		131
日本国憲法	新村繁文		2	2			2		134
英会話Ⅱ (アドバンスレベル)	水野谷 龍之	② 2 単位 必修	2	② 2 単位 必修	2	② 2 単位 必修	2	② Iの履修者はⅡまでを、1年次Ⅱの履修者は、英書リーディングまでの計4単位必修とする。	59
英書リーディング	水野谷 龍之		2		2		2		
体育実技Ⅱ (バレーボール)	島田 貴広		1		1		1		139
体育実技Ⅱ (ボディ・コンディショニング)	島田 貴広		1		1		1		142
体育実技Ⅱ (ヒップホップ&ジャズダンス)	石山 波恵		1		1		1		144
体育実技Ⅱ (テニス)	藤本 要		1		1		1		147
体育実技Ⅱ (バドミントン)	藤本 要		1		1		1		150

〔専門教育科目〕

授 業 科 目	授 業 担 当 者	卒 業		幼稚園教諭一種		保 育 士		備 考	ページ
		必修	選択	必修	選択	必修	選択		
教 育 原 理	渡 邊 誠 一	2		2		2			152
相 談 援 助	八 木 孝 憲		1		1	1			154
教 育 心 理 学	田 辺 稔	1		1		1			156
子どもの保健Ⅱ	金 子 里 美		1		1	1			158
子どもの食と栄養	田 村 佳 奈 美		2		2	2			160
家 庭 支 援 論	伊 藤 俊 明		2		2	2			163
保育内容指導法 環境	杉 浦 広 幸	2		2		2			165
保育内容指導法 言葉	田 上 貞 一 郎	2		2		2			168
保育内容指導法 表現Ⅰ	鈴 木 美 樹	2		2		2			171
社会的養護内容	板 垣 健 太 郎		1		1	1			175
保育相談支援	今 清 孝		1		1	1			177
乳 児 保 育	横 畑 泰 希		2		2	2			180
認定こども園基本実習	長 久 保 和 子		1	1		1			184
保育実習指導Ⅰ	今 清 孝		2		2	2			186
体 育	鳥 田 貴 広	2		2		2			190
バリダンスレッスンと バリ島幼稚園交流	佐 藤 敦 子		2		2		2		127

平成30年度 福祉学部こども学科「授業計画」目次【3年生】

〔教養教育科目〕

授業科目	授業担当者	卒業		幼稚園教諭一種		保育士		備考	ページ
		必修	選択	必修	選択	必修	選択		
情報機器操作Ⅲ B	木村 信 綱		2		2		2		193

〔専門教育科目〕

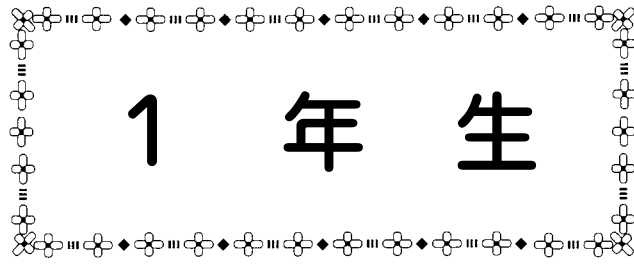
授業科目	授業担当者	卒業		幼稚園教諭一種		保育士		備考	ページ
		必修	選択	必修	選択	必修	選択		
教育行政	阿内 春 生		2	2			2		196
臨床心理学	佐藤 佑 貴	2			2		2		198
育児ストレス	織田 正 昭		2		2		2		200
カウンセリング概論	松本 貴 智		2		2		2		203
保育内容指導法 健康	佐藤 理	2		2		2			205
保育内容指導法 人間関係	鈴木 智 子	2		2		2			208
保育内容指導法 表現Ⅱ	鈴木 裕美子		2	2			2		212
教育方法及び技術	宮前 貢		2	2			2		216
	清水 英 典								
障害児保育	西村 學		2		2	2			219
幼児理解の理論と方法	田辺 稔		2	2			2		222
教育相談	佐藤 佑 貴		2	2			2		224

授業科目	授業担当者	卒業		幼稚園教諭一種		保育士		備考	ページ
		必修	選択	必修	選択	必修	選択		
幼稚園教育実習	宮前 貢								226
	長島 輝子		5	5			5		
	長久保 和子								
保育実習指導Ⅰ	今 清 孝		2		2	2			186
保育実習Ⅰ	今 清 孝		4		4	4			229
保育実習指導Ⅱ	今 清 孝		1		1	1		いずれか1単位 保育士必修	231
保育実習指導Ⅲ	板 垣 健太郎		1		1	1			233
国 語	田 上 貞一郎		2	2			2		235
算 数	笹 川 直 樹		2	2			2		237
ゼ ミ ナ ー ル	伊 藤 俊 彦	4		4		4			239
	渡 辺 博 志	4		4		4			244
	鈴 木 美 樹	4		4		4			248
	佐 藤 佑 貴	4		4		4			254
	島 田 貴 広	4		4		4			257
	今 清 孝	4		4		4			262

平成30年度 福祉学部こども学科「授業計画」目次【4年生】

〔専門教育科目〕

授業科目	授業担当者	卒業		幼稚園教諭一種		保育士		備考	ページ
		必修	選択	必修	選択	必修	選択		
地域福祉論	日下輝美		2		2		2		269
発達障害	星野仁彦		2		2		2		272
子育て支援政策	桜田葉子		2		2		2		274
保育・幼稚園教職実践演習	宮前貢		2	2		2			277
保育実習Ⅱ	今清孝		2		2	2		いずれか2単位 保育士必修	280
保育実習Ⅲ	板垣健太郎		2		2	2			282
教育内容指導法算数	笹川直樹		2		2		2		284
創作ミュージカル	佐藤敦子	2			2		2		287
特別研究Ⅰ	橋本ヨシイ		1		1		1		290
幼稚園教育実習	宮前貢		5	5		5		事前・事後指導1単位 を含む	226
	長島輝子								
	長久保和子								
保育実習指導Ⅱ	今清孝		1		1	1		いずれか1単位 保育士必修	231
保育実習指導Ⅲ	板垣健太郎		1		1	1			233
ゼミナール	田辺稔	4		4		4		2年間継続履修	293
	板垣健太郎	4		4		4		2年間継続履修	297
	伊藤俊彦	4		4		4		2年間継続履修	239
	鈴木美樹	4		4		4		2年間継続履修	248
	今清孝	4		4		4		2年間継続履修	262



1 年 生

授業科目名	本学の教育		授業形態・単位数	講義・2単位
			開講年次	1年次
担当教員	兼任教授	小松由美	開講期	前期
	非常勤講師	遠藤貞子	授業回数	15回
	(本務先：ウイリング・マナー・コンシェルジュ 職名：代表講師)		期末試験の有無	無
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		60時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		教養教育科目	必修	
幼稚園教諭一種免許状		教養教育科目	必修	
保育士資格		教養教育科目	必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		授業終了後に教室で質問等に対応する。		

【授業の概要】 建学の精神と本学の教育について、映像やパワーポイントを利用して説明し、学生の理解に役立てる。 本学学生としてのエチケット、マナーを身に付けるとともに、充実した学生生活を送る上でさまざまな立場の方からのアドバイスを聞く機会を設け、本学における学生生活の土台を作る。	【授業の概要との対応項目】		
		A	知識
		B	技術・技能
		C	論理的思考力
	○	D	文章表現力
	○	E	表情及び身体表現力
		F	感性及び感動表現力
		G	協働能力
	○	H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J	多様性への理解力、応用力
		K	課題対処力
○	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】		【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
本学の建学の精神や教育理念及び本学の教育について理解する。		目標	D、H
本学学生としての振る舞いとマナーが体現できる。		目標	E、L

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法 (アクティブラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	開講にあたって オリエンテーション (授業の進め方、評価方法等) ①本学の建学の精神と育成しようとする人間像 ②まごころの実践	学生便覧 パワーポイント及び映像 利用 ※スーツ着用	学生便覧の「建学の精神」 「教育の理念」を読んでおく。
2	本学の教育(1)～魅力ある授業を目指して～ ①アクティブラーニング授業の実施 ②学生受講規程の説明と学生の授業改善意見 ③シラバス、成績評価の方法 ④本学のGPAとその活用 (進級・留年・卒業判定への活用及び学生の表彰制度) ⑤本学の国語表現教育	学生便覧 ※スーツ着用	学生便覧の諸規程集の 「学則」「履修規程」「学生受講規程」を読んでおく。

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
3	校歌の練習 第一校歌、第二校歌	校歌歌詞映像利用 学生便覧参照	学生便覧の「校歌」のページを読み、歌詞を事前に見ておく。CDを聴き、自分で校歌を口ずさみ予習しておく。
4	本学の教育(2) あいさつ～まごころの始まり～ ①大学生らしい振る舞い、エチケット・マナー ②学生らしい服装（学友会有志をモデルに） ③学生のボランティア活動、社会貢献活動 ④学習スタイルの構築		レポートの構想を練る
5	本学の教育(3) 大学での生活	学生便覧	学生便覧の「大学での生活」の部分を復習する。
6	先輩からのアドバイス 卒業生のアドバイス	卒業生の話（ビデオレターを含む）	レポート作成を始める。（レポート提出は6月8日まで）
7	第一校歌斉唱 教員からのアドバイス	パワーポイント ※スーツ着用	
8	第二校歌斉唱 レポート発表 ①学生のプレゼンテーション ②レポート総評	※スーツ着用	
9	学生生活のマナー 1. マナーとは？ マナーはなぜ必要か？	グループディスカッション ・マナー・常識・ルール について考える	マナーについて考える。
10	学生生活のマナー 学生便覧「学生生活のマナー」の確認	学生便覧	学生便覧の大学での生活「学生生活のマナー」と諸規程集「学生受講規程」を読んでおく。
11	学生生活のマナー 1. 第一印象の大切さ（表情・身だしなみ・挨拶）	プリント「第一印象を磨く」 映像資料 ※スーツ着用	
12	学生生活のマナー 1. 立ち居振る舞い	プリント「立ち居振る舞い」 ※スーツ着用	プリント「第一印象を磨く」の復習
13	学生生活のマナー 1. 敬語の遣い方 2. 好感を持たれる言葉遣い	プリント「言葉遣い」	プリント「立ち居振る舞い」の復習
14	学生生活のマナー 1. 良好な人間関係を築くために大切なこと 2. 好感を持たれる話し方、聞き方 3. グループワーク 他者へのインタビュー	プリント「話し方、聞き方」 グループワーク「他己紹介」の説明	コミュニケーションに必要な要素を考える。
15	学生生活のマナー 1. コミュニケーション力を高める 2. 他者を尊重し、快適環境は自分で作る 3. 「他己紹介」発表 4. 振り返りと今後に向けて	プリント「話し方、聞き方」	他己紹介発表

【到達度の評価（評価方法・基準）】

レポート評価（50％）及びグループワーク等演習・実技評価（50％）

レポート（1,000字以上1,200字以内）は、次のいずれかのテーマで作成し、6月8日（金）13:00までに教務課（駅前キャンパスは5階事務室）へ所定様式にて提出のこと。誤字・脱字の多いもの、内容や趣旨が不十分なものは、再提出を求める。また期日に遅れた場合は、100点満点から1日につき2点の減点とする。

<レポートのテーマ>

- ①私の夢
②私のキャリアデザイン } 2つのうちのいずれかを選択

【教科書】 書名：学生便覧「福島学院大学Campuslife2018」
発行所：福島学院大学 ※入学時配布されたものを使用

【その他補足事項】

1. 毎回の授業で次の授業内容と進め方について説明する。なお、授業内容は進度によって前後することがある。
2. 必要に応じ、服装（スーツ着用）の指示をする。その際に指示された服装以外で出席している場合は減点対象とすることがある。

授業科目名	国語表現		授業形態・単位数	講義・演習・4単位
			開講年次	1年次
担当教員	職名：兼任教授 氏名：田 上 貞一郎		開講期	通年
			授業回数	30回
			期末試験の有無	無
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		120時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		教養教育科目	必修	
幼稚園教諭一種免許状		教養教育科目	必修	
保育士資格		教養教育科目	必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 敬語の使い方・教育・保育実習での話し方、就職面接、小論文作成など、保育者になる上で避けて通れない課題について、会話・文章の両面から詳しく解説する。 さらに職場の先輩や保護者との会話、園だより・連絡帳の書き方についても触れる。実習礼状はもちろん実習日誌・指導計画の書き方についても国語表現の観点からその留意点などについて学修していく。 授業進行はワークシート提出形式の演習を25回程度課すなど実践的内容とする。 また、本学では国語力向上を確実なものとするため統一テスト（「文字・成語」「小論文」「対話」の三テスト）を実施し、それらの成績を加味して授業の成績評価を行うこととする。	【授業の概要との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技術・技能	
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力	
	<input type="radio"/>	D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
	<input type="radio"/>	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	J	多様性への理解力、応用力		
	K	課題対処力		
	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力		
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
保育者として恥ずかしくない国語表現力の習得を目標とする。			目標	A、B、C
教育・保育実習から現場で保育者になったとき即戦力となるよう、実践的な授業を通して国語表現力のアップを目標とする。			目標	A、B、D、I

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と目標 (2) 授業内容と評価方法 (3) その他（本科目の留意点） (4) 統一テストについての説明	自己プレゼンテーション（自己紹介・自己アピール発表） 教材：授業計画 学生便覧 教科書	自己紹介の準備 授業計画の確認
2	保育者としてよい国語表現をするために(1) ～鋭い観察眼を持って～など	指名問答 朗読 教材：教科書	学習範囲予習 朗読練習
3	保育者としてよい国語表現をするために(2) ～自立した保育者になるために～など	指名問答 朗読 教材：教科書	学習範囲予習 朗読練習
4	保育者を目指すみなさんへ ～現場からの生の声～	指名問答 朗読 教材：教科書	学習範囲予習 朗読練習

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
5	聞き取りやすい話し方の基本 ～滑舌練習、早口言葉～など あいさつ ～トレーニング法～など	指名問答 朗読 教材：教科書	学習範囲予習 朗読練習 宿題：滑舌、早口言葉の練習
6	滑舌、早口言葉の練習成果発表 ～全員に発表してもらう～	口頭発表 指名問答 朗読 教材：教科書	学習範囲予習 朗読練習
7	敬語の使い方 ～上司や先輩への言葉遣い～など	指名問答 朗読 教材：教科書	学習範囲予習 朗読練習 宿題：ワークシート①作成
8	保育者の発声 自己紹介の仕方～留意点～など (ワークシート①提出)	指名問答 朗読 教材：教科書	学習範囲予習 朗読練習 宿題：ワークシート②作成
9	実習先との話し方 ～アポの取り方～など (ワークシート②提出)	指名問答 朗読 ワーク シート返却 教材：教科書	学習範囲予習 朗読練習
10	実習現場での話し方 ～感性を磨く～など	指名問答 朗読 ワーク シート返却 教材：教科書	学習範囲予習 朗読練習
11	子どもへの言葉かけ ～話を引き出す～など	指名問答 朗読 教材：教科書	学習範囲予習 朗読練習
12	就職面接 保護者との話し方 保育現場での電話	指名問答 朗読 教材：教科書	学習範囲予習 朗読練習 宿題：ワークシート⑬⑭ 作成
13	文字を正しく書こう 正しい表記で書こう (ワークシート⑬⑭提出)	指名問答 朗読 教材：教科書	学習範囲予習 朗読練習 宿題：ワークシート⑮⑯ 作成
14	文章作成上の留意点 ～当て字に注意する～など (ワークシート⑮⑯提出)	指名問答 朗読 ワーク シート返却 教材：教科書	学習範囲予習 朗読練習 宿題：ワークシート⑰⑱ ⑲作成
15	文章の基本的な書き方 ～読み手に思いやりを～など (ワークシート⑰⑱⑲提出)	指名問答 朗読 ワーク シート返却 教材：教科書	学習範囲予習 朗読練習 宿題：ワークシート⑳㉑ 作成
16	実習日誌の書き方(1) ～なぜ、実習日誌を書くのか～など (ワークシート⑳㉑提出)	指名問答 朗読 ワーク シート返却 教材：教科書	学習範囲予習 朗読練習
17	実習日誌の書き方(2) ～注意したい用語表現～など	指名問答 朗読 ワーク シート返却 教材：教科書	学習範囲予習 朗読練習 宿題：ワークシート㉒作成
18	指導計画の書き方(1) ～指導計画の種類～など (ワークシート㉒提出)	指名問答 朗読 教材：教科書	学習範囲予習 朗読練習

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
19	指導計画の書き方(2) ～計画する際の留意点～など	指名問答 朗読 ワークシート返却 教材：教科書	学習範囲予習 朗読練習 宿題：ワークシート⑪作成
20	実習礼状など手紙・ハガキの書き方(1) ～書く上での留意点～など (ワークシート⑫提出)	指名問答 朗読 教材：教科書	学習範囲予習 朗読練習 宿題：ワークシート⑬⑭⑮⑯作成
21	実習礼状など手紙・ハガキの書き方(2) ～実習礼状を実作する～ (ワークシート⑬⑭⑮⑯提出)	実習礼状作成 指名問答 朗読 ワークシート返却 教材：教科書	学習範囲予習 朗読練習
22	メールの書き方	指名問答 朗読 ワークシート返却 教材：教科書	学習範囲予習 朗読練習 宿題：ワークシート⑰作成
23	履歴書の書き方(1) ～書く上での留意点～など (ワークシート⑰提出)	指名問答 朗読 教材：教科書	学習範囲予習 朗読練習 宿題：ワークシート⑱作成
24	履歴書の書き方(2) ～履歴書を実作する～ (ワークシート⑲提出)	履歴書作成 指名問答 朗読 ワークシート返却 送り状作成 教材：教科書	学習範囲予習 朗読練習
25	小論文の書き方(1) ～作文と小論文の違い～など	指名問答 朗読 ワークシート返却 教材：教科書	学習範囲予習 朗読練習 宿題：小論文「事例」の書写
26	小論文の書き方(2) ～構成を考えて書く～など (小論文「事例」の提出)	指名問答 朗読 教材：教科書	学習範囲予習 朗読練習 宿題：新聞「社説」の書写
27	小論文の書き方(3) ～小論文を実作する～ (新聞「社説」の提出)	「事例」の返却 小論文作成 指名問答 朗読 教材：教科書	学習範囲予習 朗読練習
28	連絡帳の書き方 ～書く上での留意点～など	「社説」の返却 指名問答 朗読 教材：教科書	学習範囲予習 朗読練習 宿題：ワークシート⑳作成
29	園だよりの書き方 ～パソコンで書くときの留意点～など (ワークシート㉑提出)	指名問答 朗読 教材：教科書	学習範囲予習 朗読練習
30	まとめ ～保育者になる上で国語表現の重要性について発表～	口頭発表 指名問答 ワークシート返却 教材：教科書	口頭発表の準備
【到達度の評価（評価方法・基準）】 教科書の朗読（10%）、口頭発表（10%）、授業中の作成物（10%）、ワークシートの提出（50%）、「文字・成語テスト」（10%）、「小論文」（5%）、「対話テスト」（5%）から客観的に評価する。 ※欠席1回につき3点減点とする。 ※教科書忘れは1回につき3点減点とする。 ※詳細については初回授業時に説明する。			
【教科書】 書名：保育者になるための国語表現 著者名：田上貞一郎 発行所：萌文書林 価格：1,800円（税別）			

授業科目名	情報機器操作 I (初級レベル)		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	1年次
担当教員	職名：兼任准教授 氏名：酒井 創 <small>さか い はじめ</small>		開講期	通年
			授業回数	30回
			期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		30時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		教養教育科目	選択必修	
幼稚園教諭一種免許状		教養教育科目	選択必修	
保育士資格		教養教育科目	選択必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては、初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 保育者として、日常業務に従事できる基本的情報操作スキル修得をテーマとし、入学時のスキルテストにおいて初級レベルと判定された学生の必修科目となる。パーソナルコンピュータやコンピュータネットワーク活用の基本的知識とスキルを身につける演習科目である。 文書作成に欠かすことのできないタイピングスキルを修得し、ワープロソフトによる基本的な文書作成方法と表計算ソフトの基本的機能と活用方法の理解を目的に、保育・幼児教育の現場を意識した演習を実施する。 なお、本科目単位修得者は、2年次に「情報機器操作Ⅱ」も履修し、単位認定を受ける必要がある。	【授業の概要との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技術・技能	
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
	<input type="radio"/>	K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】	【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)			
本科目では、保育者として日常業務に従事できる基本的な情報機器操作スキル修得をテーマとし、本科目と併せて2年次に履修する「情報機器操作Ⅱ」において実践的な技術・知識の演習を実施するためのベースとなる、パーソナルコンピュータの基本操作、タイピング操作、及び日本語入力操作の習得を目指す。さらに、パーソナルコンピュータを活用するための具体的な「道具(ソフト)」として、ワープロ機能の実践的な利用技術と知識の習得を目指す。	目標	A、B、C、K		

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション ・授業の進め方、約束、実習環境の実際とその理解 ・パソコン利用状況アンケートの作成と提出	授業計画 テキスト タイピング練習ソフト 「Mikatype」	事前理解：授業計画の確認
2	タイピング練習(説明・五十音入力練習) ・タイピング練習方法の説明と環境準備の確認 [課題] 五十音入力練習	テキスト タイピング練習ソフト 「Mikatype」	・タイピング練習
3	タイピング練習(集中練習1) ・Mikatype練習方法の説明と練習 [課題] ポジション練習	タイピング練習ソフト 「Mikatype」	・タイピング練習 ・事前理解：テキスト内容

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
4	タイピング練習（集中練習2） [課題] ポジション練習	タイピング練習ソフト 「Mikatype」	・タイピング練習
5	タイピング練習 [個別練習] (15分程度) パソコンの基礎(1) ・パソコンの基本操作（Windows）	テキストPart 1・Unit 1、2	・タイピング練習 ・事前理解：テキスト内容
6	タイピング練習 [個別練習] (15分程度) パソコンの基礎(2) ・パソコンの基本操作（Windows）	テキストPart 1・Unit 1、2	・タイピング練習 ・事前理解：テキスト内容
7	タイピング練習 [個別練習] (15分程度) キーボード操作（日本語入力システム） ・MS-IMEの基礎操作①	テキストPart 1・Unit 3	・タイピング練習 ・事前理解：テキスト内容
8	タイピング練習 [個別練習] (15分程度) キーボード操作（日本語入力システム） ・MS-IMEの基礎操作② [課題] 「文節入力変換」の練習	テキストPart 1・Unit 3	・タイピング練習 ・事前理解：テキスト内容
9	タイピング練習 [個別練習] (15分程度) キーボード操作（日本語入力システム） [課題] 「Let's Try! 1～4」(P.78)の練習	テキストPart 1・Unit 3	・タイピング練習 ・事前理解：テキスト内容 ・課題の完成・提出
10	タイピング練習 [個別練習] (15分程度) ワープロソフトの機能と操作(1) ・ビジネス文書の構成、作成の流れと文字修飾 [課題] 「送付状」の作成	テキストPart 2・Unit 4	・タイピング練習 ・Exercise復習 ・課題の完成・提出
11	タイピング練習 [個別練習] (15分程度) ワープロソフトの機能と操作(2) ・かんたんなおたよりの作成 [課題] 「第32回おたより」の作成	テキストPart 2・Unit 4	・タイピング練習 ・Exercise復習 ・課題の完成・提出
12	タイピング練習 [個別練習] (15分程度) ワープロソフトの機能と操作(3) ・かんたんなおたよりの修正 [課題] 「第33回おたより」の作成 [課題] 「第34回おたより」の作成	テキストPart 2・Unit 4	・タイピング練習 ・Exercise復習 ・課題の完成・提出
13	タイピング練習 [個別練習] (15分程度) ワープロソフトの機能と操作(4) ・作表機能の操作説明 [課題] 「時間割」の作成	テキストPart 2・Unit 5	・タイピング練習 ・授業内容復習
14	タイピング練習 [個別練習] (15分程度) ワープロソフトの機能と操作(5) ・作表機能の操作説明 [課題] 「時間割」の作成・完成	テキストPart 2・Unit 4	・タイピング練習 ・授業内容復習
15	・前期末試験	Word文書課題	・これまでのExercise内容の理解と復習 ・授業外課題「保育を学ぼう①、②」
16	タイピング練習 [個別練習] (15分程度) ワープロソフトの機能と操作(6) ・イラスト入り案内カードの作成（図形活用）① [課題] 「ペイントイラスト」の作成	テキストPart 1・Unit 3	・タイピング練習 ・Exercise復習 ・課題の完成・提出

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
17	タイピング練習〔個別練習〕（15分程度） ワープロソフトの機能と操作(7) ・イラスト入り案内カードの作成（図形活用）② 〔課題〕「案内カード」の作成	テキストPart 2・Unit 6	・タイピング練習 ・Exercise復習 ・課題の完成・提出
18	タイピング練習〔個別練習〕（15分程度） ワープロソフトの機能と操作(8) 〔課題〕「進級カード」の作成	テキストPart 2・Unit 6	・タイピング練習 ・Exercise復習 ・課題の完成・提出
19	タイピング練習〔個別練習〕（15分程度） ワープロソフトの機能と操作(9) ・かんたんなイラストの作成（図形描画）① ・図形描画の基礎操作	テキストPart 1・Unit 3	・タイピング練習 ・Exercise復習
20	タイピング練習〔個別練習〕（15分程度） ワープロソフトの機能と操作(10) ・かんたんなイラストの作成（図形描画）② 〔課題〕「保育園案内図」の作成	テキストPart 1・Unit 3	・タイピング練習 ・Exercise復習
21	タイピング練習〔個別練習〕（15分程度） ワープロソフトの機能と操作(11) ・かんたんなイラストの作成（図形描画）③ 〔課題〕「うさぎ」の作成	テキストPart 1・Unit 3	・タイピング練習 ・Exercise復習
22	タイピング練習〔個別練習〕（15分程度） ワープロソフトの機能と操作(12) ・かんたんなイラストの作成（図形描画）④ 〔課題〕「ひよこ」の作成	テキストPart 1・Unit 3	・タイピング練習 ・Exercise復習
23	タイピング練習〔個別練習〕（15分程度） ワープロソフトの機能と操作(13) ・かんたんなイラストの作成（図形描画）⑤ 〔課題〕「ひまわり」の作成	テキストPart 1・Unit 3 配布プリント	・タイピング練習 ・Exercise復習 ・課題の完成・提出
24	タイピング練習〔個別練習〕（15分程度） ワープロソフトの機能と操作(14) 〔課題〕「給食だより」の作成①	テキストPart 2・Unit 5、6 配布プリント	・タイピング練習 ・Exercise復習
25	タイピング練習〔個別練習〕（15分程度） ワープロソフトの機能と操作(15) 〔課題〕「給食だより」の作成②	テキストPart 2・Unit 5、6 配布プリント	・タイピング練習 ・Exercise復習 ・課題の完成・提出
26	タイピング練習〔個別練習〕（15分程度） ワープロソフトの機能と操作(16) 〔課題〕「園だより」の作成①	テキストPart 2・Unit 6	・タイピング練習 ・Exercise復習
27	タイピング練習〔個別練習〕（15分程度） ワープロソフトの機能と操作(17) 〔課題〕「園だより」の作成②	テキストPart 2・Unit 6	・タイピング練習 ・Exercise復習 ・課題の完成・提出
28	タイピング練習〔個別練習〕（15分程度） ワープロソフトの機能と操作(18) 〔課題〕「遠足だより」の作成	テキストPart 2・Unit 6	・タイピング練習 ・Exercise復習 ・課題の完成・提出
29	タイピング練習〔個別練習〕（15分程度） ワープロソフトの機能と操作(19) 〔課題〕「発表会の案内」の作成①	テキストPart 2・Unit 6	・タイピング練習 ・Exercise復習

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
30	タイピング練習〔個別練習〕(15分程度) ワープロソフトの機能と操作(20) 〔課題〕「発表会の案内」の作成②	テキストPart 2・Unit 6	<ul style="list-style-type: none"> ・タイピング練習 ・Exercise復習 ・課題の完成・提出
期末試験	後期末試験	Word総合課題	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでのExercise内容の理解と復習 ・授業外課題「保育を学ぼう③～⑤」
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワーを通じて説明する。			
【到達度の評価（評価方法・基準）】 <ul style="list-style-type: none"> ・前期末試験…30% ・後期末試験…30% ・提出課題……20% シラバス記載の「課題」（25回）の提出状況 ・授業態度……20% 授業への取り組み、積極的・自発的な応答、参加 			
【教科書】 書 名：保育者のためのパソコン講座 著者名：阿部 正平 他 発行所：萌文書林 価 格：2,000円（税別）			
【参考書】 特になし			
【その他補足事項】 <ul style="list-style-type: none"> ・基本的に、テキストに従い、自ら課題を進める授業形態となる。積極的な態度で受講することを希望する。 ・演習で作成した課題などを一時的に保存し、持ち運ぶための外部メディアとして、USBフラッシュメモリを各自で準備すること。詳細はオリエンテーション時に説明する。 ・なお、本授業は、受講者の学習状況や理解度をリアルタイムで把握するための「授業支援システム」を導入した環境で実施する。 			

授業科目名	情報機器操作Ⅱ(中級レベル)		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	1・2年次
担当教員	職名：兼任准教授 氏名：酒井 創		開講期	通年
			授業回数	30回
			期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		30時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		教養教育科目	選択必修	
幼稚園教諭一種免許状		教養教育科目	選択必修	
保育士資格		教養教育科目	選択必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては、初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 入学時のスキルテストにおいて中級レベルと判定された学生の必修科目である。 保育・幼児教育の現場で1年間に実施される行事や日常活動を意識し、実際の仕事内容を想定した文書作成を中心に、パソコンとネットワークを活用するための具体的な「道具(ソフト)」であるワープロ、表計算、プレゼンテーションの各ソフトの実践的な活用方法、およびインターネット上での情報検索とその活用に関する知識と利用技術について演習授業を実施する。	【授業の概要との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技術・技能	
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
		<input type="radio"/>	K	課題対処力
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
保育者として、日常業務に従事できるPCスキル修得をテーマとする。 具体的には、文書作成技能を中心に、パソコンとネットワークを活用するための具体的な「道具(ソフト)」である、ワープロ、表計算、プレゼンテーションの活用方法を理解し、ウェブページ閲覧・情報検索、活用に関する実践的な利用技術と知識の修得を目標とする。 目標に添い、今後の情報ネットワーク社会に、独力で積極的に参画していくための「情報活用の実践力」である (1) 自分にとってどのような情報が必要かを自分で判断し、 (2) 主体的に収集・判断・表現・処理・創造し、 (3) 受け手の状況などを踏まえながら発信・伝達できる能力の育成を図る。			目標	A、B、C、K

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション ・授業の進め方 ・実習環境の実際とその理解 ・タイピング練習ソフトの配布と練習方法の説明	授業計画 テキスト タイピング練習ソフト 「Mikatype」	事前理解：授業計画内容の確認
2	タッチタイピングを目指して ・正しいタイピング練習の理解と実践	タイピング練習ソフト 「Mikatype」	・タイピング練習

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
3	タイピング練習とキーボード操作の確認 ・タイピング練習 ・キーボード操作確認 ・日本語入力システムの確認	タイピング練習ソフト 「Mikatype」 テキスト Part 1・Unit 3	・タイピング練習 ・事前理解：テキスト内容
4	日本語入力と文書作成 ・タイピング練習 ・キーボード操作確認 ・日本語入力システムの確認	タイピング練習ソフト 「Mikatype」 テキスト Part 1・Unit 3	・タイピング練習 ・事前理解：テキスト内容
5	実践ワープロソフト Word演習(1)-1 ・日本語入力とワープロ基本機能の確認 〔課題〕簡単なおたよりの作成	テキスト Part 2・Unit 4	・タイピング練習 ・Exercise復習 ・課題の完成・提出
6	実践ワープロソフト Word演習(1)-2 〔課題〕作成した文書の再利用	テキスト Part 2・Unit 4	・タイピング練習 ・Exercise復習 ・課題の完成・提出
7	実践ワープロソフト Word演習(1)-3 〔課題〕長文入力練習 (保育を学ぼう1)	テキスト「保育を学ぼう ①」内容入力	・タイピング練習 ・Exercise復習 ・課題の完成・提出
8	実践ワープロソフト Word演習(1)-4 〔課題〕長文入力練習 (保育を学ぼう2)	テキスト「保育を学ぼう ②」内容入力	・タイピング練習 ・Exercise復習 ・課題の完成・提出
9	画像と図形ツールの活用(1) ・オートシェイプ操作の確認 〔課題〕案内図を作る1	テキスト Part 1・Unit 3	・タイピング練習 ・Exercise復習 ・課題の完成・提出
10	画像と図形ツールの活用(2) ・オートシェイプ操作の確認 〔課題〕案内図を作る2	テキスト Part 1・Unit 3	・タイピング練習 ・Exercise復習 ・課題の完成・提出
11	画像と図形ツールの活用(3) 〔課題〕イラストを作る1	テキスト Part 1・Unit 3	・タイピング練習 ・Exercise復習 ・課題の完成・提出
12	画像と図形ツールの活用(4) 〔課題〕イラストを作る2	テキスト Part 1・Unit 3	・タイピング練習 ・Exercise復習 ・課題の完成・提出
13	実践ワープロソフト Word演習(2)-1 〔課題〕作表機能を利用したおたよりの作成	テキスト Part 2・Unit 5、6	・タイピング練習 ・Exercise復習 ・課題の完成・提出
14	実践ワープロソフト Word演習(2)-2 〔課題〕園だよりの作成（総合） ・夏期課題説明	テキスト Part 2・Unit 5、6	・タイピング練習 ・Exercise復習 ・課題の完成・提出
15	・前期末試験	総合演習課題	・これまでExercise内容の理解と復習 ・授業外課題「保育を学ぼう③～⑤」
16	Word総合演習(1) ・いろいろなおたより、カード、ポスターを作る 〔課題〕これまでの知識とスキルを活かした課題1	テキスト Part 2・Unit 5、6	・タイピング練習 ・Exercise復習 ・課題の完成・提出

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
17	Word総合演習(2) ・いろいろなおたより、カード、ポスターを作る [課題] これまでの知識とスキルを活かした課題2	テキスト Part 2・Unit 5、6	・タイピング練習 ・Exercise復習 ・課題の完成・提出
18	Word総合演習(3) [課題] これまでの知識とスキルを活かした課題3 ・プリンタ利用の実際	テキスト Part 2・Unit 5、6	・タイピング練習 ・Exercise復習 ・課題の完成・提出
19	OSを活用したファイル操作 ・パソコン上でのフォルダ・ファイル操作	テキスト Part 1・Unit 1	・タイピング練習 ・授業内容復習
20	ネットワーク利用の実際(1) ・情報収集、検索の実際	配布プリント	・タイピング練習 ・授業内容復習
21	ネットワーク利用の実際(2) ・インターネットによるコミュニケーション ・ウェブサービスの活用	配布プリント	・タイピング練習 ・授業内容復習
22	ネットワーク利用の実際(3) [課題] ウェブページ情報を活用した授業用資料作成	配布プリント	・タイピング練習 ・授業内容復習
23	Word応用演習 ・テンプレートの活用 [課題] ポストカード作り	配布プリント	・タイピング練習 ・授業内容復習 ・授業外
24	実践表計算ソフト Excel演習(1)-1 ・表計算ソフトの基本機能確認 [課題] 「クラス表」 [課題] 「離乳食の進め方の目安」	テキスト Part 3・Unit 7	・事前理解：テキスト内容 ・Exercise復習
25	実践表計算ソフト Excel演習(1)-2 [課題] 「年間カレンダー」の作成	テキスト Part 3・Unit 7	・事前理解：テキスト内容 ・Exercise復習
26	実践表計算ソフト Excel演習(2)-1 [課題] 「児童台帳」の作成	テキスト Part 3・Unit 8	・事前理解：テキスト内容 ・Exercise復習
27	実践表計算ソフト Excel演習(2)-2 [課題] 「身体計測記録表」とグラフの作成	テキスト Part 3・Unit 9	・事前理解：テキスト内容 ・Exercise復習
28	実践表計算ソフト Excel演習(2)-3 [課題] 「行事写真購入申し込み管理表」の作成 ・復習課題	テキスト Part 3・Unit 9	・事前理解：テキスト内容 ・Exercise復習
29	実践プレゼンテーションソフト PowerPoint演習(1) ・プレゼンテーションとプレゼンテーションソフトの理解	テキスト Part 4	・事前理解：テキスト内容 ・Exercise復習 ・課題の作成
30	実践プレゼンテーションソフト PowerPoint演習(2) [課題] 課題の作成	テキスト Part 4・Unit10	・課題の完成、提出
期末試験	後期末試験	Excel総合演習課題	・ExcelのExercise内容の理解と復習
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワーを通じて説明する。			

<p>【到達度の評価（評価方法・基準）】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 前期末試験…30% • 後期末試験…30% • 提出課題……20% シラバス記載の「課題」（22回）の提出状況 • 授業態度……20% 授業への取り組み、積極的・自発的な応答、参加
<p>【教科書】 書名：保育者のためのパソコン講座 著者名：阿部 正平 他 発行所：萌文書林 価格：2,000円（税別）</p>
<p>【参考書】 授業内で適宜紹介する。また、必要に応じ、課題等のプリントを配布する。</p>
<p>【その他補足事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 基本的に、テキストに従い、自ら課題を進める授業形態となる。積極的な態度で受講することを希望する。 • 演習で作成した課題などを一時的に保存し、持ち運ぶための外部メディアとして、USBフラッシュメモリを各自で準備すること。詳細はオリエンテーション時に説明する。 • なお、本授業は、受講者の学習状況や理解度をリアルタイムで把握するための「授業支援システム」を導入した環境で実施する。

授業科目名	生活教養		授業形態・単位数	講義・演習・4単位
			開講年次	1年次
担当教員	職名：兼任教授 氏名：渡辺 雅子		開講期	通年
			授業回数	30回
			期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	120時間	
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		教養教育科目	必修	
幼稚園教諭一種免許状		教養教育科目	必修	
保育士資格		教養教育科目	必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは、前期と後期の初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 学外実習にあたって、就職してからも、現代社会では、コミュニケーション能力が求められている。そのコミュニケーション能力の基本の一つはエチケットマナーである。 本授業では、品格ある教養を兼ね備えた社会人の育成を目指すことを目的に、授業の前半は、社会生活をおくる上で必要な人間関係を円滑に図るためのマナー（社会人としての基本マナー、言葉遣いのマナー、訪問のマナー、来客対応のマナー、ビジネス電話のマナーなど）を、これからの生活の中でも十分に活用できるように演習や事例研究を通して身に付けていく。 授業の後半では、日本料理、西洋料理、中国料理、パーティーの基礎知識と会食のマナー、冠婚葬祭お付き合いのマナーについて学ぶ。特に、学生が将来、教育・保育者になることを視野に入れ、冠婚葬祭の「冠」では、乳幼児にまつわる祝い事の基礎知識とその祝い方を学ぶ。「祭」年中行事では、幼稚園や保育所などで行われる様々な行事（節分、ひな祭り、端午の節句、七夕、クリスマスなど）の由来と祝い方などの基本を理解し、子どもたちへ日本の伝統文化を継承していくことの大切さを伝えられるようにする。	【授業の概要との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技術・技能	
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力	
	<input type="radio"/>	D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
	<input type="radio"/>	K	課題対処力	
	<input type="radio"/>	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
	【授業の到達目標】		【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
社会人に求められる基本的なマナーを学ぶことにより教養や知識を高める。そして、教養を兼ね備えた社会人となるように基本的なビジネスマナーを演習やケース・スタディ（事例研究）を通して身に付ける。		目標	A、B、D、K、L	
会食のマナーでは、これからの日常生活の中でも実践し、基本的な食作法（箸使い、カトラリーの使い方など）ができるようにする。		目標	A、B、L	
冠婚葬祭お付き合いのマナーでは、特に学生が将来、保育者になることを視野に入れ、冠婚葬祭の「冠」では、乳幼児にまつわる祝い事の基礎知識とその祝い方を理解する。「祭」年中行事では、保育施設などで行われる様々な行事（節分、ひな祭り七夕、クリスマスなど）の由来と祝い方などの基本を理解し、子どもたちへ日本の伝統文化を継承していくことの大切さを認識する。		目標	A、B	

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と到達目標 (2) 授業内容と評価方法 (3) 授業の進め方、その他の留意点 あなたのマナー好感度はどれくらい？ 訪問のマナー(1) ・事前準備 ・玄関先でのマナー	授業計画 スライド・教科書・配布資料 DVD視聴 「スマステ」長寿の祝い(5分) 「まる得マガジン」 スマートなマナー①(5分)	予習・復習 教科書 P 32～34、 P 164～165、 P 171 配布資料

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
2	訪問のマナー(2) ・席次のマナー ・客間でのマナー①	スライド・教科書・配布資料 DVD視聴 「京都の作法」(7分) 「Qさま：上座・下座」(5分)	予習・復習 教科書P 27～37、 P 44～48 配布資料
3	訪問のマナー(3) ・客間でのマナー② ・辞去のマナー ◎事例研究①	スライド・教科書・配布資料 DVD視聴 「まる得マガジン」 スマートなマナー②(5分) 事例研究	予習・復習 教科書P 27～37、 P 44～48 配布資料 課題：実習依頼の 言葉遣い
4	訪問のマナー(4) ・茶菓のいただき方 ・もてなしのマナー ◎事例研究②	スライド・教科書・配布資料 DVD視聴 「まる得マガジン」 スマートなマナー③(5分) 事例研究	予習・復習 教科書P 36、39～43、 P 47 配布資料 課題：就職活動の 言葉遣い
5	■小テスト(1) ～訪問のマナー 電話のマナー(1) ・対応のポイント ・かけ方の基本 ◎事例研究①	スライド・教科書・配布資料 DVD視聴 「会社の星(電話)」(7分) 電話機を使用しての演習 事例研究	予習・復習 教科書P 70～74 配布資料 課題：実習先に電話を かける(言葉遣い)
6	電話のマナー(2) ・かけ方の応用 ◎事例研究②	スライド・教科書・配布資料 電話機を使用しての演習 事例研究	予習・復習 教科書P 70～76 配布資料 課題：就職活動で電話を かける(言葉遣い)
7	電話のマナー(3) ・うけ方の基本と応用①	スライド・教科書・配布資料 電話機を使用しての演習	予習・復習 教科書P 77～81 配布資料
8	電話のマナー(4) ・うけ方の応用② ・伝言メモの留意点 ◎うけ方の事例研究① ・伝言メモの作成①	スライド・教科書・配布資料 電話機を使用しての演習 DVD視聴 「スマステ」(3分) 事例研究	予習・復習 教科書P 77～81 配布資料 課題：伝言メモ(清書)
9	電話のマナー(5) ◎うけ方の事例研究② ・伝言メモの作成②	スライド・教科書・配布資料 電話機を使用しての演習 事例研究	予習・復習 教科書P 77～81 配布資料 課題：伝言メモ(清書)
10	■小テスト(2) ～電話のマナー 対応のマナー(1) ・来客対応の心構え ・受付の基本 ・名刺の受け渡し	スライド・教科書・配布資料 DVD視聴 「会社の星(名刺)」(5分) 名刺と名刺入れを使用しての 演習	予習・復習 教科書P 19～26 配布資料 課題：受付での言葉遣い
11	対応のマナー(2) ◎受付の事例研究 ・取り次ぎ、案内、見送りの仕方 ◆学外授業「テーブルマナー演習」事前指導①	スライド・教科書・配布資料 DVD視聴 「スマステ」(3分) 事例研究	予習・復習 教科書P 19～26 配布資料
12	会食のマナー 西洋料理のマナー(1) ・レストランでの基本マナー ・メニュー、テーブルセッティング ・食べ方のマナー① ◆学外授業「テーブルマナー演習」事前指導②	スライド・教科書 DVD視聴 「まる得マガジン」 スマートな食べ方の流儀① 10分(5分×2項目) ナプキン・カトラリー・洋食 器等を使用しての演習	予習・復習 教科書P 128～132

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
13	会食のマナー 西洋料理のマナー(2) ・食べ方のマナー② ◆学外授業「テーブルマナー演習」事前指導③	スライド・教科書 DVD視聴 「まる得マガジン」 スマートな食べ方の流儀② 10分（5分×2項目） カトラリー・洋食器等を使用 しての演習	予習・復習 教科書 P 132～134
14	◆学外授業「テーブルマナー演習」実施	西洋料理テーブルマナーの 実践	予習・復習 教科書既修内容を 再確認 課題「学外授業」 レポート ➡次回提出
15	学外授業「テーブルマナー演習」事後指導 会食のマナー 西洋料理のマナー(3) ・お酒の知識 前期まとめ・前期末試験の説明	スライド・教科書・配布資料 DVD視聴 「ワインについて」5分 各種グラスを使用しての演習	予習・復習 教科書 P 135 配布資料
16	前期末試験	筆記試験	教科書・配布資料 既修内容を再確認
17	前期末試験の解説 言葉遣いと人間関係のマナー(1)	スライド・教科書・配布資料	予習・復習 教科書 P 50～68 配布資料
18	言葉遣いと人間関係のマナー(2) 会食のマナー 日本料理のマナー(1) ・日本文化としての箸のマナー ・日本料理の心得	スライド・教科書・配布資料 DVD視聴 「和風総本家 意外と知らない 箸のマナー」(20分) 箸と椀を使用しての演習	予習・復習 教科書 P 50～68、 P 112～113 配布資料
19	会食のマナー 日本料理のマナー(2) ・日本料理の種類 ・食べ方のマナー ・日本酒	スライド・教科書・配布資料 DVD視聴 「京のいっぴん物語」(7分) 箸と和食器を使用しての演習	予習・復習 教科書 P 112～120 配布資料
20	会食のマナー 中国料理のマナー(1) ・中国料理の種類 ・回転台の使い方 ・食べ方のマナー ・飲茶の楽しみ方	スライド・教科書・配布資料 DVD視聴「もっとおいしく 中国料理の楽しみ方」(15分) れんげの使い方の演習	予習・復習 教科書 P 124～127 配布資料
21	会食のマナー 中国料理のマナー(2) ・中国茶 ・中国酒 会食のマナー パーティーマナー(1) ・パーティーマナーの基礎知識 ・立食パーティーマナーのポイント ・パーティーマナーの服装マナー	スライド・教科書・配布資料 DVD視聴「日経おとなの OFF・中国茶」(7分) 「会社の星 会食マナー」① (7分) グラス・プレート・フォーク の持ち方の演習	予習・復習 教科書 P 127、 P 136～138 配布資料
22	会食のマナー パーティーマナー(2) ・料理の取り方 ・乾杯のマナー ■小テスト(3) ～会食のマナー（総合問題）	配布資料・グループワーク DVD視聴 「会社の星 会食マナー」② (10分)	予習・復習 席次、日本料理の作法、 言葉のマナー等、 既修内容を再確認
23	冠婚葬祭おつき合いのマナー 結婚式に招待されたときのマナー(1) ・招待状の返信 ・祝電	スライド・配布資料 教材・祝電	予習・復習 教科書 P 156～157 配布資料
24	冠婚葬祭おつき合いのマナー 結婚式に招待されたときのマナー(2) ・祝品と祝金 ・表書きの書き方	スライド・教科書・配布資料 DVD視聴「六曜」(7分) 「結婚に招かれたとき 招待客の礼儀」(8分)	予習・復習 教科書 P 156～157、 172～174 配布資料

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
25	冠婚葬祭おつき合いのマナー 結婚式に招待されたときのマナー(3) ・服装のマナー ・当日のマナー	スライド・教科書・配布資料 DVD視聴 「テーブルスピーチ」(5分) 「会社の星 招待客のマナー」(7分)	予習・復習 教科書P138・157 配布資料
26	冠婚葬祭おつき合いのマナー 赤ちゃんとお子さんの祝い事 帯祝いから十三参りまで	スライド・教科書・配布資料 DVD視聴 「冠婚葬祭女王決定 内祝い」(7分)	予習・復習 教科書P158～162 配布資料 「人生の祝い事」
27	冠婚葬祭おつき合いのマナー 年中行事(1) 暦の基礎知識 お正月	スライド・配布資料 DVD視聴 「和風総本家 お正月の過ごし方」(20分)	予習・復習 配布資料 「年中行事」
28	冠婚葬祭おつき合いのマナー 年中行事(2) 1月～6月	スライド・配布資料 DVD視聴 「節分」(8分) 「ひな祭り」(10分) 「端午の節句」(5分)	予習・復習 配布資料 「年中行事」
29	冠婚葬祭おつき合いのマナー 年中行事(3) 7月～12月	スライド・配布資料 DVD視聴 「七夕の祝い方」(7分) 「スマステ8・9月の行事」 (12分) 「暦を歩く」(3分)	予習・復習 配布資料 「年中行事」
30	冠婚葬祭おつき合いのマナー 弔問のマナー お葬式の手順、お悔やみの言葉、弔電、 弔慰金、供物・供花、服装のマナー、 告別式・通夜でのマナー	スライド・教科書・配布資料 DVD視聴 「お葬式の心得 お香典・ お焼香悩み解決」(7分)	予習・復習 教科書P166～170 配布資料 「弔問のマナー」
期末 試験	後期末試験	筆記試験	
【期末試験の講評】 後期末試験終了後、希望者には後期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明する。			
【到達度の評価（評価方法・基準）】 1. 前期末試験（筆記試験） … 35% 2. 後期末試験（筆記試験） … 40% 3. 学外授業レポート（1回） … 10% 4. 小テスト（3回） … 15% ※「成績評価への補足的対応措置」により、欠席、遅刻・早退による減点を行う。			
【教科書】 書名：新生活教養 著者名：近喰 晴子、三村 善美 他 発行所：建帛社 価格：2,000円（税別）			
【その他補足事項】 1. 配布資料を整理するための専用ファイル1冊を準備すること。 2. 学外授業、演習実施など、指定された場合には、スーツを着用すること。 なお、指定されたスーツ以外で出席している場合は、1回につき成績評価から1点ずつ減点する。 3. 基本実習、学外授業の日程、授業の進捗状況により、授業内容の入れ替えや授業内容の一部を変更する場合がある。 4. 遅刻をした場合は授業終了時に必ず申し出ること。（申し出がなかったら出席扱いとはしないので注意すること） 5. 学外授業「テーブルマナー演習」は、保育学科とこども学科は合同で9月1日(土)に実施する。 6. 学外授業「テーブルマナー演習」食事代の一部として、一人あたり2,200円の実費を徴収する。			

授業科目名	生活と安全		授業形態・単位数	講義・2単位
			開講年次	1年次
担当教員	職名：兼担准教授 氏名：黒 津 康 司		開講期	前期
			授業回数	15回
			期末試験の有無	無
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		60時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		教養教育科目	選択	
幼稚園教諭一種免許状		教養教育科目	選択	
保育士資格		教養教育科目	選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては、初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 幼稚園や保育所におけるケガ等の軽傷事故は日常的に発生しており、また、死亡等に至る重大事故も毎年のように発生している。さらに、幼稚園等の内外においては、子どもをねらった事件等が頻発しており、今や保育者にとって、日々の業務の中で子どもの安全を守ることは重要な課題となっている。このため、子どもが被害者となる事件・事故の現状について正しく理解するとともに、学生が将来保育者になった際の子どもの安全を守るための対応や危機管理の在り方、さらに、保護者との適切な関係の在り方等に関する様々な基礎知識を体系的に学ぶ。	【授業の概要との対応項目】		
	<input type="radio"/>	A	知識
	<input type="radio"/>	B	技術・技能
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力
	<input type="radio"/>	D	文章表現力
		E	表情及び身体表現力
		F	感性及び感動表現力
		G	協働能力
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	<input type="radio"/>	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
	<input type="radio"/>	J	多様性への理解力、応用力
	<input type="radio"/>	K	課題対処力
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力
【授業の到達目標】		【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
危機管理の観点から、保育業務全体を見る目を養うことができる。		目標	A、C、D、K
子どもが被害者となる事件・事故の現状等を学ぶことにより、保育時等における園児の安全を確保するための留意点等を身につけることができる。		目標	A、B、D、I、K
クレーム事案への対処方法を通じて、保護者との関係の在り方に関する基礎知識を習得することができる。		目標	A、B、J、K

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法 (アクティブラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	1 オリエンテーション ～「生活と安全」において何を学ぶか? (1) 授業概要と目標 (2) 授業内容と評価方法 (3) その他 (受講時の留意点等) 2 保育における危機管理とは	○ 授業計画 ・ 各回ともレジュメ、参考資料を配布して行う。 ・ 発表も求める。 ・ 適宜DVDを使用する。	○ 幼稚園・保育所に関する事件・事故報道に関心を持ち、授業内容との関連性を考える習慣を身につけること。 ○ 各回に配布した参考資料は必ず読了すること。
2	○ 子どもが被害者となる犯罪の現状(1) ・ 「子ども」が被害者となる犯罪にはどのようなものがあるか。 ・ 子どもの性被害の現状と課題	・ 講義 ・ 各種統計資料 ・ DVD (10分) 「5つのお願い」	配布資料を事前学習のこと。

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
3 ～ 4	○子どもが被害者となる犯罪の現状(2)(3) ・児童虐待の現状とその特徴 ・児童虐待の早期発見と早期保護 * 2回続けて実施	・講義 ・DVD（20分） 「児童を虐待の被害から守るために」	報道された虐待事例について調べておくこと。
5	○幼稚園・保育所における事件・事故の現状 ・最近5年間の状況 ・業務上過失犯とは ・管理者、保育士等の責任	・講義 ・配布資料	配布資料を事前学習のこと。
6 ～ 7	○幼稚園・保育所における事故事例(1)～(2) ・事例研究 * 3回続けて実施	・配布資料 ・発表・討議 ・解説	○配布資料を事前研究し、発表資料をまとめること。 ○事前に発表練習をしておくこと。
8 ～ 10	○幼稚園・保育所における事故防止対策(1)～(3) ・保育態様別着眼点 ・実技要領 * 3回続けて実施	・講義 ・配布資料 ・実技	指示した救命法を事前に練習しておくこと。
11	○幼稚園・保育所における危機管理(1) ～万一事件等が発生した場合の措置 ・犯罪者等の侵入事案 ・不審者情報・危険情報等への対応	・講義 ・配布資料 ・実技	配布資料を事前学習のこと。
12 ～ 13	○幼稚園・保育所における危機管理(2)～(3) ・地震等への対応 ・その他	・講義 ・配布資料 ・DVD（20分） 「3.11その時、保育園は」	3.11大震災に関する課題レポートを事前に提出すること。
14	○幼稚園・保育所に対する要望・苦情等への対応(1) ・要望・苦情等をどう捉えるか ・基本的な考え方と具体的対応要領	・講義 ・配布資料 ・一部討議	配布資料を事前学習のこと。
15	○幼稚園・保育所に対する要望・苦情等への対応(2) ・非常識なクレーム及びクレーマーの存在 ・事例に基づく対応要領 ○講義のまとめ・総括	・講義 ・配布資料 ・一部討議	配布資料を事前学習のこと。 対応要領を研究しておくこと。
【到達度の評価（評価方法・基準）】 100点満点とし、その割合は、小論文・レポートの結果：60%、ミニテストの結果：40%とする。 (1) 小論文・レポート：授業内容に沿って2回くらい課題を与えて行う。課題との整合性、構成、独創性、文法等を採点の基準とし、S～Dの5段階で評価する。 (2) ミニテスト：授業内容の理解度を確認するため、4～5回行う。問題との整合性、構成、文法等を採点の基準とし、S～Dの5段階で評価する。 (3) その他：遅刻、欠席、受講態度、発表姿勢等評価に関わるその他の詳細については、初回授業時に説明する。			
【参考書】 (1) 書名：保育園における事故防止と安全管理 著者名：田中 哲郎 発行所：日本小児医事出版社 価格：2,500円（税別） (2) 書名：保育園における危険予知トレーニング 著者名：田中 哲郎 発行所：日本小児医事出版社 価格：1,800円（税別） (3) 書名：保育士と考える実践保育リスクマネジメント講座 著者名：関川 芳孝 発行所：社会福祉法人全国社会福祉協議会 価格：1,200円（税別）			

【その他補足事項】

- (1) 「受講ノート」は必ず用意し、毎回の受講後確実に整理すること（質の高いノートの作成に努めること）。
- (2) 授業順序及び内容は、学生の理解の進捗、大学行事等により、変更する場合もあり得る。

授業科目名	美術演習		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	1年次
担当教員	職名：教授 氏名：古畑雅規		開講期	通年
			授業回数	30回
			期末試験の有無	無
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		30時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		教養教育科目	選択	
幼稚園教諭一種免許状		教養教育科目	選択	
保育士資格		教養教育科目	選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 動物や植物などをモチーフに、デッサン、水彩画、ポスターカラーなどで描く。絵画としてモチーフそのものだけでなく、背景を描くことによりその場の臨場感や奥行きを出させ、絵本のような物語を感じさせる作品づくりを目指す。また、立体として平面同様動物や植物などをモチーフにして粘土細工などでオブジェを制作する。絵画には表現できない立体感や重量感、またモチーフそのものの質感を追求する。最後に絵画と立体の混合作品の制作もすることにより、現代美術の要素も学ぶ。	【授業の概要との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技術・技能	
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
	<input type="radio"/>	F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	<input type="radio"/>	J	多様性への理解力、応用力	
		K	課題対処力	
	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力		
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
作品の制作に対して、基本的な技法とその技術を学ぶ。			目標	A、B
さまざまなアイデアを出し合い、工夫する。			目標	B、C
意欲をもって楽しく学ぶ。			目標	F、J

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と目標 (2) 授業内容と評価方法 (3) その他（本科目の留意点）	授業計画	
2	動物の絵画の制作 構図を考え下描きをする	イラストボード エンピツ など	描きたい動物の資料を用意する
3	動物の絵画の制作 背景を考えながら下描きをする	イラストボード エンピツ など	身近な動植物の観察
4	動物の絵画の制作 全体のバランスを考えながら下描きをする	エンピツ、ペン など	身近な動植物の観察
5	動物の絵画の制作 絵具を使って着彩	水彩絵具、ペン など	身近な動植物の観察

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
6	動物の絵画の制作 陰影を考えて着彩	水彩絵具、ペン など	身近な動植物の観察
7	動物の絵画の制作 全体のバランスを考えて仕上げ	定着スプレー	身近な動植物の観察
8	動物のオブジェの制作 土台づくり	板、粘土 など	制作する対象の資料を用意する
9	動物のオブジェの制作 基礎の形づくり	アルミハク、粘土 など	制作する対象の資料を用意する
10	動物のオブジェの制作 骨格を正確に制作する	アルミハク、粘土 など	身近な動植物の観察
11	動物のオブジェの制作 少しずつ肉付けをする	アルミハク、粘土 など	身近な動植物の観察
12	動物のオブジェの制作 ボリューム感をだす	アルミハク、粘土 など	身近な動植物の観察
13	動物のオブジェの制作 背景も同時に制作する	アルミハク、粘土 など	身近にある物の色の観察
14	色鉛筆の使い方の学習 力の加減による色の変化を見る	色鉛筆	身近にある物の色の観察
15	色鉛筆の使い方の学習 グラデーションの学習	色鉛筆	身近な動植物の観察
16	オブジェの制作の続き	アルミハク、粘土 など	身近な動植物の観察
17	動物のオブジェの制作 形を完成させる	アルミハク、粘土 など	身近な動植物の観察
18	動物のオブジェの制作 絵具を使って着彩	水彩、アクリル絵具 など	身近な動植物の観察
19	動物のオブジェの制作 グラデーションをとり入れる	水彩、アクリル絵具 など	身近な動植物の観察
20	動物のオブジェの制作 全体のバランスを整え仕上げ	水彩、アクリル絵具 など	身近な動植物の観察
21	粘土を素材とする立体の風景の制作 下描き	スケッチブック、エンピ ツ など	制作する対象の資料を用意する
22	粘土を素材とする立体の風景の制作 絵画と立体の部分を分けて考える	スケッチブック、エンピ ツ など	制作する対象の資料を用意する
23	粘土を素材とする立体の風景の制作 土台づくり	粘土 など	制作する対象の資料を用意する
24	粘土を素材とする立体の風景の制作 立体になる部分の制作	粘土、アルミハク など	粘土以外の素材を用意する
25	粘土を素材とする立体の風景の制作 質感なども考えて制作	粘土、アルミハク など	粘土以外の素材を用意する

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
26	粘土を素材とする立体の風景の制作 背景を考える	粘土、アルミハク など	粘土以外の素材を用意する
27	粘土を素材とする立体の風景の制作 水彩、アクリル絵具で着彩	水彩、アクリル絵具 など	身近な風景の色を観察する
28	粘土を素材とする立体の風景の制作 ボリューム感を出す	水彩、アクリル絵具 など	身近な風景の色を観察する
29	粘土を素材とする立体の風景の制作 全体の色のバランスを考えて着彩	水彩、アクリル絵具 など	身近な風景の色を観察する
30	粘土を素材とする立体の風景の制作 仕上げ 一年間のまとめ	水彩、アクリル絵具、定 着材 など	
【到達度の評価（評価方法・基準）】 作品評価 70% 授業態度 30%（作品への意欲で評価）			
【教科書】 その都度資料を配布する。			
【その他補足事項】 <ul style="list-style-type: none"> • 材料費として2,700円を徴収する。 • 授業の進行状況により、授業内容が入れ替わることがある。 			

授業科目名	文学演習		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	1年次
担当教員	職名：非常勤講師 氏名：菅野俊之		開講期	通年
			授業回数	30回
			期末試験の有無	無
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		30時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		教養教育科目	選択	
幼稚園教諭一種免許状		教養教育科目	選択	
保育士資格		教養教育科目	選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		授業終了後に教室で質問等に対応する。		

【授業の概要】 前期は宮沢賢治、森鷗外、夏目漱石と福島との関わりや郷土の口承文芸（民話、伝説）などを中心に、県内を舞台としたすぐれた文芸作品を受講者と共に講読し、県内大学連携組織「アカデミア・コンソーシアムふくしま」の共通課題「福島学」の一環として、福島の豊かな文芸風土に触れる。 後期は学校におけるいじめの心理、介護問題などをテーマとした川上未映子、重松清、梨木香歩、姫野カオルコたち現代作家の小説や児童文学を取り上げ、文学と福祉との関連を受講者と共に考察する。	【授業の概要との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技術・技能	
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力	
	<input type="radio"/>	D	文章表現力	
	<input type="radio"/>	E	表情及び身体表現力	
	<input type="radio"/>	F	感性及び感動表現力	
	<input type="radio"/>	G	協働能力	
	<input type="radio"/>	H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
	<input type="radio"/>	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	<input type="radio"/>	J	多様性への理解力、応用力	
	<input type="radio"/>	K	課題対処力	
	<input type="radio"/>	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】		【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)		
「福島」と「こども」という身近で具体的な二つのキーワードを通して、文芸作品の読解や鑑賞の方法を学ぶと共に、文芸作品を読む楽しさや意義について理解できるようになる。		目標	D、F	
レポート作成やグループ発表を通して、文章表現力と発言力を身につける。		目標	D、F、I	
紙芝居の上演や絵本の読み聞かせができるようになる。		目標	B	
図書館と文学館を利用して資料や情報が探せるようになる。		目標	A、B	

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 授業の内容、進め方などの説明	授業計画を持参すること	予習：こども学科授業計画の文学演習の箇所を読む
2	福島関係文学資料の案内及び調査方法 県内図書館、文学館などの利用法	プリント	予習：プリントと配布資料
3	宮沢賢治と福島(1) 賢治の生涯と文学	プリント	予習：プリントと配布資料
4	宮沢賢治と福島(2) 信夫山や磐梯山との関連を中心として作品を講読	プリント	予習：プリントと配布資料

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
5	宮沢賢治と福島(3) 賢治に影響を与えた福島県人との関連を中心として作品を講読	ミニレポートによる発表	予習：プリントと配布資料 ミニレポートの作成
6	宮沢賢治と福島(4) 県立図書館司書による賢治童話の紙芝居を使った上演実技指導	ゲストスピーカーによる紙芝居の実技演習	予習：プリントと配布資料
7	福島の口承文芸 県内の親しみやすい民話と伝説を講読	プリント	予習：プリントと配布資料
8	福島の児童文学 県内を舞台とした児童文学作品や県内出身の作家たち	プリント	予習：プリントと配布資料
9	福島の詩人たち 田中冬二、草野心平、長田弘、和合亮一、ほか	詩を講読	予習：プリントと配布資料
10	森鷗外と福島 「山椒大夫」との関連	プリント	予習：プリントと配布資料
11	夏目漱石と福島 「坊ちゃん」や「明暗」と福島県人との関連	ミニレポートによる発表	予習：プリントと配布資料 ミニレポートの作成
12	福島県内を舞台とした文芸作品の調査報告(1)	グループごとに調査報告し、それについて討議	グループごとに調査報告資料の作成
13	福島県内を舞台とした文芸作品の調査報告(2)	グループごとに調査報告し、それについて討議	グループごとに調査報告資料の作成
14	福島県内を舞台とした文芸作品の調査報告(3)	グループごとに調査報告し、それについて討議	グループごとに調査報告資料の作成
15	福島県内を舞台とした文芸作品の調査報告(4) 前期授業のまとめ	グループごとに調査報告し、それについて討議	グループごとに調査報告し、それについて討議
16	こどもの心理や福祉などをテーマとした文芸作品の概論	プリント	予習：プリントと配布資料
17	川上未映子「ヘヴン」の講読(1)	プリント	予習：プリントと配布資料及び「ヘヴン」を読む
18	川上未映子「ヘヴン」の講読(2)	プリント	予習：「ヘヴン」を読む
19	川上未映子「ヘヴン」の講読(3)	ミニレポートによる発表	予習：「ヘヴン」を読む ミニレポートの作成
20	東日本大震災・原発事故と子どもたちを描いた絵本の講読(1) 県立図書館司書によるブックトークと絵本の読み聞かせの実技指導	ゲストスピーカーによるブックトークと絵本の読み聞かせの実技演習	予習：プリントと配布資料
21	東日本大震災・原発事故と子どもたちを描いた絵本の講読(2) 「ふくしまからきた子」「ひまわりのおか」ほか	絵本の講読	予習：プリントと配布資料
22	東日本大震災・原発事故と子どもたちを描いた絵本の講読(3)	ミニレポートによる発表	予習：プリントと配布資料 ミニレポートの作成
23	梨木香歩「西の魔女が死んだ」の講読	プリント	予習：プリントと配布資料及び「西の魔女が死んだ」を読む

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
24	重松清「青い鳥」の講読	プリント	予習：プリントと配布資料及び「青い鳥」を読む
25	姫野カオルコ「風のささやき」の講読(1)	プリント	予習：プリントと配布資料及び「風のささやき」を読む
26	姫野カオルコ「風のささやき」の講読(2)	ミニレポートによる発表	予習：「風のささやき」を読む ミニレポートの作成
27	こどもの心理をテーマとした文芸作品の調査報告(1)	グループごとに調査報告し、それについて討議	グループごとに調査報告資料の作成
28	こどもの心理をテーマとした文芸作品の調査報告(2)	グループごとに調査報告し、それについて討議	グループごとに調査報告資料の作成
29	こどもの心理をテーマとした文芸作品の調査報告(3)	グループごとに調査報告し、それについて討議	グループごとに調査報告資料の作成
30	こどもの心理をテーマとした文芸作品の調査報告(4) 後期授業のまとめ	グループごとに調査報告し、それについて討議	グループごとに調査報告資料の作成
<p>【到達度の評価（評価方法・基準）】</p> <p>(1) 試験レポート（前期、後期各1回） 30%</p> <p>(2) ミニレポート（5回） 30%</p> <p>(3) 演習における発表内容 20%</p> <p>(4) 討議への参加状況 20%</p> <p>※授業計画P.7の「成績評価への補足的対応措置」により、欠席、遅刻・早退による減点を行う。 ※詳しくは初回授業時に説明する。</p>			
<p>【教科書】 使用しない。その都度、プリントや資料を配布する。</p>			
<p>【参考書】</p> <p>(1) 書名：ふくしまと文豪たち 著者名：菅野 俊之 発行所：歴史春秋出版 価格：1,200円（税別）</p> <p>(2) 書名：3・11を心に刻むブックガイド 著者名：草谷 桂子 発行所：子どもの未来社 価格：1,400円（税別）</p>			
<p>【その他補足事項】 前期・後期試験に代えて、レポートの提出を課す。</p>			

授業科目名	女性と保健		授業形態・単位数	講義・2単位
			開講年次	1年次
担当教員	職名：兼担教授 氏名：織田正昭		開講期	後期
			授業回数	15回
			期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		60時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		教養教育科目	選択	
幼稚園教諭一種免許状		教養教育科目	選択	
保育士資格		教養教育科目	選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 女性の健康と疾患について教科書と配布資料を用いて学ぶ。また母性としての自己の健康状態を把握し、正しい知識を習得する。授業内で討論を行なう。おおむね5回ごとに確認のためにミニテストを行う。	【授業の概要との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
		B	技術・技能	
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
	<input type="radio"/>	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
<input type="radio"/>	K	課題対処力		
<input type="radio"/>	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力		
【授業の到達目標】		【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)		
1) 女性として、また近未来の親として知っておくべき母性に関する基礎知識を習得する。		目標	A、C	
2) ライフサイクルの立場から女性の一生にわたる保健、健康問題を理解する。特に、月経、妊娠、出産に始まり、乳幼児期、学童期、思春期、成熟期、更年期、老年期と、時期ごとに生じる様々な健康に関する身体的・生理的、心理的、社会的特性と機能を、母性の立場から考える。		目標	A、K	
3) 母子の健康に関する社会的トピックスに対して積極的に関心を持ち、それらに対して自分の意見や考えを述べられるようにする。		目標	I、L	

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法 (アクティブラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	1. オリエンテーション (1) 授業の概要と目標 (2) 授業内容と評価方法 (3) その他 (本科目の留意点) 2. 授業内容 女性の健康の概念と歴史 女性のライフサイクル 生殖生理総論	授業計画 テキスト内容に沿って講義・解説する。	

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
2	女性の身体特性(1) ～生殖器の構造と機能 ～女性と先天異常	スライドを用いながら、テキスト内容に沿って講義・解説する。関連ビデオを視聴し、受講者間で意見を述べあう。	予習よりも前回の復習に重点を置いて講義に臨んでほしい。視聴ビデオの意見・感想を作成しておく。
3	女性の身体特性(2) ～乳房の構造と機能を中心に ～異常の発見	スライドを用いながら、テキスト内容に沿って講義・解説する。関連ビデオを視聴し、受講者間で意見を述べあう。	予習よりも前回の復習に重点を置いて講義に臨んでほしい。視聴ビデオの意見・感想を作成しておく。
4	月経の生理とホルモンの生化学、月経異常と対応	スライドを用いながら、テキスト内容に沿って講義・解説する。関連ビデオを視聴し、受講者間で意見を述べあう。	予習よりも前回の復習に重点を置いて講義に臨んでほしい。視聴ビデオの意見・感想を作成しておく。
5	妊娠の成立と維持、分娩の生理 ～生理・生化学的変化の理解 ～男性の生殖生理	スライドを用いながら、テキスト内容に沿って講義・解説する。関連ビデオを視聴し、受講者間で意見を述べあう。	予習よりも前回の復習に重点を置いて講義に臨んでほしい。視聴ビデオの意見・感想を作成しておく。
6	避妊と人工妊娠中絶	スライドを用いながら、テキスト内容に沿って講義・解説する。関連ビデオを視聴し、受講者間で意見を述べあう。	予習よりも前回の復習に重点を置いて講義に臨んでほしい。視聴ビデオの意見・感想を作成しておく。
7	女性の疾患 ～気になる症状の理解 ～産後うつ	スライドを用いながら、テキスト内容に沿って講義・解説する。関連ビデオを視聴し、受講者間で意見を述べあう。	予習よりも前回の復習に重点を置いて講義に臨んでほしい。視聴ビデオの意見・感想を作成しておく。
8	女性の疾患 ～子宮がん、卵巣がん ～子宮内膜症、子宮筋腫 ほか	スライドを用いながら、テキスト内容に沿って講義・解説する。関連ビデオを視聴し、受講者間で意見を述べあう。	予習よりも前回の復習に重点を置いて講義に臨んでほしい。視聴ビデオの意見・感想を作成しておく。
9	女性の疾患 ～乳がんを中心に	スライドを用いながら、テキスト内容に沿って講義・解説する。関連ビデオを視聴し、受講者間で意見を述べあう。	予習よりも前回の復習に重点を置いて講義に臨んでほしい。視聴ビデオの意見・感想を作成しておく。
10	性感染症 ～HPV、AIDSなどのSTDの現状と対応	スライドを用いながら、テキスト内容に沿って講義・解説する。関連ビデオを視聴し、受講者間で意見を述べあう。	予習よりも前回の復習に重点を置いて講義に臨んでほしい。視聴ビデオの意見・感想を作成しておく。
11	女性と予防接種 ～HPV、風疹などを中心に	スライドを用いながら、テキスト内容に沿って講義・解説する。関連ビデオを視聴し、受講者間で意見を述べあう。	予習よりも前回の復習に重点を置いて講義に臨んでほしい。視聴ビデオの意見・感想を作成しておく。

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
12	更年期の健康、働く女性と高齢出産 ～先天異常 ～骨粗しょう症 ほか	スライドを用いながら、テキスト内容に沿って講義・解説する。関連ビデオを視聴し、受講者間で意見を述べあう。	予習よりも前回の復習に重点を置いて講義に臨んでほしい。視聴ビデオの意見・感想を作成しておく。
13	不妊治療 ～生殖医療（代理出産）	スライドを用いながら、テキスト内容に沿って講義・解説する。関連ビデオを視聴し、受講者間で意見を述べあう。	予習よりも前回の復習に重点を置いて講義に臨んでほしい。視聴ビデオの意見・感想を作成しておく。
14	女性に関する先端医療の現状 女性の性をめぐる社会問題 ～性暴力、DV ほか	スライドを用いながら、テキスト内容に沿って講義・解説する。関連ビデオを視聴し、受講者間で意見を述べあう。	予習よりも前回の復習に重点を置いて講義に臨んでほしい。視聴ビデオの意見・感想を作成しておく。
15	まとめ ～女性の保健をめぐる総合討論 ～女性の健康のための法律・制度	スライドを用いながら、テキスト内容に沿って講義・解説する。関連ビデオを視聴し、受講者間で意見を述べあう。	予習よりも前回の復習に重点を置いて講義に臨んでほしい。視聴ビデオの意見・感想を作成しておく。
期末試験	後期末試験		
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明する。			
【到達度の評価（評価方法・基準）】 (1) 筆記試験 講義全範囲を対象として期末テストとして行う (2) 課題発表 テキストをもとにあらかじめ割り振った課題の発表を評価する (3) 中間ミニテスト 理解度確認のために講義4～5回ごとにミニテストを実施。終了後、授業内で採点する (4) 授業態度 知識だけでなく講義での態度、積極的発言、質問、討論意欲を評価する 最終的に (1) 60% (2) 10% (3) 20% (4) 10% の割合で総合評価する			
【教科書】 書名：女性のライフサイクルとナーシング 著者名：高橋 真理、村本 淳子（編） 発行所：ヌーベルヒロカワ 価格：2,200円（税別）			
【参考書】 書名：ウイメンズヘルスナーシング概論 著者名：村本 淳子、高橋 真理（編） 発行所：ヌーベルヒロカワ 価格：1,900円（税別）			
【その他補足事項】 提示した参考書は教科書と対を成すものであり、できれば購入を勧めたい。			

授業科目名	英会話 I (ベーシックレベル)		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	1年次
担当教員	職名：非常勤講師 氏名：ブレント・スコット (本務先：OWL(アウル)語学センター 職名：代表)		開講期	通年
			授業回数	30回
			期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		30時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		教養教育科目	必修	
幼稚園教諭一種免許状		教養教育科目	必修	
保育士資格		教養教育科目	必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		授業終了後に教室で質問等に対応する。		

【授業の概要】 <p>日常的な事柄を英語で聞き、話すことができる能力を身に付ける授業である。英語の発音、リスニングに重点を置き、学生が楽しく英会話を修得することができるよう授業を進めていく。また、欧米の文化や習慣を学び国際的な視野を持つことができるよう指導する。</p> <p>日常的な事柄を英語で話し、聞くことができる基礎的な語彙力、構文を修得し、通常会話での基本的なコミュニケーションができることを目的とする。また、保育現場で実際に使われる語句なども、プリントを用いて学習する。</p>	【授業の概要との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技術・技能	
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力	
	<input type="radio"/>	D	文章表現力	
	<input type="radio"/>	E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
		K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】	【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)			
ベーシックレベル（初心者）として、日常会話の基礎修得をテーマとし、日常的な事柄を英語で話し、聞くことが出来る基礎的な語彙力、構文を修得し、通常会話での最低限のコミュニケーションが出来ることを目的とする。また、保育現場で実際に使われる、語句なども、プリントなどを用いて学習する。	目標	A、B、C、D、E		

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 授業の進め方、英語上達のコツ、評価方法等	授業計画、テキストの使用法	
2	Introduction自己紹介(1) 基本文型演習 ・お名前は？出身地は？電話番号は？	テキスト使用	Unit 1 の予習・復習
3	Introduction自己紹介(2) 応用対話文 ・お名前は？出身地は？電話番号は？	テキスト使用	Unit 1 の予習・復習
4	Classroom Objectsクラスで、部屋で、町での会話(1) 単語、基本文型演習 ・～はどこにありますか、～はどこにありますか等の質問と応答	テキスト使用	Unit 2 の予習・復習

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
5	Classroom Objectsクラスで、部屋で、町での会話(2) 応用対話文演習 ・～はどこにありますか、～はどこにいますか等の質問と 応答	テキスト使用	Unit 2 の予習・復習
6	Everyday Activities毎日の行動・進行形(1) 行動を表す単語演習 ・今何をしていますか、朝ご飯を食べています等の質問・ 応答	テキスト使用	Unit 3 の予習・復習
7	Everyday Activities毎日の行動・進行形(2) 進行形に直す演習、対話文演習 ・今何をしていますか、朝ご飯を食べています等の質問・ 応答	テキスト使用	Unit 3 の予習・復習
8	Possessive Adjectives所有格(1) 所有格の作り方 ・ my, his, her, its, our, your, their などの所有格	テキスト使用	Unit 4 の予習・復習
9	Possessive Adjectives所有格(2) 所有格を使った対話の演習 ・ my, his, her, its, our, your, their などの所有格	テキスト使用	Unit 4 の予習・復習
10	Yes/No questions人の特徴、状態(1) 疑問文の作り方 ・ 背丈、年齢、結婚している等	テキスト使用	Unit 5 の予習・復習
11	Yes/No questions人の特徴、状態(2) 基本文型の応用対話演習 ・ 背丈、年齢、結婚している等	テキスト使用	Unit 5 の予習・復習
12	Family members写真をみながら家族紹介(1) 家族・親戚の言い方、基本文型 ・ 両親、兄弟、親戚など	テキスト使用	Unit 6 の予習・復習
13	Family members写真をみながら家族紹介(2) 家族・親戚の日常動作の説明 ・ 両親、兄弟、親戚など	テキスト使用	Unit 6 の予習・復習
14	Prepositions前置詞、単数・複数(1) 場所を表す前置詞とその用法 ・ レストランはどこにありますか、銀行の隣にありますな どの質問・応答	テキスト使用	Unit 7 の予習・復習
15	前期末試験		
16	Prepositions前置詞、単数・複数(2) 前置詞を使って対話応用演習 ・ レストランはどこにありますか、銀行の隣にありますな どの質問・応答	テキスト使用	Unit 7 の予習・復習
17	Adjectives形容詞、単数・複数形(1) 名刺の単数、複数の作り方、色の言い方 ・ 衣類、色などを説明	テキスト使用	Unit 8 の予習・復習
18	Adjectives形容詞、単数・複数形(2) 形容詞を使って対話演習 ・ 衣類、色などを説明	テキスト使用	Unit 8 の予習・復習
19	Present Tense現在時制(1) 現在時制の基本的文型の演習、3人称単数の動詞の変化を 学ぶ ・ 国名と使われている言語	テキスト使用	Unit 9 の予習・復習

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
20	Present Tense現在時制(2) 現在時制の疑問文の作り方、応用対話演習 ・国名と使われている言語	テキスト使用 CD使用	Unit 9 の予習・復習
21	Negatives, Short answers否定文(1) 現在時制の否定文の作り方 ・料理をしますか、いいえ、しません	テキスト使用 CD使用	Unit10の予習・復習
22	Negatives, Short answers否定文(2) 現在時制を使った対話演習 ・料理をしますか、いいえ、しません 毎日の日課・活動	テキスト使用	Unit10の予習・復習
23	動詞の変化、3人称・単数・現在形、頻度を表す副詞(1) 基本動詞の活用を学ぶ ・リンダは夕食後いつもテレビをみますか — はい、時々見ます	テキスト使用	Unit11の予習・復習
24	動詞の変化、3人称・単数・現在形、頻度を表す副詞(2) 動詞の変化を用いて応用対話演習 ・リンダは夕食後いつもテレビを見ますか — はい、時々見ます。	テキスト使用	Unit11の予習・復習
25	現在形・進行形(1) 基本的な動詞の進行形の作り方 ・なぜ泣いているの、悲しいから、悲しいときはいつも泣きます	テキスト使用	Unit12の予習・復習
26	現在形・進行形(2) 進行形を作ったの対話演習 ・なぜ泣いているの、悲しいから、悲しいときはいつも泣きます	テキスト使用	Unit12の予習・復習
27	能力表現、職業、職探し(1) 職業に関する単語の演習 ・ベティは何か出来ますか、コンピューターが出来ます どんな職業に就きたいですか、秘書になりたいです	テキスト使用	Unit13の予習・復習
28	能力表現、職業、職探し(2) 自分の出来る仕事についての対話演習 ・ベティは何か出来ますか、コンピューターが出来ます どんな職業に就きたいですか、秘書になりたいです	テキスト使用	Unit13の予習・復習
29	未来形・天気予測・時間 ・明日、何をしますか。車の修理をします	テキスト使用	Unit14の予習・復習
30	文法の確認 名詞、動詞、形容詞、副詞等	テキスト使用	
期末試験	後期末試験		
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、学科を通じて説明する。			
【到達度の評価（評価方法・基準）】 ・前期、後期末試験 各40% ・授業態度 20%（授業への取組み、積極的・自発的な応答・参加等）			

【教科書】 書名：SIDE by SIDE International Edition (Third Edition)
著者名：Steven J. Molinsky, Bill Bliss
発行所：Pearson Longman
価格：2,240円（税別）

【参考書】 特に指定しない。

【その他補足事項】

授業には必ず英和辞典を持参すること。

授業科目名	英会話Ⅱ(アドバンスレベル)		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	1・2年次
担当教員	職名：非常勤講師 氏名：水野谷 龍之 <small>みずの や りゅう し</small>		開講期	通年
			授業回数	30回
			期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		30時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		教養教育科目	必修	
幼稚園教諭一種免許状		教養教育科目	必修	
保育士資格		教養教育科目	必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		授業終了後に教室で質問等に対応する。		

【授業の概要】 保育の現場でも外国人の子どもや保護者と関わる機会が多くなってきた。本授業では保育の現場で話される会話を英語で修得する。英語を学びながら保育園や幼稚園の生活や子どもの発達を理解できるようにする。保育現場で頻繁に使われる英会話表現を修得する。基本的な英語構文や語彙力を身に付け、英語での自己表現力を高める。また、リスニングにも重点を置き、欧米人の話す英語を正しく理解できる能力を身に付ける。	【授業の概要との対応項目】		
	<input type="radio"/>	A	知識
	<input type="radio"/>	B	技術・技能
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力
	<input type="radio"/>	D	文章表現力
	<input type="radio"/>	E	表情及び身体表現力
		F	感性及び感動表現力
		G	協働能力
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	<input type="radio"/>	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J	多様性への理解力、応用力
		K	課題対処力
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力
【授業の到達目標】	【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)		
意思疎通できる力の習得をテーマに、次の各点を目標とする。 (1) 保育現場で頻繁に使われる英会話表現を習得する。 (2) 基本的な英語構文や語彙力を身に付け、英語での自己表現力を高める。 (3) リスニングにも重点を置き、欧米人の話す英語を正しく理解できる能力を身に付ける。	目標	A、B、C、D、E、I	

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法 (アクティブラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	オリエンテーション ・1年間の授業の進め方、評価の方法、英会話の習得のコツ	授業計画	Chapter 1 (p. 6～8)の予習しておく Chapter→Chap
2	Children's Garden(1) 保育園・幼稚園で使われる単語演習 保育園・幼稚園 ・保育園・幼稚園のクラス名、園児数、保育者の自己紹介、実習日誌	テキスト使用 CD使用	Chap 1 (p. 6～8)を復習し、Chap1 (p. 9～11)の予習しておく

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
3	Children's Garden(2) 自己紹介、会話演習 保育園・幼稚園 ・保育園・幼稚園のクラス名、園児数、保育者の自己紹介、実習日誌	テキスト使用 CD使用	Chap 1 (p. 9～11) を復習し、Chap 2 (p.12～14) の予習をしておく
4	The Fisrt Day of the Intern-ship 実習初日(1) 台所用品、遊具などの単語演習 ・園にある遊び用具、給食用食器類などを覚える、実習日誌	テキスト使用 CD使用	Chap 2 (p.12～14) を復習し、Chap 2 (p.15～17) の予習をしておく
5	The Fisrt Day of the Intern-ship 実習初日(2) 園児との会話演習 ・園にある遊び用具、給食用食器類などを覚える、実習日誌	テキスト使用 CD使用	Chap 2 (p.15～17) を復習し、Chap 3 (p.18～20) の予習をしておく
6	Out We Go! さあ、出かけましょう!(1) 園付近にある店、施設の単語演習 ・園の近くにある店や施設などを覚える、泣いている園児をあやす、実習日誌	テキスト使用 CD使用	Chap 3 (p.18～20) を復習し、Chap 3 (p.21～23) の予習をしておく
7	Out We Go! さあ、出かけましょう!(2) 散歩しながらの会話演習 ・園の近くにある店や施設などを覚える、泣いている園児をあやす、実習日誌	テキスト使用 CD使用	Chap 3 (p.21～23) を復習し、Chap 4 (p.24～26) の予習をしておく
8	Splash,Splash バシャバシャ、水しぶき(1) 水遊びでの単語演習 ・プールで遊ぶ時の用具その他の遊び（鬼ごっこ、ブランコ、積み木等）、実習日誌	テキスト使用 CD使用	Chap 4 (p.24～26) を復習し、Chap 4 (p.27～29) の予習をしておく
9	Splash,Splash バシャバシャ、水しぶき(2) 水遊びをしながらの会話演習 ・プールで遊ぶ時の用具その他の遊び（鬼ごっこ、ブランコ、積み木等）、実習日誌	テキスト使用 CD使用	Chap 4 (p.27～29) を復習し、Chap 5 (p.30～32) の予習をしておく
10	Pancake Day ホットケーキの日(1) おやつ作り方で使う単語演習 ・簡単な料理の作り方、材料・用具 ・おやつ時間の話し、実習日誌	テキスト使用 CD使用	Chap 5 (p.30～32) を復習し、Chap 5 (p.33～35) の予習をしておく
11	Pancake Day ホットケーキの日(2) おやつ作りながらの会話演習 ・簡単な料理の作り方、材料・用具 ・おやつ時間の話し、実習日誌	テキスト使用 CD使用	Chap 5 (p.33～35) を復習し、Chap 6 (p.36～38) の予習をしておく
12	Read Me,Tell Me Stories(1) 絵本、紙芝居に使う教材の単語演習 本を読んで、お話聞かせて ・絵本を読んで聞かせる、本を読んだあとの感想を聞く、実習日誌	テキスト使用 CD使用	Chap 6 (p.36～38) を復習し、Chap 6 (p.39～41) の予習をしておく
13	Read Me,Tell Me Stories(2) 絵本を読んだ後の会話演習 本を読んで、お話聞かせて ・絵本を読んで聞かせる、本を読んだあとの感想を聞く、実習日誌	テキスト使用 CD使用	Chap 6 (p.39～41) を復習し、Chap 7 (p.42～44) の予習をしておく
14	Activities with Watermelons(1) 四季の行事に使われる単語演習 すいかで遊ぶ ・季節の風物（鯉のぼり・七夕・たこ揚げ等）1月～12月を覚える、実習日誌	テキスト使用 CD使用	Chap 7 (p.42～44) を復習し、Chap 7 (p.45～47) の予習をしておく

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
15	前期末試験		
16	Activities with Watermelons(2) すいかを食べながらの会話演習 すいかで遊ぼう ・季節の風物（鯉のぼり・七夕・たこ揚げ等） 1月～12月を覚える、実習日誌	テキスト使用 CD使用	Chap 7 (p.45～47) を復習し、Chap 8 (p.48～50) の予習をしておく
17	Happy Birthday ! (1) 誕生日に使われる単語演習 お誕生日おめでとう ・誕生日をみんなで祝う、誕生会への招待状を書く、日付の言い方を覚える、実習日誌	テキスト使用 CD使用	Chap 8 (p.48～50) を復習し、Chap 8 (p.51～53) の予習をしておく
18	Happy Birthday ! (2) 誕生日を迎えた園児との楽しい会話演習 お誕生日おめでとう ・誕生日をみんなで祝う、誕生会への招待状を書く、日付の言い方を覚える、実習日誌	テキスト使用 CD使用	Chap 8 (p.51～53) を復習し、Chap 9 (p.54～56) の予習をしておく
19	Children at Play 子どもと遊び(1) 様々なゲームに関する単語演習 ・園児と一緒にゲームをする（ハンカチ落とし、コマ回し、あやとり等）、単数・複数の違い、実習日誌	テキスト使用 CD使用	Chap 9 (p.54～56) を復習し、Chap 9 (p.57～59) の予習をしておく
20	Children at Play 子どもと遊び(2) ゲームをしながらの会話演習 ・園児と一緒にゲームをする（ハンカチ落とし、コマ回し、あやとり等）、単数・複数の違い、実習日誌	テキスト使用 CD使用	Chap 9 (p.57～59) を復習し、Chap10 (p.60～62) の予習をしておく
21	Baby News 赤ちゃんニュース(1) 園児との関わりにおける単語演習 ・赤ちゃんの動作を覚える（沐浴、ミルク飲み、ハイハイする等）、おむつ取り替えの会話実習日誌	テキスト使用 CD使用	Chap10 (p.60～62) を復習し、Chap10 (p.63～65) の予習をしておく
22	Baby News 赤ちゃんニュース(2) 園児が泣いている時の保育士同士の会話演習 ・赤ちゃんの動作を覚える（沐浴、ミルク飲み、ハイハイする等）、おむつ取り替えの会話、実習日誌	テキスト使用 CD使用	Chap10 (p.63～65) を復習し、Chap11 (p.66～68) の予習をしておく
23	The Tooth Fairy 歯の妖精(1) 歯磨きの基本単語演習 ・歯磨き用語を覚える（歯磨き粉、虫歯、歯医者、歯ブラシ等）実習日誌	テキスト使用 CD使用	Chap11 (p.66～68) を復習し、Chap11 (p.69～71) の予習をしておく
24	The Tooth Fairy 歯の妖精(2) 園児の歯が抜けた時の会話演習 ・歯磨き用語を覚える（歯磨き粉、虫歯、歯医者、歯ブラシ等）実習日誌	テキスト使用 CD使用	Chap11 (p.69～71) を復習し、Chap12 (p.72～74) の予習をしておく
25	The Green-Eyed Witch(1) 学習発表会で使われる単語演習、緑の目の魔女 ・園児学習発表と、実習日誌 学習発表会と保護者への招待状 学習発表練習、実習日誌	テキスト使用 CD使用	Chap12 (p.72～74) を復習し、Chap12 (p.75～77) の予習をしておく
26	The Green-Eyed Witch(2) 学習発表の会話演習、緑の目の魔女 ・園児学習発表と保護者への招待状 学習発表練習、実習日誌	テキスト使用 CD使用	Chap12 (p.75～77) を復習する

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
27	基本文法学習 名詞、動詞、動名詞と不定詞	テキスト使用 CD使用	p.78～80
28	基本文法学習 形容詞、副詞、前置詞	テキスト使用	p.81～85
29	英語の絵本を読む 初めてのお留守番、やさしいライオン、うしろにいたのだあれ等	CD使用 英語の絵本 CD	学生各自好みの絵本を読み聞かせる
30	英語の絵本を読む ころわんはおにいちゃん、雨の日のえんそく、しゅくだい等	英語の絵本 CD	学生各自好みの絵本を読み聞かせる
期末試験	後期末試験		
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、学科を通じて説明する。			
【到達度の評価（評価方法・基準）】 <ul style="list-style-type: none"> ・前期、後期末試験 各40% ・授業態度 20%（授業への取り組み、積極的・自発的な応答・参加等） 			
【教科書】 書名：Children's Garden 著者名：赤松 直子 発行所：成美堂 価格：2,400円（税別）			
【その他補足事項】 授業には必ず英和辞典を持参すること。			

授業科目名	国際理解論		授業形態・単位数	講義・2単位
			開講年次	1年次
担当教員	職名：兼任准教授 氏名：呂 学 如		開講期	前期
			授業回数	15回
			期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		60時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		教養教育科目	必修	
幼稚園教諭一種免許状		教養教育科目	選択	
保育士資格		教養教育科目	必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 「多文化共生」・「ボーダレス」など、「世界平和」や「国際化」が叫ばれて久しい。しかし、世界中のあちこちで紛争や対立が続き、テロ活動が暗躍・跋扈し、差別や排斥、狭隘なナショナリズムの論調が公然とまかり通っている世の中である。一方、大気汚染などの環境問題が益々深刻化し、地球的危機がひしひしと迫ってきている昨今である。世界の現状を直視し、背景にあるものを探りながら、調査学修・ディスカッションを通して解決策について議論し、真の国際理解とはなにかを考える。	【授業の概要との対応項目】		
	<input type="radio"/>	A	知識
		B	技術・技能
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力
		D	文章表現力
		E	表情及び身体表現力
		F	感性及び感動表現力
	<input type="radio"/>	G	協働能力
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	<input type="radio"/>	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
	<input type="radio"/>	J	多様性への理解力、応用力
	<input type="radio"/>	K	課題対処力
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力
【授業の到達目標】		【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
世界の現状についての理解(国々、人種・民族、文化、政治、経済、人口)		目標	A、J
紛争やテロ等で戦火が絶えない現状、地球温暖化等環境問題について理解		目標	A、C、J
国際組織の役割について(国連、G7、G20、APEC、ASEAN、EU、TPP)		目標	A、G、J
グローバル化の世界→経済・政治・人権等問題が山積→解決法等についての議論・見解		目標	C、G、I、K

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	<ul style="list-style-type: none"> ・ガイダンス ①授業の内容・進め方・評価方法等について ②学生諸君の関心事や問題意識についての調査 	<ul style="list-style-type: none"> ・パワーポイント ・プリント配布 ・グループ分けを行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の現状について調べる。 ・ノートの準備
2	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の現状について ①五大洲・四大海～「地球が青かった！」 ②国々や人口・人種、人類進化の歴史など ③国際社会～先進国・後進国・新興国など 	<ul style="list-style-type: none"> ・パワーポイント ・映像 ・板書 	<ul style="list-style-type: none"> ・アジア、アフリカについて調べる。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・アジア・アフリカ ①国々・人口等自然状況 ②どんな問題や課題があるか 	<ul style="list-style-type: none"> ・パワーポイント ・映像 ・板書 	<ul style="list-style-type: none"> ・ヨーロッパ、オセアニアについて調べる。

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
4	<ul style="list-style-type: none"> ・ヨーロッパ・オセアニア ①国々・人口等自然状況 ②どんな問題や課題があるか 	<ul style="list-style-type: none"> ・パワーポイント ・映像 ・板書 	<ul style="list-style-type: none"> ・アメリカについて調べる。
5	<ul style="list-style-type: none"> ・アメリカ ①国々・人口等自然状況 ②どんな問題や課題があるか 	<ul style="list-style-type: none"> ・パワーポイント ・映像 ・板書 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域連合や国際組織について調べる。
6	<ul style="list-style-type: none"> ・地域連合や共同体などについて ①EU（ヨーロッパ共同体） ②APEC（アジア太平洋経済協力） ③ASEAN（東南アジア諸国連合） 	<ul style="list-style-type: none"> ・パワーポイント ・映像 ・板書 	<ul style="list-style-type: none"> ・四大古代文明について調べる ・三大宗教について調べる。
7	<ul style="list-style-type: none"> ・文化文明・宗教について ①四大古代文明 ②三大宗教 ③世界中の紛争・対立・テロ・難民問題等について 	<ul style="list-style-type: none"> ・パワーポイント ・映像 ・板書 	<ul style="list-style-type: none"> ・紛争地域、難民問題、「IS」について調べる。
8	<ul style="list-style-type: none"> ・紛争・対立・テロ等について ①戦火が絶えていない国や地域 ②原因や背景 	<ul style="list-style-type: none"> ・パワーポイント ・映像 ・板書 	<ul style="list-style-type: none"> ・環境問題及び国連の動きについて調べる。
9	<ul style="list-style-type: none"> ・環境問題について ①現状・国際社会の動き ②対策や解決策 	<ul style="list-style-type: none"> ・パワーポイント ・映像 ・板書 	<ul style="list-style-type: none"> ・国連とはなにか、調べる。
10	<ul style="list-style-type: none"> ・国連組織 ①歴史沿革・組織体制 ②役割の行使などについて 	<ul style="list-style-type: none"> ・パワーポイント ・映像 ・板書 	<ul style="list-style-type: none"> ・東アジア諸国及び問題点について調べる。
11	<ul style="list-style-type: none"> ・東アジアについて ①日本とその隣国 ②協力関係及び問題点 	<ul style="list-style-type: none"> ・パワーポイント ・映像 ・板書 	<ul style="list-style-type: none"> ・食文化の多様性について調べる。
12	<ul style="list-style-type: none"> ・食文化について ①世界の食文化 ②食糧危機・飢餓や飽食問題・水資源問題など 	<ul style="list-style-type: none"> ・パワーポイント ・映像 ・板書 	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の現状や問題について改めて考える。
13	<ul style="list-style-type: none"> ・グループディスカッションⅠ（調査学修） ①世界の何が問題か。 ②原因は・背景は… 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ調査活動 ・グループ討論 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表の準備をする。
14	<ul style="list-style-type: none"> ・グループディスカッションⅡ（プレゼン） ①見解について ②対策・解決策についての提言 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ討論 ・グループ発表 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の内容等について質問があるか、考える。
15	<ul style="list-style-type: none"> ・まとめ ①世界の現状 ②問題意識・「私の国際理解」と題して作文 	<ul style="list-style-type: none"> ・パワーポイント ・映像 ・板書 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業のまとめを自分なりに考える。
期末試験	前期末試験	<ul style="list-style-type: none"> ・記述方式のテスト 	
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明する。			

【到達度の評価（評価方法・基準）】

- (1) 70点満点とする記述方式のテストを学期末に実施する。
- (2) グループディスカッションの参加や発表内容は30点満点の採点とする。
- (3) 出席・欠席率や授業の取り組み姿勢も評価の要素とする。

【教科書】 なし

【その他補足事項】

- ◇必要に応じてプリントを配布する。
- ◇授業の内容は前後することがある。

授業科目名	体 育 講 義		授業形態・単位数	講義・1単位
			開 講 年 次	1年次
担当教員	職名：准教授 氏名：島 田 貴 広 <small>しま だ たか ひろ</small>	開 講 期	後期	
		授 業 回 数	8回	
		期末試験の有無	無	
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		30時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		教養教育科目	必修	
幼稚園教諭一種免許状		教養教育科目	必修	
保育士資格		教養教育科目	必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 現在および将来の生活における健康や体力づくり、生涯学習の一環としての運動およびスポーツについて理解を深めて行く。 主な授業内容は、「運動と健康・体力との関連」「慢性疾患と生活習慣病」「体力要素と運動機能」「エネルギー代謝について」「運動処方の実際」「スポーツ外傷・障害に対する予防と応急処置」である。 また、授業ごとに小レポートを提出し、授業最終日（8回目）には小テストを実施する。 健康づくりや運動に関する知識を、自ら積極的に生活の中で活用し、実践していく力と意欲を身に付けるよう授業を行う。	【授業の概要との対応項目】		
	○	A	知識
	○	B	技術・技能
		C	論理的思考力
		D	文章表現力
		E	表情及び身体表現力
		F	感性及び感動表現力
		G	協働能力
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
	○	J	多様性への理解力、応用力
	○	K	課題対処力
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力
【授業の到達目標】		【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
体育を通じた健康、体力づくり全般に関する知識習得をテーマとする。		目標	A、J
健康づくりや運動に関する知識を、自ら積極的に生活の中で活用し、実践していく力と意欲を身につけることが目標となる。		目標	B、K

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 「授業の概要と進め方について」 「運動と健康・体力の関連」	授業計画（シラバス） プリント配布 スライド資料 （パワーポイント使用）	配布プリントやノートの整理
2	慢性疾患と生活習慣① 「生活習慣と慢性症状、発病までのしくみ」	プリント配布 スライド資料 （パワーポイント使用）	配布プリント「生活習慣病キーワード」でインスリンとFFA、中性脂肪、コレステロールの各用語解説を読んでおくこと。 ノートの整理
3	慢性疾患と生活習慣② 「糖尿病と虚血性疾患について ～インスリンと脂質・糖代謝を中心に～」	プリント配布 スライド資料 （パワーポイント使用）	配布プリント「生活習慣病マップ」を読んで生活習慣病発病のメカニズムを復習しておくこと。

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
4	慢性疾患と生活習慣③ 「がんと生活習慣～飲酒と喫煙を中心に～」	プリント配布 スライド資料 (パワーポイント使用) VTR「驚異の小宇宙人体V なめらかな関係プレー骨・筋肉」	配布プリントやノートの整理
5	体力と運動～からだのしくみ～ 「エネルギー代謝を中心に」	プリント配布 スライド資料 (パワーポイント使用) 演習を行うので電卓等持参 (電卓機能付きの携帯電話も使用可)	配布プリントやノートの整理 簡単なトレーニングを家庭で実践してみることに。
6	運動処方の実例 「エアロビックな運動とアネロビックな運動」	プリント配布 スライド資料 (パワーポイント使用) 演習を行うので電卓等持参	事前に1日の食事内容と生活活動の内容と時間を調べておくこと。 配布プリントやノートの整理
7	スポーツ外傷・障害に対する予防と応急処置	演習：応急処置 スライド資料 (パワーポイント使用)	配布プリントやノートの整理
8	授業まとめ（小テストを含む）	まとめテスト(筆記試験) プリント配布 スライド資料 (パワーポイント使用)	総復習をするので配布プリントやノートを整理して持参すること。
【到達度の評価（評価方法・基準）】 (1) 小テスト 40% (2) 小レポート 30%（授業後毎回提出） (3) 授業への参加状況 30% 学習に対する意欲・興味関心・主体性などについて授業中の行動（例えば発問に対する回答や授業内容に関する積極的な質問、ディスカッション時の態度等）を観察し、評価する。			
【教科書】 なし			
【参考書】 (1) 書名：実践スポーツクリニック 慢性疾患と運動 著者名：山崎 元 発行所：株式会社文光堂 価格：4,500円（税別） (2) 書名：フィットネスQ&A 著者名：宮下 充正、武藤 芳照、白山 正人、平野 裕一 発行所：株式会社南江堂 価格：2,718円（税別）			
【その他補足事項】 参考図書は授業中に紹介するが購入の必要はない。			

授業科目名	体育実技 I (バレーボール)		授業形態・単位数	実技・1単位
			開講年次	1年次
担当教員	職名：准教授 氏名：島田貴広		開講期	通年
			授業回数	23回
			期末試験の有無	無
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		—
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		教養教育科目	必修	
幼稚園教諭一種免許状		教養教育科目	必修	
保育士資格		教養教育科目	必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 前半はバレーボールのルールの理解と、パス、サーブ、レシーブ、スパイク、ブロックなど基本技能の獲得に重点を置く。並行してゲームを行うが、公式ルールに拘らず、技能レベルに合わせた簡易ゲームとし、学生相互のコミュニケーションを重視した内容とする。 後半はゲーム中心に展開する中で、集団技能としてのコンビネーションプレーやレシーブフォーメーションなどの戦術を理解し、チームワークの形成とチームビルディングについて実践を通じて学ぶ。同時に、試合運営の方法や審判法について学習し、自立してスポーツ活動を行うための実践力を習得する。	【授業の概要との対応項目】			
	○	A	知識	
		B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
	○	G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
	○	K	課題対処力	
	○	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】		【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)		
バレーボールのゲームを楽しむために必要な基本技能を獲得する。		目標	B	
オフェンスのコンビネーションやレシーブフォーメーションなどの戦術的理解を深め、それらを実践するための活動を通じてチームづくりやチームワーク、スポーツマンシップやマナーを学ぶ。		目標	G、K、L	

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法 (アクティブラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	ガイダンス 今後の日程と授業展開・内容や成績評価等に関する説明	授業計画 (シラバス) 講義	6人制バレーボールのルールについて予習しておく。
2	ボールを使ったウォーミングアップ・ボール慣れ・ストレッチ 基本技能① サーブとレシーブ (サーブを中心に)	グループワーク	
3	ボールを使ったウォーミングアップ・ボール慣れ・ストレッチ 基本技能② サーブとレシーブ (レシーブを中心に)	グループワーク	
4	基本技能③ パスの技術と動き (オーバーハンドパスを中心に) 簡易ゲーム	グループワーク	

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
5	基本技能④ パスの技術と動き（アンダーハンドパスを中心に） 簡易ゲーム	グループワーク	
6	基本技能⑤ ボールコントロール（ボールヒット）とスパイクの動き（ミートを中心に） 簡易ゲーム	グループワーク	
7	基本技能⑥ ボールコントロール（ボールヒット）とスパイクの動き（ステップを中心に） 簡易ゲーム	グループワーク	
8	基本技能⑦ スパイクとレシーブのドリル 簡易ゲーム	グループワーク	
9	基本技能⑧ スパイクとブロックのドリル 簡易ゲーム	グループワーク	
10	基本の戦術① チーム編成と各プレイヤーの役割（ローテーションの理解） 6人制の練習ゲーム	グループワーク	
11	基本の戦術② チーム編成と各プレイヤーの役割（ポジションの理解） 6人制の練習ゲーム	グループワーク	
12	ディフェンスの戦術① サーブレシーブフォーメーション（5人でのレシーブ） 6人制の練習ゲーム	グループワーク	
13	ディフェンスの戦術② サーブレシーブフォーメーション（3～4人でのレシーブ） 6人制の練習ゲーム	グループワーク	
14	ディフェンスの戦術③ ブロックとレシーブフォーメーション（マンアップフォーメーションの理解） 6人制の練習ゲーム	グループワーク	
15	ディフェンスの戦術④ ブロックとレシーブフォーメーション（マウンドダウンフォーメーションの理解） 6人制の練習ゲーム	グループワーク	
16	オフェンスの戦術① スパイクのコンビネーション（クイックを絡めたコンビネーション） 6人制の練習ゲーム	グループワーク	
17	オフェンスの戦術② スパイクのコンビネーション（移動を加えたコンビネーション） 6人制の練習ゲーム	グループワーク	
18	公式戦の運営（リーグ戦）と審判法①	グループワーク	
19	公式戦の運営（リーグ戦）と審判法②	グループワーク	
20	公式戦の運営（リーグ戦）と審判法③	グループワーク	
21	公式戦の運営（トーナメント戦）と審判法④	グループワーク	
22	公式戦の運営（トーナメント戦）と審判法⑤	グループワーク	実技試験の準備

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
23	技能チェックと評価（ボールヒット、オーバーハンドパス、アンダーハンドパス） まとめのゲーム	実技試験	
<p>【到達度の評価（評価方法・基準）】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 技能・知識の習得度 60% • 授業への参加状況 30% • 特記事項 10% <p>※特に秀でた活動や技能を示した者について、10点の範囲内で評価する。</p> <p>（例）• 全国大会出場レベルの技能や指導員資格者レベルの技能を持ち、他学生の見本となり、指導の補助など授業運営に大きく貢献した者。</p> <ul style="list-style-type: none"> • リーダーシップを発揮し、授業効果の向上に貢献した者。 			
<p>【その他補足事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 服装はスポーツウェア上下、バレーボールシューズ（屋内用のスポーツシューズであれば可） • バレーボールⅡ（選択）では体育実技Ⅰで習得した知識と技術を更に深めるために、より実践的な内容を中心に実施する。より高度な技能習得、種目に対する興味を深めることで生涯スポーツに対するモチベーションを更に高めることをねらいとする。 			

授業科目名	体育実技 I (ボディ・コンディショニング)		授業形態・単位数	実技・1単位
			開講年次	1年次
担当教員	職名：准教授 氏名：島田貴広		開講期	通年
			授業回数	23回
			期末試験の有無	無
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		—
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		教養教育科目	必修	
幼稚園教諭一種免許状		教養教育科目	必修	
保育士資格		教養教育科目	必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 レジスタンストレーニングでは主としてダンベルやチューブを利用したトレーニング種目、有酸素運動としてはジョギングやウォーキングを実施し、その正しい運動方法や適切な運動強度設定について学習する。また、自らの目的に応じた運動プログラムを立てて実践すると同時に、プログラムの見直しや達成感を味わうため、定期的に運動効果の測定と評価を行う。	【授業の概要との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
	<input type="radio"/>	K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
シェイプアップやダイエット、筋力アップなど、学生個別の目的に応じてコンディショニングプログラムを作成し、健康的、効果的かつ安全に運動が実践できるようになることを目標とする。			目標	A、B、K

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法 (アクティブラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	ガイダンス 今後の日程と授業展開・内容や成績評価等に関する説明	講義 授業計画 (シラバス)	
2	身体測定と評価、個人目標の設定と運動処方基礎知識 ウォーミングアップの方法 (ストレッチング)	グループワーク	
3	レジスタンストレーニング (大筋群のトレーニング) ・スクワット ・レッグランジ ・クランチ ・プッシュアップ ・バックエクステンション ・ダンベルプレス ・ベントオーバーローイング	グループワーク	
4	レジスタンストレーニング (大筋群のトレーニング) ・ダンベルフライ ・ワンハンドダンベルローイング ・プルオーバー ・オーバーヘッドプレス ・サイドレイズ ・アップライトローイング	グループワーク	

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
5	レジスタンストレーニング（小筋群のトレーニング） ・アームカール ・フレンチプレス ・リストカール ・サイドベント ・カーフレイズ	グループワーク	
6	レジスタンストレーニング（チューブトレーニング）	グループワーク	
7	コンディショニングメニューとトレーニングレコードの作成（レジスタンストレーニングで）	グループワーク	
8	ウォーキング（3km）ペースと目標心拍数の設定（カルボーネン法）	グループワーク	
9	ウォーキング（3km）自分のペースで実施	グループワーク	
10	ジョギング（3km）ペースと目標心拍数の設定（カルボーネン法）	グループワーク	
11	ジョギング（3km）自分のペースで実施	グループワーク	
12	コンディショニングメニューとトレーニングレコードの作成（有酸素運動を含めて作成）	グループワーク	
13	個別メニューに従って、プログラムを実施	グループワーク	
14	個別メニューに従って、プログラムを実施	グループワーク	
15	個別メニューに従って、プログラムを実施	グループワーク	
16	個別メニューに従って、プログラムを実施	グループワーク	
17	測定評価とプログラムの見直し（体重、体脂肪率、BMI、基礎代謝について）	グループワーク	
18	個別メニューに従って、プログラムを実施	グループワーク	
19	個別メニューに従って、プログラムを実施	グループワーク	
20	個別メニューに従って、プログラムを実施	グループワーク	
21	個別メニューに従って、プログラムを実施	グループワーク	
22	個別メニューに従って、プログラムを実施	グループワーク	
23	まとめ 測定評価と反省 トレーニングレコードのチェック、提出	グループワーク	
<p>【到達度の評価（評価方法・基準）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・技能・知識の習得度 60点 ・授業への参加状況 30点 ・特記事項 10点 <p>※特に秀でた活動や技能を示した者について、10点の範囲内で評価する。</p> <p>（例）・全国大会出場レベルの技能や指導員資格者レベルの技能を持ち、他学生の見本となり、指導の補助など授業運営に大きく貢献した者。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リーダーシップを発揮し、授業効果の向上に貢献した者。 			
<p>【その他補足事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・服装はスポーツウェア上下、屋内用または屋外用のスポーツシューズを用意しておくこと。 ・ボディコンディショニングⅡ（選択）では体育実技Ⅰで習得した知識と技術を更に深めるために、より高度な内容を中心に実施する。自らの身体に対する興味関心を深め、健康や体力の向上について生涯を通じて探求し続けるためのモチベーションを高めることをねらいとする。 			

授業科目名	体育実技 I (ヒップホップ&ジャズダンス)	授業形態・単位数	実技・1単位
		開講年次	1年次
担当教員	職名：非常勤講師 氏名：石 ^{いし} 山 ^{やま} 波 ^{なみ} 恵 ^え	開講期	通年
		授業回数	23回
		期末試験の有無	無
開講キャンパス	宮代キャンパス及び学外(波恵ダンスカルチャーパーク)	授業時間以外の必要な学修時間	
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別
卒業		教養教育科目	必修
幼稚園教諭一種免許状		教養教育科目	必修
保育士資格		教養教育科目	必修
オフィスアワー・メールアドレス等		授業終了時に教室等で質問等に対応する。	

【授業の概要】 前半はステップやターンなど、ダンスの基本的な動きを身につけることに重点を置きつつ、ジャズダンスやヒップホップに親しみ、ダンスを行うための体づくりや体ほぐしを行う。 後半は応用発展させた動きを習得すると同時に、振り付けの創作を中心にいき、ダンスを自立して楽しむための実践力を身につけてゆく。	【授業の概要との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
	<input type="radio"/>	E	表情及び身体表現力	
	<input type="radio"/>	F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
	<input type="radio"/>	K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】		【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)		
初心者についてはヒップホップやジャズの技法をマスターしてリズムカルな動きができること、習熟している者については作品の創作ができることを到達の目標とする。		目標	A、B、E、F	
ダンスを通じて心をリフレッシュすると同時に、健康体力づくりの実践力を養う。		目標	A、B、K	

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法 (アクティブラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	ガイダンス 今後の日程と授業展開・授業内容や成績評価等に関する説明	講義 授業計画	
2	ジャズダンス (基本) ストレッチの基本動作 基本ステップ (ウォーキング、ステップタッチ)	グループワーク	
3	ジャズダンス (基本) ストレッチの基本動作 基本ステップ (ツーステップ、ボックス)	グループワーク	
4	ジャズダンス (基本) アイソレーションの基本動作 基本ステップ (ピボットターン)	グループワーク	

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
5	ジャズダンス（基本） アイソレーションの基本動作 基本ステップ（ジャンプ）	グループワーク	
6	ジャズダンス（基本） アイソレーションの基本動作 振付（ステップ、コンビネーション）	グループワーク	
7	ジャズダンス（基本） 完成した振付を発表する。	グループワーク	
8	ヒップホップ（基本） リズム感、リズムの取り方とアップダウン	グループワーク	
9	ヒップホップ（基本） リズム感、リズムの取り方とアップダウン	グループワーク	
10	ヒップホップ（基本） ステップ、コンビネーション、振付	グループワーク	
11	ヒップホップ（基本） ステップ、コンビネーション、振付	グループワーク	
12	ヒップホップ（基本） ステップ、コンビネーション、振付	グループワーク	
13	ヒップホップ（基本） 完成した振付を発表	グループワーク	
14	ジャズダンス（応用） 発展させた動きと振付	グループワーク	
15	ジャズダンス（応用） 発展させた動きと振付	グループワーク	
16	ジャズダンス（応用） 発展させた動きと振付	グループワーク	
17	ジャズダンス（応用） 発展させた動きと振付	グループワーク	
18	ジャズダンス（応用） 発展させた動きと振付	グループワーク	
19	ヒップホップ（応用） 発展させた動きと振付	グループワーク	
20	ヒップホップ（応用） 発展させた動きと振付	グループワーク	
21	ヒップホップ（応用） 発展させた動きと振付	グループワーク	
22	ヒップホップ（応用） 発展させた動きと振付	グループワーク	
23	ヒップホップ（応用） 発展させた動きと振付	グループワーク	

【到達度の評価（評価方法・基準）】

- 技能・知識の習得度 60点
- 授業への参加状況 30点
- 特記事項 10点

※特に秀でた活動や技能を示した者について、10点の範囲内で評価する。

（例）• 全国大会出場レベルの技能や指導員資格者レベルの技能を持ち、他学生の見本となり、指導の補助など授業運営に大きく貢献した者。

- リーダーシップを発揮し、授業効果の向上に貢献した者。

【その他補足事項】

準備物：ダンスに相応しい服装、屋内用シューズ（ダンス専用シューズ推奨）

実施期間：4月～12月（金曜日18：00～19：30）

実施場所：宮代キャンパス及び、波恵ダンスカルチャーパーク（福島市新町3-26）※交通費は自己負担

授業科目名	体育実技 I (テニス)		授業形態・単位数	実技・1単位
			開講年次	1年次
担当教員	職名：兼任准教授 氏名：藤本 要		開講期	通年
			授業回数	23回
			期末試験の有無	無
開講キャンパス	学外（保原総合運動公園）	授業時間以外の必要な学修時間		－
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		教養教育科目	必修	
幼稚園教諭一種免許状		教養教育科目	必修	
保育士資格		教養教育科目	必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 テニス種目における技術や知識を獲得し、健康・体力の維持向上を図りながら、継続してスポーツに親しむ習慣や態度を身に付けることをねらいとする。 また実施に当たっては個人競技種目における技能レベルの差を考慮し、初心者と経験者を能力別に編成し、経験者には試合を多く取り入れた授業展開を行うことで授業への参加意欲を高める。 ダブルスゲームのルールやフォーメーションを理解し、試合の中で実践できるように戦術・戦略面での理解も深める。	【授業の概要との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
	<input type="radio"/>	G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
<input type="radio"/>	K	課題対処力		
<input type="radio"/>	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力		
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
生涯にわたり健康な生活を送るために必要な運動習慣獲得に向けたテニスの技能習得を目的とする。			目標	A B G K L
授業の到達目標を「ラリー8回以上、ボレーボレーを15回以上継続できること」とする。			目標	B K

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	<ガイダンス> 今後の日程と授業展開・内容	講義・実技	テニスのルールを調べておくこと
2	フォアバンドストロークの導入 ・グリップ、打点、スウィング、フットワーク バックバンドストロークの導入 ・グリップ、打点、スウィング、フットワーク	グループワーク	
3	フォアバンドストロークの導入 ・グリップ、打点、スウィング、フットワーク バックバンドストロークの導入 ・グリップ、打点、スウィング、フットワーク	グループワーク	
4	動きの中でのストローク ・フットワークを交えたコンビネーションドリル	グループワーク	

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
5	動きの中でのストローク ・フットワークを交えたコンビネーションドリル	グループワーク	
6	ボレーの導入 ・グリップ、打球面のセット、打点、フットワーク 動きの中でのボレー ・フットワークを交えたコンビネーションドリル サービスの導入 ・グリップ、トスアップ、スウィング	グループワーク	
7	ボレーの導入 ・グリップ、打球面のセット、打点、フットワーク 動きの中でのボレー ・フットワークを交えたコンビネーションドリル サービスの導入 ・グリップ、トスアップ、スウィング	グループワーク	
8	ボレーの導入 ・グリップ、打球面のセット、打点、フットワーク 動きの中でのボレー ・フットワークを交えたコンビネーションドリル サービスの導入 ・グリップ、トスアップ、スウィング	グループワーク	
9	ボレーの導入 ・グリップ、打球面のセット、打点、フットワーク 動きの中でのボレー ・フットワークを交えたコンビネーションドリル サービスの導入 ・グリップ、トスアップ、スウィング	グループワーク	
10	ダブルスゲームの実際 ・試合の成り立ちとルール、試合の実際	グループワーク	試合の成り立ちとルールについて予習しておく
11	ダブルスゲームの実際 ・試合の成り立ちとルール、試合の実際	グループワーク	
12	スキルチェック①（基本技能の確認）	習得度チェック	練習をしておくこと
13	ダブルスゲームの実際 ・試合の成り立ちとルール、試合の実際	グループワーク	
14	ダブルスゲームの実際 ・試合の成り立ちとルール、試合の実際	グループワーク	
15	ダブルスゲームの実際 ・試合の成り立ちとルール、試合の実際	グループワーク	
16	ダブルスゲームの実際 ・試合の成り立ちとルール、試合の実際	グループワーク	
17	ダブルスゲームの実際 ・試合の成り立ちとルール、試合の実際	グループワーク	
18	ダブルスゲームの実際 ・試合の成り立ちとルール、試合の実際	グループワーク	

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
19	ダブルスゲームの実際 ・試合の成り立ちとルール、試合の実践	グループワーク	
20	ダブルスゲームの実際 ・試合の成り立ちとルール、試合の実践	グループワーク	
21	ダブルスゲームの実際 ・試合の成り立ちとルール、試合の実践	グループワーク	
22	スキルチェック② ・ラリーの継続回数と基本技能の習得度	習得度チェック	練習をしておくこと
23	スキルチェック③ ・試合の中で基本技能の習得度	習得度チェック	練習をしておくこと
<p>【到達度の評価（評価方法・基準）】</p> <p>技能・知識の習得度 60点 授業への参加態度 30点 特記事項 10点</p> <p>※特に秀でた活動や技能を示した者について、10点の範囲内で評価する。 (例)・全国大会出場レベルの技能や指導員資格者レベルの技能を持ち、他学生の見本となり、指導の補助など授業運営に大きく貢献した者。 ・リーダーシップを発揮し、授業効果の向上に貢献した者。</p>			

授業科目名	体育実技 I (バドミントン)		授業形態・単位数	実技・1単位
			開講年次	1年次
担当教員	職名：兼任准教授 氏名：藤本 要		開講期	通年
			授業回数	23回
			期末試験の有無	無
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		—
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		教養教育科目	必修	
幼稚園教諭一種免許状		教養教育科目	必修	
保育士資格		教養教育科目	必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 バドミントン種目における技術や知識を獲得し、健康・体力の維持向上を図りながら、継続してスポーツに親しむ習慣や態度を身に付けることをねらいとする。 また実施に当たっては個人競技種目における技能レベルの差を考慮し、初心者と経験者を能力別に編成し、経験者には試合を多く取り入れた授業展開で行うことで授業への参加意欲を高める。 5つのフライングの種類と特性およびフォーメーションを理解し、最終的には試合の中で使用できるように戦術・戦略面での理解も深める。	【授業の概要との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
	<input type="radio"/>	G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
	<input type="radio"/>	K	課題対処力	
	<input type="radio"/>	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】	【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)			
生涯にわたり健康な生活を送るために必要な運動習慣獲得に向けたバドミントンの技能習得を目的とする。	目標	A、B、G、K、L		
授業の到達目標を「ラリーが20ストローク以上継続できること」とする。	目標	B、K		

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法 (アクティブラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	<ガイダンス> 今後の日程と授業展開・内容	講義・実技	バドミントンのルールを調べておくこと
2	・班編成 ・バドミントンの運動特性に応じた準備運動 ・基本技術 (グリップ、ラケットの握り方)	グループワーク	
3	・班編成 ・バドミントンの運動特性に応じた準備運動 ・基本技術 (グリップ、ラケットの握り方)	グループワーク	
4	・ダブルスの試合を中心に実施 ・ダブルスのルールを理解する	グループワーク	ダブルスゲームの成り立ちとルールについて予習しておく

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
5	<ul style="list-style-type: none"> ダブルスの試合を中心に実施 基本技術＜オーバーヘッドストローク＞ 	グループワーク	
6	<ul style="list-style-type: none"> ダブルスの試合を中心に実施 基本技術＜オーバーヘッドストローク＞ 	グループワーク	
7	<ul style="list-style-type: none"> ダブルスの試合を中心に実施 基本技術＜オーバーヘッドストローク＞ 	グループワーク	
8	<ul style="list-style-type: none"> ダブルスの試合を中心に実施 基本技術＜アンダーハンドストローク＞ 	グループワーク	
9	<ul style="list-style-type: none"> ダブルスの試合を中心に実施 基本技術＜アンダーハンドストローク＞ 	グループワーク	
10	<ul style="list-style-type: none"> ダブルスの試合を中心に実施 基本技術＜アンダーハンドストローク＞ 	グループワーク	
11	<ul style="list-style-type: none"> ダブルスの試合を中心に実施 基本技術＜サイドアームストローク＞ 	グループワーク	
12	<ul style="list-style-type: none"> ダブルスの試合を中心に実施 基本技術＜サイドアームストローク＞ 	グループワーク	
13	<ul style="list-style-type: none"> ダブルスの試合を中心に実施 基本技術＜サイドアームストローク＞ 	グループワーク	
14	<ul style="list-style-type: none"> 試合に勝つためのダブルスの戦術・戦略 	グループワーク	ダブルスフォーメーションについて予習しておく
15	<ul style="list-style-type: none"> シングルのルールを理解する 審判法 	グループワーク	シングルスゲームの成り立ちとルールについて予習しておく
16	<ul style="list-style-type: none"> シングルス及びダブルスの試合を中心に実施 リーグ戦及びトーナメント戦にて試合を実施 	グループワーク	
17	<ul style="list-style-type: none"> シングルス及びダブルスの試合を中心に実施 リーグ戦及びトーナメント戦にて試合を実施 	グループワーク	
18	<ul style="list-style-type: none"> シングルス及びダブルスの試合を中心に実施 リーグ戦及びトーナメント戦にて試合を実施 	グループワーク	
19	<ul style="list-style-type: none"> シングルス及びダブルスの試合を中心に実施 リーグ戦及びトーナメント戦にて試合を実施 	グループワーク	
20	<ul style="list-style-type: none"> シングルス及びダブルスの試合を中心に実施 リーグ戦及びトーナメント戦にて試合を実施 	グループワーク	
21	<ul style="list-style-type: none"> シングルス及びダブルスの試合を中心に実施 リーグ戦及びトーナメント戦にて試合を実施 	グループワーク	
22	<ul style="list-style-type: none"> シングルス及びダブルスの試合を中心に実施 リーグ戦及びトーナメント戦にて試合を実施 	グループワーク	
23	<ul style="list-style-type: none"> シングルス及びダブルスの試合を中心に実施 リーグ戦及びトーナメント戦にて試合を実施 	グループワーク	
【到達度の評価（評価方法・基準）】 技能・知識の習得度 60点 授業への参加態度 30点 特記事項 10点 ※特に秀でた活動や技能を示した者について、10点の範囲内で評価する。 (例)・全国大会出場レベルの技能や指導員資格者レベルの技能を持ち、他学生の見本となり、指導の補助など授業運営に大きく貢献した者。 ・リーダーシップを発揮し、授業効果の向上に貢献した者。			

授業科目名	保育者論		授業形態・単位数	講義・2単位
			開講年次	1年次
担当教員	職名：兼任講師 氏名：ながしまてるこ 長島輝子		開講期	後期
			授業回数	15回
			期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		60時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	必修	
幼稚園教諭一種免許状		専門教育科目	必修	
保育士資格		専門教育科目	必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 (1) 幼稚園教諭・保育士の職務内容とその社会的意義・役割について概説する。 (2) 今、求められている教育者に求められている資質・能力を概説する。 (3) 幼稚園教諭・保育士の地位・身分、服務、及び養成・研修の制度を概説する。 (4) 現職の幼稚園教諭や保育士と懇談して、仕事についての楽しみや悩みなどを聞く。 (5) 昨今の幼児教育行政の動向を紹介し、将来の進路決定に役立つような情報を提供する。	【授業の概要との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
		B	技術・技能	
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
	<input type="radio"/>	H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
		K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
幼児教育の意義と担当者の役割を理解する。			目標	A、C
幼児教育の担当者に求められる資質・能力を理解する。			目標	A、C、H
幼稚園教諭・保育士の地位・身分、及び守るべき服務を理解する。			目標	A
幼稚園教諭・保育士の養成・研修制度を知る。			目標	A
幼児教育の担当者として就職するための心構えと学んでおくべきことを知る。			目標	A、C

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法 (アクティブラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	オリエンテーション 保育者論で何を学ぶのか 評価方法等	授業計画 講義	プリント下読み (予習)
2	幼児教育の担当者の現代の社会的役割と具体的な指導内容	講義 プリント	プリント下読み (予習)
3	幼児教育の担当者に求められる資質・能力 — 指導者としての実践的指導能力の面から —	講義 プリント	プリント下読み (予習)
4	幼児教育の担当者に求められる資質・能力 — 指導者としての総合的人間力の面から —	講義 プリント	プリント下読み (予習)
5	幼稚園教諭・保育士の地位・身分	グループ討議 講義	レポートにまとめる

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
6	幼稚園教諭・保育士の服務について(1) — 地方公務員法第30条～第33条 —	講義 プリント	プリント下読み（予習）
7	幼稚園教諭・保育士の服務について(2) — 地方公務員法第34条と児童虐待防止法 —	講義 プリント	プリント下読み（予習）
8	幼稚園教諭・保育士の服務について(3) — 地方公務員法第35条～第38条と教育公務員特例法 —	講義 プリント	プリント下読み（予習）
9	幼稚園教諭・保育士の養成制度について	講義 プリント	プリント下読み（予習）
10	幼稚園教諭・保育士の研修のあり方について	グループ討議	レポートにまとめる
11	幼稚園現場が求める教員像(1) 教育実習からの観点	講義 プリント	プリント下読み（予習）
12	幼稚園現場が求める教員像(2) 日常保育からの観点	講義 プリント	プリント下読み（予習）
13	幼稚園・認定こども園の実際と職員との懇談	講義 プリント	プリント下読み（予習）
14	最近の幼児教育行政の動向について	講義 プリント	プリント下読み（予習）
15	幼稚園教諭・保育士になるために学ぶべきこと	グループ討議	要点整理と期末試験の準備
期末試験	後期末試験		

【期末試験の講評】

期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明する。

【到達度の評価（評価方法・基準）】

- ・期末試験 70%
- ・授業後の感想・質問・意見の提出 30%（授業後毎回提出）

【教科書】 自作の授業資料を作成・配布する（毎時間）。

【参考書】

- (1) 書名：幼稚園教育要領解説書
著者名：文部科学省
発行所：フレーベル館
価格：240円（税別）
- (2) 書名：保育所保育指針解説書
著者名：厚生労働省
発行所：フレーベル館
価格：320円（税別）
- (3) 書名：幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書
著者名：内閣府、文部科学省、厚生労働省
発行所：フレーベル館
価格：350円（税別）
- (4) 書名：教職論
著者名：新井 保幸、江口 勇治 編著
発行所：培風館
価格：1,900円（税別）
- (5) 書名：教育小六法
著者名：市川須美子、浦野東洋一 他
発行所：学陽書房
価格：2,700円（税別）

授業科目名	保育原理		授業形態・単位数	講義・2単位
			開講年次	1年次
担当教員	職名：非常勤講師 氏名：佐藤 菊子		開講期	前期
			授業回数	15回
			期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		60時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	必修	
幼稚園教諭一種免許状		専門教育科目	選択	
保育士資格		専門教育科目	必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		授業終了後に教室で質問等に対応する。		

【授業の概要】 保育の意義と目的、保育所保育指針における保育の基本について理解し、保育の内容と方法の基本を学ぶ。 さらに保育の思想・制度・実践の歴史的変遷にふれ、現代社会の保育の現状と課題について考察し、保育の総合的理解のうえに保育の営みそのものを学び、保育者の役割など、保育に関する原理的体系的な知識及び考え方を理解する。	【授業の概要との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
		B	技術・技能	
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	<input type="radio"/>	J	多様性への理解力、応用力	
	<input type="radio"/>	K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
「保育とは何か」という基本的な概念を知る。また、保育を社会的視点から捉えて具体的な事例を複眼的に分析することを通して、今、保育がどうあるべきかについて基本的な考え方を理解し、今後のあり方を考えることができるようになる。			目標	A、C、J、K

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 保育の意義 ～子ども観と子どもの権利～	授業計画 資料配布「子どもの権利条約」	・レポート「保育とは何か」を次回まで仕上げてくる
2	保育の意義 ～保育をめぐる環境とその変化～	VTR「赤ちゃん胎内からの出発」25分を視聴し、ディスカッションをする	資料：レイチェル・カーソン著「セブン・オブ・ワンダー」を読んでもくる
3	保育の意義 子どもを理解する ～遊び・生活・環境・感覚・経験～	資料 「五感と脳について」	新聞記事「こどもの日」を次回まで仕上げてくること 教科書31～38ページを読んでもくる
4	保育の意義 保育の理念と概念 様々な保育の場と課題	保育所保育指針・幼稚園教育要領を活用 パワーポイントの活用	保育所保育指針・幼稚園教育要領の総則を熟読する

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
5	保育所保育指針における保育の基本	VTR「保育の環境」25分を視聴し、ディスカッションをする	レポート「理想的な家族の夕食風景」を次回まで仕上げてくる
6	保育所保育指針における保育の基本	VTR「保育制度」20分を視聴し、ディスカッションをする	児童福祉法の保育所最低基準を調べ持ち寄る
7	保育所保育指針における保育の基本	児童福祉法における保育所最低基準を理解する パワーポイント活用	教科書75～86ページを読んできくる
8	保育の目的 ～教育基本法・児童福祉法～	保育所保育指針・幼稚園教育要領の領域を理解する	保育所保育指針の保育方法を読んできくる
9	保育の目標と方法 ～内容構成と基本～	保育所保育指針・幼稚園教育要領を活用する	保育所保育指針・幼稚園教育要領を読む
10	保育の目標と方法 ～生活と遊びを通しての総合的な保育～	保育所保育指針・幼稚園教育要領を活用する	保育所保育指針・幼稚園教育要領を読む
11	保育の目標と方法 ～保育計画を作成する～	DVD「幼児の保育」30分を視聴し、ディスカッションをする	資料「近代教育思想家」を読んできくる
12	保育の思想と歴史的変遷 ～諸外国の保育の思想と歴史～	VTR「フレーベルの幼稚園教育学」30分を視聴し、ディスカッションをする	日本の保育の思想家を次回まで仕上げてくる
13	保育の思想と歴史的変遷 ～日本の保育の思想と歴史～	VTR「となりのトトロ」15分を視聴し、グループワークをする	資料「日本における保育・教育史で貢献した人物」配布資料を読む
14	保育の現状と課題 ～保育の質についての保証～	VTR「子どもの虐待」25分を視聴し、ディスカッションをする	レポート「保育とは」を次回まで仕上げてくる
15	保育の現状と課題 ～日本の保育の現状と課題	ワールドカフェ 「保育について考える」	授業の課題をまとめる
期末試験	前期末試験		
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、学科を通じて説明する。			
【到達度の評価（評価方法・基準）】 期末試験60%、レポート（1回）・ミニレポート20%、授業態度10%、出席状況10% ※授業態度（授業に関係ない私語、もしくは授業の流れを阻害する私語は、注意1回1点減点、目障りな居眠りも減点することがある） ※遅刻・早退（30分以内の遅刻・早退は3回で1回の欠席。30分を超える遅刻・早退は欠席と見なす） ※課題（宿題）未提出は各2点減点。優秀レポートは各1～3点加点。 なお、詳細は初回の授業時に説明する。			
【教科書】 書名：新・保育士養成講座 第1巻 保育原理 著者名：新・保育士養成講座編纂委員会 発行所：全国社会福祉協議会 価格：1,900円（税別）			

- 【参考書】**
- (1) 書名：保育所保育指針
著者名：厚生労働省
発行所：フレーベル館
価格：149円（税別）
 - (2) 書名：保育所保育指針解説書
著者名：厚生労働省
発行所：フレーベル館
価格：320円（税別）
 - (3) 書名：幼保連携型認定こども園教育・保育要領
著者名：内閣府・文部科学省・厚生労働省
発行所：フレーベル館
価格：149円（税別）
 - (4) 書名：幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書
著者名：内閣府・文部科学省・厚生労働省
発行所：フレーベル館
価格：350円（税別）

【その他補足事項】

テキストの予習・復習をすること。

授業科目名	社会的養護		授業形態・単位数	講義・2単位
			開講年次	1年次
担当教員	職名：兼任教授 氏名：神 戸 信 行		開講期	後期
			授業回数	15回
			期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		60時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	必修	
幼稚園教諭一種免許状		専門教育科目	選択	
保育士資格		専門教育科目	必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては、初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 現代社会と児童養護問題について概説し、児童福祉及び児童養護の領域における社会的養護の必要性和役割・体系について説明し、将来に向けて取り組みが求められている社会的養護の課題について考察する。さらに、施設養護の原理とその実際について講義することにより、社会的養護における保育士の役割と専門性についての理解を深める。 現代社会における家庭や地域の養育機能の脆弱化により、社会的養護の果たす役割に大きな期待が寄せられている。今日の養護問題の現状や背景、さらに社会的養護の体系と施設養護が果たす役割や施設養護の実際を、事例やVTR等の諸資料を用いて解説し、専門職としての保育士に期待される役割や援助の方法、そして職業倫理について理解を深める。なお、国が示した「社会的養護の課題と将来像」を取り上げ、今後求められる社会的養護の在り方についても概説する。	【授業の概要との対応項目】		
	○	A	知識
		B	技術・技能
	○	C	論理的思考力
	○	D	文章表現力
		E	表情及び身体表現力
		F	感性及び感動表現力
		G	協働能力
	○	H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	○	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J	多様性への理解力、応用力
	○	K	課題対処力
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力
【授業の到達目標】		【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
今日の養育不安や児童虐待の増加など養護問題の現状を理解する		目標	A、C
今日の養育問題が惹起する背景・要因を理解する。		目標	A、C
社会的養護の体系と現状、施設養護の機能について調べ、理解する。		目標	A、C、D、I、K
「社会的養護の課題と将来像」の概要と今後の施設改革の意義を理解する。		目標	A、C、K
保育士に期待される職業倫理と専門性を理解する。		目標	C、H

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法 (アクティブラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業内容の概要 (2) 授業の展開と評価の視点	授業計画	
2	子どもの社会的養護の基本的考え方 児童の社会的養護の理念と概念	教科書補足資料	教科書第1章1節を事前に読む
3	社会的養護の位置づけ 児童家庭福祉分野における社会的養護 児童の権利擁護と社会的養護	教科書補足資料	教科書第1章2節を事前に読む
4	児童虐待問題と児童養護(1) 増加する児童虐待～児童虐待の定義と現状	教科書補足資料 VTR「こどものSOSに耳を澄ませて」20分	教科書第11章1節を事前に読む

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
5	児童虐待問題と児童養護(2) 家庭・施設の実態と児童虐待 児童虐待への対応	教科書補足資料	教科書第11章2節・3節を事前に読む
6	子どもの社会的養護の歴史(1) 欧米における児童福祉観の変遷と社会的養護 子どもの権利の国際的宣言	教科書補足資料	教科書第2章1節を事前に読む
7	子どもの社会的養護の歴史(2) 日本における児童福祉観の変遷と社会的養護 戦後の児童福祉制度における社会的養護	教科書補足資料	教科書第2章2節を事前に読む
8	子どもの社会的養護の概要(1) 子どもの養護の体系	教科書補足資料 配布するワークシートを使いながら、課題にしたがって調べて、発表する。	教科書第3章を事前に読む
9	子どもの社会的養護の概要(2) 施設養護の体系	教科書補足資料 配布するワークシートを使いながら、課題にしたがって調べて、発表する。	教科書第3章を事前に読む
10	社会的養護の課題と将来像 ケア単位の小規模化 施設の地域分散化 施設機能の高度化	教科書補足資料	教科書第12章を事前に読んでおく
11	施設養護の基本原則(1) 人権尊重の原理 個性の尊重と個別化の原理	教科書補足資料 配布された資料「事例」をグループで話し合い、基本原則を具体的に理解する。	教科書第5章1節・2節を事前に読む
12	施設養護の基本原則(2) 親子関係調整の原理 集団生活の力動的活用の原理 社会参加と自立支援の原理	教科書補足資料 配布された資料「事例」をグループで話し合い、基本原則を具体的に理解する。	教科書第5章2節・3節を事前に読む
13	社会的養護における支援計画(1) 個別支援計画の必要性和作成の留意点	教科書補足資料	教科書第10章1節を事前に読んでおく
14	社会的養護における支援計画(2) 日常生活における事例分析 自立支援に関する事例分析	教科書補足資料 事前に配布された課題について、グループで話し合い、発表する。	教科書第10章2節・3節を事前に読んでおく
15	まとめ	振り返り資料	
期末試験	期末試験	筆記試験により行う	
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明する。			
【到達度の評価（評価方法・基準）】 (1) 筆記試験 学期末に実施（70点満点） (2) レポート 授業中の課題を作成したものをレポートとして提出する。 提出したレポートは、30点満点とする。			

【教科書】 書名：子どもの養護 — 社会的養護の原理と内容 第3版
著者名：松本 峰雄 ほか
発行所：建帛社
価格：2,000円（税別）

授業科目名	社会福祉		授業形態・単位数	講義・2単位
			開講年次	1年次
担当教員	職名：兼担教授 氏名： <small>くさ か てる み</small> 日 下 輝 美		開講期	前期
			授業回数	15回
			期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		60時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	必修	
幼稚園教諭一種免許状		専門教育科目	選択	
保育士資格		専門教育科目	必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 社会福祉とは何かを理解し、これから社会福祉を学ぶ上で必要となる原理と体系の基礎を学ぶ。まず、社会福祉の背景となる現代社会と生活問題を前提として、社会福祉がなぜ必要なのかを考え、社会福祉の対象、社会福祉の理念と思想、今日までの歩みを取り上げる。そして、社会福祉政策・制度の体系と実践の体系と実践の基礎を把握する。そこから、私たちにとって社会福祉がなぜ必要か、専門職として目指すべきものは何か、どのように取り組めば良いのかを考える。	【授業の概要との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
		B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
	<input type="radio"/>	D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
	<input type="radio"/>	H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	<input type="radio"/>	J	多様性への理解力、応用力	
	<input type="radio"/>	K	課題対処力	
	<input type="radio"/>	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
社会福祉の理念、思想、価値を理解し自分の視点で論じることができる。			目標	A、D、J
社会福祉とは何か、その原理と体系の基本を自分の考えで発表できる。			目標	A、D、J
福祉制度の発達過程を理解するため学生同士とディスカッションできる。			目標	A、H、K
社会福祉専門職としてどのような視点や力が必要かを把握できる。			目標	A、H、L

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	ガイダンス（講義の方法・流れの説明） 第1章 保育と社会福祉	教科書の補足資料を配布	復習：少子高齢化における福祉課題について整理
2	第2章 社会福祉の考え方と役割	教科書の補足資料を配布 グループディスカッション	予習：教科書27～39頁 復習：社会福祉の概念（理念）、保育と社会福祉の関係について整理
3	第3章 社会福祉のあゆみ ～欧米と日本の福祉のあゆみ～	教科書の補足資料を配布	予習：教科書41～53頁 復習：諸外国の社会福祉の特徴を整理
4	第4章 生活を守る社会保障制度 ◆小テスト1；第1回～3回の範囲	教科書の補足資料を配布 小テスト・グループワーク	予習：教科書55～69頁 復習：生活保護制度について整理

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
5	第5章 社会福祉の制度・法体系	教科書の補足資料を配布	予習：教科書71～84頁 復習：社会福祉法、高齢者・障害者福祉の整理
6	第6章 社会福祉の実施機関と行財政	教科書の補足資料を配布	予習：教科書85～96頁 復習：福祉行政機関の種類と役割について整理
7	第7章 社会福祉の施設	教科書の補足資料を配布	予習：教科書97～104頁 復習：社会福祉施設の種類と運営について整理
8	第8章 子どもの人権と児童家庭福祉 ◆小テスト2；第4回～7回の範囲	教科書の補足資料を配布 小テスト・グループワーク	予習：教科書105～119頁 復習：コラムを読んで自分の考えを整理する
9	第9章 社会福祉の専門職と倫理	教科書 課題について図書館で調べディスカッションを行う (ラーニングコモンズ)	予習：教科書121～138頁 復習：倫理綱領、職種別の根拠法を整理
10	第10章 相談援助の意味と方法	教科書の補足資料を配布	予習：教科書139～135頁 復習：コラムを読んで自分の考えを整理する
11	第11章 福祉サービスの利用支援と第三者評価	教科書の補足資料を配布	予習：教科書157～167頁 復習：措置制度と契約制度の違いを整理する
12	第12章 権利擁護と苦情解決 ◆小テスト3；第8回～11回の範囲	教科書の補足資料を配布 小テスト・グループワーク	予習：教科書169～184頁 復習：基本的人権とは何か要点を整理する
13	第13章 地域福祉の意味と推進方法	教科書 課題について図書館で調べディスカッションを行う (ラーニングコモンズ)	予習：教科書185～196頁 復習：地域福祉の担い手について整理する
14	第14章 他分野との連携とネットワーク	教科書の補足資料を配布	予習：教科書197～210頁 復習：他分野との連携・ネットワークの必要性について自分の考えを整理
15	第15章 社会福祉と保育士のこれからを考える	教科書の補足資料を配布	予習：教科書211～218頁 復習：倫理綱領の中かでも重要と考える項目を取り上げ整理する
期末試験	前期期末試験		
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明する。			
【到達度の評価（評価方法・基準）】 (1) 筆記試験 70点満点の記述方式のテストを学期末に実施 (2) レポート レポートは30点満点の採点とする。課題（宿題）は授業で配布された資料や図書館等で調べレポートを作成し指定された期日まで提出すること。 (3) その他 授業内容の理解度を確認するため3回小テストを実施する。採点は授業内で答え合わせを行い、理解不足の箇所を各自確認する資料とする。			

【教科書】 書名：保育と社会福祉
著者名：編集 橋本 好市、宮田 徹
発行所：株式会社みらい
価格：2,000円（税別）

【参考書】 書名：保育士をめざす人の社会福祉
著者名：編集 相澤 譲治
発行所：株式会社みらい
価格：2,000円（税別）

授業科目名	児童家庭福祉		授業形態・単位数	講義・2単位
			開講年次	1年次
担当教員	職名：非常勤講師 氏名：井上秀之		開講期	前期
			授業回数	15回
			期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		60時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
幼稚園教諭一種免許状		専門教育科目	選択	
保育士資格		専門教育科目	必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		授業終了後のリターンペーパー（毎回）にて対応する。 授業終了後に教室で質問等に対応する。		

【授業の概要】 子どもの権利や発達を基本視点として、子どもにとって最も身近な生活集団である家庭や地域のありように目を向け、児童とその家庭の生活問題の現状と、援助方法について理解を深める。そのため、現代社会における児童家庭福祉の理念や歴史の変遷を学び、児童家庭福祉と保育との関連や児童の人権について理解する。また、児童と家庭をめぐる現状と児童家庭福祉制度・実践体系について把握し、少子化社会における児童・家庭への社会的支援に関する知識を深め、今後の児童家庭福祉の動向や展望を考えるとともに、児童家庭福祉援助活動の実践についても学ぶ。	【授業の概要との対応項目】			
	○	A	知識	
	○	B	技術・技能	
	○	C	論理的思考力	
	○	D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
	○	G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
	○	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	○	J	多様性への理解力、応用力	
	○	K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】		【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)		
現代における子どもの育ちや子育ての実相を的確に把握でき、現代社会における子どもの育ちと子育てに関する多様なニーズや保育サービスの必要性及び保育士の役割と機能、保育士の立ち位置を自分の言葉で説明できるようになる。		目標	A、C、D、G、I、J、K	
「子どもの最善の利益」の保障と「子どもの権利擁護」の重要性を修得することにより、人権意識を持って子どもの尊厳性、平等、自己実現を支援することができるようになる。		目標	A、C、K	
子ども・家庭・地域を支援していくために必要な児童家庭福祉の法制度と実施体制、施策の現状と課題などを修得することにより、児童福祉施設や関係行政機関等の現場で援助活動を展開することができるようになる。		目標	A、B、G、I	
子どもや家庭を取り巻く社会の状況が複雑化し、子どもの育ちと子育てが深刻な問題に直面している中で、子育てを支える専門職として多様な子育て機能を運営することができるようになる。		目標	B、C、J、K	

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と目標（授業内容） (2) 評価方法・授業進め方の留意点 第1章 保育における児童家庭福祉	授業計画 教科書補足資料1 教科書補足資料 世界の子どもの現状Q&A	教科書p1～9を事前に読む

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
2	第2章 子どもと家庭を取り巻く現状 (1) 現代社会と子ども・家庭 社会・家庭・地域の変容	教科書補足資料2 教科書補足資料 児童福祉の課題 ― 現 代社会と子どもの生活	教科書 p 11～21を事前に 読む レポート課題を課する
3	第2章 子どもと家庭を取り巻く現状 生活環境の変化 子どもの成長や発達をめぐる問題 子育てをめぐる問題	グループワーク 統計資料の分析・考察・ まとめ・発表・総括	統計資料を事前に読み込む
4	第3章 現代社会と児童家庭福祉 (1) 社会の価値観の揺らぎと児童家庭福祉ニーズ (2) 新たな子ども・子育て支援施策 (3) 児童家庭福祉の方向性と座標軸	教科書補足資料3	教科書 p 22～41を事前に 読む
5	第4章 児童家庭福祉の理念と権利擁護 (1) 児童家庭福祉の理念 (2) 子どもの人権と権利擁護	ディスカッション 教科書補足資料4〈事例〉 教科書補足資料 児童憲章 子どもの権利に関する条約	教科書 p 44～57、115～ 120を事前に読む レポート課題を課する
6	第5章 児童家庭福祉の歴史的展開 (1) わが国の児童家庭福祉の展開 (2) 諸外国における歩み	教科書補足資料5	教科書 p 57～72を事前に 読む
7	第6章 児童家庭福祉の法体系 (1) 児童家庭福祉に直接かかわる法律 (2) 児童家庭福祉に関連する法律	教科書補足資料6 教科書補足資料 児童福祉法〈抜粋〉、子ど も子育て支援法〈抜粋〉等	教科書 p 73～83を事前に 読む
8	第7章 児童家庭福祉の実施体制と費用負担 (1) 児童家庭福祉の実施体制 (2) 行政機関と児童福祉施設 (3) 児童家庭福祉の費用負担	教科書補足資料7	教科書 p 84～102を事前 に読む
9	第8章 児童家庭福祉の専門職とネットワーク (1) 児童家庭福祉にかかわる専門職の種類と役割 (2) 児童家庭福祉のネットワーク	グループワーク 教科書補足資料 被虐待児への対応〈事例〉 教科書補足資料8	教科書 p 102～114を事前 に読む 事例を事前に読み込む
10	第9章 児童家庭福祉施策の現状と課題 (1) 少子化と子育て支援 (2) 児童の健全育成	教科書補足資料9-1 教科書補足資料9-2	教科書 p 121～129、157 ～166を事前に読む
11	第9章 児童家庭福祉施策の現状と課題 (3) 多様な保育ニーズへの対応 保育所、幼稚園、認定子ども園	ディスカッション 教科書補足資料 乳・幼児の保育環境〈記事〉 保育所における個別支援 (事例)	教科書 p 130～137を事前 に読む レポート課題を課する
12	第9章 児童家庭福祉施策の現状と課題 (4) 母子保健サービス (5) 障害のある子どもへの支援	教科書補足資料9-3 教科書補足資料9-4	教科書 p 137～157を事前 に読む
13	第9章 児童家庭福祉施策の現状と課題 (6) 児童虐待とDVへの対応	教科書補足資料9-5 教科書補足資料 児童虐待防止法 DV防止法	教科書 p 166～178を事前 に読む

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
14	第9章 児童家庭福祉施策の現状と課題 (7) 社会的養護サービス (8) ひとり親家庭福祉	ディベート 里親養護か施設養護か 教科書補足資料9-6 教科書補足資料9-7	教科書 p 178～200を事前に読む
15	第10章 児童家庭福祉援助活動 (1) 児童家庭福祉援助活動と相談援助 (2) 児童家庭福祉援助活動の実際	教科書補足資料	教科書 p 201～242を事前に読む
期末試験	前期末試験		
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、学科を通じて説明する。			
【到達度の評価（評価方法・基準）】 (1) 筆記試験 70点満点とする正誤、選択、記述を取り入れた試験問題とし、学期末に実施する。 (2) レポート 30点満点とし、3回実施する。課題についてはその都度指定する。 (3) その他 授業内容の理解度を確認するため、授業の7回目及び14回目に小テストを実施し、自己採点し、理解不足の確認を行う。また、毎回授業終了後に全員から授業の中で理解できなかったこと、質問したいこと、授業への意見や要望などについてリターンペーパーの提出を求め、次回の授業で回答する。			
【教科書】 書名：新保育士養成講座第3巻 児童家庭福祉 著者名：新 保育士養成講座編纂委員会 網野 武博 ほか 発行所：社会福祉法人全国社会福祉協議会 価格：1,900円（税別）			
【参考書】 (1) 書名：子どもと家庭の福祉を学ぶ 著者名：松本 園子、堀口美智子、森 和子 発行所：ななみ書房 価格：2,400円（税別） (2) 書名：よくわかる子ども家庭福祉 著者名：山縣 文治 発行所：ミネルヴァ書房 価格：2,400円（税別） (3) 書名：社会福祉学習双書5巻 児童家庭福祉論 著者名：社会福祉学習双書編集委員会 京極 高宣 ほか 発行所：社会福祉法人全国社会福祉協議会 価格：2,200円（税別） (4) 書名：保育福祉小六法 2016版 著者名：保育福祉小六法編集委員会 発行所：みらい 価格：1,600円（税別）			

授業科目名	発達心理学		授業形態・単位数	講義・4単位
			開講年次	1年次
担当教員	職名：非常勤講師 氏名：西村 學		開講期	通年
			授業回数	30回
			期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		120時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	必修	
幼稚園教諭一種免許状		専門教育科目	必修	
保育士資格		専門教育科目	必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		授業終了後に教室で質問等に対応する。		

【授業の概要】 生涯発達の視点から発達心理をとらえ、代表的な発達観（ピアジェ、ヴィゴツキー、エリクソン等）について学ぶと共に、発達を規定する要因、特に環境及び人間の主体的活動が発達にとってもつ意味について学ぶ。また、幼児期の発達を主導する遊びの発達過程、他者と共生するうえで欠くことのできない社会性、コミュニケーションの道具である言語の発達過程について学ぶ。さらに知的障害のある子どもの学習の特徴について学ぶ。また障害のある子どもの「気になる行動」の意味及び対応、不適切な育児環境が心理発達に及ぼす影響や支援について学ぶ。	【授業の概要との対応項目】			
	○	A	知識	
		B	技術・技能	
	○	C	論理的思考力	
	○	D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
		K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
様々な発達論や心理諸機能の発達過程を学ぶ中で、子どもの心や行動の意味を洞察でき、さらに的確な支援を行う力を身につけることが到達目標である。			目標	A、C、D

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	1. オリエンテーション (1) 授業の概要と目標（授業内容） (2) 評価方法、授業の進め方の留意点	授業計画	
2	児童心理学から発達心理学へ	プリント、教科書	プリント、教科書による予習・復習
3	「生涯発達心理学」とは	〃	〃
4	人間の発達と「生理的早産説」	〃	〃
5	二つの人間発達観（有機体論的発達論と機械論的発達論）	〃	〃
6	有機体論的発達論(1) J. ピアジェの「発生的認識論」	〃	〃

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
7	有機体論的発達論(2) L. S. ヴィゴツキーの「最近接発達帯」、D. B. エリコニンの「主導的活動」、A. N. レオンチェフの活動理論	プリント、教科書	プリント、教科書による予習・復習
8	有機体論的発達論(3) H. ワロンの「関係論的ホーリズム」、S. フロイトの精神分析学、F. H. エリクソンの「ライフサイクル論」	〃	〃
9	有機体論的発達論(4) 客観主義的発達論と関係論的発達論	〃	〃
10	機械論的発達論(1) I. P. パブロフの「条件反射学」とJ. B. ワトソンの「行動主義心理学」	〃	〃
11	機械論的発達論(2) B. F. スキナーの「行動分析学」	〃	〃
12	人間の発達を規定する要因(1)（素質と生育環境）	〃	〃
13	人間の発達を規定する要因(2)（主体的活動）	〃	〃
14	人間の発達における主体的活動の構造	〃	〃
15	遊びの発達(1) 感覚運動的遊び	〃	〃
16	遊びの発達(2) シンボル遊びとルール遊び	〃	〃
17	社会性の発達(1) 共鳴動作と模倣	〃	〃
18	社会性の発達(2) 心の理論	〃	〃
19	言語の発達(1) 三項関係と愛着	〃	〃
20	言語の発達(2) シンボル機能	〃	〃
21	人間発達における「拡大・代替コミュニケーション」(AAC)の意義	〃	〃
22	幼児の心身の特徴と学習の過程(1) 0～3歳	〃	〃
23	幼児の心身の特徴と学習の過程(2) 4～6歳	〃	〃
24	児童（6～12歳）の心身の特徴と学習の過程	〃	〃
25	生徒（12～18歳）の心身の特徴と学習の過程	〃	〃
26	知的障害のある子どもの心身の特徴と学習の過程	〃	〃
27	発達障害のある子どもの心身の特徴と学習の過程	〃	〃

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
28	身体障害（視覚障害・聴覚障害・肢体不自由）のある子どもの心身の特徴と学習の過程	プリント、教科書	プリント、教科書による予習・復習
29	障害のある子どもの「気になる行動」の意味及び対応	〃	〃
30	育児環境に問題のある子どもの発達支援（「アダルト・サバイバー」、被虐待児、障害のある子の兄弟姉妹）	〃	〃
期末試験	期末試験		
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、学科を通じて説明する。			
【到達度の評価（評価方法・基準）】 (1) 70点満点の期末試験 (2) 30点満点の小テスト			
【教科書】 書名：エピソードで学ぶ乳幼児の発達心理学 著者名：岡本 依子 他 発行所：新曜社 価格：1,900円（税別）			

授業科目名	子どもの保健 I		授業形態・単位数	講義・4単位
			開講年次	1年次
担当教員	職名：教授 氏名：佐藤 理	さとう おさむ	開講期	通年
			授業回数	30回
			期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		120時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	必修	
幼稚園教諭一種免許状		専門教育科目	必修	
保育士資格		専門教育科目	必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 子どもの健康な発育発達とは何かを理解し、生起する健康問題解決を考えるための基本的観点を養うことが目標である。講義の前半では子どもの健康について、子どもの保育・教育に携わるものとして身に付けておきたい基本的な知識として健康論、子どもの発育発達の道筋、子どもの心身の病気と健康管理を学ぶ。後半では今日の子どもの健康問題について「生存」「心身の発育発達」「生活」をキーワードに現状をつかみ、健康問題を生起させる諸要因を分析し、それらに適切に対処する方策について学ぶ。なお、福島県の食品を中心に、放射性物質測定の結果、子どもの健康にほとんど影響のないことについてもふれる。	【授業の概要との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
		B	技術・技能	
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力	
	<input type="radio"/>	D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
	<input type="radio"/>	G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
	<input type="radio"/>	K	課題対処力	
	<input type="radio"/>	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
	【授業の到達目標】	【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)		
乳幼児の健康的な発育発達支援の前提となる基礎的理論（哲学）を理解し、述べることができる。	目標	A、C、D		
保健・安全管理と発育発達支援の実際を理解し、実施計画案を作成することができる。	目標	D、G		
救急処置の手技を実施できる。	目標	K、L		

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と目標 (2) 授業内容と評価の方法 (3) その他	授業計画	
2	健康論(1) — 健康とは	講義資料とスライドによる講義 講義ノート作り	講義資料による復習 講義ノートの整理
3	健康論(2) — ヘルスプロモーション	講義資料とスライドによる講義 講義ノート作り	講義資料による復習 講義ノートの整理

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
4	健康論(3) — 乳幼児の発育発達	講義資料とスライドによる講義 講義ノート作り	講義資料による復習 講義ノートの整理
5	健康論まとめ 小テスト①	講義資料とスライドによる講義 講義ノート作り	講義資料による復習 講義ノートの整理
6	子どもの保健管理論(1)	講義資料とスライドによる講義 講義ノート作り	講義資料による復習 講義ノートの整理
7	子どもの保健管理論(2)	講義資料とスライドによる講義 講義ノート作り	講義資料による復習 講義ノートの整理
8	子どもの保健管理論(3)	講義資料とスライドによる講義 講義ノート作り	講義資料による復習 講義ノートの整理
9	子どもの保健管理論(4)	講義資料とスライドによる講義 講義ノート作り	講義資料による復習 講義ノートの整理
10	子どもの保健管理論まとめ 小テスト②	講義資料とスライドによる講義 講義ノート作り	講義資料による復習 講義ノートの整理
11	保健指導論(1)	講義資料とスライドによる講義 講義ノート作り	講義資料による復習 講義ノートの整理
12	保健指導論(2)	講義資料とスライドによる講義 講義ノート作り	講義資料による復習 講義ノートの整理
13	保健指導論(3)	講義資料とスライドによる講義 講義ノート作り	講義資料による復習 講義ノートの整理
14	前期まとめ	講義資料とスライドによる講義 講義ノート作り	
15	前期末試験	講義ノート提出①	
16	後期オリエンテーション	授業計画	
17	乳幼児集団の保健・安全管理(1)	講義資料とスライドによる講義 講義ノート作り	講義資料による復習 講義ノートの整理
18	乳幼児集団の保健・安全管理(2)	講義資料とスライドによる講義 講義ノート作り	講義資料による復習 講義ノートの整理
19	乳幼児集団の保健・安全管理(3)	講義資料とスライドによる講義 講義ノート作り	講義資料による復習 講義ノートの整理

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
20	乳幼児集団の保健・安全管理(4)	講義資料とスライドによる講義 講義ノート作り	講義資料による復習 講義ノートの整理
21	乳幼児集団の保健・安全管理まとめ 小テスト③（応急処置実技を含む）	講義資料とスライドによる講義 講義ノート作り	講義資料による復習 講義ノートの整理
22	乳幼児の健康的な発育発達支援(1)	講義資料とスライドによる講義 講義ノート作り	講義資料による復習 講義ノートの整理
23	乳幼児の健康的な発育発達支援(2)	講義資料とスライドによる講義 講義ノート作り	講義資料による復習 講義ノートの整理
24	乳幼児の健康的な発育発達支援(3)	講義資料とスライドによる講義 講義ノート作り	講義資料による復習 講義ノートの整理
25	乳幼児の健康的な発育発達支援(4)	講義資料とスライドによる講義 講義ノート作り	講義資料による復習 講義ノートの整理
26	乳幼児の健康的な発育発達支援まとめ 小テスト④（応急処置実技を含む）	講義資料とスライドによる講義 講義ノート作り	講義資料による復習 講義ノートの整理
27	保健指導(1) — 指導プランの作成	講義資料とスライドによる講義 講義ノート作り	講義資料による復習 講義ノートの整理
28	保健指導(2) — 模擬指導①	講義資料とスライドによる講義 講義ノート作り	講義資料による復習 講義ノートの整理
29	保健指導(3) — 模擬指導②	講義資料とスライドによる講義 講義ノート作り	講義資料による復習 講義ノートの整理
30	後期まとめ	講義資料とスライドによる講義 講義ノート提出②	講義資料による復習 講義ノートの整理
期末試験	後期末試験		
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明する。			
【到達度の評価（評価方法・基準）】 <ul style="list-style-type: none"> • 講義ノート 40%（前期1回、後期1回提出／2回×20点） • 小テスト・レポート 10% • 前期末試験 20% • 後期末試験 20% • 受講態度 10%（意見発表および発言など積極的講義参加） 			

【教科書】 書名：それでも、さくらは咲く
著者名：さくら保育園
発行所：かもがわ出版
価格：1,700円（税別）

- 【参考書】**
- (1) 書名：保育所保育指針
著者名：厚生労働省
発行所：フレーベル館
価格：149円（税別）
 - (2) 書名：幼稚園教育要領
著者名：文部科学省
発行所：フレーベル館
価格：149円（税別）
 - (3) 書名：幼保連携型認定こども園教育・保育要領
著者名：文部科学省、厚生労働省
発行所：フレーベル館
価格：149円（税別）

【その他補足事項】

「講義ノート」として使用するのので、A4サイズのノート（30ページ程度）1冊を購入し第1回講義時に必ず持参すること。指定した**【参考書】**は毎時間持参するのが望ましい。

授業科目名	保育・教育課程論		授業形態・単位数	講義・2単位
			開講年次	1年次
担当教員	教授	わたなべひろし 渡辺博志	開講期	後期
	非常勤講師	いそべひろこ 磯部裕子	授業回数	15回
	(本務先：宮城学院女子大学 職名：教授)		期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		60時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	必修	
幼稚園教諭一種免許状		専門教育科目	必修	
保育士資格		専門教育科目	必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 認定こども園、幼稚園、保育所および連節する小学校低学年で行われている保育・教育活動は、国の意図的、計画的な仕事として行われていることを理解できるようにする。国はその目的を達成するため保育・教育活動の基準として幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、小学校学習指導要領を公示し、充実した保育・教育の具現に努めていること、また各幼稚園、保育所では、地域や子どもの実態を踏まえた保育・教育活動を行うため、最適な教育課程を編成し、特色ある保育・教育を推進していることなどを捉えることができるようにする。 さらに、教育課程編成の必要性、指導計画や保育・指導案の作成についても具体事例などをもとに考察するとともに、計画作成の作業に取り組むことができるようにする。	【授業の概要との対応項目】			
	○	A	知識	
		B	技術・技能	
	○	C	論理的思考力	
	○	D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
	○	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	○	J	多様性への理解力、応用力	
	○	K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】	【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)			
保育・教育の目的達成と教育課程の意義や必要性および法的根拠や編成手順・方法の理解をテーマとして次の点を目標とする。 (1) 日々の保育・教育に必要な具体的な指導計画や保育・教育のための指導案を作成することができるようにする。 (2) 指導と評価の観点に立ち、より効果的で質の高い教育課程編成のあり方・方法について創造的に探究する。	目標	A、C、D、I、J、K		

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	1. オリエンテーション (1) 授業の概要と目標 (2) 授業内容と評価方法 (3) その他（本科目の留意点） 2. 「養育・保育・教育」の共通点と相違点 (担当：磯部 裕子)	授業目標・方法 パワーポイント資料 プリント資料 ペア・グループ討議	
2	目的・計画的な営み ・教育課程の意義と必要性 ・教育課程・カリキュラムとは ・新しいカリキュラムの考え方 (担当：磯部 裕子)	教科書・補助資料 メディア資料 パワーポイント資料 ペア・グループ討議	

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
3	「保育」「教育」の仕事…意図的・計画的にすすめるために ・「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「認定こども園教育・保育要領」の必要性 (担当：磯部 裕子)	教科書・補助資料 メディア資料 ペア・グループ討議 パワーポイント資料	
4	教育課程編成の基本的な考え方 ・幼稚園教育要領ができるまで ・めざす幼児像 具体的なねらい 保育の具体的な内容 ・教育課程の具体事例研究 (担当：磯部 裕子)	教科書・補助資料 メディア資料 パワーポイント資料 ペア・グループ討議	
5	保育のねらい、内容と教育課程編成の具体と手順 ・保育課程の法律的基礎要件 ・保育内容と領域 ・保育課程の事例研究 (担当：磯部 裕子)	教科書・補助資料 メディア資料 パワーポイント資料 ペア・グループ討議	
6	保育内容と子どもの活動 ・発達の理解と指導計画 ・環境と遊びを通して教育する意味 ・連続する学び (担当：磯部 裕子)	教科書・補助資料 メディア資料 パワーポイント資料 ペア・グループ討議	
7	意図的・計画的に保育・教育を行うための「計画」の必要を考える ・5つの領域 ・年間指導計画 月指導計画 週指導計画（週案） 日指導計画（日案） (担当：磯部 裕子)	教科書 補助資料・メディア資料 パワーポイント資料 ペア・グループ討議	
8	日案（日の計画）を作成する(1) ・日案作成の基本と諸要素 ねらい／環境構成／活動内容／予想される子どもの活動 ／指導・援助 (担当：渡辺博志)	日案作成用紙 クリッカー問題 補助資料 メディア資料 パワーポイント資料 ペア・グループ討議	骨子案作成 キーワード予習 学修ミニレポート1
9	日案（日の計画）を作成する(2) ・幼児の活動・環境構成の具体 ・指導上の留意点 ・部分案 (担当：渡辺博志)	日案作成用紙 クリッカー問題 補助資料 メディア資料 パワーポイント資料 ペア・グループ討議	日案作成 キーワード予習 学修ミニレポート2
10	週案（週の計画）を作成する(1) ・週案作成の基本と諸要素 ・事例案の検討 (担当：渡辺博志)	週案作成用紙 クリッカー問題 補助資料 メディア資料 パワーポイント資料 ペア・グループ討議	骨子案作成 キーワード予習 学修ミニレポート3
11	週案（週の計画）を作成する(2) ・週案作成の構想と具体 ・日案と週案の共通点と相違点 (担当：渡辺博志)	週案作成用紙 クリッカー問題 補助資料 メディア資料 パワーポイント資料 ペア・グループ討議	推移案作成 キーワード予習 学修ミニレポート4
12	教育活動の「評価」を考える ・保育者による自己評価の観点 ・保育者間で行う自己評価 ・幼稚園・保育所施設の自己評価 (担当：渡辺博志)	教科書 クリッカー問題 補助資料 メディア資料 パワーポイント資料 ペア・グループ討議	プリント資料の キーワード予習 学修ミニレポート5

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
13	保育・教育の「連携」と子どもの育ち ・子ども支援制度 広がる〇〇活動 ・幼児教育と外部の教育資源 ・地域との連携事例研究 (担当：渡辺博志)	プリント資料 クリッカー問題 補助資料 メディア資料 パワーポイント資料 ペア・グループ討議	プリント資料の キーワード予習 学修ミニレポート6
14	様々な教育・保育課程のデザインと実践展開 ・特色ある教育・保育活動の実際 ・保幼小の連携 ・預かり保育、延長保育 (担当：渡辺博志)	プリント資料 クリッカー問題 補助資料 メディア資料 パワーポイント資料 ペア・グループ討議	プリント資料の キーワード予習 学修ミニレポート7
15	私たちの考える理想の〇〇園 ・園の保育・教育ビジョン ・特色ある教育環境 教育・保育活動 ・プレゼンテーションと冊子づくり (担当：渡辺博志)	プリント資料 クリッカー問題 補助資料 メディア資料 パワーポイント資料 ペア・グループ討議	プリント資料の キーワード予習 学修ミニレポート8
期末試験	記述方式テスト		
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明する。			
【到達度の評価（評価方法・基準）】 1. 60点満点の記述方式のテストを学期末に実施 2. 授業後の「学びの着地点」「授業テーマに関する学修ミニレポート」を30点満点で採点する。 学修ミニレポートは、予習課題、振り返り課題、追究課題を設定。 3. 授業への参加態度（討議、発言、質問、提案など）を10点満点で採点する。			
【教科書】 (1) 書名：幼稚園教育要領 著者名：文部科学省 発行所：フレーベル館 価格：149円（税別） (2) 書名：保育所保育指針 著者名：厚生労働省 発行所：フレーベル館 価格：149円（税別） (3) 書名：幼保連携型認定こども園教育・保育要領 著者名：内閣府、文部科学省、厚生労働省 発行所：フレーベル館 価格：149円（税別）			
【参考書】 (1) 書名：教育課程・保育課程を学ぶ 著者名：松村 和子、近藤 幹生、椛島 香代 発行所：ななみ書房 価格：2,000円（税別） (2) 書名：教育課程の理論 保育におけるカリキュラム・デザイン 著者名：磯部 裕子 発行所：萌文書林 価格：1,800円（税別）			

授業科目名	保育内容総論		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	1年次
担当教員	職名：兼任講師 氏名：鈴木智子		開講期	通年
			授業回数	30回
			期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		30時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	必修	
幼稚園教諭一種免許状		専門教育科目	必修	
保育士資格		専門教育科目	必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明する。		

【授業の概要】	【授業の概要との対応項目】	
	(1) 保育内容を総合的に捉える視点を養い、幼稚園教育要領や保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領のねらいと内容を中心に、保育の基本・指導の在り方、各領域の捉え方を理解し、総合的に指導することの重要性について学ぶ。 (2) 子どもの生活や遊びなどは、ある領域に偏って指導されるものではなく、子どもの発達や生活に基づき、各領域の間で相互に関連を持ちながら、総合的に展開する。 (3) 各年齢別の指導方法を具体的に理解し実践力を培う。	○
	○	B 技術・技能
	○	C 論理的思考力
	○	D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
	○	G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	○	I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
	○	J 多様性への理解力、応用力
	○	K 課題対処力
	○	L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
【授業の到達目標】	【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
幼稚園、保育所、認定こども園の実際を知り、乳幼児の発達と生活の基本を学び、総合的指導法について理解する。	目標	A、B、C、G、I、J
保育内容の歴史的変遷や「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の基本を理解し、保育内容を総合的に捉える視点を獲得する。	目標	A、B、C
子どもの生活全体を通して、教育（健康・人間関係・環境・言葉・表現）と養護（生命の保持、情緒の安定）が一体的に展開することを具体的な保育実践につなげて理解する。	目標	A、B、D、G、I、J、K、L

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と目標 (2) 授業内容と評価の方法 (3) その他	授業計画・教科書	次回の予習 「幼稚園の役割と幼稚園教育要領」
2	幼稚園の役割と幼稚園教育要領の基礎理解 (認定こども園の役割と幼保連携型認定こども園教育・保育要領の基礎理解)	教科書 P10～11・P32～33 プリント資料1 3歳以上児の保育(DVD視聴)	前回の復習と次回の予習

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
3	保育所の役割と保育所保育指針の基礎理解 (認定こども園の役割と幼保連携型認定こども園教育・保育要領の基礎理解)	教科書 P12～14・P18～21 プリント資料2 3歳未満児の保育 (DVD視聴)	前回の復習と次回の予習
4	教育課程・保育課程と保育内容5領域の考え方	教科書 P15～17・P45～48 プリント資料3	前回の復習と次回の予習 レポート①テーマ 【教育課程および保育課程について】
5	領域「健康」のねらい及び内容の基礎理論と遊びを通じた指導方法	プリント資料4 「健康」	前回の復習と次回の予習 領域「健康」のねらいと内容について
6	領域「人間関係」のねらい及び内容の基礎理論と遊びを通じた指導方法	プリント資料5 「人間関係」	前回の復習と次回の予習 領域「人間関係」のねらいと内容について
7	領域「環境」のねらい及び内容の基礎理論と遊びを通じた指導方法	プリント資料6 「環境」	前回の復習と次回の予習 領域「環境」のねらいと内容について
8	領域「言葉」のねらい及び内容の基礎理論と遊びを通じた指導方法	プリント資料7 「言葉」	前回の復習と次回の予習 領域「言葉」のねらいと内容について
9	領域「表現」のねらい及び内容の基礎理論と遊びを通じた指導方法	プリント資料8 「表現」	前回の復習と次回の予習 領域「表現」のねらいと内容について レポート②テーマ 【保育現場における遊びについて】
10	指導計画作成における基本的な考え方(1)	プリント資料9 指導計画作成①	前回の復習と次回の予習
11	指導計画作成における具体的な手順とポイント(2)	プリント資料10 指導計画作成②	前回の復習と次回の予習
12	指導計画の作成と保育の実際 (0、1、2歳児の保育方法)	プリント資料11 教科書P58～68	前回の復習と次回の予習 「指導計画作成」
13	指導計画の作成と保育の実際 (3歳児の遊びの指導方法)	プリント資料12 教科書P72～87	前回の復習と次回の予習 「指導計画作成」
14	指導計画の作成と保育の実際 (4歳児の遊びの指導方法)	プリント資料13 教科書P88～92	前回の復習と次回の予習 「指導計画作成」
15	指導計画の作成と保育の実際 (5歳児の遊びの指導方法)	プリント資料14 教科書P93～101	前回の復習と次回の予習 レポート③テーマ 【指導計画作成】
16	模擬保育(1) (0、1、2歳児)	プリント資料15 グループワーク	前回の復習と次回の予習
17	模擬保育(2) (0、1、2歳児)	プリント資料16 グループワーク	前回の復習と次回の予習

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
18	模擬指導(3) (3歳児)	プリント資料17 グループワーク	前回の復習と次回の予習
19	模擬指導(4) (4歳児)	プリント資料18 グループワーク	前回の復習と次回の予習
20	模擬指導(5) (5歳児)	プリント資料19 グループワーク	前回の復習と次回の予習 レポート④テーマ 【乳幼児の発達と保育】
21	保育の展開方法 (行事への取り組みを通しての指導法 運動会①)	プリント資料20 グループワーク 1	前回の復習と次回の予習 「運動会の保育展開」
22	保育の展開方法 (行事への取り組みを通しての指導法 運動会②)	グループワーク21	前回の復習と次回の予習 「運動会の保育展開」
23	保育の展開方法 (ごっこ遊びへの取り組みを通しての指導法 お店やさんごっこ①)	プリント資料22 グループワーク 1	前回の復習と次回の予習 「お店屋さんごっこの保育展開」
24	保育の展開方法 (ごっこ遊びへの取り組みを通しての指導法 お店やさんごっこ②)	グループワーク 2	前回の復習と次回の予習 「お店屋さんごっこの保育展開」
25	保育の展開方法 (行事への取り組みを通しての指導法 発表会①)	プリント資料23 グループワーク 1	前回の復習と次回の予習 「発表会の保育展開」
26	保育の展開方法 (行事への取り組みを通しての指導法 発表会②)	グループワーク 2	前回の復習と次回の予習 「発表会の保育展開」
27	保育の展開方法 (日本の伝統行事への取り組みを通しての指導法 七夕)	プリント資料24 グループワーク 1	前回の復習と次回の予習
28	保育の展開方法 (日本の伝統行事への取り組みを通しての指導法 節分豆まき会)	グループワーク 2	前回の復習と次回の予習 レポート⑤テーマ 【日本の伝統行事への保育現場における取り組み】
29	保育指導における教材研究について	プリント資料25	前回の復習と次回の予習
30	保育内容総論のまとめ	保育内容総論まとめ プリント資料26 「期末試験に向けて」	1～30の授業の復習
期末試験	期末試験		
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明する。			
【到達度の評価（評価方法・基準）】 (1) 筆記試験：70点満点の記述方式のテストを学期末に実施 (2) レポート：レポートは5回提出で、6点満点×5回の採点とする。(合計30点)			

- 【教科書】**
- (1) 書名：保育実践を創造する演習保育内容総論
著者名：豊田 和子
発行所：みらい
価格：2,000円（税別）
 - (2) 書名：保育所保育指針
著者名：厚生労働省
発行所：フレーベル館
価格：149円（税別）
 - (3) 書名：保育所保育指針解説書
著者名：厚生労働省
発行所：フレーベル館
価格：320円（税別）
 - (4) 書名：幼稚園教育要領
著者名：文部科学省
発行所：フレーベル館
価格：149円（税別）
 - (5) 書名：幼稚園教育要領解説書
著者名：文部科学省
発行所：フレーベル館
価格：240円（税別）
 - (6) 書名：幼保連携型認定こども園教育・保育要領
著者名：内閣府、文部科学省、厚生労働省
発行所：フレーベル館
価格：149円（税別）
 - (7) 書名：幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書
著者名：内閣府、文部科学省、厚生労働省
発行所：フレーベル館
価格：350円（税別）

- 【参考書】**
- 書名：最新保育資料集
著者名：森上 史郎 監修
発行所：ミネルヴァ書房
価格：2,000円（税別）

授業科目名	ピアノ演習(初級レベル)		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	1年次
担当教員	職名：兼任講師 氏名：浅野 洋子		開講期	通年
			授業回数	30回
			期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		30時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	必修	
幼稚園教諭一種免許状		専門教育科目	選択	
保育士資格		専門教育科目	選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 幼児の歌曲、バイエルの練習曲の中から35曲程度抜粋した曲を主な教材とし、それらの曲を正確なリズム、音でピアノを弾くことを学ぶ。保育現場で子どもたちがスムーズに歌えるようなピアノの基礎力を身に付ける。授業内容は、課題曲の個別レッスンと曲ごとの確認テストを含む方式により展開していく。	【授業の概要との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
	<input type="radio"/>	E	表情及び身体表現力	
	<input type="radio"/>	F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
	<input type="radio"/>	H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
	<input type="radio"/>	K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
教育・保育の現場で必要となる、ピアノの基礎技能を修得する。			目標	A、B、E
バイエル・幼児歌曲・アニメ曲など様々なピアノ曲を通して読譜力、幅広い表現力を養う。			目標	E、F、H、K

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 授業の概要と目標、評価方法 ピアノ個室の利用方法 課題曲発表	授業計画	
2	課題曲の個別レッスン	課題曲の楽譜 到達度チェックシート	課題曲を各自レッスンしておくこと
3	課題曲の個別レッスン	課題曲の楽譜 到達度チェックシート	課題曲を各自レッスンしておくこと
4	課題曲の個別レッスン	課題曲の楽譜 到達度チェックシート	課題曲を各自レッスンしておくこと
5	課題曲の個別レッスン	課題曲の楽譜 到達度チェックシート	課題曲を各自レッスンしておくこと

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
6	課題曲の個別レッスン	課題曲の楽譜 到達度チェックシート	課題曲を各自レッスンしておくこと
7	課題曲の個別レッスン	課題曲の楽譜 到達度チェックシート	課題曲を各自レッスンしておくこと
8	課題曲の個別レッスン	課題曲の楽譜 到達度チェックシート	課題曲を各自レッスンしておくこと
9	課題曲の個別レッスン	課題曲の楽譜 到達度チェックシート	課題曲を各自レッスンしておくこと
10	課題曲の個別レッスン	課題曲の楽譜 到達度チェックシート	課題曲を各自レッスンしておくこと
11	課題曲の個別レッスン	課題曲の楽譜 到達度チェックシート	課題曲を各自レッスンしておくこと
12	課題曲の個別レッスン	課題曲の楽譜 到達度チェックシート	課題曲を各自レッスンしておくこと
13	課題曲の個別レッスン	課題曲の楽譜 到達度チェックシート	課題曲を各自レッスンしておくこと
14	課題曲の個別レッスン	課題曲の楽譜 到達度チェックシート	課題曲を各自レッスンしておくこと
15	前期末試験		
16	課題曲の個別レッスン	課題曲の楽譜 到達度チェックシート	課題曲を各自レッスンしておくこと
17	課題曲の個別レッスン	課題曲の楽譜 到達度チェックシート	課題曲を各自レッスンしておくこと
18	課題曲の個別レッスン	課題曲の楽譜 到達度チェックシート	課題曲を各自レッスンしておくこと
19	課題曲の個別レッスン	課題曲の楽譜 到達度チェックシート	課題曲を各自レッスンしておくこと
20	課題曲の個別レッスン	課題曲の楽譜 到達度チェックシート	課題曲を各自レッスンしておくこと
21	課題曲の個別レッスン	課題曲の楽譜 到達度チェックシート	課題曲を各自レッスンしておくこと
22	課題曲の個別レッスン	課題曲の楽譜 到達度チェックシート	課題曲を各自レッスンしておくこと
23	課題曲の個別レッスン	課題曲の楽譜 到達度チェックシート	課題曲を各自レッスンしておくこと
24	課題曲の個別レッスン	課題曲の楽譜 到達度チェックシート	課題曲を各自レッスンしておくこと
25	課題曲の個別レッスン	課題曲の楽譜 到達度チェックシート	課題曲を各自レッスンしておくこと

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
26	課題曲の個別レッスン	課題曲の楽譜 到達度チェックシート	課題曲を各自レッスンしておくこと
27	課題曲の個別レッスン	課題曲の楽譜 到達度チェックシート	課題曲を各自レッスンしておくこと
28	課題曲の個別レッスン	課題曲の楽譜 到達度チェックシート	課題曲を各自レッスンしておくこと
29	課題曲の個別レッスン	課題曲の楽譜 到達度チェックシート	課題曲を各自レッスンしておくこと
30	課題曲の個別レッスン	課題曲の楽譜 到達度チェックシート	課題曲を各自レッスンしておくこと
期末試験	後期末試験		
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明する。			
【到達度の評価（評価方法・基準）】 60～69点…課題曲35曲を完成する。 曲の表現力を加味して採点する。 70～79点…課題曲35曲を完成する。 曲の表現力、演奏技術を加味して採点する。 80～89点…課題曲35曲を完成する。 曲の表現力、高度な演奏技術を加味して採点する。 90点以上…課題曲の35曲を完成する。 曲の表現力、より高度な演奏技術を加味して採点する。			
【教科書】 書名：標準バイエルピアノ教則本 発行所：全音楽譜出版社 価格：900円（税別） ※その他、歌曲等については担当教員が配布する。			
【その他補足事項】 レベル分けについては担当教員が行う。			

授業科目名	ピアノ演習(中級レベル)		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	1年次
担当教員	職名：教授 氏名：ミハウ・ソヴコヴィアク		開講期	通年
			授業回数	30回
			期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		30時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	必修	
幼稚園教諭一種免許状		専門教育科目	選択	
保育士資格		専門教育科目	選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 幼児の歌曲、バイエル、ツェルニー30番、ブルグミュラー25番から42曲程度を抜粋した曲を主な教材とし、正確なリズム、音で弾くこと、感性豊かに弾けることを目標とする。また、保育現場において、子どもたちとともに表情豊かに歌えるような応用力を身に付ける。授業内容は、課題曲の個別レッスンと曲ごとの確認テストを含む方式により展開していく。	【授業の概要との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
	<input type="radio"/>	E	表情及び身体表現力	
	<input type="radio"/>	F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
	<input type="radio"/>	H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
	<input type="radio"/>	K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】	【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)			
教育・保育の現場で必要となる、ピアノの基礎技能を修得する。	目標	A、B、E		
幼児曲・歌曲も含め、ポップス、クラシック、ジャズなど様々なピアノ表現に親しみ、幅広い表現力を養う。	目標	E、F、H、K		

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 授業概要と目標、評価方法 ピアノ個室の利用方法 個別面談と課題曲の選定 (課題曲は各自の経験に合わせて選曲する)	授業計画	
2	各自の課題曲の個別レッスン	課題曲の楽譜 到達度チェックシート	課題曲を各自レッスンしておくこと
3	各自の課題曲の個別レッスン	課題曲の楽譜 到達度チェックシート	課題曲を各自レッスンしておくこと
4	各自の課題曲の個別レッスン	課題曲の楽譜 到達度チェックシート	課題曲を各自レッスンしておくこと
5	各自の課題曲の個別レッスン	課題曲の楽譜 到達度チェックシート	課題曲を各自レッスンしておくこと

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
6	各自の課題曲の個別レッスン	課題曲の楽譜 到達度チェックシート	課題曲を各自レッスンしておくこと
7	各自の課題曲の個別レッスン	課題曲の楽譜 到達度チェックシート	課題曲を各自レッスンしておくこと
8	各自の課題曲の個別レッスン	課題曲の楽譜 到達度チェックシート	課題曲を各自レッスンしておくこと
9	各自の課題曲の個別レッスン	課題曲の楽譜 到達度チェックシート	課題曲を各自レッスンしておくこと
10	各自の課題曲の個別レッスン	課題曲の楽譜 到達度チェックシート	課題曲を各自レッスンしておくこと
11	各自の課題曲の個別レッスン	課題曲の楽譜 到達度チェックシート	課題曲を各自レッスンしておくこと
12	各自の課題曲の個別レッスン	課題曲の楽譜 到達度チェックシート	課題曲を各自レッスンしておくこと
13	各自の課題曲の個別レッスン	課題曲の楽譜 到達度チェックシート	課題曲を各自レッスンしておくこと
14	各自の課題曲の個別レッスン	課題曲の楽譜 到達度チェックシート	課題曲を各自レッスンしておくこと
15	到達度確認のための発表会	発表会形式で前期の各自の到達度を確認しあう	発表曲を各自レッスンしておくこと
16	各自の課題曲の個別レッスン	課題曲の楽譜 到達度チェックシート	課題曲を各自レッスンしておくこと
17	各自の課題曲の個別レッスン	課題曲の楽譜 到達度チェックシート	課題曲を各自レッスンしておくこと
18	各自の課題曲の個別レッスン	課題曲の楽譜 到達度チェックシート	課題曲を各自レッスンしておくこと
19	各自の課題曲の個別レッスン	課題曲の楽譜 到達度チェックシート	課題曲を各自レッスンしておくこと
20	各自の課題曲の個別レッスン	課題曲の楽譜 到達度チェックシート	課題曲を各自レッスンしておくこと
21	各自の課題曲の個別レッスン	課題曲の楽譜 到達度チェックシート	課題曲を各自レッスンしておくこと
22	各自の課題曲の個別レッスン	課題曲の楽譜 到達度チェックシート	課題曲を各自レッスンしておくこと
23	各自の課題曲の個別レッスン	課題曲の楽譜 到達度チェックシート	課題曲を各自レッスンしておくこと
24	各自の課題曲の個別レッスン	課題曲の楽譜 到達度チェックシート	課題曲を各自レッスンしておくこと
25	各自の課題曲の個別レッスン	課題曲の楽譜 到達度チェックシート	課題曲を各自レッスンしておくこと

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
26	各自の課題曲の個別レッスン	課題曲の楽譜 到達度チェックシート	課題曲を各自レッスンしておくこと
27	各自の課題曲の個別レッスン	課題曲の楽譜 到達度チェックシート	課題曲を各自レッスンしておくこと
28	各自の課題曲の個別レッスン	課題曲の楽譜 到達度チェックシート	課題曲を各自レッスンしておくこと
29	各自の課題曲の個別レッスン	課題曲の楽譜 到達度チェックシート	課題曲を各自レッスンしておくこと
30	各自の課題曲の個別レッスン	課題曲の楽譜 到達度チェックシート	課題曲を各自レッスンしておくこと
期末試験	後期末試験		
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明する。			
【到達度の評価（評価方法・基準）】 60～69点…課題曲42曲（バイエル100番程度・他歌曲を含む）を完成する。 曲の表現力を加味して採点する。 70～79点…課題曲42曲に加え、バイエル終了程度（他歌曲も含む）の課題曲を完成する。 曲の表現力、演奏技術を加味して採点する。 80～89点…課題曲42曲に加え、ツェルニー30番程度（他歌曲も含む）の課題曲を完成する。 曲の表現力、高度な演奏技術を加味して採点する。 90点以上…高度な演奏技能を必要とする楽曲を完成する。 曲の表現力、より高度な演奏技術を加味して採点する。			
【教科書】 書名：標準バイエルピアノ教則本 発行所：全音楽譜出版社 価格：900円（税別） ※その他、歌曲等については担当教員が配布する。 ※バイエル終了レベルの学生については、教科書の購入について別に指示する。			
【その他補足事項】 レベル分けについては担当教員が行う。			

授業科目名	ピアノ演習(上級レベル)		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	1年次
担当教員	職名：教授 氏名：ミハウ・ソヴコヴィアク		開講期	通年
			授業回数	30回
			期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		30時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	必修	
幼稚園教諭一種免許状		専門教育科目	選択	
保育士資格		専門教育科目	選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 幼児の歌曲、バイエル、ツェルニー30番、ブルグミュラー25番、ソナチネアルバムⅠソナタ、ショパンエチュードの中から50曲程度抜粋した曲を主な教材とし、それらの曲を正確に弾き、感性豊かに弾けると同時に、自ら曲をアレンジできる能力を身に付ける。保育現場において子どもたちが表情豊かに歌えるように、歌曲をTPOに応じてアレンジすることができる力を身に付ける。授業内容は、課題曲の個別レッスンと曲ごとの確認テストを含む方式により展開していく。	【授業の概要との対応項目】			
	○	A	知識	
	○	B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
	○	E	表情及び身体表現力	
	○	F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
	○	H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
	○	K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
教育・保育の現場で必要となる、ピアノの基礎技能を修得する。			目標	A、B、E
幼児曲・歌曲も含め、ポップス、クラシック、ジャズなど様々なピアノ表現に親しみ、幅広い表現力を養う。			目標	E、F、H、K

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 授業概要と目標、評価方法 ピアノ個室の利用方法 個別面談と課題曲の選定 (課題曲は各自の経験に合わせて選曲する)	授業計画	
2	各自の課題曲の個別レッスン	課題曲の楽譜 到達度チェックシート	課題曲を各自レッスンしておくこと
3	各自の課題曲の個別レッスン	課題曲の楽譜 到達度チェックシート	課題曲を各自レッスンしておくこと
4	各自の課題曲の個別レッスン	課題曲の楽譜 到達度チェックシート	課題曲を各自レッスンしておくこと
5	各自の課題曲の個別レッスン	課題曲の楽譜 到達度チェックシート	課題曲を各自レッスンしておくこと

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
6	各自の課題曲の個別レッスン	課題曲の楽譜 到達度チェックシート	課題曲を各自レッスンしておくこと
7	各自の課題曲の個別レッスン	課題曲の楽譜 到達度チェックシート	課題曲を各自レッスンしておくこと
8	各自の課題曲の個別レッスン	課題曲の楽譜 到達度チェックシート	課題曲を各自レッスンしておくこと
9	各自の課題曲の個別レッスン	課題曲の楽譜 到達度チェックシート	課題曲を各自レッスンしておくこと
10	各自の課題曲の個別レッスン	課題曲の楽譜 到達度チェックシート	課題曲を各自レッスンしておくこと
11	各自の課題曲の個別レッスン	課題曲の楽譜 到達度チェックシート	課題曲を各自レッスンしておくこと
12	各自の課題曲の個別レッスン	課題曲の楽譜 到達度チェックシート	課題曲を各自レッスンしておくこと
13	各自の課題曲の個別レッスン	課題曲の楽譜 到達度チェックシート	課題曲を各自レッスンしておくこと
14	各自の課題曲の個別レッスン	課題曲の楽譜 到達度チェックシート	課題曲を各自レッスンしておくこと
15	到達度確認のための発表会	発表会形式で前期の各自の到達度を確認しあう	発表曲を各自レッスンしておくこと
16	各自の課題曲の個別レッスン	課題曲の楽譜 到達度チェックシート	課題曲を各自レッスンしておくこと
17	各自の課題曲の個別レッスン	課題曲の楽譜 到達度チェックシート	課題曲を各自レッスンしておくこと
18	各自の課題曲の個別レッスン	課題曲の楽譜 到達度チェックシート	課題曲を各自レッスンしておくこと
19	各自の課題曲の個別レッスン	課題曲の楽譜 到達度チェックシート	課題曲を各自レッスンしておくこと
20	各自の課題曲の個別レッスン	課題曲の楽譜 到達度チェックシート	課題曲を各自レッスンしておくこと
21	各自の課題曲の個別レッスン	課題曲の楽譜 到達度チェックシート	課題曲を各自レッスンしておくこと
22	各自の課題曲の個別レッスン	課題曲の楽譜 到達度チェックシート	課題曲を各自レッスンしておくこと
23	各自の課題曲の個別レッスン	課題曲の楽譜 到達度チェックシート	課題曲を各自レッスンしておくこと
24	各自の課題曲の個別レッスン	課題曲の楽譜 到達度チェックシート	課題曲を各自レッスンしておくこと
25	各自の課題曲の個別レッスン	課題曲の楽譜 到達度チェックシート	課題曲を各自レッスンしておくこと

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
26	各自の課題曲の個別レッスン	課題曲の楽譜 到達度チェックシート	課題曲を各自レッスンしておくこと
27	各自の課題曲の個別レッスン	課題曲の楽譜 到達度チェックシート	課題曲を各自レッスンしておくこと
28	各自の課題曲の個別レッスン	課題曲の楽譜 到達度チェックシート	課題曲を各自レッスンしておくこと
29	各自の課題曲の個別レッスン	課題曲の楽譜 到達度チェックシート	課題曲を各自レッスンしておくこと
30	各自の課題曲の個別レッスン	課題曲の楽譜 到達度チェックシート	課題曲を各自レッスンしておくこと
期末試験	後期末試験		
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明する。			
【到達度の評価（評価方法・基準）】 60～69点…課題曲50曲に加え、バイエル終了程度（他歌曲も含む）の課題曲を完成する。 曲の表現力を加味して採点する。 70～79点…課題曲50曲に加え、ツェルニー30番程度（他ソナタも含む）の課題曲を完成する。 曲の表現力、演奏技術を加味して採点する。 80～89点…課題曲50曲に加え、ツェルニー30番、ブルグミュラー、ソナチネの課題曲を完成する。 曲の表現力、高度な演奏技術を加味して採点する。 90点以上…高度な演奏技能を必要とする楽曲（ソナタ、ショパンエチュード等）を完成する。 曲の表現力、より高度な演奏技術を加味して採点する。			
【教科書】 書名：標準バイエルピアノ教則本 発行所：全音楽譜出版社 価格：900円（税別） ※その他、歌曲等については担当教員が配布する。 ※バイエル終了レベルの学生については、教科書の購入について別に指示する。			
【その他補足事項】 レベル分けについては担当教員が行う。			

授業科目名	器 楽 演 習		授業形態・単位数	演習・2単位
			開 講 年 次	1年次
担当教員	職名：教授 氏名：伊 藤 俊 彦		開 講 期	通年
			授 業 回 数	30回
			期末試験の有無	無
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		30時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択必修	
幼稚園教諭一種免許状		専門教育科目	選択	
保育士資格		専門教育科目	選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 リコーダーや鍵盤ハーモニカ及び身近な打楽器、さらには、ギター、ハンドベル、スチールドラム等の楽器演奏の技能を修得するとともに、その技能をアンサンブル活動に生かすことができる能力の育成を目指す。 そのために、音楽を聴いたり楽譜を見たりして演奏すること、曲想を感じ取って器楽演奏の表現を工夫すること、また、自分の思いや意図をもって楽器を演奏すること、あるいは、演奏の仕方を身につけながら、楽曲に合った表現をすること、音を合わせて演奏することなどを通して、基礎的な器楽演奏の能力を高める学習内容を展開する。	【授業の概要との対応項目】			
	<input type="checkbox"/>	A	知識	
	<input type="checkbox"/>	B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
	<input type="checkbox"/>	E	表情及び身体表現力	
	<input type="checkbox"/>	F	感性及び感動表現力	
	<input type="checkbox"/>	G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	<input type="checkbox"/>	J	多様性への理解力、応用力	
		K	課題対処力	
	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力		
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
即興的にリズム遊びをしたり、ふし遊びをしたりすることができる。			目標	E、F
身近な打楽器を使って楽曲に合ったリズム伴奏を工夫することができる。			目標	B、E
リコーダーや鍵盤ハーモニカで楽曲を楽しく演奏することができる。			目標	B、E
友達と仲良くアンサンブル活動を楽しむことができる。			目標	G、J

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション ・授業概要と目標 ・評価方法及び授業の進め方	・授業計画の説明 ・授業内容についての質問等	年間の授業内容を把握し学修の見直しをもつ
2	身体の動きを伴ったリズム遊びやふし遊び ・リズム模倣、リズムリレー、リズムの即興的表現 ・ふし問答、即興的なふしづくり	・二人組でのリズム遊びとふし遊び ・ふし遊びのプリント	リズム遊びやふし遊びに関する予習及び復習
3	身近な打楽器の基本的な奏法① ・カスタネットの基本的な奏法と演奏 ・カスタネットによるアンサンブル	・奏法の説明と実際の演奏 ・カスタネットによる簡単なアンサンブル	打楽器①のプリントを予習・復習
4	身近な打楽器の基本的な奏法② ・トライアングルの基本的な奏法と演奏 ・タンブリンの基本的な奏法と演奏	・トライアングルとタンブリンによるリズム問答	打楽器②のプリントを予習・復習

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
5	身近な打楽器の基本的な奏法③ ・小太鼓、大太鼓、シンバルの基本的な奏法 ・マラカス、ギロの基本的な奏法と演奏	・小太鼓、大太鼓、シンバルによるリズム伴奏 ・リズムアンサンブル	打楽器③のプリントを予習・復習
6	身近な打楽器を使った演奏① ・今までに学修した打楽器を使つてのアンサンブルその①	・担当する打楽器でリズム伴奏を工夫して効果的なアンサンブルを工夫	打楽器アンサンブルの方法について予習
7	身近な打楽器を使った演奏② ・同上（前回の学修で経験したアンサンブルを更によりよいものにする演奏）	・同上	同上
8	リコーダーについて① ・リコーダーの歴史 ・リコーダーの種類	・リコーダー学修についての振り返りとリコーダーに関する理解	リコーダー①のプリントを予習
9	リコーダーについて② ・リコーダーの構造 ・リコーダー演奏の鑑賞	・プリントによりリコーダーの構造を理解 ・名曲鑑賞（CD）	リコーダー②のプリントを予習
10	リコーダーの基本的な奏法① ・リコーダーの構え方 ・呼吸と息のコントロールの仕方	・二人組でリコーダーの構え方や呼吸と息のコントロールを確認	リコーダーの基本的な奏法①のプリントを予習
11	リコーダーの基本的な奏法② ・タンギングやロングトーン奏法の理解 ・ピッチ調整の仕方を理解し試す	・二人組で互いに学修した内容について確認	リコーダーの基本的な奏法②のプリントを予習
12	リコーダーの基本的な奏法③ ・アーティキュレーションの種類と奏法 ・サミングの理解と奏法	・同上	リコーダーの基本的な奏法③のプリントを予習
13	リコーダーの演奏① ・リコーダーで短い旋律の模奏 ・リコーダーで短いリズムや旋律の即興的な表現	・グループで短い旋律の模奏やリズム・旋律の即興的な表現を互いに確認	リコーダーの演奏①のプリントを予習
14	リコーダーの演奏② ・リコーダーでリズム遊び ・リコーダーでふし遊び	・同上	リコーダーの演奏②のプリントを予習
15	リコーダーの演奏③ ・簡単な楽曲の演奏	・既成の楽曲で2重奏のアンサンブル	リコーダーの演奏③のプリントを予習
16	リコーダーの演奏④ ・リコーダー演奏の発表会の練習	・発表会に備え、グループで相談し2重奏のアンサンブルを練習	発表会の役割分担を予習
17	リコーダーの演奏⑤ ・リコーダーで2重奏の発表	・二人組であらかじめ決めてある楽曲の発表	同上
18	リコーダーの演奏⑥ ・曲想を感じ取って演奏表現を工夫	・楽曲を聴いて曲想について討議	楽曲の曲想について予習
19	リコーダーの演奏⑦ ・リコーダーの3重奏の練習	・既成の楽曲で3重奏のアンサンブルを練習 ・どう演奏するか構想	3重奏の楽曲についての構想を予習

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
20	リコーダーの演奏⑧ ・リコーダーでのアンサンブルその1 ・発表のリハーサル	・アンサンブルとしてどのようにまとめるかをグループごとに相談	アンサンブルに関する自分なりの考えをもつ
21	リコーダーの演奏⑨ ・リコーダーでのアンサンブルその2 ・リコーダーのアンサンブルを発表	・リコーダー学修のまとめとして各グループで発表	各自がリコーダーアンサンブルの予習
22	鍵盤ハーモニカの基本的な奏法① ・構え方、手入れの仕方の確認 ・呼吸と息のコントロールの仕方	・鍵盤ハーモニカの扱い方と基本奏法についての共通理解を確認	基本的な奏法①のプリントを予習
23	鍵盤ハーモニカの基本的な奏法② ・タンギングや運指の練習 ・ロングトーンや音の出だしや止めの練習	・二人組になって学修した内容を確認め合う	基本的な奏法②のプリントを予習
24	鍵盤ハーモニカの演奏① ・即興的な模奏、リズム奏、リレー奏 ・簡単な楽曲の演奏その1	・グループで鍵盤ハーモニカを使っての模奏、リズム奏、リレー奏	即興的な表現に関する予習
25	鍵盤ハーモニカの演奏② ・簡単な楽曲の練習その2 ・演奏表現の工夫	・演奏表現の工夫についての意見交換	楽曲の全体把握の予習
26	鍵盤ハーモニカの演奏③ ・鍵盤ハーモニカによる曲想表現の工夫 ・一人又は二人で選んだ楽曲を練習し発表	・曲想表現についての相談及び相談結果に基づいた練習	曲想表現についての予習
27	身近な楽器を使っての演奏① ・アンサンブル発表会の計画 ・役割分担（パート）の決定	・グループを決めグループ内で相談して発表会で演奏する曲目を決定	演奏したい曲目についての候補を選択
28	身近な楽器を使っての演奏② ・アンサンブル発表会に向けた各自の練習 ・アンサンブルの練習	・役割分担（パート）の確認とどのように演奏するかについて相談	演奏の構想について予習
29	身近な楽器を使っての演奏③ ・各自のパートごとの練習 ・アンサンブル発表会のリハーサル	・発表会に向けてグループでの練習と演奏についての確認	各自のパートを予習
30	身近な楽器を使ったアンサンブルの発表会 ・グループによるアンサンブル 1年間の授業の振り返り	・実技発表会と1年間の授業の振り返り並びに学修の反省	発表会の担当パートを予習
【到達度の評価（評価方法・基準）】 ・授業で扱う打楽器やリコーダー、鍵盤ハーモニカなどの学修で身に付けた技能に対して小テストを実施する。 （打楽器：15点満点、リコーダー：15点満点、鍵盤ハーモニカ：15点満点）45点満点 ・グループ活動として実施するアンサンブルでの発表会における音楽的な演奏。40点満点 ・授業への意欲的なかわり、及びアンサンブル活動への協力的な態度。15点満点			
【教科書】 ・特に教科書は使用せず、担当教員の作成したプリントをその都度配布する。 ・使用する教材については、打楽器、リコーダー、鍵盤ハーモニカなどを教具として取り扱うために、教材選択が多岐にわたる。そのため、それぞれの楽器に適した教材を適宜選択して使用する。			
【その他補足事項】 ・授業で使用するリコーダー（ソプラノ又はアルト）を各自用意する。			

授業科目名	音 楽		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	1年次
担当教員	職名：教授 氏名：伊藤俊彦		開講期	通年
			授業回数	30回
			期末試験の有無	無
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		30時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	必修	
幼稚園教諭一種免許状		専門教育科目	必修	
保育士資格		専門教育科目	必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 音楽の表現や聴く活動を通して、音楽を愛好し、音楽に対する感性を育みながら、豊かな情操を養うとともに、幼児の楽しい音楽活動を指導できる人材の育成を目標とする。 そのために、わらべうたや手遊び歌を伸び伸びと歌ったり、身体や身近な打楽器を使ったリズム遊び、簡単なふし遊び、手話を使った歌唱、手作り楽器での音楽表現など、幅広い学習内容を幼児の発達段階に即した活動に置き換え、指導の工夫や活動の在り方を探りながら音楽学習を展開する。	【授業の概要との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
	<input type="radio"/>	E	表情及び身体表現力	
	<input type="radio"/>	F	感性及び感動表現力	
	<input type="radio"/>	G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	<input type="radio"/>	J	多様性への理解力、応用力	
		K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】		【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)		
音楽の多様性を理解し、様々な音楽活動に意欲をもって参加することを通して、音楽に対する感性を育て、音楽活動の基礎的な能力を身に付ける。		目標	A、B、E、F、J	
歌や手遊び、楽器などで音楽を楽しく表現するとともに、音楽で物語を創って発表する。		目標	B、E、F、G、J	

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法 (アクティブラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	オリエンテーション ・ 授業の概要と目標、評価方法 ・ 音楽で自己紹介 ・ グループ分け	授業計画 講義 演習 (自己紹介)	1年間を通じた授業内容の把握
2	手話を使つての音楽表現 ・ 手話の必要性 ・ 手話で表現 (手話で挨拶及び手話を付けた歌)	講義 演習 (手話の基本)	手話についてのプリントを読んで予習
3	わらべうたで遊ぶ(1) ・ 知っているわらべうたを歌う	講義 演習 (わらべうた)	示されたわらべうたの遊び方を予習

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
4	わらべうたで遊ぶ(2) ・わらべうたを歌いながら動きを付けて遊ぶ	講義 演習（わらべうた）	わらべうたの遊び方についての工夫
5	わらべうたで遊ぶ(3) ・わらべうたに楽器で伴奏を付けて歌う ・レポート提出①	講義 演習（わらべうた）	同上
6	リズム遊び(1) ・手拍子や体を使ってリズムを表現する	講義 演習（リズム遊び）	リズム遊びの予習
7	リズム遊び(2) ・リズムの模倣やリズムのリレーで、楽しくリズム遊びをする	講義 演習（リズム遊び）	リズム遊びの工夫を予習
8	リズム遊び(3) ・リズム問答やリズムを使った即興的な表現を楽しむ ・小テスト①	講義 演習（即興的表現）	即興的な表現の予習
9	ふし遊び(1) ・歌で楽しくふし問答をする	講義 演習（ふし問答）	ふし遊びに関する予習
10	ふし遊び(2) ・楽器でふし問答をしたり即興的にふし遊びをしたりする	講義 演習（楽器で表現）	楽器を使って即興的に表現することの予習
11	ふし遊び(3) ・グループでまとまりのあるふしづくりをする	講義 演習（ふしづくり）	ふしづくりに関する予習
12	楽器を使って表現(1) ・グループで相談し、身近な楽器を使って簡単なアンサンブル表現を計画する	講義 演習（アンサンブル表現①）	発表するアンサンブルの内容について確認
13	楽器を使って表現(2) ・グループで協力し、身近な楽器を使って簡単な楽曲をアンサンブルで表現する	講義 演習（アンサンブル表現②）	アンサンブルの担当パートを予習
14	楽器を使って表現(3) ・グループごとに身近な楽器を使ったアンサンブルを仕上げる	講義 演習（アンサンブル表現③）	アンサンブルの担当パートを予習
15	ミニ発表会 ・前期に学んだ内容を踏まえ、グループで練習した成果をアンサンブルとしてまとめる ・小テスト②	講義 演習（発表会）	発表会で演奏するパートの練習
16	手作り楽器(1) ・身近にある材料を使い手作り楽器を作って表現する	講義 演習（手作り楽器）	手作り楽器の内容を通読し予習
17	手作り楽器(2) ・手作りで「カズー」を制作し楽しく音楽表現をする	講義 演習（カズー作り）	カズーに関する内容を読んで把握
18	手作り楽器(3) ・手作りで「マラカス」や「風船太鼓」を作り音楽表現をする	講義 演習（マラカス等）	マラカス、風船太鼓の作り方を通読
19	生活に関連した歌 ・日常生活や子どもに関連した歌を聴いたり歌ったりする	講義 演習（唱歌・童謡）	唱歌や童謡に関するプリントを通読
20	季節に関連した歌 ・季節に関連した歌の中から好きな歌を選んで歌う ・小テスト③	講義 演習（季節の歌）	季節の歌をいつでもどこでも歌えるよう復習

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
21	音楽で物語をつくる(1) ・リメイクした昔話にふさわしい音楽を創作する	講義 演習（日本昔話）	音楽で物語を表現するための手法を予習
22	音楽で物語をつくる(2) ・昔話を基にグループでリメイクし簡単な音楽劇を構成する	講義 演習（音楽劇制作①）	音楽劇に関する内容を通読
23	音楽で物語をつくる(3) ・リメイクした音楽劇に磨きを掛けよりよいものにする	講義 演習（音楽劇制作②）	同上
24	音楽で物語をつくる(4) ・リメイクした音楽劇を発表する ・レポート提出②	講義 演習（音楽劇制作③）	音楽劇の発表に関する予習
25	手遊びの歌を歌う(1) ・手遊びの歌を探してグループで歌う	講義 演習（手遊び①）	手遊び①のプリントで予習
26	手遊びの歌を歌う(2) ・手遊びの歌を発表する	講義 演習（手遊び②）	手遊び②のプリントで予習
27	手遊びの歌を歌う(3) ・手遊びの歌を創作する	講義 演習（手遊び③）	手遊び③のプリントで予習
28	手遊びの歌を歌う(4) ・創作をした手遊びの歌を発表する	講義 演習（手遊び④）	手遊び④のプリントで予習
29	音楽発表会リハーサル ・1年間学んだ内容を踏まえグループで音楽表現としてまとめる	講義 演習（音楽会練習）	発表会に対する意識を高めて役割分担を予習
30	音楽発表会 ・グループで練習した成果を発表する ・レポート提出③	講義 演習（発表会）	各自の役割分担を予習
【到達度の評価（評価方法・基準）】 ・小テスト 30%（3回×10点） ・レポート 30%（3回×10点） ・授業態度 40%（授業への積極的な参加態度及び音楽活動への意欲的な取り組み等）			
【教科書】 書名：「こどものうた100」 著者名：小林 美実 監修 井戸 和秀 編 発行所：チャイルド本社 価格：1,600円（税別）			

授業科目名	図 画 工 作		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	1年次
担当教員	職名：教授 氏名： <small>ふる はた まさ のり</small> 古 畑 雅 規		開講期	通年
			授業回数	30回
			期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		30時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	必修	
幼稚園教諭一種免許状		専門教育科目	必修	
保育士資格		専門教育科目	必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 子どもの造形活動に伴う様々な素材、画材、道具等の基礎知識とその具体的な制作活動等について学んでいく。造形活動に関する素材、道具の活用を子どもの目線・使用を前提に展開をする。具体的には絵具や色鉛筆を使った絵画作品の制作、立体では粘土などを使い、人や動物の一部または全体像の制作を学び、子どもの造形活動支援の実際を学んでいく。	【授業の概要との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技術・技能	
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
	<input type="radio"/>	F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	<input type="radio"/>	J	多様性への理解力、応用力	
		K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
作品の制作に対して、基本的な技法とその技術を学ぶ。			目標	A、B
さまざまなアイデアを出し合い、工夫する。			目標	B、C
意欲をもって楽しく学ぶ。			目標	F、J

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 授業の概要と目標、評価方法 子どもへの美術指導の意味を考える	授業計画	
2	図形を描く 絵画やデザインの基礎となるさまざまな図形を理解する	イラストボード 定規 等	定規等で図形を描く練習をする 普段の生活の中でどのように図形が利用されているか観察する
3	図形を描く 定規やコンパスの使用法を学びながら正確に描けるようにする	定規 コンパス 等	定規やコンパス等で図形を描く練習をする

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
4	図形を描く 細部に気を配りながら完成させる	定規 ペン 等	制作準備 (空き時間を使って制作を進める)
5	色の学習 絵具を使用し有彩色による表現	ポスターカラー 等	色彩等の学習をする 普段の生活の中でどのように色が利用されているか観察する
6	色の学習 絵具を使用し混色による表現	ポスターカラー 等	色彩等の学修をする
7	色の学習 絵具による混色の効果を知る	ポスターカラー 等	作成準備 (空き時間を使って制作を進める)
8	色の学習 2回～4回で描いた図形に着色	ポスターカラー ペン 定着剤	作成準備 (空き時間を使って制作を進める)
9	鉛筆デッサン 鉛筆デッサンにより絵画の構図を理解する	イラストボード 鉛筆 等	鉛筆デッサンの学修 有名絵画等ではどのような構図が使われているか観察する
10	鉛筆デッサン 描く対象をよく観察し物の形を正確に捉える	鉛筆 等	作成準備 (空き時間を使って制作を進める)
11	鉛筆デッサン 陰影による立体感を出して完成させる	鉛筆 定着剤 等	作成準備 (空き時間を使って制作を進める)
12	錯視図形 実際に図形で表現された錯視図を描く	画用紙 コンパス 等	錯視図とはどんなものか確認しておく
13	錯視図形 絵画との組み合わせで錯視図を描く	色鉛筆 コンパス 等	錯視図形の学修
14	形のデフォルメの学習 絵画での形をデフォルメさせる効果を知る	色鉛筆 等	前期の復習
15	前期のまとめ		前期の復習
16	人物の立体制作 粘土で人物を作成する意味を知る	粘土 板 等	立体制作についての学修 人物の形を観察し構造に意識を持つ
17	人物の立体制作 大まかな骨格をつくる	粘土 アルミハク 等	立体制作についての学修
18	人物の立体制作 全体のバランスを考えながら肉付けをする	粘土 アルミハク 等	作成準備 (空き時間を使って制作を進める) 立体制作についての学修
19	人物の立体制作 人物に着させる洋服のデザインを考える	粘土 アルミハク 等	作成準備 (空き時間を使って制作を進める)
20	人物の立体制作 細部に気を配り形を完成させる	粘土 アルミハク 等	作成準備 (空き時間を使って制作を進める)

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
21	人物の立体制作 絵具により着彩する	絵具 等	作成準備 (空き時間を使って制作を進める)
22	人物の立体制作 どのような場面にいるかを考えながら着彩する	絵具 等	作成準備 (空き時間を使って制作を進める)
23	人物の立体制作 全体のバランスを考え仕上げ	絵具 等	作成準備 (空き時間を使って制作を進める)
24	色鉛筆の技法 絵画の着彩で色鉛筆を使いその技法を知る	色鉛筆 等	身近にある物の色の構成を観察する
25	色鉛筆の技法 色のバランスを考え仕上げ	定規 鉛筆 イラストボード	身近にある物の色の構成を観察する
26	遠近法の学習 一点透視図法の意味を考え下描きをする	定規 鉛筆 等	遠近法の学修 身近な風景、建物を注意深く観察し、遠近法理解に生かす
27	遠近法の学習 正確な遠近を理解する	定規 鉛筆 等	作成準備 (空き時間を使って制作を進める) 遠近法の学修
28	遠近法の学習 下描きを完成させる	定規 ペン 等	作成準備 (空き時間を使って制作を進める) 遠近法の学修
29	遠近法の学習 空気遠近法の意味を理解しながら色鉛筆で着彩	色鉛筆 等	作成準備 (空き時間を使って制作を進める) 後期の復習
30	後期のまとめ		後期の復習
期末試験	期末試験		

【期末試験の講評】

期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明する。

【到達度の評価（評価方法・基準）】

- 作品評価 60%（デッサン、クレイアート等作成する6作品により評価）
- 期末試験 20%
- 授業態度 20%（授業への意欲、質疑応答の内容などで評価）

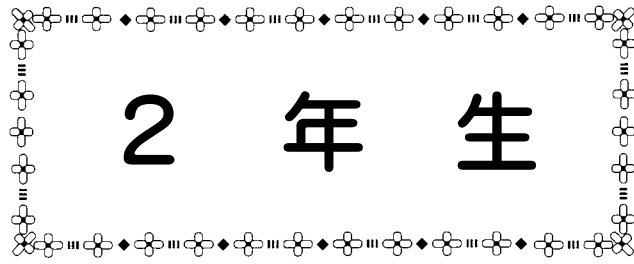
【教科書】 その都度、資料を配布する。

【その他補足事項】

- 材料費として1,800円を徴収する。
- 授業の進行状況により、授業内容が入れ替わることがある。

授業科目名	バリダンスレッスンとバリ島幼稚園交流		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	1・2年次
担当教員・引率者	兼任教授 佐藤敦子 (引率・授業担当者) 教授 ミハウ・ソヴコヴィアク (引率者)		開講期	通年
			授業回数	30回
			期末試験の有無	無
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		30時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
幼稚園教諭一種免許状		専門教育科目	選択	
保育士資格		専門教育科目	選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワー・メールアドレスについては初回授業時に説明する。		

授業の概要・授業計画の詳細については説明会を開催し、別途配布する。



2 年 生

授業科目名	会 話 演 習		授業形態・単位数	演習・1単位
			開 講 年 次	2年次
担当教員	非常勤講師	ふじ ま ひさ こ 藤 間 久 子	開 講 期	前期
	非常勤講師	あら かわ まもる 荒 川 守	授 業 回 数	15回
	(本務先：オフィスゼロワン 職名：代表取締役)		期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		15時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		教養教育科目	必修	
幼稚園教諭一種免許状		教養教育科目	必修	
保育士資格		教養教育科目	必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		授業終了時に教室で質問等に対応する。		

【授業の概要】 この授業は日常会話からビジネスの場に至るまでのコミュニケーション能力を向上させるために「話し言葉」についての実践的な演習を行う。話し方の基礎や「話し言葉」に対する感覚を磨き、表現技術を修得する。また、言葉によって事実を的確に伝えたり、自分の意見を整然と主張する訓練をすることにより、論理的な思考に支えられた明快な表現力を養うことを目的とする。さらに円滑な人間関係を築くための会話法について学んでいく。	【授業の概要との対応項目】		
	<input type="radio"/>	A	知識
	<input type="radio"/>	B	技術・技能
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力
	<input type="radio"/>	D	文章表現力
	<input type="radio"/>	E	表情及び身体表現力
	<input type="radio"/>	F	感性及び感動表現力
	<input type="radio"/>	G	協働能力
	<input type="radio"/>	H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	<input type="radio"/>	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
	<input type="radio"/>	J	多様性への理解力、応用力
	<input type="radio"/>	K	課題対処力
	<input type="radio"/>	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力
【授業の到達目標】		【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
基礎的な音声表現のトレーニングにより会話のイメージアップを図る		目標	A、B
社会の様々な状況の中で協調していくための適切な会話表現ができるようになる		目標	A、J
論理的思考と表現の工夫により説得力のある話し方のスキルアップを目指す		目標	A、C、I
コミュニケーションを深めるための会話術を磨く		目標	E、F、H、L

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法 (アクティブラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	オリエンテーション ①授業の概要と目標 ②評価方法と本科目の留意点 自己紹介(1)	授業計画 個別指導	
2	自己紹介(2) 話の基本技術(1) 適切な会話のための音声表現について	発表 (VTR収録)	復習：VTR チェック (レポート)
3	話の基本技術(2) 発音・発声・アクセント・イントネーションなど	プリント	復習：プリントの練習
4	話の基本技術(3) 社会生活における適切な会話について ～会話の目的と組み立て方	グループ演習	復習：補助挨拶について

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】								
5	話の基本技術(4) 「書き言葉」と「話し言葉」の違いについて ～聞いて分かりやすい話すための原稿作成	プリント 発表	課題：以降授業内で ニュース、トピックスの 発表								
6	論理的思考に基づく表現力(1)～ディベート 論理的な話をする為の話のまとめ方について	プリント	予習：テーマ設定 復習：フローシートの作成								
7	論理的思考に基づく表現力(2)～ディベート 聞き上手になる為のポイント	グループ討議	復習：フローシートの作成								
8	論理的思考に基づく表現力(3)～ディベート ディスカッションなどでの司会の方法	グループ討議	復習：授業内容の再確認								
9	敬語表現(1) 敬語の必要性と表現方法について	プリント	復習：プリント内容の確認								
10	敬語表現(2) 間違いやすい敬語用法について	プリント	復習：プリント内容の確認								
11	敬語表現(3) 様々な状況での会話、電話応対について	ロールプレイング	予習：シナリオの設定								
12	パブリックスピーキング(1) 公の場でのスピーチ原稿の作り方	個別指導	復習：原稿のチェックと 下読み								
13	パブリックスピーキング(2) 好感の持てる話し方について	発表（VTR収録）	課題：VTRチェック（レ ポート）								
14	コミュニケーションを高める会話法(1) 円滑な会話のための表現技法	ロールプレイング	復習：テーマの設定								
15	コミュニケーションを高める会話法(2) 会話における自己表現	発表	予習：原稿のチェック								
期末 試験	前期末試験										
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、学科を通じて説明する。											
【到達度の評価（評価方法・基準）】 <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">期末試験（筆記）</td> <td style="text-align: right;">30%</td> </tr> <tr> <td>課題スピーチなど表現力を総合した評価</td> <td style="text-align: right;">50%</td> </tr> <tr> <td>レポートなどの提出状況</td> <td style="text-align: right;">10%</td> </tr> <tr> <td>授業態度</td> <td style="text-align: right;">10%</td> </tr> </table> ※授業計画の「成績評価への補足的対応措置」により欠席、遅刻・早退による減点を行う				期末試験（筆記）	30%	課題スピーチなど表現力を総合した評価	50%	レポートなどの提出状況	10%	授業態度	10%
期末試験（筆記）	30%										
課題スピーチなど表現力を総合した評価	50%										
レポートなどの提出状況	10%										
授業態度	10%										

授業科目名	食 彩 演 習		授業形態・単位数	実習・1単位
			開 講 年 次	2年次
担当教員	職名：兼任講師 氏名：橋 本 <small>はし もと</small> ヨシイ		開 講 期	後期
			授 業 回 数	15回
			期末試験の有無	無
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		15時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		教養教育科目	選択	
幼稚園教諭一種免許状		教養教育科目	選択	
保育士資格		教養教育科目	選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 食生活を取り巻く社会環境の変化に伴い、朝食の欠食、偏った栄養素摂取等の食生活の乱れ、肥満傾向の増大等、食生活と健康に関する諸問題が発生している。これらの問題を解決していくためには自ら食に対してのスキルを持ち合わせていなければならない。食育が推進されている状況の中、当然ながら保育者として食の知識は必要である。そこで基本的な調理法、食材の知識を踏まえて料理を実習し、保育現場や家庭でも展開できる技術を修得する。また、おもてなしの心としてお茶やコーヒーなどを丁寧に入れる方法を修得することも合わせて行う。	【授業の概要との対応項目】			
	○	A	知識	
	○	B	技術・技能	
	○	C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
	○	F	感性及び感動表現力	
	○	G	協働能力	
	○	H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
	○	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	○	J	多様性への理解力、応用力	
○	K	課題対処力		
○	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力		
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
毎日の食事が健全な心、健康な体と深く関わることを学ぶ。			目標	A、H、J
栄養バランスの良い食事をするための基本を学ぶ。			目標	A、C
調理の基本知識、及び技術を習得する。			目標	A、B、F、G、K
普段の食生活の中で役立つ簡単に身近な家庭料理を学ぶ。			目標	A、B、K
実社会で役立つ食のマナー、代表的な飲み物を習得する。			目標	A、F、H、K、L

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法 (アクティブラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	オリエンテーション • 授業内容の概要と授業の進め方、評価方法 • 調理室使用に際しての注意事項 • 調理実習時の身支度や衛生面の注意事項 講義 • 簡単な栄養の知識、食材の知識 • 朝食の重要性、食と子どもの心の関係	授業計画 シラバスの確認 調理室の器材の確認 安全な調理の確認 調理の手順の説明 配布プリント 講義	シラバスを一読して来る こと
2	和食の素晴らしさを知る① (調理実習) • 洗米と鍋での炊飯 • みそ汁 (煮干しだしの取り方、季節食材のみそ汁) • 卵料理 (巣籠り卵)	調理実習 (エプロン、三角布準備) • 配布プリント使用 • レポート提出	料理の復習とそのアレンジ料理なども試みる

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
3	和食の素晴らしさを知る②（調理実習） ・秋の炊き込みご飯（炊き込みご飯のコツ） ・野菜の和え物（青菜の茹で方 他）	調理実習 （エプロン、三角布準備） ・配布プリント使用 ・レポート提出	料理の復習とそのアレンジ料理なども試みる
4	和食の素晴らしさを知る③（講義・調理実習） ・和菓子を作る ・日本茶の美味しい入れ方（種類、温度）	同上	同上
5	和食の素晴らしさを知る④（講義・調理実習） ・巻き寿司 ・お吸い物（混合だしの作り方）	同上	同上
6	身近な洋食①（調理実習） ・海老ピラフ（フライパンで炊くコツ） ・野菜サラダ（ドレッシングの基本）	同上	同上
7	身近な洋食②（調理実習） ・サンドイッチ 2種（具材の工夫、上手に作るコツ）	同上	同上
8	簡単なお菓子と紅茶（講義・調理実習） ・クッキー（基本のクッキー、アレンジの仕方） ・茶葉の種類による美味しい紅茶の入れ方	同上	同上
9	身近な中華①（調理実習） ・前菜 ・中華丼（あんかけ料理のコツ）	同上	同上
10	身近な中華・飲茶②（調理実習） ・肉まん（生地の作り方） ・中国茶	同上	同上
11	身近な諸外国料理①（調理実習） ・パスタ（パスタの種類と特徴、適した料理） ・フルーツゼリー（ゼラチンの特徴、扱い方）	同上	同上
12	簡単なお菓子と本格コーヒー（講義・調理実習） ・焼き菓子（りんごのケーキ） ・香りのよいコーヒーの入れ方	同上	同上
13	身近な諸外国料理②（調理実習） ・基本のチキンカレー ・フルーツサラダ	同上	同上
14	おもてなしの家庭料理・郷土食（調理実習） ・散らし寿司 ・郷土料理	同上	同上
15	課題食材で自由に料理制作（調理実習） —— 準備された食材で各版が自由に創作料理 ——	各班で話し合い、自由に創作料理にチャレンジ ・レポート提出	

【到達度の評価（評価方法・基準）】

評価はレポート50%、授業への取り組み姿勢、向上心50%とする。

次に該当する場合は、総合評価から減点する。

- 遅刻、早退は1回につき1点減点する。
- 欠席1回につき3点減点する。
- 欠席6回以上は単位認定をしない。
- 私語、実習中の携帯操作、周囲への迷惑行為など「学生受講規定」に反する場合は注意1回につき2点減点する。
※特に調理実習は危険を伴うので教員の注意を良く聞くこと。
- レポートの未提出は5点減点する。
- 調理実習用の服装（上履き、エプロン、三角布など）が整わない場合は5点減点する。
※特に上履きを持参しない場合は入室できないので要注意

【教科書】

毎回、配布プリントによる講義・実習

【その他補足事項】

- ① 授業内容は進捗状況や食材の入手状況により、変更することがある。
- ② 食物アレルギーのある者は必ず予め申し出る事と、アレルギーを持つ者は調理中にアレルギー食品が口に入ることの無いように自分で十分に注意する事。
- ③ 調理実習中は火傷や怪我の無いよう、集中して作業を行い、全員で十分に気を配る事。
- ④ 教材費として7,000円が必要。

授業科目名	日本国憲法		授業形態・単位数	講義・2単位
			開講年次	2年次
担当教員	職名：非常勤講師 氏名：新村 繁文 (本務先：福島大学 職名：特任教授)		開講期	後期
			授業回数	15回
			期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		60時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		教養教育科目	選択	
幼稚園教諭一種免許状		教養教育科目	必修	
保育士資格		教養教育科目	選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		授業終了後に教室で質問等に対応する。		

【授業の概要】 日本国憲法の基本的原則について、各条文や判例を交えて解説していく。また本科目が教職免許の課程における必修科目である点を踏まえ、特に教育を受ける権利、幼児児童の権利擁護の観点を受講者と議論を深めていくよう進めていく。	【授業の概要との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
		B	技術・技能	
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力	
	<input type="radio"/>	D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	<input type="radio"/>	J	多様性への理解力、応用力	
		K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
日本国憲法の基本理念・基本構造を正確に学ぶことをテーマとし、具体的な事例や設問にそくして検討する。福祉国家理念を基礎にした20世紀の人権としての社会権が、日本国憲法においてどのように保障されているのかについて検討し、人権、教育を受ける権利等について、実生活に如何に反映されているか、理解していくことを目標とする。			目標	A、C、D、J

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法 (アクティブラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	ガイダンス (法の世界と人権・権利) ～憲法にはいる前に、法の基本的概念を学ぶ	授業計画表・レジюме	
2	近代市民憲法の成立と立憲主義(1) ～近代市民革命とその基本原理を学ぶ	レジюме・必要に応じ補足資料	新聞等で関連記事を読む
3	近代市民憲法の成立と立憲主義(2) ～国民主権と権力分立の考え方を学ぶ	同上	同上
4	近代市民憲法の成立と立憲主義(3) ～自由権の基本権から社会権の基本権への展開	同上	同上
5	近代市民憲法の成立と立憲主義(4) ～社会権の基本権の考え方を学ぶ	同上	同上

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
6	基本権各論(1) ～憲法13条（個人の尊重、自己決定権、プライバシー権等）を学ぶ	レジュメ・必要に応じ補足資料	新聞等で関連記事を読む
7	基本権各論(2) ～精神的自由権と経済的自由権の違いを学ぶ	同上	同上
8	基本権各論(3) ～憲法25条（生存権）を学ぶ	同上	同上
9	基本権各論(4) ～憲法26条（教育を受ける権利）の基本的考え方を学ぶ	同上	同上
10	基本権各論(5) ～子どもの権利について多面的に考える	同上	同上
11	基本権各論(6) ～憲法27条（勤労の権利）の考え方を学ぶ	同上	同上
12	統治機構各論(1) ～国会について学ぶ	同上	同上
13	統治機構各論(2) ～内閣について学ぶ	同上	同上
14	統治機構各論(3) ～裁判所について学ぶ	同上	同上
15	統治機構各論(4) ～憲法保障のあり方を学ぶ	同上	同上
期末試験	後期末試験		
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、学科を通じて説明する。			
【到達度の評価（評価方法・基準）】 期末試験を実施し、主としてその得点により成績評価する。試験は100点満点、適切な語句等を記入する穴埋め方式を中心とする。 ※詳細は授業時に説明する。			
【教科書】 書名：いちばんやさしい憲法入門 著者名：初宿、高橋、米沢、棟居 発行所：有斐閣 価格：1,600円（税別）			
【参考書】 適宜指示する			

授業科目名	英書リーディング		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	2年次
担当教員	職名：非常勤講師 氏名：水野谷 龍之 <small>みずのや りゅうし</small>		開講期	通年
			授業回数	30回
			期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		30時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		教養教育科目	選択必修	
幼稚園教諭一種免許状		教養教育科目	選択必修	
保育士資格		教養教育科目	選択必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		授業終了後に教室で質問等に対応する。		

【授業の概要】 英文を構造でとらえながら読む技術を身に付ける。従来の訳読式ではなく、欧米人の「論理的な思考」を重視し、頭から英文を読みながら理解していく訓練をする。 英文の全体的な内容を掴むことを目標にしている。細かいところは気にしないで、段落のポイントを素早く掴むことに重きを置く。さらにリーディングの力を付けるために、後で細かく英文を分析し、完全に英文を理解する。	【授業の概要との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技術・技能	
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力	
	<input type="radio"/>	D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
	<input type="radio"/>	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
		K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
英文の全体的な内容を掴むことを目標にしている。細かいところは気にしないで、段落のポイントを素早く掴むことに重きを置く。さらにリーディングの力を付けるために、後で細かく英文を分析し、完全に英文を理解する。			目標	A、B、C、D、I

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法 (アクティブラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション ・授業の内容や評価についての説明 ・英文を速く読めるようになるには、英語リーディングのコツ、構文の把握について学ぶ	授業計画 講話、テキストの使用法	
2	理由で押し切る!(1) Is English the world's most common language? ・英文の特徴を掴む。導入→理由→結論	テキスト使用 CD使用	Unit 1 (p.12~14) の予習・復習
3	理由で押し切る!(2) Should smoking be banned in public places? ・英文の特徴を掴む。導入→理由→結論	テキスト使用 CD使用	Unit 1 (p.12~14) の予習・復習
4	ブームの社会的背景(1) The Comic Cafe ・導入→理由1→理由2→結論	テキスト使用 CD使用	Unit 2 (p.16~18) の予習・復習

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
5	ブームの社会的背景(2) Green tea is booming ・導入→理由1→理由2→結論	テキスト使用 CD使用	Unit 3 (p.20~22) の予習・復習
6	説得は実験で(1) Mobile Phones may affect your fertility ・導入→実験→結果→結論	テキスト使用 CD使用	Unit 3 (p.20~22) の予習・復習
7	説得は実験で(2) “Hunger Hormone” ・導入→実験→結果→結論	テキスト使用 CD使用	Unit 3 (p.20~22) の予習・復習
8	賛成？反対？(1) Abortion: Murder or Freedom? ・導入→賛成意見→反対意見→結論	テキスト使用 CD使用	Unit 4 (p.24~26) の予習・復習
9	賛成？反対？(2) Euthanasia ★導入→賛成意見→反対意見→結論	テキスト使用 CD使用	Unit 4 (p.24~26) の予習・復習
10	比べてみよう(1) Sociology and Anthropology ・導入→Aタイプ→Bタイプ→結論	テキスト使用 CD使用	Unit 5 (p.28~30) の予習・復習
11	比べてみよう(2) Japanese and Western Employment System ・導入→Aタイプ→Bタイプ→結論	テキスト使用 CD使用	Unit 5 (p.28~30) の予習・復習
12	きちんと分類(1) Holy Europe ・導入→Aタイプ→Bタイプ→Cタイプ→結論	テキスト使用 CD使用	Unit 6 (p.32~34) の予習・復習
13	きちんと分類(2) Religious Worlds ・導入→Aタイプ→Bタイプ→Cタイプ→結論	テキスト使用 CD使用	Unit 6 (p.32~34) の予習・復習
14	アドバイスを与える(1) How to join in a discussion ・導入→指示1→指示2→結論	テキスト使用 CD使用	Unit 7 (p.36~38) の予習・復習
15	前期まとめ		
16	アドバイスを与える(2) How to prevent suicides ・導入→指示1→指示2→結論	テキスト使用 CD使用	Unit 7 (p.36~38) の予習・復習
17	アドバイスを与える(3) How to prevent suicides ・導入→指示1→指示2→結論	テキスト使用 CD使用	Unit 7 (p.36~38) の予習・復習
18	歴史をたどる(1) Christmas ・導入→始まり→展開→現在の形→結論	テキスト使用 CD使用	Unit 8 (p.40~42) の予習・復習
19	歴史をたどる(2) History of Soccer ・導入→始まり→展開→現在の形→結論	テキスト使用 CD使用	Unit 9 (p.44~46) の予習・復習

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
20	原因を探る(1) The Second World War and Japan ・導入→原因→結果・影響→結論	テキスト使用 CD使用	Unit 9 (p.44~46) の予習・復習
21	原因を探る(2) The EU ・導入→原因→結果・影響→結論	テキスト使用 CD使用	Unit 9 (p.44~46) の予習・復習
22	手順の説明(1) Cricket ・トピックの提示→第1段階→第2段階→結論	テキスト使用 CD使用	Unit10 (p.48~50) の予習・復習
23	手順の説明(2) How to dispose of CO ₂ : a new method ・トピックの提示→第1段階→第2段階→結論	テキスト使用 CD使用	Unit10 (p.48~50) の予習・復習
24	新製品の説明(1) Nintendo DS ・導入→機能説明→詳細→結論	テキスト使用 CD使用	Unit11 (p.52~54) の予習・復習
25	新製品の説明(2) Handroll Piano ・導入→機能説明→詳細→結論	テキスト使用 CD使用	Unit11 (p.52~54) の予習・復習
26	気になる言葉の定義(1) NEET ・導入→言葉の定義→説明→結論	テキスト使用 CD使用	Unit12 (p.56~58) の予習・復習
27	気になる言葉の定義(2) “Stalker” ・導入→言葉の定義→説明→結論	テキスト使用 CD使用	Unit12 (p.56~58) の予習・復習
28	データの説明(1) What's your main aim in life? ・導入→データの説明→分析→結論	テキスト使用 CD使用	Unit13 (p.60~62) の予習・復習
29	データの説明(2) Suicides according to month ・導入→データの説明→分析→結論	テキスト使用 CD使用	Unit13 (p.60~62) の予習・復習
30	文法確認 ・名詞、動詞、形容詞、副詞など	プリント使用	
期末試験	後期末試験		
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、学科を通じて説明する。			
【到達度の評価（評価方法・基準）】 ・前期、後期末試験 各40% ・授業態度 20%（授業への取り組み、積極的・自発的な応答・参加等）			
【教科書】 書名：「Skills for Better Reading」(Revised Edition) 著者名：Yumiko Ishitani, John Wallis, Suzanne Embury 発行所：成美堂 価格：1,700円（税別）			

授業科目名	体育実技Ⅱ (バレーボール)		授業形態・単位数	実技・1単位
			開講年次	2年次
担当教員	職名：准教授 氏名：島田貴広 <small>しまだ たかひろ</small>		開講期	通年
			授業回数	23回
			期末試験の有無	無
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		—
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		教養教育科目	選択	
幼稚園教諭一種免許状		教養教育科目	選択	
保育士資格		教養教育科目	選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 前半はバレーボールのルールの理解と、パス、サーブ、レシーブ、スパイク、ブロックなど基本技能の獲得に重点を置く。並行してゲームを行うが、公式ルールに拘らず、技能レベルに合わせた簡易ゲームとし、学生相互のコミュニケーションを重視した内容とする。 後半はゲーム中心に展開する中で、集団技能としてのコンビネーションプレーやレシーブフォーメーションなどの戦術を理解し、チームワークの形成とチームビルディングについて実践を通じて学ぶ。同時に、試合運営の方法や審判法について学習し、自立してスポーツ活動を行うための実践力を習得する。	【授業の概要との対応項目】			
		A	知識	
	○	B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
	○	G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
	○	K	課題対処力	
	○	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】		【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)		
バレーボールのゲームを楽しむために必要な基本技能を獲得する。		目標	B	
オフェンスのコンビネーションやレシーブフォーメーションなどの戦術的理解を深め、それらを実践するための活動を通じてチームづくりやチームワーク、スポーツマンシップやマナーを学ぶ。		目標	G、K、L	

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法 (アクティブラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	ガイダンス 今後の日程と授業展開・内容や成績評価等に関する説明 グループ分け	講義	6人制バレーボールのルールについて予習しておく。
2	ボールを使ったウォーミングアップ・ボール慣れ・ストレッチ 基本技能① サーブとレシーブ (サーブを中心に)	グループワーク	
3	ボールを使ったウォーミングアップ・ボール慣れ・ストレッチ 基本技能② サーブとレシーブ (レシーブを中心に)	グループワーク	
4	基本技能③ パスの技術と動き(オーバーハンドパスを中心に) 簡易ゲーム	グループワーク	

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
5	基本技能④ パスの技術と動き（アンダーハンドパスを中心に） 簡易ゲーム	グループワーク	
6	基本技能⑤ ボールコントロール（ボールヒット）とスパイクの動き（ミートを中心に） 簡易ゲーム	グループワーク	
7	基本技能⑥ ボールコントロール（ボールヒット）とスパイクの動き（ステップを中心に） 簡易ゲーム	グループワーク	
8	基本技能⑦ スパイクとレシーブのドリル 簡易ゲーム	グループワーク	
9	基本技能⑧ スパイクとブロックのドリル 簡易ゲーム	グループワーク	
10	基本の戦術① チーム編成と各プレイヤーの役割（ローテーションの理解） 6人制の練習ゲーム	グループワーク	
11	基本の戦術② チーム編成と各プレイヤーの役割（ポジションの理解） 6人制の練習ゲーム	グループワーク	
12	ディフェンスの戦術① サーブレシーブフォーメーション（5人でのレシーブ） 6人制の練習ゲーム	グループワーク	
13	ディフェンスの戦術② サーブレシーブフォーメーション（3～4人でのレシーブ） 6人制の練習ゲーム	グループワーク	
14	ディフェンスの戦術③ ブロックとレシーブフォーメーション（マンアッパフォーメーションの理解） 6人制の練習ゲーム	グループワーク	
15	ディフェンスの戦術④ ブロックとレシーブフォーメーション（マウンドアッパフォーメーションの理解） 6人制の練習ゲーム	グループワーク	
16	オフェンスの戦術① スパイクのコンビネーション（クイックを絡めたコンビネーション） 6人制の練習ゲーム	グループワーク	
17	オフェンスの戦術② スパイクのコンビネーション（移動を加えたコンビネーション） 6人制の練習ゲーム	グループワーク	
18	公式戦の運営（リーグ戦）と審判法①	グループワーク	
19	公式戦の運営（リーグ戦）と審判法②	グループワーク	
20	公式戦の運営（リーグ戦）と審判法③	グループワーク	
21	公式戦の運営（トーナメント戦）と審判法④	グループワーク	
22	公式戦の運営（トーナメント戦）と審判法⑤	グループワーク	実技試験の準備

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
23	技能チェックと評価（ボールヒット、オーバーハンドパス、アンダーハンドパス） まとめのゲーム	実技試験	
<p>【到達度の評価（評価方法・基準）】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 技能・知識の習得度 60% • 授業への参加状況 30% • 特記事項 10% <p>※特に秀でた活動や技能を示した者について、10点の範囲内で評価する。</p> <p>（例）• 全国大会出場レベルの技能や指導員資格者レベルの技能を持ち、他学生の見本となり、指導の補助など授業運営に大きく貢献した者。</p> <ul style="list-style-type: none"> • リーダーシップを発揮し、授業効果の向上に貢献した者。 			
<p>【その他補足事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 服装はスポーツウェア上下、バレーボールシューズ（屋内用のスポーツシューズであれば可） • バレーボールⅡ（選択）では体育実技Ⅰで習得した知識と技術を更に深めるために、より実践的な内容を中心に実施する。より高度な技能習得、種目に対する興味を深めることで生涯スポーツに対するモチベーションを更に高めることをねらいとする。 			

授業科目名	体育実技Ⅱ (ボディ・コンディショニング)		授業形態・単位数	実技・1単位
			開講年次	2年次
担当教員	職名：准教授 氏名：島田貴広		開講期	通年
			授業回数	23回
			期末試験の有無	無
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		—
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		教養教育科目	選択	
幼稚園教諭一種免許状		教養教育科目	選択	
保育士資格		教養教育科目	選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 レジスタンストレーニングでは主としてダンベルやチューブを利用したトレーニング種目、有酸素運動としてはジョギングやウォーキングを実施し、その正しい運動方法や適切な運動強度設定について学習する。また、自らの目的に応じた運動プログラムを立てて実践すると同時に、プログラムの見直しや達成感を味わうため、定期的に運動効果の測定と評価を行う。	【授業の概要との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
	<input type="radio"/>	K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
シェイプアップやダイエット、筋力アップなど、学生個別の目的に応じてコンディショニングプログラムを作成し、健康的、効果的かつ安全に運動が実践できるようになることを目標とする。			目標	A、B、K

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法 (アクティブラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	ガイダンス 今後の日程と授業展開・内容や成績評価等に関する説明 グループ分け	講義	
2	身体測定と評価、個人目標の設定と運動処方基礎知識 ウォーミングアップの方法 (ストレッチング)	グループワーク	
3	レジスタンストレーニング (大筋群のトレーニング) ・スクワット ・レッグランジ ・クランチ ・プッシュアップ ・バックエクステンション ・ダンベルプレス ・ベントオーバーローイング	グループワーク	
4	レジスタンストレーニング (大筋群のトレーニング) ・ダンベルフライ ・ワンハンドダンベルローイング ・プルオーバー ・オーバーヘッドプレス ・サイドレイズ ・アップライトローイング	グループワーク	

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
5	レジスタンストレーニング（小筋群のトレーニング） ・アームカール ・フレンチプレス ・リストカール ・サイドベント ・カーフレイズ	グループワーク	
6	レジスタンストレーニング（チューブトレーニング）	グループワーク	
7	コンディショニングメニューとトレーニングレコードの作成（レジスタンストレーニングで）	グループワーク	
8	ウォーキング（3km）ペースと目標心拍数の設定（カルボーネン法）	グループワーク	
9	ウォーキング（3km）自分のペースで実施	グループワーク	
10	ジョギング（3km）ペースと目標心拍数の設定（カルボーネン法）	グループワーク	
11	ジョギング（3km）自分のペースで実施	グループワーク	
12	コンディショニングメニューとトレーニングレコードの作成（有酸素運動を含めて作成）	グループワーク	
13	個別メニューに従って、プログラムを実施	グループワーク	
14	個別メニューに従って、プログラムを実施	グループワーク	
15	個別メニューに従って、プログラムを実施	グループワーク	
16	個別メニューに従って、プログラムを実施	グループワーク	
17	測定評価とプログラムの見直し（体重、体脂肪率、BMI、基礎代謝について）	グループワーク	
18	個別メニューに従って、プログラムを実施	グループワーク	
19	個別メニューに従って、プログラムを実施	グループワーク	
20	個別メニューに従って、プログラムを実施	グループワーク	
21	個別メニューに従って、プログラムを実施	グループワーク	
22	個別メニューに従って、プログラムを実施	グループワーク	
23	まとめ 測定評価と反省 トレーニングレコードのチェック、提出	グループワーク	
<p>【到達度の評価（評価方法・基準）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・技能・知識の習得度 60点 ・授業への参加状況 30点 ・特記事項 10点 <p>※特に秀でた活動や技能を示した者について、10点の範囲内で評価する。 (例)・全国大会出場レベルの技能や指導員資格者レベルの技能を持ち、他学生の見本となり、指導の補助など授業運営に大きく貢献した者。 ・リーダーシップを発揮し、授業効果の向上に貢献した者。</p>			
<p>【その他補足事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・服装はスポーツウェア上下、屋内用または屋外用のスポーツシューズを用意しておくこと。 ・ボディコンディショニングⅡ（選択）では体育実技Ⅰで習得した知識と技術を更に深めるために、より高度な内容を中心に実施する。自らの身体に対する興味関心を深め、健康や体力の向上について生涯を通じて探求し続けるためのモチベーションを高めることをねらいとする。 			

授業科目名	体育実技Ⅱ (ヒップホップ&ジャズダンス)		授業形態・単位数	実技・1単位
			開講年次	2年次
担当教員	職名：非常勤講師 氏名：石 ^{いし} 山 ^{やま} 波 ^{なみ} 恵 ^え		開講期	通年
			授業回数	23回
			期末試験の有無	無
開講キャンパス	宮代キャンパス及び学外(波恵ダンスカルチャーパーク)	授業時間以外の必要な学修時間		—
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		教養教育科目	選択	
幼稚園教諭一種免許状		教養教育科目	選択	
保育士資格		教養教育科目	選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		授業終了時に教室等で質問等に対応する。		

【授業の概要】 前半はステップやターンなど、ダンスの基本的な動きを身につけることに重点を置きつつ、ジャズダンスやヒップホップに親しみ、ダンスを行うための体づくりや体ほぐしを行う。 後半は応用発展させた動きを習得すると同時に、振り付けの創作を中心にいき、ダンスを自立して楽しむための実践力を身につけてゆく。	【授業の概要との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
	<input type="radio"/>	E	表情及び身体表現力	
	<input type="radio"/>	F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
	<input type="radio"/>	K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
初心者についてはヒップホップやジャズの技法をマスターしてリズムカルな動きができること、習熟している者については作品の創作ができることを到達の目標とする。			目標	A、B、E、F
ダンスを通じて心をリフレッシュすると同時に、健康体力づくりの実践力を養う。			目標	A、B、K

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	ガイダンス 今後の日程と授業展開・授業内容や成績評価等に関する説明	講義 授業計画	
2	ジャズダンス(基本) ストレッチの基本動作 基本ステップ(ウォーキング、ステップタッチ)	グループワーク	
3	ジャズダンス(基本) ストレッチの基本動作 基本ステップ(ツーステップ、ボックス)	グループワーク	
4	ジャズダンス(基本) アイソレーションの基本動作 基本ステップ(ピボットターン)	グループワーク	

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
5	ジャズダンス（基本） アイソレーションの基本動作 基本ステップ（ジャンプ）	グループワーク	
6	ジャズダンス（基本） アイソレーションの基本動作 振付（ステップ、コンビネーション）	グループワーク	
7	ジャズダンス（基本） 完成した振付を発表する。	グループワーク	
8	ヒップホップ（基本） リズム感、リズムの取り方とアップダウン	グループワーク	
9	ヒップホップ（基本） リズム感、リズムの取り方とアップダウン	グループワーク	
10	ヒップホップ（基本） ステップ、コンビネーション、振付	グループワーク	
11	ヒップホップ（基本） ステップ、コンビネーション、振付	グループワーク	
12	ヒップホップ（基本） ステップ、コンビネーション、振付	グループワーク	
13	ヒップホップ（基本） 完成した振付を発表	グループワーク	
14	ジャズダンス（応用） 発展させた動きと振付	グループワーク	
15	ジャズダンス（応用） 発展させた動きと振付	グループワーク	
16	ジャズダンス（応用） 発展させた動きと振付	グループワーク	
17	ジャズダンス（応用） 発展させた動きと振付	グループワーク	
18	ジャズダンス（応用） 発展させた動きと振付	グループワーク	
19	ヒップホップ（応用） 発展させた動きと振付	グループワーク	
20	ヒップホップ（応用） 発展させた動きと振付	グループワーク	
21	ヒップホップ（応用） 発展させた動きと振付	グループワーク	
22	ヒップホップ（応用） 発展させた動きと振付	グループワーク	
23	ヒップホップ（応用） 発展させた動きと振付	グループワーク	

【到達度の評価（評価方法・基準）】

- 技能・知識の習得度 60点
- 授業への参加状況 30点
- 特記事項 10点

※特に秀でた活動や技能を示した者について、10点の範囲内で評価する。

（例）• 全国大会出場レベルの技能や指導員資格者レベルの技能を持ち、他学生の見本となり、指導の補助など授業運営に大きく貢献した者。

- リーダーシップを発揮し、授業効果の向上に貢献した者。

【その他補足事項】

準備物：ダンスに相応しい服装、屋内用シューズ（ダンス専用シューズ推奨）

実施期間：4月～12月（金曜日18：00～19：30）

実施場所：宮代キャンパス及び、波恵ダンスカルチャーパーク（福島市新町3-26）※交通費は自己負担

授業科目名	体育実技Ⅱ (テニス)		授業形態・単位数	実技・1単位
			開講年次	2年次
担当教員	職名：兼任准教授 氏名：藤本 要		開講期	通年
			授業回数	23回
			期末試験の有無	無
開講キャンパス	学外（保原総合運動公園）	授業時間以外の必要な学修時間		－
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		教養教育科目	選択	
幼稚園教諭一種免許状		教養教育科目	選択	
保育士資格		教養教育科目	選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 テニス種目における技術や知識を獲得し、健康・体力の維持向上を図りながら、継続してスポーツに親しむ習慣や態度を身に付けることをねらいとする。 また実施に当たっては個人競技種目における技能レベルの差を考慮し、初心者と経験者を能力別に編成し、経験者には試合を多く取り入れた授業展開を行うことで授業への参加意欲を高める。 ダブルスゲームのルールやフォーメーションを理解し、試合の中で実践できるように戦術・戦略面での理解も深める。	【授業の概要との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
	<input type="radio"/>	G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
<input type="radio"/>	K	課題対処力		
<input type="radio"/>	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力		
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
生涯にわたり健康な生活を送るために必要な運動習慣獲得に向けたテニスの技能習得を目的とする。			目標	A、B、G、K、L
授業の到達目標を「ラリー8回以上、ボレーボレーを15回以上継続できること」とする。			目標	B、K

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	<ガイダンス> 今後の日程と授業展開・内容	講義・実技	テニスのルールを調べておくこと
2	フォアバンドストロークの導入 ・グリップ、打点、スウィング、フットワーク バックバンドストロークの導入 ・グリップ、打点、スウィング、フットワーク	グループワーク	
3	フォアバンドストロークの導入 ・グリップ、打点、スウィング、フットワーク バックバンドストロークの導入 ・グリップ、打点、スウィング、フットワーク	グループワーク	
4	動きの中でのストローク ・フットワークを交えたコンビネーションドリル	グループワーク	

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
5	動きの中でのストローク ・フットワークを交えたコンビネーションドリル	グループワーク	
6	ボレーの導入 ・グリップ、打球面のセット、打点、フットワーク 動きの中でのボレー ・フットワークを交えたコンビネーションドリル サービスの導入 ・グリップ、トスアップ、スウィング	グループワーク	
7	ボレーの導入 ・グリップ、打球面のセット、打点、フットワーク 動きの中でのボレー ・フットワークを交えたコンビネーションドリル サービスの導入 ・グリップ、トスアップ、スウィング	グループワーク	
8	ボレーの導入 ・グリップ、打球面のセット、打点、フットワーク 動きの中でのボレー ・フットワークを交えたコンビネーションドリル サービスの導入 ・グリップ、トスアップ、スウィング	グループワーク	
9	ボレーの導入 ・グリップ、打球面のセット、打点、フットワーク 動きの中でのボレー ・フットワークを交えたコンビネーションドリル サービスの導入 ・グリップ、トスアップ、スウィング	グループワーク	
10	ダブルスゲームの実際 ・試合の成り立ちとルール、試合の実践	グループワーク	試合の成り立ちとルールについて予習しておく
11	ダブルスゲームの実際 ・試合の成り立ちとルール、試合の実践	グループワーク	
12	スキルチェック①（基本技能の確認）	習得度チェック	練習をしておくこと
13	ダブルスゲームの実際 ・試合の成り立ちとルール、試合の実践	グループワーク	
14	ダブルスゲームの実際 ・試合の成り立ちとルール、試合の実践	グループワーク	
15	ダブルスゲームの実際 ・試合の成り立ちとルール、試合の実践	グループワーク	
16	ダブルスゲームの実際 ・試合の成り立ちとルール、試合の実践	グループワーク	
17	ダブルスゲームの実際 ・試合の成り立ちとルール、試合の実践	グループワーク	
18	ダブルスゲームの実際 ・試合の成り立ちとルール、試合の実践	グループワーク	

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
19	ダブルスゲームの実際 ・試合の成り立ちとルール、試合の実践	グループワーク	
20	ダブルスゲームの実際 ・試合の成り立ちとルール、試合の実践	グループワーク	
21	ダブルスゲームの実際 ・試合の成り立ちとルール、試合の実践	グループワーク	
22	スキルチェック② ・ラリーの継続回数と基本技能の習得度	習得度チェック	練習をしておくこと
23	スキルチェック③ ・試合の中で基本技能の習得度	習得度チェック	練習をしておくこと
<p>【到達度の評価（評価方法・基準）】</p> <p>技能・知識の習得度 60点 授業への参加態度 30点 特記事項 10点</p> <p>※特に秀でた活動や技能を示した者について、10点の範囲内で評価する。 (例)・全国大会出場レベルの技能や指導員資格者レベルの技能を持ち、他学生の見本となり、指導の補助など授業運営に大きく貢献した者。 ・リーダーシップを発揮し、授業効果の向上に貢献した者。</p>			

授業科目名	体育実技Ⅱ (バドミントン)		授業形態・単位数	実技・1単位
			開講年次	2年次
担当教員	職名：兼任准教授 氏名：藤本 要		開講期	通年
			授業回数	23回
			期末試験の有無	無
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		—
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		教養教育科目	選択	
幼稚園教諭一種免許状		教養教育科目	選択	
保育士資格		教養教育科目	選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業で説明する。		

【授業の概要】 バドミントン種目における技術や知識を獲得し、健康・体力の維持向上を図りながら、継続してスポーツに親しむ習慣や態度を身に付けることをねらいとする。 また実施に当たっては個人競技種目における技能レベルの差を考慮し、初心者と経験者を能力別に編成し、経験者には試合を多く取り入れた授業展開で行うことで授業への参加意欲を高める。 5つのフライングの種類と特性およびフォーメーションを理解し、最終的には試合の中で使用できるように戦術・戦略面での理解も深める。	【授業の概要との対応項目】		
	<input type="radio"/>	A	知識
	<input type="radio"/>	B	技術・技能
		C	論理的思考力
		D	文章表現力
		E	表情及び身体表現力
		F	感性及び感動表現力
	<input type="radio"/>	G	協働能力
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J	多様性への理解力、応用力
	<input type="radio"/>	K	課題対処力
	<input type="radio"/>	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力
【授業の到達目標】	【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)		
生涯にわたり健康な生活を送るために必要な運動習慣獲得に向けたバドミントンの技能習得を目的とする。	目標	A、B、G、K、L	
授業の到達目標を「ラリーが20ストローク以上継続できること」とする。	目標	B、K	

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	<ガイダンス> 今後の日程と授業展開・内容	講義・実技	バドミントンのルールを調べておくこと
2	・班編成 ・バドミントンの運動特性に応じた準備運動 ・基本技術（グリップ、ラケットの握り方）	グループワーク	
3	・班編成 ・バドミントンの運動特性に応じた準備運動 ・基本技術（グリップ、ラケットの握り方）	グループワーク	
4	・ダブルスの試合を中心に実施 ・ダブルスのルールを理解する	グループワーク	ダブルスゲームの成り立ちとルールについて予習しておく

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
5	<ul style="list-style-type: none"> ダブルスの試合を中心に実施 基本技術＜オーバーヘッドストローク＞ 	グループワーク	
6	<ul style="list-style-type: none"> ダブルスの試合を中心に実施 基本技術＜オーバーヘッドストローク＞ 	グループワーク	
7	<ul style="list-style-type: none"> ダブルスの試合を中心に実施 基本技術＜オーバーヘッドストローク＞ 	グループワーク	
8	<ul style="list-style-type: none"> ダブルスの試合を中心に実施 基本技術＜アンダーハンドストローク＞ 	グループワーク	
9	<ul style="list-style-type: none"> ダブルスの試合を中心に実施 基本技術＜アンダーハンドストローク＞ 	グループワーク	
10	<ul style="list-style-type: none"> ダブルスの試合を中心に実施 基本技術＜アンダーハンドストローク＞ 	グループワーク	
11	<ul style="list-style-type: none"> ダブルスの試合を中心に実施 基本技術＜サイドアームストローク＞ 	グループワーク	
12	<ul style="list-style-type: none"> ダブルスの試合を中心に実施 基本技術＜サイドアームストローク＞ 	グループワーク	
13	<ul style="list-style-type: none"> ダブルスの試合を中心に実施 基本技術＜サイドアームストローク＞ 	グループワーク	
14	<ul style="list-style-type: none"> 試合に勝つためのダブルスの戦術・戦略 	グループワーク	ダブルスフォーメーションについて予習しておく
15	<ul style="list-style-type: none"> シングルのルールを理解する 審判法 	グループワーク	シングルスゲームの成り立ちとルールについて予習しておく
16	<ul style="list-style-type: none"> シングルス及びダブルスの試合を中心に実施 リーグ戦及びトーナメント戦にて試合を実施 	グループワーク	
17	<ul style="list-style-type: none"> シングルス及びダブルスの試合を中心に実施 リーグ戦及びトーナメント戦にて試合を実施 	グループワーク	
18	<ul style="list-style-type: none"> シングルス及びダブルスの試合を中心に実施 リーグ戦及びトーナメント戦にて試合を実施 	グループワーク	
19	<ul style="list-style-type: none"> シングルス及びダブルスの試合を中心に実施 リーグ戦及びトーナメント戦にて試合を実施 	グループワーク	
20	<ul style="list-style-type: none"> シングルス及びダブルスの試合を中心に実施 リーグ戦及びトーナメント戦にて試合を実施 	グループワーク	
21	<ul style="list-style-type: none"> シングルス及びダブルスの試合を中心に実施 リーグ戦及びトーナメント戦にて試合を実施 	グループワーク	
22	<ul style="list-style-type: none"> シングルス及びダブルスの試合を中心に実施 リーグ戦及びトーナメント戦にて試合を実施 	グループワーク	
23	<ul style="list-style-type: none"> シングルス及びダブルスの試合を中心に実施 リーグ戦及びトーナメント戦にて試合を実施 	グループワーク	
【到達度の評価（評価方法・基準）】 技能・知識の習得度 60点 授業への参加態度 30点 特記事項 10点 ※特に秀でた活動や技能を示した者について、10点の範囲内で評価する。 (例)・全国大会出場レベルの技能や指導員資格者レベルの技能を持ち、他学生の見本となり、指導の補助など授業運営に大きく貢献した者。 ・リーダーシップを発揮し、授業効果の向上に貢献した者。			

授業科目名	教育原理		授業形態・単位数	講義・2単位
			開講年次	2年次
担当教員	職名：非常勤講師 氏名：わた なべ せい いち 渡 邊 誠 一		開講期	前期
			授業回数	15回
			期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		60時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	必修	
幼稚園教諭一種免許状		専門教育科目	必修	
保育士資格		専門教育科目	必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		授業終了後に教室で質問等に対応する。		

【授業の概要】 (1) 意図的な営みである教育が、その時々社会・文化を背景に、特に各時代の人間観を根拠にどのように教育論が展開されていったか、教育思想の歴史を概説し、また、過去の教育論が現在の教育にどのような影響を与えているかを考える。 (2) 現代にまで名を残した教育思想家は、人間、特に子どもの幸福の実現、即ち、子どもの福祉を意識して教育論を展開していることを踏まえて、子どもの福祉のための教育のあり方を先人の思想を参考に考える。	【授業の概要との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
		B	技術・技能	
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力	
	<input type="radio"/>	D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
	<input type="radio"/>	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
<input type="radio"/>	K	課題対処力		
<input type="radio"/>	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力		
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
教育の理念の歴史を人間観、特に発達観の変遷と結びつけて理解する。			目標	A、C、D、I
教育の目的が時々社会状況と密接に結びついていることを理解する。			目標	A、C、D、I
幼児・児童の教育が子どもの福祉と密接に結びついていることを理解する。			目標	A、C、D、I、L
教育と福祉の関係について理解し、望ましいあり方を提案できる。			目標	A、C、D、I、K

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	授業ガイダンス：授業の概要とねらいについて		
2	古代アテネ（民主政期）の社会とソクラテス・プラトンの教育論	古代の人間観について意見交換	高校世界史の古代ギリシアの歴史について予習
3	中世キリスト教全盛期の人間観と教育論（早期教育とむちによる教育の論拠）	キリスト教の人間観の背景について意見交換	古代ギリシア芸術について予習
4	ルネサンス期の社会とヒューマニストの人間観と教育論	ルネサンスの歴史的意義について意見交換	ルネサンスについて予習
5	宗教改革期の社会と改革派の信仰観と教育論	宗教改革の教育史的意義について意見交換	宗教改革について予習

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
6	近代初期の教育思想家、コメニウスの感覚主義教育論	感覚の学習上の機能について意見交換	授業のための配布資料の復習
7	経験主義教育論者のロックの白紙説と教育論	“Sound mind in sound body” について意見交換	配布資料の復習
8	中間まとめ／古代・中世・近代初期の教育論の比較 — 人間観の違いを意識して —	小テスト 講義資料No.1～6	配布資料の復習
9	近代の教育論(1) 発達段階論に立脚したルソーの教育論	知性・理性の覚醒する時期について意見交換	配布資料の復習
10	近代の教育論(2) 貧民の自立を目指したパスタロッチの教育論	貧困について、現代の子どもの貧困と関連づけて意見交換	配布資料の復習
11	近代の教育論(3) 産業社会の“fatherless”状態の下で家庭教育のモデルを示すべく創設された幼稚園の創設者、フレーベルの教育論	幼稚園と保育園について意見交換	配布資料の復習
12	20世紀の教育論(1) 民主主義国家の市民（主権者）の育成を目指し、コミュニティーの教育力を活かす教育論を展開したデューイの教育論	人間の生活にとってのコミュニティーや故郷の意義について意見交換	配布資料の復習
13	20世紀の教育論(2) 社会主義国家の国民の育成をめざしたクループスカヤの国民教育論・総合技術教育論	労働の教育的意義について意見交換	配布資料の復習
14	20世紀の教育論(3) 障害児教育の実践を活かしたモンテッソーリの幼児教育論と独自の指導法（モンテッソーリ・メソッド）	フレーベルの教育論との違いについて意見交換	配布資料の復習
15	近・現代の教育論を福祉の観点と結びつけて考える	現在の日本の教育は福祉の観点からみてどうか？（意見交換）	配布資料の復習
期末試験	前期末試験		
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明する。			
【到達度の評価（評価方法・基準）】 ・ 期末試験 60% ・ 授業後の「まとめ、感想、質問、意見」 30% ・ 授業態度 10%（授業への取り組み、積極的・自発的な応答・参加）			
【教科書】 教科書は使用しない。授業に必要な資料は、その都度、印刷し配布する。			
【参考書】 書名：モンテッソーリ・メソッド 著者名：モンテッソーリ・メソッド、阿部真美子、白川 蓉子 訳 発行所：明治図書 価格：1,900円（税別）			

授業科目名	相談援助		授業形態・単位数	演習・1単位
			開講年次	2年次
担当教員	職名：講師 氏名：八木孝憲		開講期	前期
			授業回数	15回
			期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		15時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
幼稚園教諭一種免許状		専門教育科目	選択	
保育士資格		専門教育科目	必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 本授業は、保育・児童・家庭福祉の専門職として、相談実践の方法を具体的事例や体験的な授業を通して学ぶ。また、援助者が持つべき利用者の人権尊重、自己覚知や他者理解といった援助の基本姿勢、傾聴・共感・受容などの具体的技術の習得を目指す。	【授業の概要との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技術・技能	
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力	
	<input type="radio"/>	D	文章表現力	
	<input type="radio"/>	E	表情及び身体表現力	
	<input type="radio"/>	F	感性及び感動表現力	
	<input type="radio"/>	G	協働能力	
	<input type="radio"/>	H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
	<input type="radio"/>	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	<input type="radio"/>	J	多様性への理解力、応用力	
	<input type="radio"/>	K	課題対処力	
<input type="radio"/>	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力		
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
保育活動に必要な相談援助の概要について理解する。			目標	A、B
相談援助の方法と技術について理解する。			目標	C、D、E、F
保育におけるソーシャルワークの応用と事例分析を通して対象への理解を深める。			目標	G、J、K、L

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 授業の概要と目標及び評価方法 第1回 相談援助の理解 (相談事例、生活諸問題)	授業計画 教科書補足資料1	
2	第2回 相談援助の意義 (歴史、倫理を含む)	教科書補足資料2	教科書p14-24を事前に読む
3	第3回 相談援助の機能 (家庭、地域に果たす役割)	教科書補足資料3	教科書p26-36を事前に読む
4	第4回 ソーシャルワーク (ケースワーク、コミュニティワーク)	教科書補足資料4	教科書p38-48を事前に読む

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
5	第5回 保育とソーシャルワーク (家庭を支える)	教科書補足資料5	教科書p50-60を事前に読む
6	第6回 相談援助の対象 (保育環境、地域、施設)	教科書補足資料6	教科書p62-72を事前に読む
7	第7回 相談援助の過程 (インテーク面接から援助の終了まで)	教科書補足資料7	教科書p74-84を事前に読む
8	第8回 相談援助の技術・アプローチ (相談者・支援者に対する具体的な支援)	教科書補足資料8	教科書p86-96を事前に読む
9	第9回 相談計画・記録・評価 (記録の意義、記録の書き方等)	教科書補足資料9	教科書p98-108を事前に読む
10	第10回 関係機関との協働 (子ども家庭支援センター・児童相談所等)	教科書補足資料10	教科書p110-120を事前に読む
11	第11回 多様な専門職との連携 (職種の理解とネットワーク)	教科書補足資料11	教科書p122-132を事前に読む
12	第12回 社会資源の活用、調整、開発 (子どもと生活を支える仕組みの理解)	教科書補足資料12	教科書p134-144を事前に読む
13	第13回 虐待の予防と対応等の事例分析	教科書補足資料13	教科書p160-170を事前に読む
14	第14回 障害のある子どもと保護者への支援等の事例分析	教科書補足資料14	教科書p172-182を事前に読む
15	第15回 まとめと事例検討	教科書補足資料15	教科書p146-158を事前に読む
期末試験	期末試験		
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明する。			
【到達度の評価（評価方法・基準）】 筆記試験 語句選択方式のテストを学期末に実施する。 30% 授業への参加態度・授業ごとのリアクションペーパーによる。 40% レポート 課題については授業時に説明する。 30%			
【教科書】 書名：相談援助 著者名：松原 康雄、村田 典子、南野奈津子 発行所：中央法規出版株式会社 価格：2,000円（税別）			

授業科目名	教育心理学		授業形態・単位数	演習・1単位
			開講年次	2年次
担当教員	職名：教授 氏名：田 辺 稔		開講期	前期
			授業回数	15回
			期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		15時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	必修	
幼稚園教諭一種免許状		専門教育科目	必修	
保育士資格		専門教育科目	必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 幼児及び児童の学びの場を想定しながら、教育ならびに保育の過程における心理学的な法則や事実を理解し、より効果的な教育を展開するために、必要な教育心理学の基本的事項を修得していく。各単元を通し、子どもの心身の発達、特に心の発達過程に焦点を当てながら教諭・保育士との関わり合いに関して理解する。また、日頃の生活や遊びを通して、「学び（学習）」の過程について理解を深め、幼児・児童教育における支援の在り方や課題について考えていく。	【授業の概要との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
		B	技術・技能	
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	<input type="radio"/>	J	多様性への理解力、応用力	
	<input type="radio"/>	K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
子どもの心身の発達、特に心の発達過程に焦点を当てながら教諭との関わり合いに関して学んでいくことをテーマとする。日頃の生活や遊びを通して、「学び」の過程について理解を深め、幼児教育における支援のあり方や課題について考えていく力を身につけていくことを目標とする。			目標	A、C、J、K

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 教育心理学で何を学ぶのか。評価方法等	教科書、資料提示はパワーポイントを使用予定	
2	心理学の研究手法と教育心理学の課題。個人差をどのように捉えていくのか	教科書、資料提示はパワーポイントを使用予定	教科書p4～p13を事前に読むこと
3	発達段階の理解① 生涯発達の発達段階と発達課題	教科書、資料提示はパワーポイントを使用予定	1年次発達心理学の学習内容を復習のこと
4	発達段階の理解② エリクソン、ハヴィガーストの発達課題	教科書、資料提示はパワーポイントを使用予定	1年次発達心理学の学習内容を復習のこと
5	学習① 学習の意味、子どもが学ぶ事の意味やその心理学的な過程の理解	教科書、資料提示はパワーポイントを使用予定	教科書p71～p78を事前に読むこと

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
6	学習② 学習の過程と理論	教科書、資料提示はパワーポイントを使用予定	教科書p71～p78を事前に読むこと
7	学習③ 学習の過程と理論、条件付けと認知過程	教科書、資料提示はパワーポイントを使用予定	教科書p78～p82を事前に読むこと
8	個人差の理解と教育① 個人差とは・個人差の理解	教科書、資料提示はパワーポイントを使用予定	教科書p35～p37を事前に読むこと
9	個人差の理解と教育② パーソナリティの理解・代表的な見方ととらえ方	教科書、資料提示はパワーポイントを使用予定	教科書p37～p40を事前に読むこと
10	個人差の理解と教育③ パーソナリティの発達	教科書、資料提示はパワーポイントを使用予定	教科書p42～p45を事前に読むこと
11	個人差の理解と教育④ パーソナリティの測定	教科書、資料提示はパワーポイントを使用予定・個人差理解に関する小テストの実施	
12	教育評価① 評価の種類、その方法と整理	教科書、資料提示はパワーポイントを使用予定	教科書p197～p200を事前に読むこと
13	教育評価② 教育・保育場面で活用できる統計手法	教科書、資料提示はパワーポイントを使用予定	卓上計算機（携帯電話でも可）を用意
14	まとめ① 総括的な復習（発達から学習）	教科書、資料提示はパワーポイントを使用予定	まとめ1 総括的な復習（発達から学習）
15	まとめ② 総括的な復習（人格から教育評価） レポート提出	教科書、資料提示はパワーポイントを使用予定	まとめ2 総括的な復習（人格から教育評価）
期末試験	前期末試験		
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明する。			
【到達度の評価（評価方法・基準）】 (1) 筆記試験 70点満点の記述方式のテストを学期末に実施 (2) レポート レポートは30点満点の採点とする。課題は授業内容に沿い、興味関心を持った領域に関して各自で課題を設定する方式とする。 (3) その他 授業内容の理解度を確認するため2回～3回、小テストを実施する。採点は授業内で答え合わせを行い、理解不足の箇所を各自確認する資料とする。			
【教科書】 書名：基礎から学ぶ教育心理学 著者名：工藤 俊郎 高井 直美 上田恵津子 発行所：八千代出版 価格：2,200円（税別）			
【その他補足事項】 本科目では、コンピュータを用いたスライド（パワーポイント）を中心に展開していく。やむを得ず欠席した場合は、ファイル形式あるいはプリント資料にて配布できるので申し出ること。			

授業科目名	子どもの保健Ⅱ		授業形態・単位数	演習・1単位
			開講年次	2年次
担当教員	職名：非常勤講師 氏名： <small>かね こ さと み</small> 金子里美		開講期	前期
			授業回数	15回
			期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		15時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
幼稚園教諭一種免許状		専門教育科目	選択	
保育士資格		専門教育科目	必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		授業終了後に教室で質問等に対応する。		

【授業の概要】 幼稚園教諭、保育士の各領域間で相互に関連をもちながら、健康な子どもの心身の発育・発達や小児期における特徴的な疾病を理解し、めまぐるしく変化する子どもの健康を保持増進するための適切な環境や指導方法についての基本的知識を学ぶ。また、日常生活援助、疾病予防、救急時の対応、事故防止・安全管理について、保健活動を展開できる基本的な技術と実践できる能力を養う。	【授業の概要との対応項目】		
	<input type="radio"/>	A	知識
	<input type="radio"/>	B	技術・技能
		C	論理的思考力
		D	文章表現力
	<input type="radio"/>	E	表情及び身体表現力
		F	感性及び感動表現力
	<input type="radio"/>	G	協働能力
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	<input type="radio"/>	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
	<input type="radio"/>	J	多様性への理解力、応用力
	<input type="radio"/>	K	課題対処力
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力
【授業の到達目標】		【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
子どもの発育過程が分かる。		目標	A
乳幼児の健康管理の方法として、必要な観察・計測ができる。		目標	A、B
計測値、実施事項の基準値がわかり評価ができる。		目標	A、B、J
安全、最善の環境を理解し、課題発見、適切な対応を考える。		目標	A、G、J、K
グループ、個人で健康啓蒙資料を作る。		目標	A、B、E、G、I、K

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法 (アクティブラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 1. 授業の概要と目標、授業内容 2. 評価方法・授業の進め方・留意点 3. 子育てを考えよう (資料)	授業計画	
2	健康な子どもの発育過程	DVD「世界の子育て」 グループ学習、テキスト	ミニレポート「赤ちゃんの能力」
3	乳幼児の健康管理 1. 身体計測	テキスト解説 人形・学生間実演	ミニレポート「計測ポイント・留意点」
4	2. 計測値の評価 パーセントイル 指数 肥満度	カウプ指数・肥満度計算、 パーセントイル曲線記入	演習課題おさらいテスト

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
5	3. バイタルサインの測定	演習ポイントプリント 学生間で実演	演習課題おさらいテスト
6	4. 視覚・聴覚機能確認法	演習プリント 自作テスト図活用	演習課題おさらいテスト
7	5. 保育環境と日常生活習慣	テキスト解説	ミニレポート「子どもの生活・ポイント」
8	安全管理 1. 事故の特徴	小児の死因統計、事故の特徴 — 年齢、時間、場所	演習課題おさらいテスト
9	2. 事故の防止	DVD「子どもの事故は半減できる」KYTプリント	演習課題ミニレポート
10	3. 応急手当	テキスト解説 包帯法、搬送模擬体験	体験レポート
11	4. 救命処置、通報	テキスト、プリント解説 通報模擬体験	体験レポート
12	体調不良時の対応 観察、対処	プリント解説	演習課題おさらいテスト
13	感染予防対策 1. 手洗い 2. 消毒用液希釈計算	テキスト解説	演習課題ミニレポート
14	「健やか親子21」「子育て支援策」広報活動	健康便り、ポスター作成	完成作品提出
15	総括リフレクション	プリント解説 質疑応答	
期末試験	ペーパー試験		
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、学科を通じて説明する。			
【到達度の評価（評価方法・基準）】 期末試験（70%）各回の演習課題レポート・取り組み状況（30%）で評価する。			
【教科書】 書名：これならわかる！子どもの保健実習ノート～子育てパートナーが知っておきたいこと～ 著者名：小林美由紀 発行所：診断と治療社 価格：2,000円（税別）			

授業科目名	子どもの食と栄養		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	2年次
担当教員	職名：兼任講師 氏名：田村佳奈美		開講期	通年
			授業回数	30回
			期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		30時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
幼稚園教諭一種免許状		専門教育科目	選択	
保育士資格		専門教育科目	必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 小児期の食生活は、心身の健全な成長、発達のみならず、生涯にわたる健康を築く基礎となるものであり、生活習慣の形成の原点ともいえる。小児の食生活の実態を把握し、小児期の栄養や食事の在り方など保育者としての必要な知識や技法の基礎的な知識を修得する。 また、福島県の食品について、放射性物質の測定方法についてもふれる。	【授業の概要との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技術・技能	
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
	<input type="radio"/>	H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
	<input type="radio"/>	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	<input type="radio"/>	J	多様性への理解力、応用力	
	<input type="radio"/>	K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
栄養、食に関する基礎知識			目標	A、B、C
健康な生活の基本としての食事の意義や食事の大切さを学ぶ			目標	A、C、H
子どもの食と栄養を理解し栄養と発育の関連、栄養の過不足が理解出来る			目標	A、B、C、J、K
食育の基本を地域社会、文化との関わりを通して学び食育を企画出来る			目標	A、B、C、I、J
家庭や児童福祉施設の食生活の現状、特別な配慮を要する子どもの食事			目標	A、B、C、H

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法 (アクティブラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と目標 (授業内容) (2) 評価方法・授業の進め方 その他	授業計画 教科書	
2	第1章 子どもの健康と食生活の意義 国民健康・栄養調査・生活リズム	教科書、補足資料 パワーポイント	教科書 1章事前に読む
3	第2章 栄養に関する基本的知識 三大栄養素・五大栄養素	教科書、補足資料 パワーポイント	教科書 2章事前に読む
4	第2章 栄養に関する基本的知識 その他の栄養素 脱水 (熱中症)・栄養素の欠乏症・過剰症	教科書、補足資料 パワーポイント	教科書 2章事前に読む

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
5	第3章 消化・吸収・代謝に関する基礎知識 口～肛門まで、消化管について	教科書、補足資料 パワーポイント	教科書 3章事前に読む
6	第4章 食事摂取基準と小児の特徴 食生活指針・年齢区分・推奨量・目安量	教科書、補足資料 パワーポイント	教科書 4章事前に読む
7	DVD学習（消化管の構造、食物の流れ）	教科書、補足資料 パワーポイント DVD（人体の小宇宙）	教科書 3章事前に読む
8	第5章 献立・調理の基本 食品区分（3つ、4つ、6つ）PFCバランス 主食・主菜・副菜	教科書、補足資料 パワーポイント	教科書 5章事前に読む
9	演習 前日の食事を記録して栄養バランスを考える 食事記録・食事バランス調べ・自己評価 （レポート提出あり）	補足資料 調査、レポート用紙	補足資料復習
10	第6章 食品の基礎知識 旬の食材・食品のマーク・栄養補助食品	教科書、補足資料 パワーポイント	教科書 6章事前に読む
11	第7章 調理の仕方 炊飯・だし・一汁三菜・食品の概要・計量	教科書、補足資料 パワーポイント	教科書 7章事前に読む
12	演習 一汁三菜のメニューを考える（1食分） （夏期休み終了後レポート提出あり）	教科書、補足資料 パワーポイント	教科書 7章事前に読む
13	第8章 出生前期の特徴と食生活 悪阻・便秘・貧血・肥満 妊娠高血圧症候群・妊娠糖尿病	教科書、補足資料 パワーポイント	教科書 8章事前に読む
14	DVD学習 食品添加物、食の安全について考える	補足資料 DVD	補足資料復習
15	前期まとめ、前期の復習	教科書、補足資料 パワーポイント	教科書 1～8章を読む
16	第9章 授乳期・離乳期の心身の特徴と食生活 成長と発達・食習慣の形成 離乳食・市販ベビーフード	教科書、補足資料 パワーポイント 夏期課題レポート提出	教科書 9章事前に読む
17	演習 市販食品や市販のベビーフードを調べる アレルギー表示、原材料、見た目、味、食感など （レポート提出あり）	教科書、補足資料 パワーポイント 市販食品、ベビーフード	教科書 9章事前に読む
18	第10章 幼児期の心身の特徴と食生活 偏食・遊び食べ・食欲不振・間食	教科書、補足資料 パワーポイント	教科書 10章事前に読む
19	第11章 学童期の心身の特徴と食生活 偏食・遊び食べ・食欲不振・間食	教科書、補足資料 パワーポイント	教科書 11章事前に読む
20	幼児期～学童期の疾患と栄養 感染症など	補足資料 パワーポイント	配布資料を復習する
21	第12章 保育所・幼稚園の給食 学校給食摂取基準・食中毒・手洗い・食事のマナー	教科書、補足資料 パワーポイント	教科書 12章事前に読む

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
22	第13章 食育の基本と内容 保育所保育指針・食育基本法・食育推進基本計画 食文化・地産地消	教科書、補足資料 パワーポイント	教科書 13章事前に読む
23	演習 食育ポスターを作ろう 各自作成する（ポスカ、色鉛筆など持参）	教科書、補助資料 パワーポイント	教科書 13章事前に読む
24	DVD学習 食べるとは、生きるとは、命をいただくとは	DVD	補足資料復習
25	第14章 家庭や児童福祉施設における食事と栄養 共食・孤食・個食・家庭支援	教科書、補助資料 パワーポイント	教科書 14章事前に読む
26	第15章 特別な配慮を要する子どもの食と栄養 アレルギー対応ガイドライン・アレルゲン 宗教による禁忌食品やマナーの違い	教科書、補助資料 パワーポイント	教科書 15章事前に読む
27	摂食・嚥下障害について 摂食機能・嚥下・食形態の工夫	教科書、補助資料 パワーポイント	補足資料を復習
28	子どもの疾患と栄養 小児生活習慣病	教科書、補助資料 パワーポイント	補足資料を復習
29	子どもの食と栄養に関わる知識 ECOクッキング・食にまつわることわざ	教科書、補助資料 パワーポイント	補足資料を復習
30	総括・これまでのまとめ	教科書、補助資料 パワーポイント	補足資料を復習
期末試験	後期末試験		
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明する。			
【到達度の評価（評価方法・基準）】 (1) 筆記試験70%（70点満点の記述式のテストを後期末に実施、前期末は無し） (2) 授業内レポートおよび夏期課題のレポートは10点満点の採点とする。（10点×3回） (3) 前期末の夏期課題レポート（献立作成）は夏期休暇明けの提出とし、提出が遅れた場合には採点結果より5点マイナスとする。 (4) その他 ① 演習をまじえた授業を行う。 ② 授業の中で大切な部分を繰り返し話し、質問も行う。積極的に声を出して答えよう。 ③ 授業内容に関連するDVDによる授業も数回行う。			
【教科書】 書名：コンパクト版保育者養成シリーズ〈新版〉子どもの食と栄養 著者名：水上 由紀、細川 裕子 編著 発行所：一藝社 価格：2,000円（税別）			
【その他補足事項】 グループワーク：市販食品、市販離乳食の表示調べ、味見など 体験学習：市販の離乳食の味見、食育ポスター作成 夏期レポート：献立作成と1品調理、写真撮影 演習：(1) 前日の食事記録の栄養バランス、評価（前日の食事を記録してくる） (2) 市販食品、市販離乳食の表示調べと離乳食の味見。食品サンプル（離乳食、缶詰）を用意する。 (3) 食育ポスター作り			

授業科目名	家庭支援論		授業形態・単位数	講義・2単位
			開講年次	2年次
担当教員	職名：非常勤講師 氏名：伊藤俊明		開講期	後期
			授業回数	15回
			期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		60時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
幼稚園教諭一種免許状		専門教育科目	選択	
保育士資格		専門教育科目	必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		授業終了後に教室で質問等に対応する。		

【授業の概要】 家庭支援がなぜ必要なのか、その意義と役割、現代の家庭における人間関係、地域社会の変容、男女共同参画社会とワークライフバランスについて学ぶ。 また、子育て家庭の福祉を図るための社会資源及び子育て支援施策、子育て支援サービスの展開、関係機関との連携についても学ぶ。その目標は、家庭の意義・機能、子育て家庭を取り巻く社会的状況等について理解すること、及び子育て家庭の多用なニーズに対する支援体制とその展開、関係機関との連携について理解することである。	【授業の概要との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
		B	技術・技能	
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力	
	<input type="radio"/>	D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
	<input type="radio"/>	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
	<input type="radio"/>	K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
家庭と社会的状況、子育て支援体制、関係機関について理解することにより、家庭支援の必要性を説明できるようにする。			目標	A、C
家庭や子育てをめぐる社会的問題について考察及びディスカッションを行うことにより、課題を解決することができるようにする。			目標	D、I
保育相談支援の原理・技術に基づき、ケーススタディーを行うことにより、今後の実践に備えることができるようにする。			目標	C、K

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と目標（授業内容） (2) 評価方法・授業の進め方の留意点	授業計画の説明 グループディスカッション (家庭・家族に関するテーマについて)	
2	序章 保育における家庭支援論／保育相談支援	教科書補足資料1	教科書p1～5を事前に読む
3	第I部 家庭支援論 第1章 家庭支援の意義と役割	教科書補足資料2	教科書p7～28を事前に読む
4	第2章 家庭生活を取り巻く社会的状況1	レポート作成 グループディスカッション	

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
5	第2章 家庭生活を取り巻く社会的状況2	発表 全体ディスカッション 教科書補足資料3-1	教科書p31~45を事前に読む
6	第2章 家庭生活を取り巻く社会的状況3	教科書補足資料3-2	教科書p46~52を事前に読む
7	第3章 子育て家庭の支援体制	教科書補足資料4	教科書p55~75を事前に読む
8	第4章 多様な子育て支援の展開と関係機関との連携1	教科書補足資料5 ケーススタディー	教科書p77~110を事前に読む
9	第4章 多様な子育て支援の展開と関係機関との連携2	教科書補足資料6 ケーススタディー	教科書p111~132を事前に読む
10	第I部のまとめ	教科書補足資料7 授業についてコメント用紙に記入	
11	第II部 保育相談支援 第1章 保育相談支援の意義	教科書補足資料8 ケーススタディー	教科書p133~147を事前に読む
12	第2章 保育相談支援の基本	教科書補足資料9 ケーススタディー 失敗事例について、各自考察を行い、まとめる	教科書p149~174を事前に読む
13	第3章 保育相談支援の実際	教科書補足資料10 ケーススタディー	教科書p175~199を事前に読む
14	第4章 児童福祉施設における保育相談支援	教科書補足資料11 ケーススタディー	教科書p201~258を事前に読む
15	第II部のまとめ	教科書補足資料12	
期末試験	後期末試験		
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、学科を通じて説明する。			
【到達度の評価（評価方法・基準）】 (1) 筆記試験 70点満点の筆記試験を学期末に実施。記述方式とマルバツ方式(または穴埋め方式)の組み合わせとする。 (2) レポート レポートは20点満点の採点とする。課題は授業内容に沿ったものを提示する。 (3) 授業態度 10点満点で、関心・意欲や出席状況について評価する。			
【教科書】 書名：家庭支援論 著者名：新保育士養成講座編纂委員会編 発行所：全国社会福祉協議会 価格：1,900円（税別）			

授業科目名	保育内容指導法 環境		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	2年次
担当教員	職名：兼任教授 氏名：すぎうらひろゆき 杉浦広幸		開講期	通年
			授業回数	30回
			期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		30時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	必修	
幼稚園教諭一種免許状		専門教育科目	必修	
保育士資格		専門教育科目	必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 教育・保育上の物的環境、人的環境、自然環境および社会的環境について学習する。子どもが、身近な環境や自然に親しむ中で、様々な事象に興味や関心を持ち、発見を楽しんだり考えたりし、それらを生活に取り入れることができるようにする。また、保護者等が安心して子どもを託すことができるような、保育者を育成する。さらに、自身や保護者が不安にならないよう、自然災害や放射性物質対策についても学んでいく。	【授業の概要との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技術・技能	
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
	<input type="radio"/>	H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
	<input type="radio"/>	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
	<input type="radio"/>	K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】		【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)		
子どもが周囲の環境に親しみ、自然と触れ合う中で、様々な事象に興味関心を持たせられるように保育できる。		目標	A、H	
子どもが身近な環境に自分からかわり、発見を楽しんだり考えたりし、それを生活に取り入れられるように保育できる。		目標	B、K	
身近な事象を見たり考えたり、扱ったりする中で物の性質や数量、文字などに対する感覚が豊かになるよう保育できる。		目標	C、I	
保護者が安心して子どもを託すことができるよう、体験的に学ぶ。		目標	I、K	

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と到達目標 (2) 授業内容と評価方法 (3) 授業の進め方、その他の留意点 子どもをとりまく環境（事例：附属認定こども園の園庭）	教科書、Power Point、 園庭見学	附属こども園の園庭を観察しておく。
2	乳幼児の教育・保育と環境 本学キャンパスの環境	教科書、Power Point	年少児と年長児のロッカーの違いを考えておく。
3	領域「環境」のとらえ方と考え方(1) 幼稚園教育要領	教科書、手製資料	キャンパスの敷地を理解しておく。

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
4	領域「環境」のとらえ方と考え方(2) 保育所保育指針	教科書、Power Point	公園などで遊具を観察しておく。
5	領域「環境」のとらえ方と考え方(3) 認定子ども園教育・保育要領	教科書、手製資料	保育所（幼稚園）設置認可基準をネットで調べておく。
6	領域「環境」のとらえ方と考え方(4) 幼稚園・保育所設置認可基準	教科書、手製資料	幼稚園教育要領を読んでおく。
7	領域「環境」のとらえ方と考え方(4) 保育所保育指針における「環境」とは	教科書、手製資料	保育所保育指針を読んでおく。
8	保育環境の構成(1) 遊びのきっかけ・安定を促す環境の構成	教科書、手製資料、グループ活動1（遊びのきっかけ・安定を促す環境保育室の準備）	保育室の環境構成をシュミレーションしておく。
9	保育環境の構成(2) 自然環境を生かした活動とその指導法（ビオトープ）	教科書、手製資料、グループ活動2 夏マップ	キャンパスの夏を探しておく。
10	環境マップ（初夏～夏）	教科書、Power Point、手製資料、グループ活動3（原発事故と保育者）	東北の環境汚染問題を調べておく。
11	人的環境(1) 子どもと保育者の意味、友だちや異年齢の子、様々な人との関わり	教科書、Power Point	将来の自分の家庭環境を考えておく。
12	人的環境(2) 物の媒介とイメージの共有（農・園芸の環境と人材の活用法とその指導法）	手製資料、グループ活動4（年間プランの設定と役割分担）	こどもの担当できる農作業を考えておく。
13	物的環境(1) 屋外環境	教科書、Power Point	出身園の菜園・花壇を思い出して整理しておく。
14	物的環境(2) 屋内環境（園舎、保育室、遊戯室など）	教科書、Power Point、グループ活動5（すばらしい園舎）	園具、教具、遊具、素材の分類を考えておく。
15	前期の振り返りと前期末試験対策	教科書、Power Point、それまで配布した資料	出題範囲を整理しておく。
16	乳幼児の発達	教科書、手製資料、レポート（秋マップ）	赤ちゃんの周囲を観察しておく。
17	自然環境(1) 自然の事象への関心（身近な自然、広い意味の自然）	教科書、Power Point、グループ活動6（遠足の下見報告）	遠足の下見を想定して報告事項を考えておく。
18	自然環境(2) 生き物との関わり（種類と飼育方法）	教科書、Power Point、グループ活動7（なぜ滅んだ？トキ、ニホンカワウソ）	身近にいる動物をリストアップしておく。
19	自然環境(3) 植物・農作物の利用 本物のカボチャでハロウィンのランタン作り	教科書、Power Point、小テスト①生き物	ギリギリス、トノサマバッタ、イナゴの違いを学んでおく。
20	自然環境(4) 植物とのかかわり — 花、樹、農作物の知識と指導の観点 小テスト①花・草	教科書、農作物（カボチャ）を使った活動、小テスト②虫	ランタンの顔を考えておく。

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
21	自然環境(5) 植物とのかかわり — 栽培方法と保育上の意味と指導の観点 小テスト②木	教科書、Power Point、 小テスト③花・野草	ジャガイモ、ニンジン、 タマネギの収穫期を調べておく。
22	自然環境(6) 動物とのかかわり 小テスト③生き物	教科書、Power Point、 小テスト④木・木の実	こどもの頃楽しかった食 べる行事を整理してお く。
23	自然環境(7) 生活に必要な文字、数など、看板・形 小テスト④虫など	教科書、Power Point、 グループ活動 8（標識、 数、形）	こどもに文字や標識を覚 えさせる方法を考えてお く。
24	社会環境(1) 園行事と子ども	教科書、Power Point	季節の園行事を整理して おく。
25	社会環境(2) 子どもにとっての身近な文化、地域環境や地 域の人々との触れ合い	教科書、新聞記事、 グループ活動 9（こども 虐待対策）	こどもに関わる社会問題 を調べておく。
26	持続可能な社会への対応（ESD） （グループ活動：ESD計画）	教科書、Power Point	環境問題に関する園の取 り組みを知っておく
27	子どもを守る安全な環境(1) 種々の危険、子どもを災害か ら守るその指導を含む（東日本大震災から）、レポート・ グループ活動	教科書、Power Point、 手製資料、グループ活動 10（津波対策）	震災当時の自分を思い出 し、自分ならどう行動し たか考えておく。
28	子どもを守る安全な環境(2) 子ども特性からくる危険、動 線と安全への指導	教科書、Power Point	遠足の下見を想定し、通 学路周囲を観察してお く。
29	子どもを守る安全な環境(3) 環境放射線・放射能対策（保 育者・保護者の対応）、レポート⑤	教科書、Power Point	近隣のモニタリングポス トを確認しておく。
30	物的環境(4) 覚えているかな？園の構造物 — 試験前対策 —	教科書、後期に配布した 資料	園庭の構造物について設 置理由を復習しておく。
期末 試験	後期末試験		

【期末試験の講評】

期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明する。

【到達度の評価（評価方法・基準）】

前期・後期末テスト60%、小テスト4回：20%（間違った回答へのレポート対応可）、グループ活動20%。

※ 欠席は1回につき3点減点、遅刻・早退は1回につき1点減点（遅刻・早退3回は欠席1回とみなして3点減点）とする。ただし、実習、就職面接、自然災害、公共交通の遅れ等、正当な理由と判断される欠席（届出のあるもの）は除く。また、授業への取り組みに積極性が評価できる場合は3点加点、授業中の問題行動は1件につき1点減点とする。

【教科書】 書名：生活事例からはじめる — 保育内容 — 環境

著者名：徳安 敦、瀧川 光治、杉浦 広幸

発行所：青踏社

価格：2,000円（税別）

【その他補足事項】

季節感や屋外での観察を重視するため、基本的に毎回屋外へ出ることから、靴は土の場所を歩くことができるものを履いてくること。また、日射が気になる場合は帽子、寒い場合は防寒着を準備のこと。

授業科目名	保育内容指導法 言葉		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	2年次
担当教員	職名：兼任教授 氏名：田 上 貞一郎		開講期	通年
			授業回数	30回
			期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		30時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	必修	
幼稚園教諭一種免許状		専門教育科目	必修	
保育士資格		専門教育科目	必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 最初に「幼稚園教育要領」ならびに「保育所保育指針」と「認定こども園教育・保育要領」にある「言葉」の領域に関するねらいと内容について理解する。その上で、子どもの言葉の獲得と発達についての理解を深めていく。 さらに子どもの言語的資質を高める実践について、ことば遊び・絵本・紙芝居などを取り上げて、どのように指導したらよいか、事例を見ながら分かりやすく指導する。子どもの「言葉のモデル」としての保育者の言葉遣いについても触れる。	【授業の概要との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
	<input type="radio"/>	F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
		K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
「言葉」の指導法の理解をテーマとし、子どもの言葉の発達の特徴や言語環境とのかかわりから、子どもの言語的資質を高める理論と実践について理解を深める。			目標	A、B
子どもの言葉の獲得と発達について理解を深め、乳幼児期の言葉に関する特徴やその指導について知識・能力を深化させることを目標とする。			目標	A、B、F

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	授業計画と評価方法 保育内容「言葉」の位置づけと内容	自己プレゼンテーション 教材：授業計画 教科書	教育計画の確認
2	「言葉」に関するねらいと内容 — 幼稚園教育要領 —	朗読 指名問答 教材：幼稚園教育要領解説 教科書	幼稚園教育要領解説予習 朗読練習
3	「言葉」に関するねらいと内容 — 保育所保育指針 — — 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 —	朗読 指名問答 教材：保育所保育指針解説書 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 教科書	保育所保育指針解説書予習 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説予習 朗読練習
4	保育者のことば(1) 方言・敬語・幼稚園語	朗読 指名問答 教材：教科書	学習範囲予習 朗読練習

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
5	保育者のことば(2) 保育者の話し方・発問と助言・保育者の発声	朗読 指名問答 教材：教科書	学習範囲予習 朗読練習
6	子どものことば(1) ことばの発達・ことばの発達と条件・音声の発達	朗読 指名問答 教材：教科書	学習範囲予習 朗読練習
7	子どものことば(2) 音声の発達・語彙の発達	朗読 指名問答 フィールドバックシート 教材：教科書 (DVD視聴「ことばの発達」21分)	学習範囲予習 朗読練習
8	子どものことば(3) 文字の発達・言語障害	朗読 指名問答 フィールドバックシート 教材：教科書 (DVD視聴「早期教育を考える」30分)	学習範囲予習 朗読練習
9	文字の早期教育について(1) 「幼稚園教育要領解説」での扱い	指名問答 グループ研究 発表 教材：教科書 幼稚園教育要領解説	グループごとの研究・討議
10	文字の早期教育について(2) 最新の研究成果では	指名問答 グループ研究 発表 教材：教科書 プリント	グループごとの研究・討議
11	ことばの指導と計画(1) 年間・学期別・月間指導計画表	指名問答 グループ研究 発表 教材：教科書	グループごとの研究・討議
12	ことばの指導と計画(2) 週案、日案	指名問答 グループ研究 発表 教材：教科書	グループごとの研究・討議 課題：日案の書写
13	子どもの言葉を発達させる活動(1) — ことば遊び — (日案の書写提出)	指名問答 グループ研究 発表 教材：教科書	学習範囲予習 朗読練習 グループごとの研究・討議
14	子どもの言葉を発達させる活動(2) — 絵本 — 絵本の特性 絵本の選択	朗読 指名問答 教材：教科書 朗読	学習範囲予習 朗読練習
15	子どもの言葉を発達させる活動(3) — 絵本 — 絵本の指導 読み聞かせする時の留意点	指名問答 グループ研究 発表 教材：教科書 朗読	学習範囲予習 朗読練習
16	子どもの言葉を発達させる活動(4) — 絵本 — 一読総合法による読み聞かせ絵本を通して	指名問答 グループ研究 発表 教材：教科書 朗読	学習範囲予習 朗読練習
17	子どもの言葉を発達させる活動(5) — 絵本 — 「ブックスタート」について	(DVD視聴「クシュラの奇跡」24分) (DVD視聴「ブックスタートの活動」16分) フィールドバックシート 教材：教科書	学習課題予習

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
18	子どもの言葉を発達させる活動(6) — 紙芝居 — 紙芝居の歴史の変遷 紙芝居の特性	朗読 指名問答 教材：教科書	学習範囲予習 朗読練習
19	子どもの言葉を発達させる活動(7) — 紙芝居 — 紙芝居の構成 紙芝居の選択	朗読 指名問答 教材：教科書	学習範囲予習 朗読練習
20	子どもの言葉を発達させる活動(8) — 紙芝居 — 効果的な演じ方 その他の紙芝居	朗読 指名問答 教材：教科書	学習範囲予習 朗読練習
21	子どもの言葉を発達させる活動(9) — その他の活動 — ペープサート パネルシアター	朗読 指名問答 教材：教科書	学習範囲予習 朗読練習
22	子どもの言葉を発達させる活動(10) — その他の活動 — エプロンシアター 人形劇	朗読 指名問答 教材：教科書	学習範囲予習 朗読練習
23	子どもの言葉を発達させる活動(11) — その他の活動 — わらべ歌遊び テレビ 劇あそび	朗読 指名問答 フィールドバックシート カセットテープ聴取 (NHKラジオ第二「お話出てこい」15分) 教材：教科書	学習範囲予習 朗読練習
24	絵本の教材研究の発表(1) 年少対象の絵本	教指名問答 グループ研究発表 教材：教科書	グループごとの研究・討議
25	絵本の教材研究の発表(2) 年中対象の絵本	指名問答 グループ研究発表 教材：教科書	グループごとの研究・討議
26	絵本の教材研究の発表(3) 年長対象の絵本	指名問答 グループ研究発表 教材：教科書	グループごとの研究・討議
27	紙芝居の教材研究の発表(1) 年少対象の紙芝居	指名問答 グループ研究発表 教材：教科書	グループごとの研究・討議
28	紙芝居の教材研究の発表(2) 年中対象の紙芝居	指名問答 グループ研究発表 教材：教科書	グループごとの研究・討議
29	紙芝居の教材研究の発表(3) 年長対象の紙芝居	指名問答 グループ研究発表 教材：教科書	グループごとの研究・討議
30	総括質疑 今までの授業内容を踏まえて「言葉」についてのまとめと質疑	口頭発表 教材：教科書	質疑の準備
期末試験	後期末試験		
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明する。			
【到達度の評価（評価方法・基準）】 期末試験（70%）、グループ研究の参加度（20%）、教科書の朗読（10%）から客観的に評価する。 ※教科書等教材忘れは1回につき3点減点とする。 ※詳細については初回授業時に説明する。			
【教科書】 書名：保育内容指導法 言葉 著者名：田上貞一郎 他 発行所：萌文書林 価格：1,900円（税別）			

授業科目名	保育内容指導法 表現 I		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	2年次
担当教員	職名：准教授 氏名：鈴木美樹		開講期	通年
			授業回数	30回
			期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		30時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	必修	
幼稚園教諭一種免許状		専門教育科目	必修	
保育士資格		専門教育科目	必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 幼児の造形表現における発達段階をふまえ、幼児期の表現の特徴やその意義を理解する。幼児の姿を具体的に把握しながら「表現」と「感性」の関係や、イメージの形成について考えていく。実技では保育現場で行う様々な絵画技法と指導上の留意点や、材料用具の特徴を知る。基礎・基本を体験的に学びながら、製作を通して知識や技術を身に付ける。そして「表現」領域における造形表現の望ましい指導の在り方をさぐる。	【授業の概要との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
	<input type="radio"/>	F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	<input type="radio"/>	J	多様性への理解力、応用力	
	<input type="radio"/>	K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】	【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)			
幼児の造形表現の姿や、表現活動の意義を理解し、保育者として望ましい指導援助の仕方を考えられるようになる。	目標	A、B、K		
感性が豊かになり、イメージを膨らませて、造形的な表現力が高められる。	目標	F、J、K		
作品製作を通して、材料用具の特性を把握し、それを用いた様々な技法を習得することで、目的に応じた活用ができるようになる。	目標	A、B、F、J、K		

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法 (アクティブラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	保育内容指導法 表現の概要 年間の授業計画、学習の進め方、評価方法について	授業計画 教科書	自然観察 教科書の復習と予習
2	「表現」のねらいと内容 ・幼稚園教育要領、保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領をふまえて	教科書、プリント ビデオ視聴 (20分) 「0歳からの表現活動」 (映像利用)	教科書の復習と予習 ビデオ視聴後の感想をまとめる (レポート①)
3	幼児造形表現の特質	教科書	教科書の復習と予習
4	幼児造形表現の発達(1) ・発達の特性	教科書 ビデオ視聴 (20分) 「触れること、かくこと、つくること」(映像利用)	教科書の復習と予習 ビデオ視聴後の感想を書く (レポート②)

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
5	幼児造形表現の発達(2) ・造形表現における発達段階	教科書 ビデオ視聴（20分） 「かく、つくる、あそぶ～社会性を育む幼児の表現活動」（映像利用）	教科書の復習と予習 ビデオ視聴後の感想を書く（レポート③）
6	幼児画の特徴や様式	教科書 ビデオ視聴（20分） 「子どもの絵を読み取る」（映像利用）	教科書の復習と予習 ビデオ視聴後の感想を書く（レポート④）
7	前期中間試験 作品製作の留意点	プリント 画用紙等	試験の復習と教科書の予習 空き時間を使って、製作を進める
8	造形表現（平面）の内容とその指導(1) ・技法による表現と製作（マッピングなど）	教科書、プリント 絵具、画用紙等	教科書の復習と予習 空き時間を使って、課題を進める
9	造形表現の内容とその指導(2) ・技法による表現と製作（デカルコマニーなど）	教科書、プリント 絵具、画用紙等	教科書の復習と予習 空き時間を使って、課題を進める
10	造形表現の内容とその指導(3) ・技法による表現と製作（スパッタリングなど）	教科書、プリント 絵具、画用紙等	教科書の復習と予習 空き時間を使って、課題を進める
11	造形表現の内容とその指導(4) ・技法による表現と製作（フロタージュなど）	教科書、プリント 絵具、画用紙等	教科書の復習と予習 空き時間を使って、課題を進める
12	造形表現の内容とその指導(5) ・技法による表現と製作（ドリッピングなど）	教科書、プリント 絵具、画用紙等	教科書の復習と予習 空き時間を使って、課題を進める
13	造形表現の内容とその指導(6) ・技法による表現と製作（スタンピングなど）	教科書、プリント 絵具、画用紙等	教科書の復習と予習 空き時間を使って、製作を進める
14	造形表現の内容とその指導(7) ・技法による表現と製作（ウォッシングなど）	教科書、プリント 絵具、画用紙等	教科書の復習と予習 空き時間を使って、課題を進める
15	造形表現の内容とその指導(8) ・技法による表現と製作（まとめ）	教科書、プリント 絵具、画用紙等	教科書の復習と予習 空き時間を使って、課題を進める
16	前期末試験	プリント	試験の復習を行う
17	感性と表現について考える(1) ・エイブル・アートについて	ビデオ視聴（40分） 「日曜美術館」（映像利用）	プリントの復習 ビデオ視聴後の感想を書く（レポート⑤）
18	感性と表現について考える(2) ・脳と心の世界を探る	ビデオ視聴（40分） 「驚異の小宇宙 人体 脳と心」（映像利用）	プリントの復習 ビデオ視聴後の感想を書く（レポート⑥）

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
19	感性と表現について考える(3) ・「自然」と「芸術」を通した幼児教育を知る	ビデオ視聴（40分） 「レジョ・エミリア市の挑戦——子どもの輝く創造力を育てる」 （映像利用）	プリントの復習 ビデオ視聴後の感想を書く（レポート⑦） 教科書の予習
20	幼児造形教育の方法について(1) ・造形遊びの実践	プリント 様々な素材 OHPなど	プリントの復習と教科書の予習 ワークシートの記入と提出
21	幼児造形教育の方法について(2) ・用具や材料についての理解を深める	教科書、プリント 用具、材料等	教科書の復習と予習
22	造形表現（立体）の内容とその指導(1) ・様々な材料を使用した表現と製作（製作第1回目）	教科書、プリント 用具、材料等	教科書、プリントの復習と予習 空き時間を使って、課題を進める
23	造形表現（立体）の内容とその指導(2) ・様々な材料を使用した表現と製作（製作第2回目）	教科書、プリント 用具、材料等	教科書、プリントの復習と予習 空き時間を使って、課題を進める
24	造形表現（立体）の内容とその指導(3) ・様々な材料を使用した表現と製作（製作第3回目）	教科書、プリント 用具、材料等	教科書、プリントの復習と予習 空き時間を使って、課題を進める
25	造形表現（立体）の内容とその指導(4) ・様々な材料を使用した表現と製作（製作第4回目）	教科書、プリント 用具、材料等	教科書、プリントの復習と予習 空き時間を使って、課題を進める
26	造形表現（立体）の内容とその指導(5) ・様々な材料を使用した表現と製作（製作第5回目）	教科書、プリント 用具、材料等	教科書、プリントの復習と予習 空き時間を使って、課題を進める
27	造形表現（立体）の内容とその指導(6) ・紙材の基礎技法①	教科書、プリント 用具、材料等	教科書、プリントの復習と予習 空き時間を使って、課題を進める
28	造形表現（立体）の内容とその指導(7) ・紙材の基礎技法②	教科書、プリント 用具、材料等	教科書、プリントの復習と予習 空き時間を使って、課題を進める
29	表現の広がり ・教材化を目指して	教科書、プリント 用具、材料等	教科書、プリントの復習と予習
30	まとめと幼児造形教育の課題について	教科書、プリント 用具、材料等	教科書、プリントの復習 試験勉強を行う
期末試験	後期末試験を行う	プリント	教科書、プリントの復習 試験の復習を行う

【期末試験の講評】

期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明する。

【到達度の評価（評価方法・基準）】

- 作品評価 50%（絵画と工作の2作品を作成）
- 試験 30%（前期中間試験10%・前期末試験10%・後期末試験10%）
- レポート提出 10%
- 受講態度 10%（授業に臨む意欲と姿勢、質疑応答の内容と頻度、提出物の状況）

【教科書】 書名：幼児教育法講座 新造形表現〈理論・実践編〉
著者名：花篤 實、岡田 愨吾 編著
発行所：三晃書房
価格：2,000円（税別）

【その他補足事項】

材料費として1,600円を徴収する。

※学習の進度等により、内容が一部変更になる場合がある。

授業科目名	社会的養護内容		授業形態・単位数	演習・1単位
			開講年次	2年次
担当教員	職名：教授 氏名：板垣健太郎		開講期	前期
			授業回数	15回
			期末試験の有無	無
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		15時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
幼稚園教諭一種免許状		専門教育科目	選択	
保育士資格		専門教育科目	必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 社会的養護内容が、対象児個々の理解のもとに構築されるものであることを理解すること、対象児理解の重要性を認識するとともに対象児理解に関する基礎的な態度や技能を養うこと、児童養護の難しさや面白さを実感すること、適正な児童観や養護観を身に付けること等を目的とする。 要養護児童や障害を抱えた児童に関するビデオや実習記録、新聞記事等を事例として採りあげ、グループ討議も含めて、児童の理解とその援助について具体的に検討する演習を展開する。	【授業の概要との対応項目】		
	<input type="radio"/>	A	知識
	<input type="radio"/>	B	技術・技能
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力
		D	文章表現力
		E	表情及び身体表現力
	<input type="radio"/>	F	感性及び感動表現力
		G	協働能力
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
	<input type="radio"/>	J	多様性への理解力、応用力
	<input type="radio"/>	K	課題対処力
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力
【授業の到達目標】		【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
養護内容が対象児の理解のもとに構築されるものであることを理解する。		目標	A、C
対象児理解の重要性を理解するとともに、その基礎的な態度や技能を養い、児童養護の難しさ面白さを実感する。		目標	B、C、F、J、K
適正な児童観、養護観を養う。		目標	A、F、J

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	• 授業説明 養護的援助行為の特性と専門性	資料：「養護の構造」	配布資料により復習
2	• 乳児院の事例を通して考える(1) ～事例を知る	VTR「乳児院物語」(25分)	乳児院の事例について復習
3	• 乳児院の事例を通して考える(2) ～対象児理解の進め方を考える	VTR「乳児院物語」(5分)	乳児院の事例について復習
4	• 乳児院の事例を通して考える(3) ～ポイントを絞って観察する		乳児院の事例について復習
5	• 乳児院の事例を通して考える(4) ～対象児理解を深める	VTR「狼に育てられた少女」(10分)	レポート作成準備

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
6	・乳児院の事例を通して考える(5) ～望ましい養護を検討する		レポート作成・提出① (事例のまとめ)
7	・実習レポート事例①の検討(1) ～対象児を理解する	資料：「皆と遊べばそれでいい？」	資料により復習
8	・実習レポート事例①の検討(2) ～必要な対応を考える	資料：「皆と遊べばそれでいい？」	レポート作成準備
9	・実習レポート事例①の検討(3) ～事例に関する所見を作成する	資料：「皆と遊べばそれでいい？」	レポート作成・提出② (所見の完成)
10	・実習レポート事例②の検討(1) ～対象児を理解する	資料：「不思議な質問」	レポート作成準備
11	・実習レポート事例②の検討(2) ～必要な対応を考える	資料：「不思議な質問」	レポート作成準備
12	・実習レポート事例②の検討(3) ～事例に関する所見を作成する	資料：「不思議な質問」	レポート作成・提出③ (所見の完成)
13	・児童養護施設の事例を通して考える(1) ～対象児を理解する	VTR「ある遊び」(10分)	児童養護施設について復習
14	・児童養護施設の事例を通して考える(2) ～必要な対応を考える		レポート作成準備
15	・児童養護施設の事例を通して考える(3) ～事例に関する所見を作成する		レポート作成・提出④ (所見の完成)
【到達度の評価（評価方法・基準）】 レポート（4回提出：指定した事例に関する所見を内容とする）を100%として評価する。適切な見立てに基づいた所見であるかどうかを観点とする。 ※ 遅刻・早退は1回につき1点の減点、欠席は1回につき3点の減点。			
【教科書】 特に定めない。資料を配布する。			
【その他補足事項】 とり上げる事例は、授業の進み具合や履修生の関心・興味に応じて変更する場合があります。			

授業科目名	保育相談支援		授業形態・単位数	演習・1単位
			開講年次	2年次
担当教員	職名：准教授 氏名：今 清 孝		開講期	後期
			授業回数	15回
			期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		15時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
幼稚園教諭一種免許状		専門教育科目	選択	
保育士資格		専門教育科目	必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 保育相談支援は、保育者として必要な、保護者に対する保育に関する相談支援について学ぶものである。 本授業は保育に関する専門知識・技術・倫理・価値観を基本に、演習を通し、保護者支援に必要な個別援助技術の基礎知識を学び、保護者支援の基礎技術を修得する。 さらに、カウンセリング技術を深めたい学生には、別にカウンセリング演習等の授業科目の履修を勧める。	【授業の概要との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技術・技能	
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
	<input type="radio"/>	H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	<input type="radio"/>	J	多様性への理解力、応用力	
	<input type="radio"/>	K	課題対処力	
	<input type="radio"/>	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
子どもや保護者の様子、また実際の保護者からの相談内容から、問題を見出し、支援を具体化する能力を身につける。			目標	A、B、C、H、J、K、L
問題の整理方法と支援方法、またそれらの過程を記録し評価する技術を身につける。			目標	A、B、C、J、K

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と目標 (2) 授業内容と評価方法及び留意点 プロジェクト・アドベンチャー	授業計画 授業資料1・ゲーム	課題解決過程の復習
2	保育相談支援の意義	授業資料2 授業資料完成 グループ討議	前回授業資料の確認 親の立場での考え方の検討
3	保育相談支援の原則	授業資料3 授業資料完成 グループ討議	前回授業資料の確認 親の立場での考え方の検討
4	保育相談支援の進め方	授業資料4 授業資料完成 グループ討議	前回授業資料の確認 親の立場での考え方の検討

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
5	保育相談支援の技術(1)	授業資料5 授業資料完成 グループ討議	前回授業資料の確認 保育者の立場での考え方の検討
6	保育相談支援の技術(2)	授業資料6 授業資料完成 グループ討議	前回授業資料の確認 保育者の立場での考え方の検討 1～6のまとめ
7	中間まとめ 小レポート作成	授業資料7	前回授業資料の確認 授業資料の整理
8	保育相談支援の実際(1)	授業資料8 DVD視聴「保育相談支援」 37分	前回授業資料の確認 「助言」「解説」「情報提供」 の在り方の検討
9	保育相談支援の実際(2)	授業資料9 模擬相談演習	前回授業資料の確認 「助言」「解説」「情報提供」 の在り方の検討
10	保育相談支援の実際(3)	授業資料10 模擬相談演習	前回授業資料の確認 「支持」「承認」の在り方の 検討
11	保育相談支援の記録(1)	授業資料11 ロールプレイ	前回授業資料の確認 「支持」「承認」の在り方の 検討
12	保育相談支援の記録(2)	授業資料12 ロールプレイ	前回授業資料の確認 「行動見本」「体験提供」 の在り方の検討
13	保育相談支援の評価(1)	授業資料13 ロールプレイ	前回授業資料の確認 「行動見本」「体験提供」 の在り方の検討
14	保育相談支援の評価(2)	授業資料14 ロールプレイ	前回授業資料の確認 「環境構成」の在り方の 検討 8～14のまとめ
15	まとめ 小レポート作成		前回授業資料の確認
期末 試験	後期末試験		
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明する。			
【到達度の評価（評価方法・基準）】 (1) 筆記試験 70点満点の筆記試験を学期末に実施する。 (2) レポート レポート（2回）は30（各15）点満点の採点とする。課題は授業内容に基づいた枠組みのなかで、学生が関心のある事柄を各自設定する方式とする。 (3) その他 毎授業終了時にレスポンスシートに授業で分かったこと、わからなかったことを記入し提出させ、次回授業時にコメントを記入し返却することで、授業の理解度を深める。			

【教科書】 書名：演習 保育相談支援（第2版）
著者名：小林 育子
発行所：萌文書林
価格：1,600円（税別）

【その他補足事項】

初回授業時に身体運動のゲームを行うので、活動しやすい服装で出席のこと。
ロールプレイ等の実施のため、軽度の運動ができる服装で出席することを求める。
筆記試験の際には、授業配布資料のみの持ち込みを可とする。

授業科目名	乳 児 保 育		授業形態・単位数	演習・2単位
			開 講 年 次	2年次
担当教員	職名：非常勤講師 氏名：横 焮 泰 希 (本務先：東京未来大学 職名：講師)		開 講 期	通年
			授 業 回 数	30回
			期 末 試 験 の 有 無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		30時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
幼稚園教諭一種免許状		専門教育科目	選択	
保育士資格		専門教育科目	必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		授業終了後に教室で質問等に対応する。		

【授業の概要】 保育士としての責務は、子どもの心身が健やかに発達することを保障することであるといつてよい。とくに乳児保育においては、乳児が人間として心を発達させていく核を作ることが保育士の責務であるといつてよい。本授業では、乳児院及び保育所における乳児保育の現状と課題、乳児保育の歴史の変遷、乳児の成長と発達に即した保育の基本を概説し、乳児保育現場での介助技術の問題を扱う。実践現場における保育問題の対処方法について理解を深める中で、乳児を人間に育てるといふことが、どのようなことであるか考察する。また、様々な事例を通して、乳児保育の基礎となる内容を理解し、保育現場から求められる保育計画、環境構成について理解を深める。	【授業の概要との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技術・技能	
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力	
	<input type="radio"/>	D	文章表現力	
	<input type="radio"/>	E	表情及び身体表現力	
	<input type="radio"/>	F	感性及び感動表現力	
	<input type="radio"/>	G	協働能力	
	<input type="radio"/>	H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
	<input type="radio"/>	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	<input type="radio"/>	J	多様性への理解力、応用力	
	<input type="radio"/>	K	課題対処力	
	<input type="radio"/>	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】		【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)		
乳児保育の意義について学び、乳児を人間として保育することの意味を理解すること。		目標	A、C、J	
乳児院、保育所で行われる乳児保育について学び、乳児保育の本質を理解すること。		目標	A、C、J	
乳児保育の歴史の変遷を学び、現代に求められる乳児保育について理解すること。		目標	A、C、J	
乳児保育に必要とされる基本的な介助技術を、実践演習を通して身に付けること。		目標	A、B、G、I、L	
乳児の心身の発達を促す保育について学び、保育計画を立案する力を身に付けること。		目標	A、C、J	

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法 (アクティブラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	「オリエンテーション」	授業計画 教科書・配布資料	シラバスに目を通し、本科目で何を学ぼうとするのかをノートに整理しておくこと。
2	「乳児保育の概念」	教科書・配布資料	乳児保育の「乳」「児」「保」「育」、「乳児」「保育」の字義を調べ、乳児保育とは何かを考察すること。

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
3	「乳児の誕生と命名」	教科書・配布資料・演習用ベビー人形	自分の名前の由来、意味を調べる。命名の意味について考察すること。
4	「乳児保育の歴史」	教科書・配布資料・演習用ベビー人形	乳児院、保育所それぞれの歴史の変遷について調べておくこと。
5	「乳児保育の目的①」 保育所保育指針等の保育関係法令から保育目的を理解する。	教科書・配布資料・演習用ベビー人形	保育所保育指針を読み、乳児保育の目的について考察すること。「いのち」はいつから始まるのかを考察すること。
6	「乳児保育の目的②」 乳児保育の現場で生じる保育問題をもとに乳児保育の目的について討議する。	教科書・配布資料・演習用ベビー人形	保育問題とは何かを考察し、具体的な保育問題を調べておくこと。
7	「乳児保育の制度と現状」	教科書・配布資料・演習用ベビー人形	乳児保育の制度を調べ、何が課題となるかを考察すること。
8	「乳児保育と環境」	教科書・配布資料・演習用ベビー人形	保育環境とは何かを考察し、人的環境と物的環境について具体的な事例を調べておくこと。
9	「乳児院の乳児保育①」 乳児保育について～乳児院の実践の紹介～	教科書・配布資料・演習用ベビー人形	乳児院、ホスピタリズム、アタッチメント、コンピテンス、自尊感情について調べておくこと。
10	「乳児院の乳児保育②」 乳児院の保育問題事例	教科書・配布資料・演習用ベビー人形	乳児院の保育問題について具体的な事例を調べ、その解決への方法を考察すること。
11	「保育所の乳児保育①」 保育所における乳児保育、求められる保育技術、乳児保育での保護者支援とは	教科書・配布資料・演習用ベビー人形	保育所の役割と機能についてまとめ、保育所の乳児保育の役割と責務について考察すること。
12	「保育所の乳児保育②」 指導案の立て方	教科書・配布資料・演習用ベビー人形	保育雑誌等にて乳児保育の日案などをできるだけ集め、相違点や共通点について考察すること。
13	「ホールディングの技術」	教科書・配布資料・演習用ベビー人形	holdingの字義を調べておくこと。また、ベビーを抱くということが、ベビーにとってどのような意味があるのかを考察すること。
14	「母子関係の原点」	教科書・配布資料・演習用ベビー人形	ベビー人形を抱いた時の「かわいい」という気持ちについて、それがどこから生じてくるのか、それは何故生じてくるのかを考察すること。

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
15	「アタッチメントの形成とその意義」	教科書・配布資料・演習用ベビー人形	不安や恐れでいっぱいの時、好きな人に抱きしめられると不思議に落ち着く。これがなぜかについて考察すること。
16	「授乳の介助技術① — 保育目的と調乳技術」	教科書・配布資料・演習用ベビー人形	授乳介助の際に困惑させられる問題状況を想像し、その何が問題で、なぜ問題になるのかを考察すること。
17	「乳児期の発達と保育①」 乳児期前期（新生児から5ヶ月ぐらいまで）の発達と保育について	教科書・配布資料・演習用ベビー人形	0～6ヶ月までの乳児の発達について調べておくこと。
18	「授乳の介助技術②」 乳児の発達と授乳介助の手順、および栄養方式について	教科書・配布資料・演習用ベビー人形	空腹で泣いている乳児を想像し、授乳の準備から終了までの経過をイメージトレーニングする。どのような関わり合いの場面になるのかを考察する。
19	「授乳の介助技術③」 授乳介助に必要な物品、授乳に関する保育問題の事例、ホールディングの技術 授乳介助の技術と手順について	教科書・配布資料・演習用ベビー人形	授乳介助の手順をまとめ、次回のグループごとのプレゼンテーションの打ち合わせをすること。
20	「授乳の介助技術についてグループ発表」	教科書・配布資料・演習用ベビー人形	打ち合わせとリハーサルを行い、自分自身の役割を演じきれるようにしておくこと。
21	「乳児期の発達と保育②」 乳児期後半（5ヶ月ごろから1歳過ぎ）の行動発達と保育について	教科書・配布資料・演習用ベビー人形	乳児期後半の発達について調べておくこと。
22	「おむつ交換の技術」	教科書・配布資料・演習用ベビー人形	「おむつ」の語源や意味について調べておくこと。おむつ交換で保育士が困る問題について考察をすること。
23	「乳児期の発達と保育③」 乳児期から幼児期（1～2歳児）にかけての発達について	教科書・配布資料・演習用ベビー人形	幼児期の発達について調べておくこと。
24	「排泄訓練の介助技術」	教科書・配布資料・演習用ベビー人形	おむつ外しのトレーニングで、どのような問題が発生するのかを調べて考察すること。
25	「乳児期の遊びと指導①」 乳幼児にとっての遊びの意義、意味	教科書・配布資料・演習用ベビー人形	「遊び」の字義について調べておく。乳児保育に適した玩具について考えておくこと。

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
26	「乳児期の遊びと指導②」 ベビー人形を使って遊ばせてみる	教科書・配布資料・演習用ベビー人形	グループで決めた手づくりおもちゃを製作し、どのように遊ばせるのがよいかを工夫してみる。プレゼン用にレシピも準備すること。
27	「ベビーサインから心のメッセージを読み取る」	教科書・配布資料・演習用ベビー人形	言葉を交わさなくても心が通じる体験をレポートし、その意味を考察すること。
28	「保育問題の成立過程と研究方法」	教科書・配布資料・演習用ベビー人形	テキスト第12講「授乳の保育目的」を振り返り、授乳介助の保育問題について、その成立過程を整理しておくこと。
29	「詩人まど・みちおの作品から学ぶ保育のこころ」	教科書・配布資料・演習用ベビー人形	まど・みちおの作品の中から好きなものを一つ選び、その詩の意味を考察すること。
30	「ベビー人形とのわかれ」	教科書・配布資料・演習用ベビー人形	ベビー人形との別離にあたり、「わかれ」の意味を考えておくこと。ベビー人形との別離にふさわしい「うた」を決め、プレゼンに向けて練習をしておくこと。
期末試験	期末テスト		
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について学科を通じて説明する。			
【到達度の評価（評価方法・基準）】 期末テスト30%、グループ演習（30回実施）30%、事前学習レポート（28回提出）20%、リアクションペーパー（30回提出）20%で評価する。 欠席および遅刻については減点対象となり、場合によっては追加レポートを課すことがある。			
【教科書】 書名：乳児保育 演習と講義 改訂版 著者名：金子 保、横畑 泰希 発行所：クオリティケア 価格：2,400円（税別）			
【参考書】 書名：赤ちゃんの心を育てる10則 著者名：金子 保 発行所：サンマーク出版 価格：486円（税別）			

授業科目名	認定こども園基本実習		授業形態・単位数	実習・1単位
			開講年次	2年次
担当教員	職名：兼任准教授 氏名：ながくぼ かず こ 長久保 和子		開講期	通年
			授業回数	時間割外
			期末試験の有無	無
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		—
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
幼稚園教諭一種免許状		専門教育科目	必修	
保育士資格		専門教育科目	必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 本科目は、学外での各種実習を行う前に、本学が独自に設定する必修科目である。本学認定こども園（平成27年度から幼保連携型認定こども園とする）にて、1班10名編成で5日間の実習を行う。初日は講義を中心とし、観察の仕方や日誌の書き方について学ぶ。2～4日目では観察実習を行い、5日目では指導計画や記録のまとめ方に重点を置き、幼児理解における基礎を養う。また、幼児の前で自分の得意とする分野（紙芝居、ピアノ、エプロンシアターなど）の演習を行い、環境構成や製作の手伝いなどを経験しながら、指導法の基礎も理解する。さらに、幼児教育の実際について体験し、適切な勤務態度を身につける。	【授業の概要との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技術・技能	
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力	
	<input type="radio"/>	D	文章表現力	
	<input type="radio"/>	E	表情及び身体表現力	
	<input type="radio"/>	F	感性及び感動表現力	
	<input type="radio"/>	G	協働能力	
	<input type="radio"/>	H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
	<input type="radio"/>	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	<input type="radio"/>	J	多様性への理解力、応用力	
	<input type="radio"/>	K	課題対処力	
	<input type="radio"/>	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】	【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)			
幼児の様子や発達段階を観る。	目標	A、B、D、H、I		
保育教諭の仕事や役割について体験的に学ぶ。	目標	A、B、D、G、H		
認定こども園の目的や機能を知る。	目標	A、B、J		
自己管理を徹底する。	目標	A、G、J、K		
適切な勤務態度を身につける。	目標	A、B、E、G、I、L		

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1 ～ 5	2年次／9月または2月（10名編成） ○実習の目的と意義 ○実習の目標と心構え ○観察（参加）の意義 ○個別観察と全体観察 ○技術演習 ○実習日誌作成 ○環境構成	授業計画 ○講義 ・シラバス、資料に基づいて説明 ・グループディスカッションを行う <場所> 認定こども園2階 実習生室 ○観察、参加、環境構成、技術演習 ・各保育室や園舎内で実際に体験学習を行う。 <場所> 各保育室 (各保育室あたり1～2名)	・一日の活動を振り返り、自分の課題を見つける。 ・一日の活動の流れを日誌にまとめ記録し、翌朝提出する。

【到達度の評価（評価方法・基準）】

- 実習態度（意欲、積極性）
- 適性（保育者としての将来性）
- 幼児理解（一般的特徴の理解）
- 保育（観察と参加）
- 記録（整理と活用、日誌内容）の項目より、評価する。

※詳細は初回授業にて説明する。

- 【実習費】**
- (1) 基本実習委託費 3,000円
 - (2) 腸内感染症検査料（1回分） 600円程度

【その他補足事項】

- (1) 実習最終日に各自、給食費（280円×観察回数）を徴収する。
- (2) 実習を行うにあたり、腸内感染症検査証明書、および風疹・麻疹（はしか）の抗体を有する証明書を実習先へ持参する。
- (3) 評価に関し、学生もしくは家族等が直接、実習先に照会を行ったときは、単位を認定しない場合がある。
- (4) 実習期間中に何らかの理由で出勤ができなくなった場合は、実習期間中の単位を認定しない場合がある（遅刻・早退・欠席した場合について等、初回授業にて説明する）。

授業科目名	保育実習指導 I		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	2～3年次
担当教員	職名：准教授		開講期	通年
	氏名：今 <small>こん</small> 清 <small>きよ</small> 孝 <small>たか</small>		授業回数	30回
			期末試験の有無	無
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		30時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
幼稚園教諭一種免許状		専門教育科目	選択	
保育士資格		専門教育科目	必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 実習の意義・目的、内容を理解し、自らの課題を明確にする。 そして、実習に際しての留意事項（子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務、実習生としての心構え等）、実習の計画と記録の書き方等について具体的に学ぶ。 また、実習事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。	【授業の概要との対応項目】		
	<input type="radio"/>	A	知識
	<input type="radio"/>	B	技術・技能
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力
	<input type="radio"/>	D	文章表現力
		E	表情及び身体表現力
		F	感性及び感動表現力
	<input type="radio"/>	G	協働能力
	<input type="radio"/>	H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	<input type="radio"/>	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
	<input type="radio"/>	J	多様性への理解力、応用力
<input type="radio"/>	K	課題対処力	
<input type="radio"/>	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】	【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)		
保育実習の意義・目的を理解する。	目標	A、B、C	
実習の内容を理解し、自らの課題を明確にする。	目標	A、B、C、D、I、J、K	
実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。	目標	A、B、C、G、H、J、K、L	
実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解する。	目標	A、B、C、D、G、H、J、K、L	
実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。	目標	C、D、G、H、I、J、K、L	

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	児童福祉施設の役割と機能 保育所の役割と機能 居宅型児童福祉施設の役割と機能	講義 教科書 プリント	教科書第1章を熟読して授業参加のこと
2	保育実習の意義と目的 保育実習の意義と目的の理解 保育実習の目標	VTR「保育者へのあゆみ — 保育実習の実際」(30分) ディスカッション	「保育実習の手引き」第1章を熟読して授業参加のこと

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
3	子どもの人権と最善の利益 保育者の役割 子どもの理解	プリント ディスカッション	「子どもの権利条約」読後授業参加のこと 「保育所保育指針」第2章を熟読して授業参加のこと
4	保育実習の心構え 保育士の専門性と職業倫理	「保育実習の手引き」	「保育実習の手引き」第4章を熟読して授業参加のこと
5	実習の諸手続きと内容 実習書類の作成	教科書 実習書類の記入、作成	次回までに書類を仕上げてくること
6	実習記録の理解 記録の意義と役割 実習日誌の留意点	講義 プリント	保育実習反省会の事例を読後授業参加のこと
7	実習日誌の書き方	プリント 日誌の記入練習	保育実習反省会の事例をまとめて資料作成し授業に持参すること
8	実習課題の理解 事前訪問・オリエンテーションについて	講義 グループワーク	各自実習仮課題を検討すること
9	保育所の1日 保育所保育の理解	VTR「保育士・幼稚園教諭になるために」(30分) ディスカッション	「課題レポート」提出
10	保育所実習の実際① 観察・参加・部分実習の方法と留意点	「保育実習の手引き」 ディスカッション	「保育実習の手引き」 ディスカッション
11	保育所実習の実際② 指導案作成の留意点	VTR「軽度発達障害のある子どもたち」第2巻(30分) 指導案作成資料	指導案作成資料準備 保育教材準備
12	指導案作成練習 保育実践の準備	指導案作成練習 質疑応答	次回までに指導案を完成させること
13	特別講義「保育所の理解」	講義 課題レポート ディスカッション	保育士の役割を整理して くること 「課題レポート」提出
14	ロールプレイング① 「指導案の保育実践」	グループワーク 発表 質疑応答	各自作成した指導案と 保育教材持参のこと 「指導案」提出
15	ロールプレイング② 「指導案の保育実践」	グループワーク 発表 質疑応答	各自作成した指導案と 保育教材持参のこと 「指導案」提出
16	ロールプレイング③ 「指導案の保育実践」	グループワーク 発表 質疑応答	各自作成した指導案と 保育教材持参のこと 「指導案」提出
17	実習目標と自己課題の設定	プリント 各自作業 質疑応答	「保育実習の手引き」 教科書から目標と課題を 整理しておくこと

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
18	保育所実習直前指導 実習の手続き 実習生の心得	「保育実習の手引き」再読 各自作業 質疑応答	実習準備の確認 書類、持ち物、交通手段等
19	保育所実習事後指導 実習総括と自己評価	実習終了レポート作成 ディスカッション	「保育実習Ⅰ（保育所） 実習日誌」提出 実習終了レポート提出
20	保育所実習の振り返り 実習内容の課題	各自の実習課題の整理 課題解決策の考察 ディスカッション	次回授業準備 施設実習について「保育 実習の手引き」を熟読後 授業参加すること
21	施設実習の意義と目的 施設実習の意義と目的の理解 施設実習の目標	教科書 プリント	「保育実習の手引き」第 3章を熟読して授業参加 のこと
22	居宅型児童福祉施設等の1日 施設養護の理解	VTR「保育者へのあゆ み——児童福祉施設の 紹介」(31分) ディスカッション	施設の特性を種別ごとに 整理しておくこと
23	施設実習の実際① 観察・参加・責任実習の方法と留意点	「保育実習の手引き」 ディスカッション	「保育実習の手引き」第 4章を熟読して授業参加 のこと 次回授業準備 援助計画作成資料準備 教材準備
24	施設実習の実際② 施設実習目標の設定 援助計画作成の留意点	施設実習目標設定 援助計画作成練習	「援助計画」「実習目標」 提出
25	施設の役割と機能の理解① 利用者の理解 養護内容の理解 生活環境・健康管理・安全対策の理解	講義 ディスカッション	教科書Ⅱ部を読後授業参 加のこと
26	施設の役割と機能の理解② 計画と記録の理解 保育士の役割と職業倫理	講義 プリント ディスカッション	教科書Ⅱ部を読後授業参 加のこと
27	特別講義「施設養護の理解」	講義 課題レポート ディスカッション	実習施設の特性を調べて 整理してくること 「課題レポート」提出
28	施設実習直前指導 実習の手続き 実習生の心得	「保育実習の手引き」再読 各自作業 質疑応答	実習準備の確認 書類、持ち物、交通手段 等の確認
29	施設実習事後指導 実習総括・自己評価	実習終了レポート作成 ディスカッション	「保育実習Ⅰ（施設）実 習日誌」仕上げ 実習終了レポート仕上げ
30	施設実習の振り返り 実習内容の課題 課題解決のための目標設定	各自の実習課題の整理 課題解決策の考察 ディスカッション	「保育実習Ⅰ（施設）実 習日誌」提出 実習終了レポート提出

【到達度の評価（評価方法・基準）】

保育所実習指導案、援助計画、施設実習目標、課題レポート（2年次1回・3年次2回）、各実習終了報告レポート（2回）で評価する。

成績評価は、認定・不認定の判定とする。

評価基準等の詳細は、初回授業で説明する。

【教科書】

- (1) 書名：新保育士養成講座 第9巻 保育実習
著者名：新保育士養成講座編集委員会／編
発行所：全国社会福祉協議会
価格：1,900円（税別）
- (2) 書名：保育実習の手引き
発行所：福島県保育者養成校連絡会
- (3) 書名：福島県保育実習施設
発行所：福島県保育者養成校連絡会

【参考書】

- (1) 書名：実習日誌の書き方
著者名：相馬 和子、中田カヨ子
発行所：萌文書林
価格：1,600円（税別）
- (2) 書名：指導計画の考え方・立て方
著者名：久富 優子／編
発行所：萌文書林
価格：1,800円（税別）
- (3) 書名：幼稚園・保育所実習ハンドブック
著者名：田中まさ子／編
発行所：みらい
価格：2,000円（税別）

【その他補足事項】

特別講義は保育所長又は主任保育士と、養護施設施設長をゲストスピーカーとして各1回招聘する。

授業科目名	体 育		授業形態・単位数	演習・2単位
			開 講 年 次	2年次
担当教員	職名：准教授 氏名：島 田 貴 広 <small>しま だ たか ひろ</small>		開 講 期	通年
			授 業 回 数	30回
			期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		30時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	必修	
幼稚園教諭一種免許状		専門教育科目	必修	
保育士資格		専門教育科目	必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明する。		

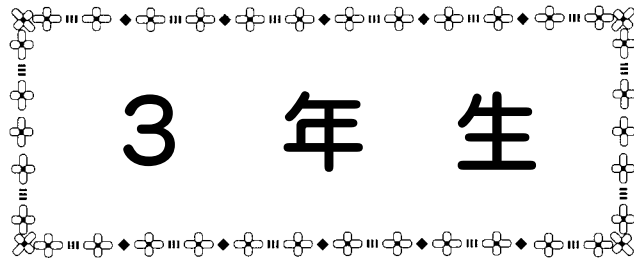
【授業の概要】 子どもの運動あそびや体育領域（体づくり運動、ゲーム、器械運動、ボール運動、表現運動等）の内容について、知識と技術の両面から学習する。発育発達段階に応じた運動あそびの実践方法、安全性を考慮した援助方法を学習する。また、単元ごとにグループ発表（模擬授業）を実施し、実践能力を養う。 子どもの遊びを豊かに展開するために必要な創造力や、子どもが運動に親しむための指導力を身につけ、保育・教育現場で活用できる運動の方法を習得することを授業目標とする。	【授業の概要との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
	<input type="radio"/>	E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
	<input type="radio"/>	G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
	<input type="radio"/>	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
	<input type="radio"/>	K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】		【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)		
幼児体育についての基礎を理論と実践の両面からの理解をテーマとする。		目標	A、B	
発育発達段階に応じた運動遊びの実践方法、安全性を考慮した援助方法の修得を目標とする。(単元ごとに実技テストやグループ発表等を行う)		目標	E、G、I、K	

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	今後の授業展開や内容について	授業計画（シラバス）	
2	体づくり運動		リズム体操の種類を調べてくる
3	リズム体操(1)（グループ発表①）	グループ発表①	体力向上に努める（体力測定の準備）
4	体力測定(1)（5月時点での自分の体力を知る）		マットを使った遊びについて調べてくる
5	マット(1)（様々な遊び）		体力向上に努める
6	マット(2)（グループ発表②）	グループ発表②	実技テストの練習（前転・後転など）

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
7	マット(3) (実技テスト①)	実技テスト①	実技テストの練習（リズム体操）
8	リズム体操(2) (実技テスト②)	実技テスト②	とび箱を使った遊びについて調べてくる
9	とび箱(1) (様々な遊び)		体力向上に努める
10	とび箱(2) (グループ発表③)	グループ発表③	平均台を使った遊びについて調べてくる
11	平均台 (グループ発表④)	グループ発表④	フープを使った遊びについて調べてくる
12	フープ (グループ発表⑤)	グループ発表⑤	体力向上に努める
13	フォークダンス		体力向上に努める
14	バルーン (グループ発表⑥)	グループ発表⑥	前期の復習
15	前期の振り返りと中間試験	筆記試験	体力向上に努める（体力測定の準備）
16	体力測定(2) (10月時点での自分の体力を知る)		運動会の種目について調べてくる
17	運動会 (計画)		体力向上に努める
18	運動会 (準備)	グループ発表⑦-I	体力向上に努める
19	運動会 (実践) (グループ発表⑦)	グループ発表⑦-II	鬼遊び、伝承あそびについて調べてくる
20	鬼あそび・伝承あそび(1) (様々な遊び)		体力向上に努める
21	鬼あそび・伝承あそび(2) (グループ発表⑧)	グループ発表⑧	テストの練習（前、後、あや、二重跳び）
22	なわ (短) (実技テスト③)	実技テスト③	長縄を使った遊びについて調べてくる
23	なわ (長) (グループ発表⑨)	グループ発表⑨	テストの練習（片手投げ、「あんたがたどこさ」の曲に合わせてボールをつく）
24	ボール(1) (実技テスト④)	実技テスト④	ボールを使った遊びについて調べてくる
25	ボール(2) (グループ発表⑩)	グループ発表⑩	運動あそびの指導法についての資料を予習しておく
26	運動あそびの実際について(1) (マット、とび箱など)	「運動や遊びが得意になる！教え方DVD」(31分)	運動あそびの指導法についての復習
27	運動あそびの実際について(2) (水泳、ボール運動など)	「運動や遊びが得意になる！教え方DVD」(30分)	運動あそびの援助について調べてくる
28	運動あそびの実際について(3) (リズム体操など)	「上手な補助の仕方」(28分)	運動あそびの援助についての復習

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
29	子どもの体と運動能力の発達	VTR「幼児の体と心」(24分)	後期授業の復習
30	雪あそび		後期授業の復習
期末試験	期末試験	筆記試験	体力向上に努める
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明する。			
【到達度の評価（評価方法・基準）】 <ul style="list-style-type: none"> • 中間試験 20%、期末試験 40% • 実技テスト 20%（4回×各5点） • グループ発表 20%（10回×各2点） 			
【参考書】 <ul style="list-style-type: none"> (1) 書名：体育あそび120 著者名：近藤 充夫 監修 発行所：チャイルド本社 価格：1,600円（税別） (2) 書名：0～5歳児の運動あそび指導百科 著者名：前橋 明 発行所：ひかりのくに 価格：2,500円（税別） 			
【その他補足事項】 (1) 運動ができる服装および室内用シューズを着用すること。（スカート、ジーンズ、サンダル、素足等での受講は減点の対象とする。） (2) 授業が始まるまでに、アクセサリ類（指輪、ネックレス、ピアス等）は必ず外しておくこと。また、髪が長い学生は一つにまとめること。（教員から注意を受けた場合、減点の対象とする） (3) 貴重品は必ずロッカーに入れること。 (4) 天候によって、第26～30回を入れ替えることがある。			



3 年 生

授業科目名	情報機器操作Ⅲ B		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	3～4年次
担当教員	職名：兼任准教授 氏名：木村信綱		開講期	通年
			授業回数	30回
			期末試験の有無	無
開講キャンパス	駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		30時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		教養教育科目	選択	
幼稚園教諭一種免許状		教養教育科目	選択	
保育士資格		教養教育科目	選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては、初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 タブレット端末（Apple iPad等・スマートフォンを含む）を幼児教育の現場で活用するスキルを学ぶ。本演習では、タブレット端末の操作方法から、デジタル絵本の作成などコンテンツ開発の手法（デジタルペイントの技法、デジタルカメラの取扱いと補正・加工の技法、デジタル動画の撮影・編集の技法など）、さらには情報の共有化としてクラウドを活用してコンテンツを共有する手法を身に付ける。 デジタル絵本の作成の他にも、園だよりのデジタル配信、行事や教職員のスケジュールの共有など実際の現場を想定した演習を中心に展開する。	【授業の概要との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
	<input type="radio"/>	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
		K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
タブレットの基本操作を身に付ける			目標	A、B
教育現場のデジタル活用の現状を把握する			目標	A
タブレットの活用方法を提案することができる			目標	I

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	初回ガイダンス テーマ①「教育現場のデジタル活用の現状把握」(1)	授業計画 レジュメ配布 グループワーク、情報収集	情報収集
2	テーマ①「教育現場のデジタル活用の現状把握」(2)	レジュメ配布 グループワーク、課題抽出	発表準備
3	テーマ①「教育現場のデジタル活用の現状調査」(3) グループごとに調査結果を発表	レジュメ配布 グループワーク、発表	レポート①提出
4	テーマ②「タブレット端末の基本操作」(1)	レジュメ配布 タブレットを利用した演習	利用方法の復習
5	テーマ②「タブレット端末の基本操作」(2)	レジュメ配布 タブレットを利用した演習	利用方法の復習

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
6	テーマ②「タブレット端末の基本操作」(3)	レジュメ配布 タブレットを利用した演習	利用方法の復習
7	テーマ②「タブレット端末の基本操作」(4)	レジュメ配布 タブレットを利用した演習	利用方法の復習
8	テーマ②「タブレット端末の基本操作」(5)	レジュメ配布 タブレットを利用した演習	利用方法の復習
9	テーマ③「教育現場にタブレットを導入する」(1) 教務事務のツールとして	レジュメ配布 タブレットを利用した演習	授業内容の復習
10	テーマ③「教育現場にタブレットを導入する」(2) デジタル教育のツールとして	レジュメ配布 タブレットを利用した演習	授業内容の復習
11	テーマ③「教育現場にタブレットを導入する」(3) コミュニケーションツールとして	レジュメ配布 タブレットを利用した演習	レポート②提出
12	テーマ④「動画コンテンツの活用」(1)	レジュメ配布 動画コンテンツ制作	制作
13	テーマ④「動画コンテンツの活用」(2)	レジュメ配布 動画コンテンツ制作	制作
14	テーマ④「動画コンテンツの活用」(3)	レジュメ配布 動画コンテンツ制作	制作
15	テーマ④「動画コンテンツの活用」(4)	レジュメ配布 動画コンテンツ制作	作品①提出
16	テーマ⑤「教育現場のデジタル活用の将来像」(1)	レジュメ配布 動画コンテンツ制作	情報収集
17	テーマ⑤「教育現場のデジタル活用の将来像」(2)	レジュメ配布 動画コンテンツ制作	レポート③提出
18	テーマ⑥「関連法規を学ぶ」 著作権、個人情報保護法ほか	レジュメ配布	授業内容の復習
19	テーマ⑦「デジタル絵本作成」(1) コンセプトワーク	レジュメ配布 コンセプトワーク	制作
20	テーマ⑦「デジタル絵本作成」(2)	レジュメ配布 コンテンツ制作	制作
21	テーマ⑦「デジタル絵本作成」(3)	レジュメ配布 コンテンツ制作	制作
22	テーマ⑦「デジタル絵本作成」(4)	レジュメ配布 コンテンツ制作	制作
23	テーマ⑦「デジタル絵本作成」(5)	レジュメ配布 コンテンツ制作、提出	作品②提出
24	最終課題「保育現場のデジタル活用提案」(1) 条件指示、テーマ策定	レジュメ配布 グループワーク	プレゼン準備
25	最終課題「保育現場のデジタル活用提案」(2) 提出書類指示、コンセプトワーク	レジュメ配布 グループワーク	プレゼン準備

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
26	最終課題「保育現場のデジタル活用提案」(3) コンセプト確定	レジュメ配布 グループワーク	プレゼン準備
27	最終課題「保育現場のデジタル活用提案」(4) プレゼンテーション準備	レジュメ配布 グループワーク	プレゼン準備
28	最終課題「保育現場のデジタル活用提案」(5) プレゼンテーション準備	レジュメ配布 グループワーク	プレゼン準備
29	最終課題「保育現場のデジタル活用提案」(6) プレゼンテーションのチェック	レジュメ配布 プレゼン指導	プレゼン準備
30	最終課題「保育現場のデジタル活用提案」(7) プレゼンテーションと講評、振り返り	レジュメ配布 プレゼン、講評、振り返り	レポート④提出
【到達度の評価（評価方法・基準）】 <ul style="list-style-type: none"> ・レポート課題（4回予定）60点、作品課題提出（2回予定）40点で評価する。 ・各課題の評価基準や観点については、出題時に詳しく説明する。 ・欠席、遅刻、授業中の態度等については、シラバスの巻頭に掲載した「学業成績評価の共通基準」に沿う。 			
【教科書】 教科書は使用しない。毎回レジュメを配布する。			
【その他補足事項】 <ul style="list-style-type: none"> ※課題の進み具合や理解度によって授業内容を変更する場合がある。 ※作品のクオリティを追求する場合や、制作が終わらなかった場合には、授業時間外に各自で制作を進めること。 			

授業科目名	教育行政		授業形態・単位数	講義・2単位
			開講年次	3年次
担当教員	職名：非常勤講師 氏名：阿内春生 (本務先：福島大学 職名：准教授)		開講期	前期
			授業回数	15回
			期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		60時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
幼稚園教諭一種免許状		専門教育科目	必修	
保育士資格		専門教育科目	選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		授業終了後に教室で質問等に対応する。		

【授業の概要】 教育行政に関する基礎的・基本的な考え方（原理、原則や動向）を幅広く理解する。 そして、教育行政が具体的に幼稚園・学校・教職員、家庭や地域社会とどのような関係を持っているのかについて考え、幼稚園及び学校における適切で効果的な経営・教育実践の在り方について探究する。	【授業の概要との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
		B	技術・技能	
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
		K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】		【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)		
わが国の教育行政の考え方、仕組み、教育制度の変遷等について理解する。		目標	A	
教育行政に基づいた適切で効果的な幼稚園や学校の経営のあり方について考えを深める。		目標	A	
社会の変化に対応できる教育行政のあり方や教職員のあり方について探求する。		目標	A、C	

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	イントロダクション&教育法令の基礎	<ul style="list-style-type: none"> PowerPointの使用 コメントシートと応答による双方向性の確保 	レジュメに基づいて復習。授業中、空欄余白にメモをとる。
2	憲法、教育基本法と教育を受ける権利	<ul style="list-style-type: none"> PowerPointの使用 コメントシートと応答による双方向性の確保 	レジュメに基づいて復習。授業中、空欄余白にメモをとる。
3	教育の政治的中立性と宗教教育	<ul style="list-style-type: none"> PowerPointの使用 コメントシートと応答による双方向性の確保 	レジュメに基づいて復習。授業中、空欄余白にメモをとる。
4	教育行政の機関	<ul style="list-style-type: none"> PowerPointの使用 コメントシートと応答による双方向性の確保 	レジュメに基づいて復習。授業中、空欄余白にメモをとる。

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
5	教育の地方自治	<ul style="list-style-type: none"> • PowerPointの使用 • コメントシートと応答による双方向性の確保 	レジュメに基づいて復習。授業中、空欄余白にメモをとる。
6	学校経営と法制度	<ul style="list-style-type: none"> • PowerPointの使用 • コメントシートと応答による双方向性の確保 	レジュメに基づいて復習。授業中、空欄余白にメモをとる。
7	教員養成・教職員人事	<ul style="list-style-type: none"> • PowerPointの使用 • コメントシートと応答による双方向性の確保 	レジュメに基づいて復習。授業中、空欄余白にメモをとる。
8	教育課程・教科書行政	<ul style="list-style-type: none"> • PowerPointの使用 • コメントシートと応答による双方向性の確保 	レジュメに基づいて復習。授業中、空欄余白にメモをとる。
9	教育と政治	<ul style="list-style-type: none"> • PowerPointの使用 • コメントシートと応答による双方向性の確保 	レジュメに基づいて復習。授業中、空欄余白にメモをとる。
10	私立学校	<ul style="list-style-type: none"> • PowerPointの使用 • コメントシートと応答による双方向性の確保 	レジュメに基づいて復習。授業中、空欄余白にメモをとる。
11	学校教育への参加	<ul style="list-style-type: none"> • PowerPointの使用 • コメントシートと応答による双方向性の確保 	レジュメに基づいて復習。授業中、空欄余白にメモをとる。
12	特別支援教育行政	<ul style="list-style-type: none"> • PowerPointの使用 • コメントシートと応答による双方向性の確保 	レジュメに基づいて復習。授業中、空欄余白にメモをとる。
13	学校教育と格差の再生産	<ul style="list-style-type: none"> • PowerPointの使用 • コメントシートと応答による双方向性の確保 	レジュメに基づいて復習。授業中、空欄余白にメモをとる。
14	就学前教育行政	<ul style="list-style-type: none"> • PowerPointの使用 • コメントシートと応答による双方向性の確保 	レジュメに基づいて復習。授業中、空欄余白にメモをとる。
15	海外の教育政策動向	<ul style="list-style-type: none"> • PowerPointの使用 • コメントシートと応答による双方向性の確保 	レジュメに基づいて復習。授業中、空欄余白にメモをとる。
期末試験	期末試験		
【期末試験の講評】 期末レポート提出後、希望者には期末試験の講評についてメール等を通じて説明する。			
【到達度の評価（評価方法・基準）】 <ul style="list-style-type: none"> • 期末レポート55% • 小レポート作成45%（各回において作成） 			
【教科書】 特になし。自己作成プリントを使用する。			
【参考書】 特になし。各回の参考文献は必要に応じて提示する。			

授業科目名	臨床心理学		授業形態・単位数	講義・2単位
			開講年次	3年次
担当教員	職名：准教授 氏名：佐藤 佑貴		開講期	前期
			授業回数	15回
			期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		60時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	必修	
幼稚園教諭一種免許状		専門教育科目	選択	
保育士資格		専門教育科目	選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 学習や発達等の心理学の基礎理論を用いて、心の問題の解決を図るといふ応用の学問である。本授業では、統合失調症、うつ病、不安障害などの心の病とその対応について学ぶ。ただし、医学的・生物学的な話題は最小限にとどめ、むしろ、臨床心理学がこれらの心の病の治療にどのように貢献できるのかを解説する。 具体的には、近年普及している認知行動療法の視点を中心に用いて、各疾患に特徴的な思考パターンを明らかにしつつ、心の病の心理学的理論や、その理論に基づく病状の査定、評価方法、治療の考え方、そして今後の課題について学ぶ。	【授業の概要との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
		B	技術・技能	
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
	<input type="radio"/>	G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	<input type="radio"/>	J	多様性への理解力、応用力	
		K	課題対処力	
	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力		
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
臨床心理学の諸理論について概要を説明できる。			目標	A、C
個別性と全体性の両視点をもって、相手を理解することができる。			目標	C、J
臨床心理学的な支援について概要を説明できる。			目標	A、C、G

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	ガイダンス “こころ”とは何だろうか？ 心理学について	授業計画	【復習】配布プリントを読み返す
2	臨床心理学的視点について 個性記述的と法則定立的な視点 クリティカルシンキング	【ワーク】いつどこゲーム ・コメントシート	【復習】配布プリントを読み返す
3	こころの理解の仕方(1) こころの発達に関する理論	・コメントシート	【復習】配布プリントを読み返す
4	こころの理解の仕方(2) こころを見る切り口 力動論、行動論、システム論、人間性心理学	・コメントシート	【復習】配布プリントを読み返す
5	こころの理解の仕方(3) アセスメントについて	【小テスト】	【復習】配布プリントを読み返す

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
6	臨床心理学支援の方法(1) 精神分析療法・箱庭療法	【ワーク】 イメージをふくらまそう ・コメントシート	【復習】 配布プリントを読み返す
7	臨床心理学支援の方法(2) 行動療法・認知行動療法	【ワーク】 行動分析をしてみよう ・コメントシート	【復習】 配布プリントを読み返す
8	臨床心理学支援の方法(3) 来談者中心療法・遊戯療法	【ディスカッション】 テーマ：大人の遊びと子どもの遊びについて ・コメントシート	【復習】 配布プリントを読み返す
9	臨床心理学支援の方法(4) 家族療法・短期療法	【ワーク】 ミラクルクエストを使ってみよう ・コメントシート	【復習】 配布プリントを読み返す
10	臨床心理学支援の方法(5) 自律訓練法・動作法	【ワーク】 漸進的筋弛緩法を体験しよう 【小テスト】	【復習】 配布プリントを読み返す
11	こころの病気とその支援(1) 病理水準	・コメントシート	【復習】 配布プリントを読み返す
12	こころの病気とその支援(2) 子どものうつ	【ワーク】 アナグラムに挑戦しよう ・コメントシート	【復習】 配布プリントを読み返す
13	こころの病気とその支援(3) 心身症	【ワーク】 スクイグルをやってみよう 【小テスト】	【復習】 配布プリントを読み返す
14	臨床心理学と保育・幼児教育(1) 問題の捉え方について 個性が障害か	【ワーク】 ある一なしクイズから学ぼう ・コメントシート	【復習】 配布プリントを読み返す
15	臨床心理学と保育・幼児教育(2) 多職種連携	【ワーク】 教育現場における多職種について調べよう ・コメントシート	【復習】 配布プリントを読み返す
期末試験	前期末試験		
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明する。			
【到達度の評価（評価方法・基準）】 ・期末試験 80% 80点満点のテストを実施する ・コメントシートおよび小テスト 20% 毎回、コメントシートの記載または単元末の小テストを実施する。			
【教科書】 特に指定しない。適宜、資料を配布する。			
【参考書】 授業時に随時紹介する。			

授業科目名	育児ストレス		授業形態・単位数	講義・2単位
			開講年次	3年次
担当教員	職名：兼担教授 氏名：織田正昭 おだまさあき		開講期	後期
			授業回数	15回
			期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		60時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
幼稚園教諭一種免許状		専門教育科目	選択	
保育士資格		専門教育科目	選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 育児は文字通り、子どもを育てる人間学的、社会的、生物学的な行動であるが、その方法・技術は時代とともに変化しつつある。とりわけ、母親を取り巻く近年の社会環境の変化は育児の在り方、育児に対する考え方に大きな変化を与え、これは育児ストレスの大きな要因となっている。本講義では、これらを踏まえて育児ストレスに関する基礎知識を理解し、その原因、現状、対応の面から学び、親、家庭、地域、社会、国（行政）レベルの視点から育児ストレスを理解する。	【授業の概要との対応項目】			
	○	A	知識	
		B	技術・技能	
	○	C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
	○	F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
	○	H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
	○	K	課題対処力	
	○	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
育児ストレスの原因・成り立ち、背景要因に関する基礎知識を理解し、単位を取得する			目標	A、F
育児期の母親に対するストレス対応と指導ができるレベルを目指す			目標	H、L
近未来の親予備軍である多くの受講生にとって、将来の自分の育児に応用できる知識と態度を養う。			目標	C、K

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業概要と目標について説明 (2) 評価の方法と授業の進め方の説明	授業テーマ・方法とテキストについてスライドで説明	
2	テキスト分担当所の発表 ～3歳までの子どもの脳(1)、(2)、(3)	分担当発表に関する討論 スライドによる解説 関連VTRの視聴	分担当発表箇所予習 VTR感想文作成
3	テキスト分担当所の発表 ～理想的なコミュニケーション(1)、(2)、(3)	分担当発表に関する討論 スライドによる解説 関連VTRの視聴	分担当発表箇所予習 VTR感想文作成

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
4	テキスト分担箇所の発表 ～理想的なコミュニケーション(4)、(5)、(6)	分担発表に関する討論 スライドによる解説 関連VTRの視聴	分担発表箇所予習 VTR感想文作成
5	テキスト分担箇所の発表 ～子どもが心地よい環境と生活リズム(1) 第1回中間ミニテスト	分担発表に関する討論 スライドによる解説 関連VTRの視聴	分担発表箇所予習 VTR感想文作成
6	テキスト分担箇所の発表 ～子どもが心地よい環境と生活リズム(2)、(3)、(4)	分担発表に関する討論 スライドによる解説 関連VTRの視聴	分担発表箇所予習 VTR感想文作成
7	テキスト分担箇所の発表 ～毎日の健やかな食(1)、(2) ～3歳までの体と健康(1)	分担発表に関する討論 スライドによる解説 関連VTRの視聴	分担発表箇所予習 VTR感想文作成
8	テキスト分担箇所の発表 ～3歳までの体と健康(2) ～心豊かに家庭を運営するために(1)、(2)	分担発表に関する討論 スライドによる解説 関連VTRの視聴	分担発表箇所予習 VTR感想文作成
9	テキスト分担箇所の発表 ～10歳までなぜ大切なのか(1)、(2)、(3)	分担発表に関する討論 スライドによる解説 関連VTRの視聴	分担発表箇所予習 VTR感想文作成
10	テキスト分担箇所の発表 ～頭のいい子が育つ生活習慣(1)、(2) 第2回中間ミニテスト	分担発表に関する討論 スライドによる解説 関連VTRの視聴	分担発表箇所予習 VTR感想文作成
11	テキスト分担箇所の発表 ～できる子になるための家庭学習マニュアル(1)、(2)、(3)	分担発表に関する討論 スライドによる解説 関連VTRの視聴	分担発表箇所予習 VTR感想文作成
12	テキスト分担箇所の発表 ～できる子になるための家庭学習マニュアル(4)、(5)、(6)	分担発表に関する討論 スライドによる解説 関連VTRの視聴	分担発表箇所予習 VTR感想文作成
13	テキスト分担箇所の発表 ～できる子になるための家庭学習マニュアル(7) ～教えて！子育ての新常識Q&A～(1 & 2)、(3 & 4)	分担発表に関する討論 スライドによる解説 関連VTRの視聴	分担発表箇所予習 VTR感想文作成
14	テキスト分担箇所の発表 ～教えて！子育ての新常識Q&A～(5 & 6)、(7 & 8)、(9 & 10)	分担発表に関する討論 スライドによる解説 関連VTRの視聴	分担発表箇所予習 VTR感想文作成
15	まとめ 総合討論	スライドによるまとめ 関連VTRの視聴 学生間の総合討論	VTR感想文作成
期末試験	後期末試験		
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明する。			

【到達度の評価（評価方法・基準）】

- (1) 筆記試験 講義全範囲を対象として期末テストとして行う
(2) 課題発表 テキストをもとにあらかじめ割り振った分担箇所の発表を評価する
(3) 中間ミニテスト 理解度確認のために講義3～4回ごとに1回ミニテストを実施。終了後、授業内で採点する
(4) 授業態度 知識だけでなく講義での態度、積極的発言、質問、討論意欲を評価する

最終的に (1) 60% (2) 10% (3) 20% (4) 10% の割合で総合評価する。

【教科書】

- (1) 書名：3歳までの子育ての教科書
著者名：茂木健一郎、林 成之 ほか
発行所：アスコム
価格：1,100円（税別）
- (2) 書名：10歳までの子育ての教科書
著者名：篠原 菊紀、池田 清彦 ほか
発行所：アスコム
価格：1,100円（税別）

【参考書】

- 書名：最新科学でハッピー子育て ～夜泣き・イヤイヤ・人見知りにも理由があった！
著者名：NHK出版 編
発行所：NHK出版
価格：1,000円（税別）

【その他補足事項】

毎回、講義内容に関するビデオを視聴し、意見を述べあう。

授業科目名	カウンセリング概論		授業形態・単位数	講義・2単位
			開講年次	3年次
担当教員	職名：非常勤講師 氏名： ^{まつ} 松 ^{もと} 本 ^{たか} 貴 ^{とも} 智 (本務先：福島県立医科大学 職名：助手)		開講期	前期
			授業回数	15回
			期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		60時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
幼稚園教諭一種免許状		専門教育科目	選択	
保育士資格		専門教育科目	選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		授業終了後に教室で質問等に対応する。		

【授業の概要】 人を援助する上で重要な人間理解の視点を、自己理解と他者理解の側面から身に付ける。また、援助のためのコミュニケーションの手段として、「伝える」「聴く」「表現すること」の方法を演習を通じて身に付ける。その上で、カウンセリングを学ぶための基本姿勢として、情報の取り扱いや職業倫理について学び、基礎理論としてロジャーズのクライエント中心療法について学ぶ。最終的にはカウンセリングの対象者である人間を多面的に理解する視点を身に付けることを目指す。	【授業の概要との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
	<input type="radio"/>	E	表情及び身体表現力	
	<input type="radio"/>	F	感性及び感動表現力	
	<input type="radio"/>	G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	<input type="radio"/>	J	多様性への理解力、応用力	
		K	課題対処力	
	<input type="radio"/>	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
基本的なカウンセリング・マインドについて理解し、説明することができる。			目標	A、J
基本的なカウンセリング技術について学び、実践することができる。			目標	B、E、F、G、L

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法 (アクティブラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	本講義に関するオリエンテーション 講義の概要と目標や、講義の進め方について	授業計画	
2	カウンセリングとは？ カウンセリングの目的について	補足資料1-1 グループワーク	教科書P16～34を事前に熟読
3	カウンセリングとは？ 自己理解・体験的理解・身体表現について	補足資料1-2 グループワーク	教科書P16～34を事前に熟読
4	受容と傾聴 傾聴の重要性と難しさ	補足資料3-1 グループワーク	教科書P35～59を事前に熟読
5	受容と傾聴 マインドフルに聴く	補足資料3-2 体験的ワーク	教科書P60～75を事前に熟読
6	応答技法について 質問・あいづちなど	補足資料4-1 グループワーク	教科書P76～101を事前に熟読

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
7	応答技法について 感情の明確化や自己開示など	補足資料4-2 グループワーク	教科書P76～101を事前に熟読
8	応答技法について 声の大きさ・声の調子・姿勢など	補足資料4-3 グループワーク	教科書P102～121を事前に熟読
9	様々なカウンセリング技法 クライアント中心療法	補足資料5-1 DVD視聴「クライエント中心療法」について	教科書P122～154を事前に熟読
10	様々なカウンセリング技法 精神分析的心理療法	補足資料5-2 DVD視聴「精神分析的心理療法について」	教科書P122～154を事前に熟読
11	様々なカウンセリング技法 認知行動療法	補足資料5-3 DVD視聴「認知行動療法について」	教科書P122～154を事前に熟読
12	カウンセラーは何を伝えるか？ 表現方法・非言語的メッセージなど	補足資料6 グループワーク	教科書P122～154を事前に熟読
13	カウンセラーは何を理解するか？ 不安や悩みの理解と成長への支援	補足資料7	教科書P155～169を事前に熟読
14	カウンセリングの限界 カウンセリングのできる事、できない事	補足資料8	教科書P170～183を事前に熟読
15	本講義のまとめ、振り返り	補足資料9	講義した重点項目を再確認
期末試験	前期末試験		
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、学科を通じて説明する。			
【到達度の評価（評価方法・基準）】 (1) 筆記試験 70% 選択式・記述式のテストを学期末に実施して成績を評価する。 (2) 小テスト 30% 講義内容の理解の確認のために3回～4回、小テストを実施する。講義内で回答を確認し、理解不足の箇所について確認する資料とする。			
【教科書】 書名：技芸としてのカウンセリング入門 著者名：杉原 保史 発行所：創元社 価格：2,000円（税別）			

授業科目名	保育内容指導法 健康		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	3年次
担当教員	職名：教授 氏名：佐藤 理		開講期	通年
			授業回数	30回
			期末試験の有無	無
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		30時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	必修	
幼稚園教諭一種免許状		専門教育科目	必修	
保育士資格		専門教育科目	必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 幼児にとっての健康とその意義を理解するとともに、保育者として健康を指導する時の具体的な方法を習得することを目標としている。幼児にとっての健康については幼稚園教育要領の領域「健康」にそって講義を展開する。前半では幼稚園教育要領における健康の位置づけ、健康領域「ねらい」と「内容」、幼児の健康にかかわる身体的、精神的発育発達及び健康の保持増進の条件となる運動や生活について講義を進める。後半では保育者として健康を指導する時の具体的な方法について指導案を作成し模擬指導をとおして実践力を培う。	【授業の概要との対応項目】			
	○	A	知識	
		B	技術・技能	
	○	C	論理的思考力	
	○	D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
	○	F	感性及び感動表現力	
	○	G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
	○	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
○	K	課題対処力		
○	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力		
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
幼児にとっての健康及びその意義を理解する。			目標	A
今日の幼児の健康的な発育発達に関する課題をつかむことができる。			目標	C、D、G、I、L
健康的な発育発達支援のための指導計画案を作成し、模擬指導をとおして指導することができる。			目標	D、F、I、K

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション1 (1) 授業の概要と目標 (2) テキストについて	シラバス テキスト	
2	オリエンテーション2 (3) テキスト読み取りとレポートについて (4) その他	テキスト	
3	子どものからだと心の状況1 テーマ選択と作業グループ編成1	レポート報告とディスカッション	テキスト読み取り。 レポート作成
4	子どものからだと心の状況2 レポート作成グループワーク1	レポート報告とディスカッション	テキスト読み取り。 レポート作成

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
5	子どものからだと心の状況3 レポート作成グループワーク2	レポート報告とディスカッション	テキスト読み取り。 レポート作成
6	子どものからだと心の状況4 レポート発表と討論1	レポート報告とディスカッション	テキスト読み取り。 レポート作成
7	子どものからだと心の状況5 レポート発表と討論2	レポート報告とディスカッション	テキスト読み取り。 レポート作成
8	子どものからだと心の状況6 テーマ選択と作業グループ編成2	レポート報告とディスカッション	テキスト読み取り。 レポート作成
9	子どものからだと心の状況7 レポート作成グループワーク3	レポート報告とディスカッション	テキスト読み取り。 レポート作成
10	子どものからだと心の状況8 レポート作成グループワーク4	レポート報告とディスカッション	テキスト読み取り。 レポート作成
11	子どものからだと心の状況9 レポート発表と討論3	レポート報告とディスカッション	テキスト読み取り。 レポート作成
12	子どものからだと心の状況10 レポート発表と討論4	レポート報告とディスカッション	テキスト読み取り。 レポート作成
13	子どものからだと心の状況11 レポートの論点整理と課題の確認	レポート報告とディスカッション	
14	まとめ1	テキスト	講義内容の復習
15	まとめ2（試験を含む）		
16	オリエンテーション (1) 授業の概要と目標 (2) 授業内容と評価の方法 (3) その他	シラバス 幼稚園教育要領 保育所保育指針	
17	領域「健康」のねらいと内容1	スライドによる解説 保育所保育指針 幼稚園教育要領	講義内容の復習
18	領域「健康」のねらいと内容2	スライドによる解説 保育所保育指針 幼稚園教育要領	講義内容の復習
19	健康づくりに向けた保健指導1 指導のねらい 指導案について	スライドと講義資料による解説と演習	講義内容の復習
20	健康づくりに向けた保健指導2 教材・教具の工夫1	スライドと講義資料による解説と演習	講義内容の復習
21	健康づくりに向けた保健指導3 教材・教具の工夫2	スライドと講義資料による解説と演習	講義内容の復習
22	健康づくりに向けた保健指導4 教材・教具の工夫3	模擬指導演習	講義内容の復習
23	健康づくりに向けた保健指導5 指導案の構想	模擬指導演習	講義内容の復習

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
24	健康づくりに向けた保健指導6 指導案作成	スライドと講義資料による解説と演習	講義内容の復習
25	健康づくりに向けた保健指導7 リハーサルと指導案・教具の修正1	スライドと講義資料による解説と演習	講義内容の復習
26	健康づくりに向けた保健指導8 リハーサルと指導案・教具の修正2	スライドと講義資料による解説と演習	講義内容の復習
27	健康づくりに向けた保健指導9 模擬指導と相互検討・自評1	模擬指導演習	講義内容の復習
28	健康づくりに向けた保健指導10 模擬指導と相互検討・自評2	模擬指導演習	講義内容の復習
29	まとめ1	スライドと講義資料による解説	講義内容の復習
30	まとめ2（試験を含む）		
【期末試験の講評】 試験終了後、希望者には試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明する。			
【到達度の評価（評価方法・基準）】 (1) レポート作成・発表 30% (2) 教材・教具制作・模擬指導 30% (3) 試験（前・後） 30% (4) 受講態度 10%（意見発表及び発言内容等）			
【教科書】 書名：子どものからだと心白書2017 著者名：子どものからだと心・連絡会議 発行所：ブックハウスHD 価格：2,000円（税別）			
【参考書】 (1) 書名：幼稚園教育要領〈平成29年度告示〉 著者名：文部科学省 発行所：フレーベル館 価格：149円（税別） (2) 書名：保育所保育指針〈平成29年度告示〉 著者名：厚生労働省 発行所：フレーベル館 価格：149円（税別） (3) 書名：幼保連携型認定こども園教育・保育要領〈平成29年度告示〉 著者名：文部科学省・厚生労働省 発行所：フレーベル館 価格：149円（税別）			
【その他補足事項】 後期では模擬指導のための教具作成を行います。準備する物については、オリエンテーションで説明する。			

授業科目名	保育内容指導法 人間関係		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	3年次
担当教員	職名：兼任講師 氏名：鈴木智子		開講期	通年
			授業回数	30回
			期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		30時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	必修	
幼稚園教諭一種免許状		専門教育科目	必修	
保育士資格		専門教育科目	必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 幼稚園教育要領及び保育所保育指針の領域「人間関係」について理解し、乳児期から幼児期にかけての発達や道徳性や規範意識の発達について理解する。 具体的には、保育における人間関係を様々な側面から理解できるように、現場での実践を振り返りの際、自分自身が経験してきた人間関係や現在の他者との関係の持ち方なども考え、具体的なテーマに基づいて理解を深める。人間関係の指導方法を実践事例を通して具体的に培う。	【授業の概要との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
	<input type="radio"/>	G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	<input type="radio"/>	J	多様性への理解力、応用力	
	<input type="radio"/>	K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】		【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)		
現代社会における子どもを取り巻く環境とその「人間関係」を理解する。		目標	A、C、L	
幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の領域「人間関係」のねらいや内容を具体的事例から学び、その指導法について理解する。		目標	A、B、G	
保育実践での「人間関係」に関わる具体的問題を取り上げ、基本的な考え方と方法を考察し適切な援助や対応ができる力を培う。		目標	A、J、K	

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	保育内容指導法「人間関係」の概要・本講義のガイダンス	教科書 「今までの人生で心に残った人々について」 グループ討議	乳幼児にとっての人間関係
2	乳幼児にとっての人間関係について	教科書 プリント資料1	P 9～20 現代社会の子どもを取り巻く人間関係
3	幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領における領域「人間関係」について	教科書 プリント資料2	P21～23 領域「人間関係」と他領域の関連

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
4	教育課程・保育課程における領域「人間関係」の考え方	教科書 プリント資料3	領域「人間関係」 P21～28
5	領域「人間関係」と他領域との関係の基礎理解	教科書 プリント資料4	P29～31 領域「人間関係」と他領域の関連
6	領域「人間関係」のねらい及び内容の基礎理論	教科書 プリント資料5	レポート① 領域「人間関係」のねらい及び内容
7	乳幼児の発達と人間関係(1) 0歳児～3歳未満児の発達とかかわりの方法 事例を通した指導方法	教科書 プリント資料6 DVD「育ちあい・ある 保育園の子どもたち」	P31～36 0歳児から3歳未満児の 発達とかかわり
8	乳幼児の発達と人間関係(2) 3歳児の発達とかかわりの方法 事例を通した指導方法	教科書 プリント資料7	P37 3歳児の発達とかかわり
9	乳幼児の発達と人間関係(3) 4、5歳児の発達とのかかわりの方法 事例を通した指導方法	教科書 プリント資料8	レポート② 4、5歳児の発達とのか かわり
10	領域「人間関係」の指導計画の考え方	教科書 プリント資料9	P134～139「人間関係の 指導計画」
11	「遊びを通した保育者とかかわり」 保育者とかかわりをねらいにした保育計画案の作成と保育方法「0、1歳児」	教科書 プリント資料10 DVD「0歳児の保育・ 1歳児の保育・自我の芽 生え」	P40～42 乳幼児における遊びの意義
12	「遊びを通した友達とかかわり」 友達とかかわりをねらいにした指導計画案の作成と保育方法「2歳児」	教科書 プリント資料11 DVD「2歳児の保育・ 遊びを育む」	P43～45 遊びの中で育つ人間関係
13	「遊びを通した友達とかかわり」 友達とかかわりをねらいにした指導計画案の作成と指導方法「3歳児」	教科書 プリント資料12 グループワーク「指導計 画案の作成」3歳児	P46～51 遊びの中で育つ人間関係
14	「遊びを通した友達とかかわり」 友達とかかわりをねらいにした指導計画案の作成と指導方法「4歳児」	教科書 プリント資料13 グループワーク「指導計 画案の作成」4歳児	P46～51 遊びの中で育つ人間関係
15	「遊びを通した友達とかかわり」 友達とかかわりをねらいにした指導計画案の作成と指導方法「5歳児」	教科書 プリント資料14 グループワーク「指導計 画案の作成」5歳児	レポート③ 指導計画案の作成
16	環境とのかかわりから生まれる幼児期の人間関係・物とのかかわりを通した指導方法(1)	教科書 プリント資料15	P54～55 環境とのかかわりから生 まれる幼児期の人間関係

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
17	社会とのかかわりを通した指導方法(2)	教科書 プリント資料16	P54～59 社会とのかかわりをとおして
18	自然とのかかわりを通した指導方法(3)	教科書 プリント資料17	P61～62 自然とのかかわりをとおして
19	さまざまな人々との交流活動の実践 異年齢とのかかわりの指導方法(1) 「自由遊びでの保育者のかかわり方」	教科書 プリント資料18 DVD「育ちあい・ある 保育園の子どもたち」 グループ討議	P87～89 異年齢とのかかわり
20	さまざまな人々との交流活動の実践 異年齢とのかかわりの指導方法(2) 「給食活動での保育者のかかわり方」	教科書 プリント資料19	P87～89 異年齢とのかかわり
21	さまざまな人々との交流活動の実践 地域の人々とのかかわりの指導方法(1) 「秋祭り参加における保育者のかかわり方」	教科書 プリント資料20	P90～91 地域の人々とのかかわり
22	さまざまな人々との交流活動の実践 地域の人々とのかかわりの指導方法(2) 「収穫祭での保育者のかかわり方」	教科書 プリント資料21	レポート④ 地域の人々とのかかわり
23	他の幼児との葛藤、つまずき場面での指導方法 実践指導法(1)	教科書 プリント資料22	プリント資料21・22
24	他の幼児との葛藤、つまずき場面での指導方法 実践指導法(2)	教科書 プリント資料23	プリント資料22・23
25	保護者への支援事例 実践指導法(1)	教科書 プリント資料24	P111～112 保育者と保護者の人間関係
26	保護者への支援事例 実践指導法(2)	教科書 プリント資料25	P118～123 地域子育て支援センター
27	幼稚園・保育所・小学校の連携のあり方 具体的指導方法の理解	教科書 プリント資料26	P87～97 幼・保・小の交流活動の実践
28	多文化保育と人間関係 異文化理解における保育内容の理解と指導方法の実際	教科書 プリント資料27	P125～133 多文化保育と人間関係
29	乳幼児を取り巻く人間関係と今後の課題	教科書 プリント資料28	プリント資料27・28 レポート⑤ 人間関係と今後の課題
30	保育内容指導法「人間関係」のまとめ	教科書 プリント資料29	プリント資料1～29
期末試験	期末試験		
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明する。			

【到達度の評価（評価方法・基準）】

- (1) 筆記試験 70点満点の記述方式のテストを学期末に実施
(2) レポート レポートは30点満点の採点とする。(6点満点×5回) 課題は授業内容に沿い、事前に伝達する。

【教科書】

- (1) 書名：保育実践を学ぶ 保育内容「人間関係」
著者名：咲間まり子
発行所：みらい
価格：2,000円（税別）
- (2) 書名：平成29年告示保育所保育指針解説書
発行所：フレーベル館
価格：320円（税別）
- (3) 書名：平成29年告示幼稚園教育要領解説書
発行所：フレーベル館
価格：240円（税別）
- (4) 書名：平成29年告示幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説
発行所：フレーベル館
価格：350円（税別）

授業科目名	保育内容指導法 表現Ⅱ		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	3年次
担当教員	職名：非常勤講師 氏名： ^{すずき ゆみこ} 鈴木 裕美子 (本務先：福島大学人間発達文化学類 職名：特任教授)		開講期	通年
			授業回数	30回
			期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		30時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
幼稚園教諭一種免許状		専門教育科目	必修	
保育士資格		専門教育科目	選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		授業終了後に教室で質問等に対応する。		

【授業の概要】 こどもの身体表現における発達段階をふまえ、幼児期の表現の特徴やその意義を理解する。こどもの姿を具体的に把握しながら「表現」と「感性」の関係や、イメージの形成について考えていく。実技では保育現場で行う様々な表現遊びと指導上の留意点や、表現題材の特徴を知る。基礎・基本を体験的に学びながら、創作を通して知識や技術を身に付け、「表現」領域における身体表現の望ましい指導の在り方を探る。	【授業の概要との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
	<input type="radio"/>	E	表情及び身体表現力	
	<input type="radio"/>	F	感性及び感動表現力	
	<input type="radio"/>	G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
		K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】	【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)			
「表現」の指導法の理解をテーマとし、幼児期の発達特性を理解し、豊かな感性と表現力を養う。	目標	A、E、F		
保育者として発達とねらいに応じた表現遊びを展開・指導することができるようになる。	目標	A、B、G		
伝統的な表現遊びや、イメージを動きで表現して楽しむ体験を通して、各自の感性や身体表現能力を高める。	目標	E、F、G		
こどもが意欲的に取り組める指導法について知識・能力を深化させることができるようになる。	目標	A、B		

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション、鑑賞（教室） (1) 授業の概要と目標（授業内容） (2) 評価方法、授業の進め方の留意点	授業計画 DVD視聴（30分）「人間発達と表現」（映像利用）	こどもの表現活動の映像鑑賞
2	「表現」に関するねらいと内容 ・幼稚園教育要領、保育所保育指針をふまえて	教科書補足資料1	幼稚園教育要領、保育所保育指針に書かれている「ねらい」を事前に読む
3	幼児身体表現の特質	教科書補足資料2	こどもの観察

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
4	幼児身体表現の発達(1) ・発達の特性	教科書補足資料3	こどもに関する新聞記事や雑誌を読む
5	幼児身体表現の発達(2) ・身体表現における発達段階	教科書補足資料4	自分の幼児期を振り返る
6	幼児身体表現の発達(3) ・身体表現の形式	教科書補足資料5	表出と表現の違いを理解する
7	前期中間試験 ・身体表現の指導の留意点	筆記試験	こどもへの言葉かけを検討する
8	身体表現の内容とその指導(1) ・心身を開放する表現遊び	DVD視聴（30分）「人間発達とダンス・表現運動」（映像利用）	表現遊びの検討
9	身体表現の内容とその指導(2) ・伝承遊び	・権兵衛さんの赤ちゃん ・はないちもんめ ・だるまさんがころんだ ・あぶくたったにえたった ・とんだとんだとんだ	伝承遊びから表現へ発展できる題材を探す
10	第10回：身体表現の内容とその指導(3) ・ものまね遊び	・行事 ・お仕事	ジェスチャーの練習
11	身体表現の内容とその指導(4) ・ことばを手がかりとした身体表現	・動きでしりとり ・○ではじまる言葉を動きで表現する	替え歌を作る
12	身体表現の内容とその指導(5) ・音を手がかりとした身体表現	・ペンとひきゃヒュー ・エアー楽器 ・オノマトペ	・音をまねる ・音と遊ぶ ・音を表現する ・音を出す表現 vs 音の表現
13	身体表現の内容とその指導(6) ・日常動作を手がかりとした身体表現	・○○の一日（私、宅急便屋さん、スポーツマン、忍者） ・おそうじ	一日の行動をパターン化する
14	身体表現の内容とその指導(7) ・モノを手がかりとした身体表現	遊具を操作する	遊具を使って動きを作る
15	前期末試験 ・童謡に振り付けをする	実技試験	童謡を分類
16	運動課題(1) ・走る — 止まる、走る — とぶ — ころがる	DVD視聴（30分）「人間発達とダンス・表現運動」（映像利用）	こどもの基本動作について考える
17	運動課題(2) ・のびる — ちぢむ — まわる、ねじる — まわる — 見る	連続した運動で表現	こどもの基本的な運動について考える
18	イメージ課題(1) ・動物園にいこう	・動物の行進 ・物語を作って表現	動物園の動物を挙げる
19	イメージ課題(2) ・ディズニーランド	・乗り物博覧会 ・物語を作って表現	ディズニーランドの遊具を挙げる

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
20	イメージ課題(3) ・おもちゃ箱	・表しているおもちゃを当てる ・物語を作って表現	おもちゃを挙げる
21	群構成(1)	集団の動きを表現	ウェーブの表現を考える
22	群構成(2)	マスゲームを作る	マスゲームを検討する
23	見立ての世界(1) ・しんぶんし	・新聞紙で遊ぶ ・新聞紙になる ・新聞紙で表現する	新聞紙で何ができるか試す
24	見立ての世界(2) ・ボール ・縄	遊具を何かに見立てて表現する	小道具を作る(ポンポン、こきりこ竹、サンバ棒、サクラ紙の花)
25	見立ての世界(3) ・パラバルーンで遊ぶ ・布を使った表現	・パラバルーンで遊ぶ ・布を使った表現	布で何ができるか試す
26	鑑賞 ・幼児の作品、先輩作品、芸術作品など	DVD視聴(30分)「ミュージカル」(映像利用)	見たことのあるミュージカルのストーリーを確認する
27	ミュージカル(1) ・シナリオ作り ・絵本を手がかりとした身体表現	・ストーリーを作る ・イソップ、グリム、アンデルセン、アラビアンナイト、ディズニーなどの物語の絵本を参考にする	物語をそのまま表現したり、一部変更したり、オリジナルなシナリオを作るなど、グループで検討する
28	ミュージカル(2) ・動き作り、音作り、衣装、小道具の工夫	動きを作る	使えそうな音楽を選んで持参
29	ミュージカル(3) ・踊り込み	・歌、踊り、語りを入れる ・感情を込める	メリハリを工夫する
30	ミュージカル(4) ・発表会・VTR撮影	DVD撮影	作品の場当たり、発表
期末試験	後期末試験	運動と表現の相関	評価の観点を考える
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明する。			
【到達度の評価（評価方法・基準）】 ・前期末試験 30% ・後期末試験 40% ・レポート提出 10% ・受講態度 20%（授業への積極的な参加態度及び質疑等への自発的な応答）			
【教科書】 書名：子ども・からだ・表現 ― 豊かな保育内容のための理論と演習 ― <改訂2版> 著者名：西 洋子、本山 益子、吉川 京子 発行所：市村出版 価格：2,400円（税別）			

- 【参考書】**
- (1) 書名：保育内容「表現」 ― からだで感じる・表す・伝える ―
著者名：池田 祐恵、猪崎 弥生
発行所：杏林書院
価格：2,300円（税別）
 - (2) 書名：スイミー ちいさなかしこいさかなのはなし
著者名：レオ・レオニ（著）、谷川俊太郎（翻訳）
発行所：好学社
価格：2,300円（税別）
 - (3) 書名：わまわしまわるわ
著者名：まどみちお、鈴木 康司
発行所：童心社
価格：1,000円（税別）

授業科目名	教育方法及び技術		授業形態・単位数	講義・2単位
			開講年次	3年次
担当教員	客員教授 非常勤講師	みやさき 宮前 貢 しみず 清水 英典	開講期	前期
			授業回数	15回
			期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		60時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
幼稚園教諭一種免許状		専門教育科目	必修	
保育士資格		専門教育科目	選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		授業終了後に教室で質問等に対応する。		

【授業の概要】 幼稚園、保育所、認定こども園等の現場における保育、教育を意義深いものにするため、目的的な営みとしての教育活動と、今日の具体的保育、教育現場で行われている教育方法について理解を深める。幼稚園教育要領、保育所保育指針に基づく保育・教育の計画、実施、評価の実際と情報機器、ICT技術の効果的活用について学び、理解を深める。	【授業の概要との対応項目】			
	○	A	知識	
	○	B	技術・技能	
	○	C	論理的思考力	
	○	D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
	○	H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
	○	K	課題対処力	
	○	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
目的的な営みとしての教育と教育方法に関わる基本的な内容を理解する。			目標	A、C
今日の教育保育活動と教育方法について理解する。			目標	A、D、H
教育保育活動の計画、実施、評価の基本について理解する。			目標	A、L
教育保育活動の準備、設計、実施、評価検討までの主要フェーズにおける情報機器、ICT技術活用との兼ね合いを知る。			目標	A、B、K

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法 (アクティブラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	ガイダンス この授業で考える内容と「教育方法」について (担当：宮前 貢)	授業計画 「教育の方法」について グループで話し合う。	配布資料をもとに復習する。
2	目的的な営みとしての教育 (担当：宮前 貢) ・幼稚園教育要領と保育所保育指針に基づく「教育・保育」	目的的な営みとしての教育活動の基本要素についてグループで考える。	授業内容について振り返りまとめる。
3	今日の教育方法(1) ・体験的活動の実際 (担当：宮前 貢)	これまでの学習体験で心に残ることを発表し合う。	体験的活動の価値を整理する。

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
4	今日の教育方法(2) ・話し合い活動の実際 (担当：宮前 貢)	考える力を育てる活動についてグループで話し合いまとめる。	話し合い活動の価値を整理する。
5	今日の教育方法(3) ・子どもの思考力、表現力を育てる観点 (担当：宮前 貢)	子どもの表現力を育てる活動をグループで考えまとめる。	表現力とことばの関係を復習する。
6	「保育・教育」の方法 ○子ども中心 ○子どもの実態 経験を通して学ぶ (担当：宮前 貢)	子どもの体験的活動の持つ意義を考え、グループで話し合う。	体験的活動の教育的意義を整理する。
7	子どもへの柔かな対応 ・見る — ほめる — 心配り — 手をさしのべる (担当：宮前 貢)	見る — ほめる教師の動きの意義を考えグループで話し合う。	ほめることの大切さをまとめる。
8	授業の設計・準備(1) ・教材研究の意義と方法 ・教材の作成・推敲と情報収集 (担当：宮前 貢)	教材研究の必要性について自分の考えをまとめる。	教材研究について資料をもとに予習する。
9	授業の設計・準備(2) コンピュータと学習支援・情報メディアの活用からの授業構成と学習指導案例 (担当：清水英典)	BYOD (Bring your own device) に取り組む。ここでは主として個人所有のデジタルデバイスを授業利用する方法を学ぶ。	Googleアカウントを取得して授業参加すること。
10	「教育・保育」の計画案と実践 ・活動の総合性 — ねらいの焦点化 — 教師の指導 ・援助 (担当：宮前 貢)	活動の総合性についてグループで話し合いまとめる。	ねらいの焦点化の必要性をまとめる。
11	授業実施と展開 ・授業展開と教授方法 (目標設定に照らした「教示」「考えさせる」「状況把握」) ・教示方法とICT活用 (板書、プレゼンテーション、視聴覚メディア) (担当：清水英典)	自分のデジタルデバイスでの情報検索を行い、収集した情報を適切に処理分析して再構築できる。情報の収集方法としてクラウドのフォーム利用、情報の処理・分析ツールとして表計算プログラムの基礎的な利用ができる。授業の大半がグループでの議論・調査・集計・分析・討論・プレゼンテーション等になる。	今後のデジタルデバイスの在り方について、インターネット等で収集した資料を利用し、調査レポートとしてまとめる準備をする。
12	計画と実践の評価 ・一人ひとりの子どもの学びの実際と形成的評価 ・子どもの活動の実際と環境構成 (担当：宮前 貢)	形成的評価の大切さについて自分の考えを発表する。	評価の必要性について復習する。
13	学びの評価と学びの履歴・計画と学びの履歴の管理と活用 (情報収集と管理) (担当：宮前 貢)	学びの履歴としてのカリキュラムについて自分のことばをまとめる。	計画の大切さについてまとめる。
14	評価方法とICT ・相対評価と絶対評価 ・学習過程と成果の評価、ポートフォリオ (担当：清水英典)	11で行った内容を、グループ別にまとめ、成果物のデジタルデータは、クラウド上に保存し共有し発表する。	近未来に出来うると考えられる情報端末を予測し、「あったらいいな」「学習や生活に役立つだろう」と思える機能を考えまとめる。

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
15	実践事例、最新の動向と課題 移動型情報携帯端末の実践例 まとめ (担当：清水英典)	新型デバイスと今後のITやAIの方向について説明し、自分の欲しいと考えるデジタルデバイスを簡単にまとめる。	自分の考える近未来の情報端末は現在どの程度研究されているかを考えてくる。
期末試験	前期末試験		
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、学科を通じて説明する。			
【到達度の評価（評価方法・基準）】 ・期末試験 70% ・授業後の感想・質問・意見の提出 30%（授業後毎回提出）			
【教科書】 授業時に適宜資料を配布する。			
【参考書】 <ol style="list-style-type: none"> (1) 書名：幼稚園教育要領解説 著者名：文部科学省 (2) 書名：改訂版 教育の方法と技術 著者名：平沢 茂 発行所：図書文化社 (3) 書名：教育方法学 著者名：岩波書店 発行所：佐藤 学 (4) 書名：授業デザインの方法と実際 ― 教育方法論のテキスト 著者名：赤堀 侃司 他 発行所：高陵社書店 			

授業科目名	障害児保育		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	3年次
担当教員	職名：非常勤講師 氏名：西村 學		開講期	通年
			授業回数	30回
			期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		30時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
幼稚園教諭一種免許状		専門教育科目	選択	
保育士資格		専門教育科目	必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 障害のある子どもが保育や教育の対象となったのは、それほど昔のことではない。ちなみに、わが国においては障害児保育の制度化は1974年であり、どんな障害があっても就学が可能になったのは1979年4月である。その背景には、障害観や人権をめぐる国際的な変化がある。これらの歴史をふまえたうえで、障害児保育の意義、障害種別に応じた保育の目標と支援、一般の保育所や幼稚園での保育と専門機関における保育それぞれの特徴と両者の連携、保護者の育児支援、学校教育の制度などについて学ぶ。	【授業の概要との対応項目】		
	○	A	知識
		B	技術・技能
		C	論理的思考力
	○	D	文章表現力
		E	表情及び身体表現力
	○	F	感性及び感動表現力
		G	協働能力
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J	多様性への理解力、応用力
		K	課題対処力
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力
【授業の到達目標】		【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
共生社会を実現するうえでの障害児保育の意義を理解する。		目標	A、D、F
障害のある子ども及びその発達支援の方法について理解する。		目標	A、D、F
障害のある子どもの保護者にたいする育児支援の方法について理解する。		目標	A、D、F
学校教育制度（特別支援教育）について理解する。		目標	A、D、F
障害者差別のない地域づくりについて理解する。		目標	A、D、F

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	1. オリエンテーション (1) 授業の概要と目標（授業内容） (2) 評価方法・授業の進め方の留意点	授業計画	
2	障害のある子どもの早期療育体制 ○専門機関における保育	プリント、映像教材	プリントによる予習・復習
3	障害のある子どもの保育（「統合保育」） ○保育園、幼稚園における保育	〃	〃
4	障害児保育の歴史 ○制度の実現に至る過程とその背景	〃	〃

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
5	障害児保育とノーマライゼーション ○「国連障害者の10年」の反省	プリント、映像教材	プリントによる予習・復習
6	「障害者権利条約」とインクルージョン ○ノーマライゼーションの限界を超える	〃	〃
7	障害児保育の意義 ○障害のない子にとっての意義	〃	〃
8	障害とは① ○ICIDHにおける障害及び障害者観	〃	〃
9	障害とは② ○ICFにおける障害及び障害者観	〃	〃
10	知的障害をどう理解するか ○知的障害の新しい定義及び分類	〃	〃
11	ダウン症の基本的特性 ○早期療育・保育の意義	〃	〃
12	知的障害のある子どもの保育 ○保育の目標と支援	〃	〃
13	自閉性障害をどう理解するか① ○自閉症スペクトラム	〃	〃
14	自閉性障害をどう理解するか② ○心因説から認知障害説へ	〃	〃
15	自閉性障害をどう理解するか③ ○自閉性障害をめぐる最近の動向	〃	〃
16	自閉性障害のある子どもの保育 ○保育の目標と支援	〃	〃
17	「軽度」発達障害をどう理解するか① ○アスペルガー障害と高機能自閉症	〃	〃
18	「軽度」発達障害をどう理解するか② ○注意欠陥・多動性障害、学習障害など	〃	〃
19	「軽度」発達障害のある子どもの保育 ○保育の目標と支援	〃	〃
20	感覚障害をどう理解するか ○聴覚障害、視覚障害	〃	〃
21	感覚に障害のある子どもの保育 ○保育の目標と支援	〃	〃
22	運動障害をどう理解するか ○肢体不自由	〃	〃
23	運動に障害のある子どもの保育 ○保育の目標と支援	〃	〃
24	ことばの障害① ○記号としてのことば	〃	〃

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
25	ことばの障碍② ○ことばの獲得に必要な心身の条件	プリント、映像教材	プリントによる予習・復習
26	ことばの障碍③ ○コミュニケーションの支援	〃	〃
27	「気になる行動」とそれへの対応① ○「気になる行動」とは何か	〃	〃
28	「気になる行動」とそれへの対応② ○「気になる行動」にどう対応するか	〃	〃
29	保護者への育児支援 ○保育士と保護者との信頼関係の構築	〃	〃
30	障碍のある子どもの学校教育 ○多様な場における特別支援教育	〃	〃
期末試験	後期末試験		
【到達度の評価（評価方法・基準）】 (1) 筆記試験 50点満点の文章完成及び記述式のテストを学期末に実施 (2) レポート 授業のたびに、「映像から何を学んだか」というテーマのレポートを提出してもらう。 これらのレポート（全部で30本）を50点満点で採点する。			

授業科目名	幼児理解の理論と方法		授業形態・単位数	講義・2単位
			開講年次	3年次
担当教員	職名：教授 氏名：田 辺 稔		開講期	後期
			授業回数	15回
			期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		60時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	必修	
幼稚園教諭一種免許状		専門教育科目	必修	
保育士資格		専門教育科目	必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 相談・支援を考えていくとき、子どもの段階的な発達を含む幼児の姿をより正確に把握することは必要不可欠である。そこで本講義では、子ども理解のための基本的な理論及びとらえ方を概説する。子どものパーソナリティ発達に関する基礎的な理論を理解し、適切な幼児教育・保育における相談や支援に結び付けていく方法を考察していく。また、本学認定こども園における気になることへの対応等の事例を織り込みながら、実践的な具体例に触れていく。	【授業の概要との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技術・技能	
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	<input type="radio"/>	J	多様性への理解力、応用力	
		K	課題対処力	
	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力		
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
子どもの心身の発達、特に心・パーソナリティの発達過程に焦点を当てながら、伝統的理論、解釈から現代における捉え方、観察のポイントなどを学びのテーマとして、幼児理解を基礎に教育・保育における相談や支援のあり方や課題について考えていく基礎力を身につけていくことを目標とする。			目標	A、B、C、J

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 「幼児理解の理論と方法」で何を学ぶのか 評価方法等	教科書、資料提示はパワーポイントを使用予定	
2	心理学の研究方法与本科目の課題 個人差と適切な養育の関連	教科書、資料提示はパワーポイントを使用予定	1年次発達心理学・2年次教育心理学の学習内容を復習のこと
3	発達段階と個人差(1) 発達段階の総括的な復習、「幼児」とは	教科書、資料提示はパワーポイントを使用予定	1年次発達心理学の学習内容を復習のこと
4	発達段階と個人差(2) 発達段階と理解の方法、心理学における観察法・面接法	教科書、資料提示はパワーポイントを使用予定	2年次教育心理学の学習内容を復習のこと

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
5	発達段階と個人差 — 具体的心理検査(1) 発達段階に応じたアセスメント、発達検査・知能検査など心理検査の実例	具体的な心理検査を提示、各検査の使用方法を学ぶ 使用解説DVD	
6	発達段階と個人差 — 具体的心理検査(2) 発達段階に応じたアセスメント、発達検査・知能検査など心理検査の実例	具体的な心理検査を提示、各検査の使用方法を学ぶ 使用解説DVD	
7	幼児理解の諸理論 パーソナリティ発達の観点とその理解(1)	教科書、資料提示はパワーポイントを使用予定	教科書p25～p54を事前に読むこと
8	幼児理解の諸理論 パーソナリティ発達の観点とその理解(2)	教科書、資料提示はパワーポイントを使用予定	教科書p25～p54を事前に読むこと
9	性格・個人差に関わる具体的心理検査(1) 発達段階に応じたアセスメント、心理検査の実例	具体的な心理検査を提示、各検査の使用方法を学ぶ	2年次教育心理学の学習内容を復習のこと
10	幼児理解・方法の実際 気になるこどもへの対応 (事例から学ぶ 1)	教科書、資料提示はパワーポイントを使用予定 必要に応じゲストスピーカーを招聘する	
11	幼児理解・方法の実際 気になるこどもへの対応 (事例から学ぶ 2)	教科書、資料提示はパワーポイントを使用予定 必要に応じゲストスピーカーを招聘する	
12	幼児理解の諸理論・トマス・チェスの研究から 気質としての個人差と養育者の受け止め方(1)	教科書、資料提示はパワーポイントを使用予定	教科書p25～p54を事前に読むこと
13	幼児理解の諸理論・トマス・チェスの研究から 気質としての個人差と養育者の受け止め方(2)	教科書、資料提示はパワーポイントを使用予定	教科書p25～p54を事前に読むこと
14	発達段階と個人差(3) 発達段階に想定される問題や養育者の悩み、事例研究	教科書、資料提示はパワーポイントを使用予定	
15	個人差の理解と教育 — まとめ 総括的な振り返り	教科書、資料提示はパワーポイントを使用予定	
期末試験	前期末試験		
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明する。			
【到達度の評価（評価方法・基準）】 (1) 筆記試験 70点満点の記述方式のテストを学期末に実施 (2) レポート レポートは30点満点の採点とする。課題は授業内容に沿い、興味関心を持った領域に関して各自で課題を設定する方式とする。 (3) その他 授業内容の理解度を確認するため2回～3回、小テストを実施する。採点は授業内で答え合わせを行い、理解不足の箇所を各自確認する資料とする。			
【教科書】 書名：子ども学講座1「こどもと生活」 著者名：西方 毅・本間玖美子 編集 発行所：一藝社 価格：1,800円（税別）			
【その他補足事項】 本科目では、コンピュータを用いたスライド（パワーポイント）を中心に展開していく。やむを得ず欠席した場合は、ファイル形式あるいはプリント資料にて配布できるので申し出ること。			

授業科目名	教育相談		授業形態・単位数	講義・2単位
			開講年次	3年次
担当教員	職名：准教授 氏名：佐藤 佑貴		開講期	後期
			授業回数	15回
			期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		60時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
幼稚園教諭一種免許状		専門教育科目	必修	
保育士資格		専門教育科目	選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 教育現場におけるカウンセリングの実際について講義を行う。また、心の健康に関する現代的課題についてふれ、現状と対応について学ぶ。さらに、カウンセリングの初歩的・基礎的な知識を修得することを目指す。 カウンセリング能力を高めたい学生には、別にカウンセリング概論やカウンセリング演習の授業履修を勧める。	【授業の概要との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技術・技能	
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
	<input type="radio"/>	G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	<input type="radio"/>	J	多様性への理解力、応用力	
		K	課題対処力	
	<input type="radio"/>	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
教育現場で生じやすい「心の問題」について理解する。			目標	A、C、J
教育現場におけるカウンセリングの特徴を理解する。			目標	A、C、J
カウンセリングの初歩的・基礎的な技法を修得する。			目標	B、G、L

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	ガイダンス 教育相談では何をめざすのか	授業計画	
2	教育相談を支える人材とその役割	【ディスカッション】 テーマ：相談したくなる先生の特徴について ・コメントシート	【予習】自分の中学高校時代の教育スタッフを思い出してまとめておく
3	教育相談体制（学校—地域社会—家庭）について	【グループワーク】 地域で子どもを育てる実践例について調べよう ・コメントシート	【予習】自分の中学高校時代の学校と家庭の連携の仕方について思いだし、まとめておく
4	子どもの心の健康に関する現代的課題と対応(1) 発達障害 ADHD、LD	【ワーク】障害の体験 ・コメントシート	【復習】配布プリントを読み返す

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
5	子どもの心の健康に関する現代的課題と対応(2) 発達障害 自閉スペクトラム症	【ワーク】 障害の体験 ・コメントシート	【復習】 配布プリントを読み返す
6	子どもの心の健康に関する現代的課題と対応(3) 虐待	・コメントシート	【復習】 配布プリントを読み返す
7	子どもの心の健康に関する現代的課題と対応(4) 登園しぶりと保護者への対応	・コメントシート	【復習】 配布プリントを読み返す
8	子どもの心の健康に関する現代的課題と対応(5) 育児不安と保護者への対応	・コメントシート	【復習】 配布プリントを読み返す
9	子どもの心の健康に関する現代的課題と対応(6) いじめ①定義と予防	【ディスカッション】 テーマ：いじめ防止策についてブレインストーミングしよう ・コメントシート	【復習】 配布プリントを読み返す
10	子どもの心の健康に関する現代的課題と対応(7) いじめ②教科教育・特別活動における対応	・コメントシート	【復習】 配布プリントを読み返す
11	子どもの心の健康に関する現代的課題と対応(8) いじめ③教師へのコンサルテーション	・コメントシート	【復習】 配布プリントを読み返す
12	カウンセリングの初歩的・基礎的な技法(1) カウンセリング・マインドについて考える	【ディスカッション】 テーマ：日常の会話とカウンセリングの違い ・コメントシート	【復習】 実生活でカウンセリングマインドを意識して相手と接する
13	カウンセリングの初歩的・基礎的な技法(2) “アクティヴリスニング”を実践してみよう	【グループワーク】 アクティヴリスニングで会話しよう ・コメントシート	【復習】 実生活でアクティヴリスニングを意識して使用してみる
14	教育相談の実際／事例研究	【ケース・スタディ】 事例A君に保育士の自分は何ができるか!? ・コメントシート	【予習】 事前配布の事例概要を読む
15	保育者のメンタルヘルス	自分のメンタルヘルス維持のための方策を考える ・コメントシート	【予習】 自分のストレスとの付き合い方について振り返る
期末試験	後期末試験		
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明する。			
【到達度の評価（評価方法・基準）】 ・期末試験 80% 80点満点のテストを実施する。 ・授業内での意見表明 20% 自発的応答は加点の対象となる。			
【教科書】 特に指定しない。適宜、資料を配布する。			
【参考書】 授業時に随時紹介する。			

授業科目名	幼稚園教育実習		授業形態・単位数	実習・5単位
			開講年次	3～4年次
担当教員	客員教授	みや 前 貢 ^{みつぎ}	開講期	通年
	兼任准教授	なが 久保 和 ^{かず}	授業回数	20回
	兼任講師	なが 島 輝 ^{てる}	期末試験の有無	無
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		—
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
幼稚園教諭一種免許状		専門教育科目	必修	
保育士資格		専門教育科目	選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは、初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 幼稚園教育実習は、本学認定こども園での基本実習を合格した学生が協力幼稚園での4週間の実習、及びその事前・事後指導からなる学習である。4年次に、協力幼稚園実習とそのためのオリエンテーションや事前指導、実習反省会を含む事後指導を実施する。	【授業の概要との対応項目】			
	○	A	知識	
	○	B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
	○	D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
	○	G	協働能力	
	○	H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
	○	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	○	J	多様性への理解力、応用力	
	○	K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
幼稚園教諭として求められる基礎的な幼児理解や基本的指導技術を修得する。			目標	A、B、J
保育の方法を総合的に学び、望ましい幼稚園教諭としての資質・能力を養う。			目標	D、G、H、I、J、K

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法 (アクティブラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	オリエンテーション ・今後の日程と指導計画について ・授業の概要と評価について	講義 授業計画 キャンパスライフ プリント	復習： 配布資料を熟読
2	実習の概要説明(2) ・基本実習事後指導①	講義、プリント 基本実習で学んだことを グループで話し合う 基本実習資料、日誌	復習： 配布資料を熟読 レポート作成
3	実習の概要(3) ・基本実習事後指導② ・レポート提出	プレゼンテーション ディスカッション 基本実習資料、日誌	復習： 配布資料を熟読
4	「教育実習 (幼稚園実習)」事前指導(1) ・次年度「教育実習計画」について ・実習先の確認と打ち合わせについて	講義、プリント ディスカッション	復習： 配布資料を熟読

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
5	「教育実習（幼稚園実習）」事前指導(2) ・教育実習の意義目的① 幼稚園の役割と機能 幼稚園教諭の役割	講義、プリント 幼稚園教諭の役割についてグループで話し合う	復習： 配布資料を熟読
6	「教育実習（幼稚園実習）」事前指導(3) ・教育実習の意義・目的② ・子ども理解と子どもへのやわらかな対応	講義、プリント 多様な子どもへの対応のむずかしさを考え話し合う	復習： 配布資料を熟読
7	「教育実習（幼稚園実習）」事前指導(4) ・実習生としての心得 ・守秘義務、実習保障制度について	講義、プリント 実習生として留意しなければならないことを自分のことばで書く	復習： 配布資料を熟読
8	「教育実習（幼稚園実習）」事前指導(5) ・実習の内容と方法（観察・参加実習など） ・実習関係書類の作成	講義、プリント 記録書類の提出について自分の考えを書く	復習： 配布資料を熟読
9	「教育実習（幼稚園実習）」事前指導(6) ・指導計画（指導案）の立て方① （立案の過程・内容・部分実習と部分案）	講義、プリント 部分案のサンプルをもと自分の部分案を考える	復習： 配布資料を熟読 実習関連書類の作成
10	「教育実習（幼稚園実習）」事前指導(7) ・指導計画（指導案）の立て方② （半日実習と指導案）	講義、プリント 半日実習の構想をグループで考える	復習： 配布資料を熟読
11	「教育実習（幼稚園実習）」事前指導(8) ・指導計画（指導案）の立て方③ ・全日実習と日案	講義、プリント 全日実習の構想をグループで話し合い日案の書き方を考える	復習： 配布資料を熟読
12	「教育実習（幼稚園実習）」事前指導(9) ・指導計画の立て方④ ・指導の実際と評価 ・計画と指導の改善	講義、プリント 指導案と子どもの活動の実際のズレに着目して指導の改善につなぐ計画の評価をまとめる	予習： 部分案作成
13	「教育実習（幼稚園実習）」事前指導(10) ・指導計画の立て方とまとめ	講義 指導計画の立て方を自分のことばでまとめる	予習： 部分案作成
14	「教育実習（幼稚園実習）」事前指導(11) ・ゲストスピーカーによる特別講義 （教育実習の実際、実習生の具体的実習方法他）	特別講義 （幼稚園園長または主任） 質疑応答	予習： 実習に向け計画を立て、 教材等準備をする
15	「教育実習（幼稚園実習）」事前指導(12) ・教材研究① 子どもたちの活動への動機づけ	講義、プリント 活動への動機づけを図る様々な働きかけについて自分のことばでまとめる	予習： 指導案を基に準備をする
16	「教育実習（幼稚園実習）」事前指導(13) ・教材研究② 多様な活動への対応	講義、プリント 演習（模擬保育） 質疑応答	予習： 指導案を基に準備をする
17	「教育実習（幼稚園実習）」事前指導(14) ・実習に向けてまとめ ・事務連絡	講義、プリント 子どもの様々な活動への意欲を高める引出しについてグループで話し合う	今までの資料を熟読し、 質問等整理する

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
18	「教育実習（幼稚園実習）」事後指導(1) ・教育実習実施後の反省、振り返り①	プレゼンテーション（各自）ディスカッション 質疑応答	予習： 教育実習を終えての感想、課題等レポート作成
19	「教育実習（幼稚園実習）」事後指導(2) ・教育実習実施後の反省、振り返り② ・レポート提出 ・実習反省会について	プレゼンテーション（各自）ディスカッション 質疑応答	事前に「実習反省会要項」を熟読しておく
20	「教育実習（幼稚園実習）」事後指導(3) ・教育実習のまとめ	ディスカッション	質疑応答内容を考えておく
【到達度の評価（評価方法・基準）】 ・実習事前・事後指導時の受講態度、レポートや報告等の内容と提出、実習先からの評価点による。 ※詳細については、第1回および第8回で説明する。			
【教科書】 ※必要に応じ毎回プリントを配布 ※基本実習事前指導、または実習中に配布した資料			
【その他補足事項】 <実習費> 幼稚園実習委託費 20,000円 <その他> (1) 実習の履修制限・再実習等については、福島学院大学福祉学部履修規程（キャンパスライフに記載）を参照のこと。 (2) 学外実習を行うにあたり、麻疹（はしか）・風疹の抗体を有する証明書（コピー）を実習先に持参すること。 (3) 実習先の評価に関し、学生もしくは家族等が直接実習先に照会を行ったとき、単位を認定しない場合がある。 (4) 食物アレルギーがある学生は、実習先へ必ず申し出ること。また、実習先から指示された際は、食物アレルギーに関する診断書を提出すること。			

授業科目名	保育実習Ⅰ		授業形態・単位数	実習・2単位
			開講年次	3年次
担当教員	職名：准教授 氏名：今 清 孝		開講期	通年
			授業回数	時間割外
			期末試験の有無	無
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		無
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
幼稚園教諭一種免許状		専門教育科目	選択	
保育士資格		専門教育科目	必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 保育所やその他の児童福祉施設の役割や機能を具体的に学び、観察や子どもとのかかわりを通して、子どもへの理解を深める。さらに、保育計画、観察、記録及び自己評価等、保育士の業務内容や職業倫理についても具体的に学ぶ。そして、既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援についても総合的に理解する。	【授業の概要との対応項目】		
	<input type="radio"/>	A	知識
	<input type="radio"/>	B	技術・技能
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力
	<input type="radio"/>	D	文章表現力
	<input type="radio"/>	E	表情及び身体表現力
	<input type="radio"/>	F	感性及び感動表現力
	<input type="radio"/>	G	協働能力
	<input type="radio"/>	H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	<input type="radio"/>	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
	<input type="radio"/>	J	多様性への理解力、応用力
<input type="radio"/>	K	課題対処力	
<input type="radio"/>	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】		【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
利用者と職員とのかかわりを積極的に図り、受容する。		目標	A、B、E、F、I
日誌などの提出物や必要な諸連絡を的確にする。		目標	D、J、K、L
自らの目標や課題を持ち、指導・助言を踏まえ工夫し行動する。		目標	J、K、L
職員等と協調し職務に当たる。		目標	G、K、L
児童福祉施設等(保育所以外)の役割や機能について実践を通して理解を深める。		目標	A、B、E、F、L
個人差や、施設の生活に伴う利用者のニーズを把握する。		目標	A、B、C、I、J、K、L
個別支援計画の意義と目的を理解し立案する。		目標	A、B、C、D、J、K、L
利用者の家族支援の実際を知り、家族との連携の重要性を理解するとともに、社会資源や多職種連携の重要性も理解する。		目標	J、K、L
保育士の業務内容や職業倫理について実践に結びつけて理解する。		目標	A、B、C、L
実習を総括し、保育士としての自己の課題を明確化する。		目標	A、B、C、H、L

【実習期間】
保育所実習：7月～8月(概ね10日間)
施設実習：10月下旬(概ね10日間)
【評価方法】
1. 実習施設による「実習評価表」の評価と事前・事後指導における学生の履修状況等を勘案して評価する。
2. 実習の成績評価は次のとおりとする。
<ul style="list-style-type: none"> ・「A+」 90点～100点 ・「A」 80点～89点 ・「B」 70点～79点 ・「C」 60点～69点 ・「D」 50点～59点 ・「F」 49点以下
D、Fは不合格とし、F評価の場合は原則として年度内の再実習を認めないものとする。

【実習費】

- ① 保育実習Ⅰ委託費 20,000円（保育所実習10,000円 施設実習10,000円）
- ② 腸内感染症検査料 1,200円程度（2回分）
- ③ 「麻疹予防接種証明書」または「麻疹抗体価証明書」 2,500～5,000円程度（検査料は医療機関により異なる）

【その他補足事項】

- ① 実習の履修制限・再実習等については、福島学院大学福祉学部履修規定（キャンパスライフに記載）を参照のこと。
- ② 履修にあたっては、次の事項を満たしていることが前提となる。
 - ・「保育実習指導Ⅰ」授業の出席が、5分の4以上であること。※詳細は福島学院大学福祉学部履修規定（キャンパスライフに記載）を参照のこと。
- ③ 学外実習を行うにあたり、腸内感染症検査証明書、麻疹の抗体を有する証明書（コピー）を実習先へ持参すること。
- ④ 実習先の評価に関し、学生もしくは家族等が直接実習先に照会を行ったときは、単位を認定しない場合がある。

授業科目名	保育実習指導Ⅱ		授業形態・単位数	演習・1単位
			開講年次	3～4年次
担当教員	職名：准教授 氏名：今 清 孝		開講期	後期
			授業回数	15回
			期末試験の有無	無
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		15時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
幼稚園教諭一種免許状		専門教育科目	選択	
保育士資格		専門教育科目	選択必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 保育所実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に学ぶ。前回の実習、既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、より一層の保育実践力を培う。 さらに、保育の観察、記録及び自己評価等も踏まえた保育の改善について、実践や事例を通して学び、保育士の業務内容や職業倫理について理解する。そして、実習事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に関する課題や認識を明確にする。	【授業の概要との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技術・技能	
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力	
	<input type="radio"/>	D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
	<input type="radio"/>	G	協働能力	
	<input type="radio"/>	H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
	<input type="radio"/>	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	<input type="radio"/>	J	多様性への理解力、応用力	
	<input type="radio"/>	K	課題対処力	
<input type="radio"/>	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力		
【授業の到達目標】		【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)		
保育実習の意義・目的を理解し、保育を総合的に理解する。		目標	A、B、C、G、H、J、K	
観察に基づく保育を理解する。		目標	A、B、C、J、K、L	
保育及び保育相談支援と地域社会の連携を学ぶ。		目標	A、B、C、J、K、L	
指導計画の作成、実践、観察、記録、評価について学ぶ。		目標	A、B、C、D、I、J、K	
保育士の業務内容や職業倫理について学ぶ。		目標	A、B、C、G、H、J、K、L	
実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。		目標	C、D、G、H、I、J、K、L	

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法 (アクティブラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と目標 (2) 授業内容と評価方法 (3) その他 (本科目の留意点) 保育実習Ⅱの意義と目的	授業計画 講義 教科書・プリント	教科書熟読 提出物記入
2	保育所の役割と機能 保育と保育相談支援	講義 教科書・プリント ディスカッション	教科書、資料熟読
3	保育士の職業倫理と役割認識 多職種連携によるケアワーク	講義 教科書・プリント ディスカッション	教科書、資料熟読

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
4	保育所保育の形態 年齢別・異年齢・順序性・選択制・習熟度別	講義 教科書・プリント ディスカッション	教科書、資料熟読
5	保育実習Ⅱの目標 実習目標・課題設定	講義 教科書・プリント ディスカッション	教科書、資料熟読
6	実習の実際① 1日の流れ・子どもの活動・保育士の活動 全体指導・個別指導	講義 教科書・プリント ディスカッション	教科書、資料熟読
7	実習の実際② 実習日誌の書き方	演習 保育実習Ⅰの日誌見直し	教科書、資料熟読
8	実習の実際③ 指導計画案作成（部分実習）	演習 指導計画案の作成	教科書、資料熟読
9	実習の実際④ 指導計画案作成（総合実習）	演習 指導計画案の作成	教科書、資料熟読
10	実習の実際⑤ 模擬保育（部分実習）	演習 指導計画案の実施練習	指導計画案の熟読 保育教材準備
11	実習の実際⑥ 模擬保育（総合実習）	演習 指導計画案の実施練習	指導計画案の熟読 保育教材準備
12	実習における留意点の確認 実習準備物の確認	講義 実習における留意点	資料熟読 準備物の点検
13	保育実習Ⅱ事後指導 報告レポート・礼状	演習 報告レポート作成練習 礼状作成練習	資料熟読
14	保育実習Ⅱ事後指導 報告レポート	演習 報告レポート作成	礼状送付
15	保育実習Ⅱ事後指導 実習総括・自己評価・報告レポート 新たな課題設定・課題目標の明確化	演習 実習総括・自己評価 新たな課題・目標設定 報告レポート完成	報告レポート等の再点 検・整理 報告レポート提出
【到達度の評価（評価方法・基準）】 指導計画案作成、実習目標設定、模擬実習、実習終了報告レポートで評価する。 成績評価は、認定・不認定の判定とする。 評価基準等の詳細は、初回授業で説明する。			
【教科書】 (1) 書名：新保育士養成講座 第9巻 保育実習 著者名：新保育士養成講座編纂委員会／編 発行所：全国社会福祉協議会 価格：1,900円（税別） (2) 書名：保育実習の手引き 発行所：福島県保育者養成校連絡会 (3) 書名：福島県保育実習施設 発行所：福島県保育者養成校連絡会			
【参考書】 (1) 書名：実習日誌の書き方 著者名：相馬 和子・中田カヨ子 発行所：萌文書林 価格：1,600円（税別） (2) 書名：指導計画の考え方・立て方 著者名：久富 優子／編 発行所：萌文書林 価格：1,800円（税別） (3) 書名：幼稚園・保育所実習ハンドブック 著者名：田中まさ子／編 発行所：みらい 価格：2,000円（税別）			

授業科目名	保育実習指導Ⅲ		授業形態・単位数	演習・1単位
			開講年次	3～4年次
担当教員	職名：教授 氏名：板垣健太郎 <small>いた がき けんたろう</small>	開講期	通年	
		授業回数	15回	
		期末試験の有無	無	
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		15時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
幼稚園教諭一種免許状		専門教育科目	選択	
保育士資格		専門教育科目	選択必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 保育所以外の児童福祉施設実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に学ぶ。前回の実習、既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、より一層の保育実践力を培う。 さらに、保育の観察、記録及び自己評価等も踏まえた保育の改善について、実践や事例を通して学び、保育士の業務内容や職業倫理について理解する。そして、実習事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に関する課題や認識を明確にする。	【授業の概要との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技術・技能	
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力	
	<input type="radio"/>	D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
	<input type="radio"/>	F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
	<input type="radio"/>	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	<input type="radio"/>	J	多様性への理解力、応用力	
	<input type="radio"/>	K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】		【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)		
実習目標を具体的に設定する。		目標	C、K	
実習施設と対象児、およびかかわり方について予備知識を得る。		目標	A、B、J、K	
適切な実習日誌の書き方を学ぶ。		目標	C、D	
対象児との関わりを振り返り、自身の保育者としての適性について考える。		目標	A、B、C、D、F	
実習事例をまとめる。		目標	B、C、D、F、I	

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法 (アクティブラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	事前指導1： 保育実習Ⅲの目的・目標と内容	講義 資料：「一般的な実習目標」	過去実習の日誌の検討
2	事前指導2： 各自の目標設定①	各自作業	過去実習の日誌の検討
3	事前指導3： 各自の目標設定②	各自作業	過去実習の日誌の検討
4	事前指導4： 養護系施設の理解と対象児理解①	発表・質疑応答	発表資料作成
5	事前指導5： 障害児系施設の理解と対象児理解	発表・質疑応答	発表資料作成

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
6	事前指導6： 援助的関わりの基本	講義 資料：「援助の構造」	各自下調べ
7	事前指導7： 関わり方の具体的な方法①要養護児	発表・質疑応答	発表資料作成
8	事前指導8： 関わり方の具体的な方法②発達障害児	発表・質疑応答	発表資料作成
9	事前指導9： 日誌の書き方①説明	サンプル日誌使用	過去実習の日誌検討
10	事前指導10： 日誌の書き方②練習（要養護児）	観察練習用VTR使用	サンプル日誌の熟読
11	事前指導11： 日誌の書き方③練習（障害児）	観察練習用VTR使用	前回練習の復讐
12	事前指導12： 直前注意・確認	各自作業	注意事項、準備の確認（復習）
13	事後指導1： 事後反省の方法	発表と指導	発表準備
14	事後指導2： 事例発表と解釈をめぐる討論①	各自作業	発表準備
15	事後指導3： 事例発表と解釈をめぐる討論②	各自作業	発表準備
<p>【到達度の評価（評価方法・基準）】 指導計画案作成、実習目標設定、模擬実習、実習終了報告レポートで評価する。 成績評価は、認定・不認定の判定とする。 評価基準等の詳細は、初回授業で説明する。</p>			

授業科目名	国語		授業形態・単位数	講義・2単位
			開講年次	3年次
担当教員	職名：兼任教授 氏名：田上貞一郎 <small>た がみ ていいちろう</small>		開講期	前期
			授業回数	15回
			期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		60時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
幼稚園教諭一種免許状		専門教育科目	必修	
保育士資格		専門教育科目	選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 幼稚園教育要領や保育所保育指針の「言葉」の領域への理解と、小学校国語教育との接続を認識し、国語科の教科専門の力を育てることを目的として、絵本・童話と文学教材、音声言語教材、伝記教材、説明文教材を取り上げ、各教材の特徴を理解し授業を行う上での基礎的な知識を学ぶ。	【授業の概要との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技術・技能	
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力	
	<input type="radio"/>	D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	<input type="radio"/>	J	多様性への理解力、応用力	
		K	課題対処力	
	<input type="radio"/>	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
豊かな言語感覚と言語能力の育成の大切さを学ぶとともに、しっかりした思考力・表現力・読解力を育成する国語教育を理解する。			目標	A、B、C、D
幼稚園と小学校1、2年の国語の関連性を理解するとともに、幼稚園における国語の在り方、重要性を認識する。			目標	A、J、L

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と目標 (2) 授業内容と評価方法 (3) その他（本科目の留意点）	自己プレゼンテーション 教材：授業計画・教科書・プリント	自己プレゼンテーションの用意 授業計画の確認
2	国語の位置づけと対象領域	指名問答、朗読、フィードバックシート 教材：教科書・プリント	教材予習 朗読練習
3	国語とは何か(1)（幼児にとっての国語・全体的な枠組み）	指名問答、朗読、フィードバックシート 教材：教科書・プリント	教材予習・復習 朗読練習

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
4	国語とは何か(2)（話すこと領域の基礎）	指名問答、朗読、フィードバックシート 教材：教科書・プリント	教材予習・復習 朗読練習
5	国語とは何か(3)（聞くこと領域の基礎）	指名問答、朗読、フィードバックシート 教材：教科書・プリント	教材予習・復習 朗読練習
6	国語とは何か(4)（書くこと領域の基礎）	指名問答、朗読、フィードバックシート 教材：教科書・プリント	教材予習・復習 朗読練習
7	国語とは何か(5)（読むこと領域の基礎）	指名問答、朗読、フィードバックシート 教材：教科書・プリント	教材予習・復習 朗読練習
8	幼稚園と小学校の国語（幼稚園での文字指導）	指名問答、朗読、フィードバックシート 教材：教科書・プリント	教材予習・復習 朗読練習
9	幼稚園と小学校の国語（小学校での国語の相違）	指名問答、朗読、フィードバックシート 教材：教科書・プリント	教材予習・復習 朗読練習
10	幼児教育・幼稚園以降の目標と内容（話すこと）	指名問答、朗読、フィードバックシート 教材：教科書・プリント	教材予習・復習 朗読練習
11	幼児教育・幼稚園以降の目標と内容（聞くこと）	指名問答、朗読、フィードバックシート 教材：教科書・プリント	教材予習・復習 朗読練習
12	幼児教育・幼稚園以降の目標と内容（書くこと）	指名問答、朗読、フィードバックシート 教材：教科書・プリント	教材予習・復習 朗読練習
13	幼児教育・幼稚園以降の目標と内容（読むこと）	指名問答、朗読、フィードバックシート 教材：教科書・プリント	教材予習・復習 朗読練習
14	伝統的な言語文化と国語の関連	指名問答、朗読、フィードバックシート 教材：教科書・プリント	教材予習・復習 朗読練習
15	まとめと振り返り	指名問答、口頭発表	質疑の準備
期末試験	前期末試験		
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明する。			
【到達度の評価（評価方法・基準）】 教科書・資料の朗読（10%）、期末試験の成績（90%）から客観的に評価する。 ※詳細については初回授業時に説明する。			
【教科書】 書名：小学校学習指導要領解説 国語編 発行所：東洋館出版社 価格：204円（税別）			

授業科目名	算 数		授業形態・単位数	講義・2単位
			開講年次	3年次
担当教員	職名：非常勤講師 氏名：笹川直樹		開講期	後期
			授業回数	15回
			期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		60時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
幼稚園教諭一種免許状		専門教育科目	必修	
保育士資格		専門教育科目	選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		授業終了後に教室で質問等に対応する。		

【授業の概要】 指導内容を幼稚園教育要領、学習指導要領等と各教科書会社の作成する算数教科書を資料として、数学的及び社会的な視点で考察し、算数科教育の意義を理解することを教授する。また、子どもに指導するときに、知識・理解に関わる目標を教科書からとらえることができるようになる技術・表現方法を学ぶ。	【授業の概要との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技術・技能	
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力	
	<input type="radio"/>	D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
	<input type="radio"/>	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
		K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
算数科を総括し、算数科の役割、学年別目標などの理解を深めるとともに、指導内容について、その構成と学年別配列やその基盤となる基礎数学について理解を深める。			目標	A、B、C
問題解決の指導や個人差に応じた指導に対する理解を深めるとともに、各領域の指導内容の検討を踏まえて「算数的な活動」の重要性を理解し、算数の学習指導案作成の基本が理解できるようにする。			目標	A、B、C、D、I

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 算数教育の変遷、学習指導要領における算数科の目標・特質	授業計画 自作資料① 小学校学習指導要領解説 算数編	自作資料②を事前に読む。
2	「数と計算」領域の概要理解 数の概念と表記、記数法	自作資料②	自作資料③を事前に読む。
3	「数と計算」領域の概要理解 たし算、ひき算、かけ算、わり算	自作資料③	自作資料④を事前に読む。

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
4	「数と計算」領域の概要理解 小数、分数	自作資料④	自作資料⑤を事前に読む。
5	「数と計算」領域の概要理解 九九表、分数・小数の混合算	自作資料⑤	自作資料⑥を事前に読む。
6	「量と測定」領域の概要理解 量と測定の意味、外延量と内包量	自作資料⑥	自作資料⑦を事前に読む。
7	「量と測定」領域の概要理解 面積、体積、時間	自作資料⑦	自作資料⑧を事前に読む。
8	「量と測定」領域の概要理解 角、単位量あたりの量	自作資料⑧	自作資料⑨を事前に読む。
9	「図形」領域の概要理解 基本図形の構成要素	自作資料⑨	自作資料⑩を事前に読む。
10	「図形」領域の概要理解 基本図形の理解（定義）	自作資料⑩	自作資料⑪を事前に読む。
11	「図形」領域の概要理解 基本図形考察の視点	自作資料⑪	自作資料⑫を事前に読む。
12	「数量関係」領域の概要理解 関数の考え方	自作資料⑫	自作資料⑬を事前に読む。
13	「数量関係」領域の概要理解 式の表現と読み	自作資料⑬	自作資料⑭を事前に読む。
14	「数量関係」領域の概要理解 資料の整理、表とグラフ	自作資料⑭	自作資料⑮を読む。
15	まとめ	自作資料⑮	講義内容のポイントを再確認
期末試験	後期末試験		
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、学科を通じて説明する。			
【到達度の評価（評価方法・基準）】 ・期末試験 50% ・レポートの作成 50%（授業終了後、毎回レポートを提出。各授業内容の理解及び自己の見解の明確さについて評価する。）			
【教科書】 教科書は使用しない。			
【参考書】 書名：小学校学習指導要領解説 算数編 著者名：文部科学省 発行所：東洋館出版社 価格：238円（税別）			

授業科目名	ゼミナール		授業形態・単位数	演習・4単位
			開講年次	3～4年次
担当教員	職名：教授 氏名：伊藤俊彦		開講期	通年（2年間）
			授業回数	60回
			期末試験の有無	無
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		60時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	必修	
幼稚園教諭一種免許状		専門教育科目	必修	
保育士資格		専門教育科目	必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 「感性と表現に関する研究」を主たる研究内容とし、子どもたちが身近な周囲の環境とかわりながら音や音楽の面白さなどを見付け、自分なりの感じ方や考えたことなどを表現することを通して、子どもの音楽的な発達の姿を考察していく。 そのため、幼稚園等で保育の様子から観察対象児を選び、継続して観察を行うとともに、その記録を基にしてグループで討議したり音楽的な発達についての理解を深めたりするようにする。 また、その結果をまとめることで継続的に研究が実現できるようにする。 4年生は卒論指導を中心として行う。	【授業の概要との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技術・技能	
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力	
	<input type="radio"/>	D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
	<input type="radio"/>	F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
	<input type="radio"/>	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	<input type="radio"/>	J	多様性への理解力、応用力	
	<input type="radio"/>	K	課題対処力	
<input type="radio"/>	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力		
【授業の到達目標】	【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)			
卒業論文についての概略を把握し、研究について理解する。	目標	A、C、I、		
研究計画を作成し、研究の課題と見通しをもつ。	目標	A、C、D、K、L		
資料を収集し先行研究を精読することを通して、批判的読解力を養う。	目標	A、C、D、F、J		
論文の構成を理解し、構成の各部分で何を記述するのかを把握する。	目標	A、B、C、F、K、		
研究テーマの概略を構想し、研究テーマに関する問題を立てる。	目標	A、B、C、I		

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション ・ゼミナールに対する心構え ・授業の概要とこれから先の研究の見通し	講義：研究についての心構え 演習：研究についての抱負	研究に取り組む決意と研究内容の確認
	オリエンテーション ・卒業論文提出に関する作成の見通し	演習：グループで研究の見通しについての意見交換	研究の見通しについての計画
2	卒業論文の書き方 ・論文とは何かについての話し合い ・文章作成の心得	講義：論文について 演習：卒業論文に関する話し合い	プリントを基に論文とは何かについて予習
	卒業論文の作成 ・先行研究による資料の収集	演習：各自研究テーマについての資料収集と整理	先行研究による資料収集及び整理

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
3	卒業論文の書き方 ・文章のスタイルについて	講義：論文について 演習：文章のスタイルについての話し合い	プリントを基に論文の書き方について予習
	卒業論文の作成 ・先行研究による資料の収集	演習：各自研究テーマについての資料収集と整理	先行研究による資料収集及び整理
4	卒業論文の書き方 ・文章作成の練習	講義：論文について 演習：短い文章を記述し互いに批評し合う	プリントを基に文章の書き方に関する予習
	卒業論文の作成 ・先行研究及び文献による資料の収集	演習：各自研究テーマについての資料収集と整理	先行研究による資料収集及び整理
5	先行研究 ・自らの研究に関連する研究内容の論文を図書館やパソコンで探し資料として収集	演習：各自のやり方で資料収集を行う	資料収集の仕方について予習
	卒業論文の作成 ・先行研究及び文献による資料の収集・整理	演習：各自研究テーマについての資料収集と整理	先行研究による資料収集及び整理
6	先行研究 ・自らの研究に関連する研究内容の論文を図書館やパソコンで探し資料として収集	演習：各自のやり方で資料収集を行う	資料収集の仕方について予習
	卒業論文の作成 ・先行研究及び文献による資料の収集・整理	演習：各自研究テーマについての資料収集と整理	資料収集及び資料の整理
7	先行研究 ・収集した先行研究の資料を基に自らの批評を加えて発表したり、他の人の評定を聞いたりする	演習：各自持ち寄った先行研究の資料を互いに批評し合う	先行研究の資料の批評を予習
	卒業論文の作成 ・テーマに関わる文献及び資料の整理	演習：各自研究テーマについての資料を整理	資料の整理
8	先行研究 ・収集した先行研究の資料を基に自らの批評を加えて発表したり、他の人の評定を聞いたりする	演習：各自持ち寄った先行研究の資料を互いに批評し合う	批評の仕方について工夫を図るための予習
	卒業論文の作成 ・テーマに関わる文献及び資料の整理	演習：各自研究テーマについての資料を整理	資料の整理
9	先行研究 ・先行研究の資料を基に自らの研究に資する内容を取り入れる	演習：各自持ち寄った先行研究の資料を互いに批評し合う	先行研究から研究に資する内容を取り入れる
	卒業論文の作成 ・テーマに関わる文献及び資料の整理	演習：各自研究テーマについての資料を整理	資料の整理
10	先行研究 ・先行研究の資料を基に自らの研究に資する内容を取り入れる	演習：各自持ち寄った先行研究の資料を互いに批評し合う	先行研究から研究に資する内容を取り入れる
	卒業論文の作成 ・テーマに関わる文献及び資料の整理	演習：各自研究テーマについての資料を整理	資料の整理
11	先行研究 ・収集した先行研究の資料を基に自らの批評を加えて発表したり、他の人の評定を聞いたりする	演習：各自持ち寄った先行研究の資料を互いに批評し合う	先行研究から研究に資する内容を取り入れる
	卒業論文の執筆 ・プロットに即して研究内容の執筆	演習：各自研究内容についての資料を基に論文の執筆	プロットから内容の構想を練る

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
12	先行研究 ・収集した先行研究の資料を基に自らの批評を加えて発表したり、他の人の評定を聞いたりする	演習：各自持ち寄った先行研究の資料を互いに批評し合う	先行研究から研究に資する内容を取り入れる
	卒業論文の執筆 ・プロットに即した研究内容の執筆	演習：各自研究内容についての資料を基に論文の執筆	関係資料を熟読し、執筆に備える
13	調査方法 ・具体的な調査方法について提案する	演習：自らの研究テーマに即した調査方法について検討する	調査方法についての予習
	卒業論文の執筆 ・プロットに即した研究内容の執筆	演習：各自研究内容についての資料を基に論文の執筆	関係書類を熟読し、執筆に備える
14	調査方法 ・具体的な調査方法について提案する	演習：自らの研究テーマに即した調査方法について検討する	調査方法についての予習
	卒業論文の執筆 ・プロットに即した研究内容の執筆	演習：各自研究内容についての資料を基に論文の執筆	研究内容についての資料を熟読
15	調査項目 ・卒業論文の調査項目としてふさわしい内容かどうかを確認する	演習：調査項目について吟味し互いに批評し合う	調査項目についての予習
	卒業論文の執筆 ・プロットに即した研究内容の執筆	演習：各自研究内容についての資料を基に論文の執筆	研究内容についての資料を熟読
16	調査項目 ・互いの調査項目を提出し批評し合う	演習：調査項目について吟味し互いに批評し合う	調査項目についての予習
	卒業論文の執筆 ・プロットに即した研究内容の執筆	各自研究内容についての資料を基に論文の執筆	研究内容についての資料を熟読
17	分析方法 ・自らの卒業論文に即した分析の仕方を見つけ出す	演習：自らの分析の仕方を提示し分析の仕方を見つけ出し検討する	分析の方法について予習
	卒業論文内容の吟味 ・執筆した卒業論文に齟齬がないかの確認	演習：グループで一人の論文を読んで齟齬がないかを確認	論文全体を通して熟読
18	分析方法 ・自らの卒業論文に即した分析の仕方を見つけ出し確定する	演習：自らの分析の仕方を確定する	分析の方法について確認する
	卒業論文内容の吟味 ・執筆した卒業論文に齟齬がないかの確認	演習：グループで一人の論文を読んで齟齬がないかを確認	論文全体を通して熟読
19	情報の整理 ・研究の方法と資料の情報化	演習：資料の整理の仕方について討議	資料の整理の仕方について予習
	卒業論文内容の吟味 ・執筆した卒業論文に齟齬がないかの確認	演習：グループで一人の論文を読んで齟齬がないかを確認	論文全体を通して熟読
20	情報の整理 ・研究の方法と資料の情報化	演習：資料の整理の仕方についての討議	資料の整理の仕方について予習
	卒業論文内容の吟味 ・執筆した卒業論文に齟齬がないかの確認	演習：互いに誤字脱字が無いかを確認	論文全体を通して熟読

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
21	論文構成部分とその順序 ・論文の構成部分について	演習：「序論」「本論」「結論」についての討議	論文の構成について予習
	卒業論文内容のチェック ・卒業論文全体を通して、内容に齟齬がないかの確認	演習：卒業論文を回し読みし、互いに間違いを指摘	卒業論文に齟齬がないかを確認
22	論文の構成部分とその順序 ・論文の構成順序	演習：「序論」「本論」「結論」についての討議	論文の構成について予習
	卒業論文内容のチェック ・卒業論文の内容に齟齬がないかを再度確認	演習：互いに各自の卒業論文の内容について発表	卒業論文の内容を熟読
23	研究計画書作成 ・研究テーマの作成	演習：各自の研究テーマについて発表し討議する	研究テーマについての検討
	卒業論文内容のチェック ・卒業論文の内容に齟齬がないかを再度確認	個別指導：卒業論文としての内容を確認する	卒業論文を再度読み返し確認
24	研究計画書作成 ・研究テーマについての確定 ・研究テーマの意義についての検討	演習：各自研究テーマの意義を発表し討議する	研究テーマの意義を検討し計画の見直しをもつ
	卒業論文の提出 ・研究テーマに即した2年間の研究の成果を卒業論文として提出	演習：各自の卒業論文についての概要を発表し合う	卒業論文を再度読み返して内容を確認
25	研究計画書完成 ・卒業論文構想の発表会	演習：卒業論文執筆の構想を発表し互いに批評し合う	研究計画の確認と発表の予習
	卒業論文発表会の準備 ・発表原稿の執筆、検討	演習：資料の収集、整理、分析	発表原稿の内容を構想
26	卒業論文作成「序論」 ・問題の所在の提示についての執筆	個別指導：問題の所在が適切であるかの確認	問題の所在を確認し執筆の構想を練る
	卒業論文発表会の準備 ・発表原稿の執筆、検討	個別指導：発表原稿の内容についての検討	発表原稿の構想の把握
27	卒業論文作成「序論」 ・問題の設定理由についての執筆 ・問題設定の動機についての執筆	個別指導：問題の設定理由・動機についての確認	問題の設定理由や動機についての内容を予習
	卒業論文発表会の準備 ・発表原稿の完成	個別指導：発表原稿として筋が通っているかの確認	発表原稿の見直しや文言のチェック
28	卒業論文作成「序論」 ・仮説の提示についての執筆 ・用語の説明についての執筆	個別指導：仮説や用語の説明に不備がないかを確認	仮説や用語の説明に関する整理と執筆準備
	卒業論文発表会の練習 ・リハーサルや発表会本番に向けての準備	個別指導：発表原稿等のチェックをし、リハーサルに備える	発表原稿を読む練習
29	卒業論文作成「序論」 ・研究及び調査方法についての執筆 ・論文の構想についての執筆	個別指導：「序論」としての体裁及び内容が適切であるかを確認	論文の調査方法や論文の構想についての確認
	卒業論文発表会の練習 ・原稿を見て、滑らかに発表出来るようにリハーサルを実施	演習：互いにリハーサルを聞き合っ、批評し合う	発表原稿を繰り返し読む練習

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
30	卒業論文作成「序論」 ・序論についての発表会	演習：「序論」についての発表を聞き、互いに批評し合う	序論の発表についての予習
	卒業論文発表会 ・練習の成果を生かし、論文の研究結果について発表を行う	演習：互いに発表したり他の人の発表を聞いたりして学び合う	発表会のための練習
【到達度の評価（評価方法・基準）】 <ul style="list-style-type: none"> ・3年次においては、卒業論文についての把握、研究についての理解、研究計画の作成、批判的読解力、研究テーマの設定、卒業論文の構成などを通して、卒業論文の執筆に向けての準備ができているかを総合的に判断する。 ・評価については、4年次の卒業論文提出後に実施する。 			
【参考書】 <ol style="list-style-type: none"> (1) 書名：レポート・論文の書き方入門 第3版 著者名：河野 哲也 発行所：慶應義塾大学出版会 価格：1,000円（税別） (2) 書名：大学生のための研究ハンドブック 著者名：ノートルダム清心女子大学人間生活科 編 発行所：大学教育出版 価格：1,200円（税別） (3) 書名：「文科系」学生のレポート・卒論術 著者名：渡辺 潤、宮入 恭平 編著 発行所：青弓社 価格：1,600円（税別） (4) 書名：学生・院生のためのレポート・論文の作成マニュアル 著者名：滝川 好夫 発行所：税務経理協会 価格：1,300円（税別） 			

授業科目名	ゼミナール		授業形態・単位数	演習・4単位
			開講年次	3～4年次
担当教員	職名：教授 氏名：渡 辺 博 志 <small>わた なべ ひろ し</small>		開講期	通年（2年間）
			授業回数	60回
			期末試験の有無	無
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		60時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	必修	
幼稚園教諭一種免許状		専門教育科目	必修	
保育士資格		専門教育科目	必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 「幼児期の言葉の獲得と保育者の役割」を主たる研究のテーマとする。子どもが言葉の使い手として発達していく姿や言葉が育つ環境などの諸要素を取り上げてその関連について考察するとともに、言語環境としての教師の様々な役割とその意味について追究していく。そのために、幼稚園の保育場面と観察対象児の発話を継続的に取り上げ、その記録を分析、討議して言葉の発達と教師の役割の関連について具体的に理解を深めていく。 3年生は言葉獲得の理論と事例を関連させた卒論の基本構想を確立し、4年生は卒論指導を中心に行う。	【授業の概要との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技術・技能	
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力	
	<input type="radio"/>	D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
	<input type="radio"/>	F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	<input type="radio"/>	J	多様性への理解力、応用力	
<input type="radio"/>	K	課題対処力		
<input type="radio"/>	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力		
【授業の到達目標】	【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)			
卒業研究の方法と手順を把握し、論文作成の概要、書式について理解することができる。	目標	A、C		
先行研究（論文、実践）を調査し、レビューを行うことで研究の方向性を探り、課題のとらえ方を理解することができる。	目標	A、C、J、K、L		
研究課題について見通しをもち、研究計画を作成することができる。	目標	A、C、D、J、K		
論文テーマに関わる各論について論理的に構成し配置することができる。	目標	A、B、C、J、K		
4年次には、研究計画、構成案に基づき卒業論文を執筆する。	目標	A、B、C、D、F		

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション <ul style="list-style-type: none"> 授業の概要とゼミナールの学びについて 研究の見通しと方法 卒業論文の作成について① <ul style="list-style-type: none"> 卒業論文作成の方法と手順 	授業計画 講義：「論文の作成の展望を開く」 演習：研究に対する興味・関心の方向性についての話し合い	関係図書等を基に論文作成の基本を検討する。
2	卒業論文の作成について② <ul style="list-style-type: none"> 「論文」の必須条件 卒業論文作成の見通しと書式 	講義「論文の条件」 演習：論文作成の書式等についてモデル調査	関係図書等を基に論文作成の基本を予習する。

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
3	卒業論文の作成について③ <ul style="list-style-type: none"> ・図解を活用した研究の「見える化」 ・研究テーマと構成 	講義：「論文の組み立て」 演習：図解の効果についての話し合い	紹介図書を基に論文作成、図解の基本を予習
4	先行研究の調査 <ul style="list-style-type: none"> ・検索環境 — 図書館の資料閲覧と検索サイト ・論文検索の習得 	演習：資料収集、論文検索の方法と実際	資料収集、論文検索の方法を予習する。
5	先行研究の調査① <ul style="list-style-type: none"> ・研究分野、内容に関するキーワードの洗い出し ・研究に関連する論文・実践の論文検索 	演習：資料収集、論文検索の方法と実際 先行研究のキーワード洗い出し	資料収集、論文検索の方法を予習する。
6	先行研究の調査② <ul style="list-style-type: none"> ・研究分野、内容に関するキーワードの洗い出し ・研究に関連する論文・実践の論文検索 	演習：資料収集、論文検索の方法と実際 先行研究のキーワードと関連研究の調査	資料収集、論文検索の方法を予習する。
7	先行研究の調査③ <ul style="list-style-type: none"> ・研究に関連する論文・実践の論文検索 ・関連研究論文から「テーマ」と「構成」の組み立てを学ぶ 	演習：資料収集、論文検索の方法と実際 先行研究の「テーマ」と構成について調査	資料収集、論文検索の方法を予習する。
8	先行研究の調査④ <ul style="list-style-type: none"> ・研究に関連する論文・実践の論文検索 ・関連研究論文から「テーマ」と各論の組み立てを学ぶ 	演習：資料収集、論文検索の方法と実際 先行研究の「テーマ」と構成について調査	資料収集、論文検索の方法を予習する。
9	先行研究の調査⑤ <ul style="list-style-type: none"> ・研究に関連する論文・実践の論文検索 ・関連研究論文から「実践事例」の調査方法、分析を学ぶ 	演習：資料収集、論文検索の方法と実際 先行研究の「実践事例」分析方法を調査	資料収集、論文検索の方法を予習する。
10	先行研究の調査⑥ — 先行研究レビュー <ul style="list-style-type: none"> ・関連研究論文から研究の着眼点、方法、アウトラインの組み立て、結論の導き方を学ぶ ・研究モデルのテーマ、構成等分析 	演習：先行研究レビュー発表	論文レビューを作成する。
11	先行研究の調査⑦ — 先行研究レビュー <ul style="list-style-type: none"> ・関連研究論文から研究の着眼点、方法、アウトラインの組み立て、結論の導き方を学ぶ ・研究モデルのテーマ、構成等分析 	演習：先行研究レビュー発表	論文レビューを作成する。
12	研究課題・内容・方法の組み立て検討① <ul style="list-style-type: none"> ・研究テーマ ・実践事例、分析 ・各論の内容と論理的展開 	演習：仮の研究テーマと予想される各論の関連について図解を通して表現	課題研究のための資料を作成する。
13	研究課題・内容・方法の組み立て検討② <ul style="list-style-type: none"> ・研究テーマ ・実践事例、分析 ・各論の内容と論理的展開 	演習：仮の研究テーマと予想される各論の関連について図解を通して表現	課題研究のための資料を作成する。
14	研究課題・内容・方法の組み立て検討③ <ul style="list-style-type: none"> ・研究テーマ ・実践事例、分析 ・各論の内容と論理的展開 	演習：仮の研究テーマと予想される各論の関連について図解を通して表現	課題研究のための資料を作成する。

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
15	研究課題・内容・方法の組み立て検討④ <ul style="list-style-type: none"> 研究テーマ 実践事例、分析 各論の内容と論理的展開 	演習：仮の研究テーマと予想される各論の関連について図解を通して表現	課題研究のための資料を作成する。
16	研究課題・内容・方法の組み立て検討⑤ <ul style="list-style-type: none"> 研究テーマ 実践事例、分析 各論の内容と論理的展開 	演習：仮の研究テーマと予想される各論の関連について図解を通して表現	課題研究のための資料を作成する。
17	研究課題・内容・方法の組み立て検討⑥ <ul style="list-style-type: none"> 研究テーマ 実践事例、分析 各論の内容と論理的展開 	演習：仮の研究テーマと予想される各論の関連について図解を通して表現	課題研究のための資料を作成する。
18	研究課題の中間報告① <ul style="list-style-type: none"> 研究テーマ 関連する各論の妥当性検討 ゼミ内発表・合評 	合評会：研究テーマと各論の構成	中間報告発表資料を作成する。
19	研究課題の中間報告② <ul style="list-style-type: none"> 研究テーマ 関連する各論の妥当性検討 ゼミ内発表・合評 	合評会：研究テーマと各論の構成の妥当性	中間報告発表資料を作成する。
20	研究課題・アウトラインの検討・調整① <ul style="list-style-type: none"> テーマと各論の構成について 研究の方法・分析の調整 	演習：合評会の意見等を参考に研究のアウトラインを調整、修正	研究のアウトラインを検討し、調整、修正をする。
21	研究課題・アウトラインの検討・調整② <ul style="list-style-type: none"> テーマと各論の構成について 研究の方法・分析の調整 	演習：合評会の意見等を参考に研究のアウトラインを調整、修正	研究のアウトラインを検討し、調整、修正をする。
22	研究テーマに基づく研究計画の立案① <ul style="list-style-type: none"> 研究テーマの意義、独自性、妥当性検討 ゼミ内合評 	演習：研究計画の作成：テーマの妥当性について発表 合評会を通して批評交流	研究計画と発表資料を作成する。
23	研究テーマに基づく研究計画の立案② <ul style="list-style-type: none"> 実践事例、調査分析、各論の論理的構成 タイムスケジュール ゼミ内合評 	演習：各論の構成について発表 合評会を通して批評交流	研究計画とタイムスケジュールを作成する。
24	研究テーマに基づく研究計画の立案③ <ul style="list-style-type: none"> 研究テーマの確定 実践事例、調査分析、各論の論理的構成 タイムスケジュール ゼミ内合評 	演習：研究テーマの決定 各論の構成仮決定 タイムスケジュール作成	研究計画とタイムスケジュールを作成する。
25	研究テーマに基づく研究計画書 <ul style="list-style-type: none"> 卒業論文構想発表会 	ゼミ内研究構想発表	研究構想発表会資料を作成する。
26	卒業論文の作成① <ul style="list-style-type: none"> 研究計画に基づく執筆 研究の背景、意義、研究視点の検討 	個別指導 研究テーマと研究視点の関連性検討	研究の意義、独自視点のキーワードを確認し、執筆を進める。
27	卒業論文の作成② <ul style="list-style-type: none"> 研究計画に基づく執筆 各論の小見出し、キーワードの整合性検討 	個別指導 用語、キーワード検討	各論の小見出し、キーワードを確認し執筆する。

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
28	卒業論文の作成③ ・研究計画に基づく執筆 ・各論の小見出し、キーワードの整合性検討	個別指導 研究テーマと各論の整合性検討	各論の小見出し、キーワードを確認し執筆する。
29	卒業論文の作成④ ・研究計画に基づく執筆 ・各論の小見出し、キーワードの整合性検討 ・序論の検討	個別指導 研究テーマと各論の整合性検討	序論を検討し作成する。
30	卒業論文の作成⑤ ・研究計画に基づく執筆 ・序論の執筆	個別指導 「序論」の検討	序論を執筆する。
<p>【到達度の評価（評価方法・基準）】</p> <p>① 3年次は研究対象、テーマの絞り込み、研究方法の決定、調査方法と分析の方法決定を通して、論文構成を練り、研究計画を作成する。</p> <p>② 4年次は、適時にプレゼンテーションを実施しながら研究構成の改善、修正を加え、論文執筆に取り組む。</p> <p>③ ①②の各段階ごとのまとめ、提出物、プレゼンテーションをもとに評価する。</p> <p>④ 成績の総合評価は4年次の卒業論文提出後に実施する。</p>			
<p>【参考書】</p> <p>(1) 書名：論文の書き方 ― ステップ式リサーチ戦略の進め ― 著者名：花井 等、若松 篤 発行所：有斐閣 価格：1,600円（税別）</p> <p>(2) 書名：卒業論文・修士論文作成の要点整理 著者名：滝川 好夫 発行所：税務経理協会 価格：1,300円（税別）</p> <p>(3) 書名：よくわかる卒論の書き方 第2版 著者名：白井 利明、高橋 一郎 発行所：ミネルヴァ書房 価格：2,500円（税別）</p> <p>その他、研究内容によって適宜紹介する</p>			
<p>【その他補足事項】</p> <p>実践研究を深めるための具体的制作の費用は各自負担とする。</p>			

授業科目名	ゼミナール		授業形態・単位数	演習・4単位
			開講年次	3～4年次
担当教員	職名：准教授 氏名：鈴木美樹		開講期	通年（2年間）
			授業回数	60回
			期末試験の有無	無
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		60時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	必修	
幼稚園教諭一種免許状		専門教育科目	必修	
保育士資格		専門教育科目	必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 「美術」は、日常から切り離されたものではなく、とても身近なものである。それは、芸術表現の一領域でありながら、文学や音楽、また歴史や文化、科学等の他領域とも密接にかかわっている。本ゼミナールでは、単なる制作にとどまらず、広く教養としての「美術」を学びながら、自分を取り巻く世界の諸相を、再発見していく視点を獲得する。具体的には様々な表現を通して、ものを作りだす喜びを味わう。各月ごとの「歳時記」の記述を通して自然に親しみ、感性を豊かにする。 4年生には卒論指導を中心として行う。	【授業の概要との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技術・技能	
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力	
	<input type="radio"/>	D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
	<input type="radio"/>	F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
	<input type="radio"/>	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	<input type="radio"/>	J	多様性への理解力、応用力	
<input type="radio"/>	K	課題対処力		
<input type="radio"/>	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力		
【授業の到達目標】	【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)			
卒業論文の形式と書き方を知り、調査・分析方法が理解できるようになる。	目標	A、B、C、D		
先行研究のレビューを行うことで、研究の方向性を探り、問題のとらえ方を理解できる。	目標	A、C、D、I、J、K		
様々な素材や道具を使用し、技法を試したりなど制作を行うことで、その特性が把握でき、表現技術が向上する。	目標	A、B、J、K		
歳時記を記入することにより、感性が豊かになり、自然や文化等に対する知識が養われる。	目標	A、B、C、F、J、K		

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	3年生 オリエンテーション ・授業の概要と目標 ・授業の内容と年間計画 卒業論文の書き方① 卒業研究の形式を学ぶ 歳時記の記入方法～感性について	授業計画 講義・演習 教科書 プリント 各自、リングファイル（A4判）を準備する	関係書籍等の熟読 歳時記の記入 制作・教材研究
	4年生 オリエンテーション ・授業の概要と目標の確認 ・授業の内容と年間計画の確認	授業計画 講義・演習 プリント 論文指導 作成進捗状況の報告	論文作成 先行研究を検索 制作・教材研究

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
2	3年生 卒業論文の書き方② 卒業論文の構成を学ぶ 教材研究の方法について① 学習の進め方	講義・演習 教科書、プリント 材料・用具等	関係書籍等の熟読 歳時記の記入 制作・教材研究
	4年生 論文作成⑥（先行研究レビュー） 調査の検討・確認	論文指導 作成進捗状況の報告	論文作成 先行研究を検索 制作・教材研究
3	3年生 興味・関心・価値観について 自分の価値観を検証する 教材研究の方法について② 資料整理の仕方（写真・製作物も含む）	ディスカッション 教科書	自身の興味・関心事を整理する 歳時記の記入 制作・教材研究
	4年生 論文作成⑦（先行研究レビュー） 調査の検討・確認	論文指導 作成進捗状況の報告	論文作成 先行研究を検索 制作・教材研究
4	3年生 先行研究検索の方法について 論文検索サイトの紹介 論文検索を体験する 教材研究の方法について③ 材料・用具・技法の理解を深める	講義 演習 教科書	インターネットで論文を検索 歳時記の記入 制作・教材研究
	4年生 論文作成⑧（先行研究レビュー） 調査の検討・確認	論文指導 作成進捗状況の報告	論文作成 先行研究を検索 制作・教材研究
5	3年生 先行研究の検索① 興味・関心事から検索キーワードを抽出する 教材研究の方法について④ 材料・用具・技法の理解を深める	演習 教科書	先行研究を検索 歳時記の記入 制作・教材研究
	4年生 論文作成⑨（先行研究レビュー） 調査の検討・確認	論文指導 作成進捗報告	論文作成 先行研究を検索 制作・教材研究
6	3年生 先行研究の検索② 興味・関心事から検索キーワードを抽出する 教材研究の方法について⑤ 材料・用具・技法の理解を深める	演習 教科書	先行研究を検索 歳時記の記入 制作・教材研究
	4年生 論文作成⑩（先行研究レビュー） 調査の検討・確認	論文指導 作成進捗報告	論文作成 先行研究を検索 制作・教材研究
7	3年生 先行研究レビュー①	レビュー発表 ディスカッション 教科書	論文レビューを作成する 歳時記の記入 制作・教材研究
	4年生 論文作成⑪（先行研究レビュー） 調査の検討・確認	論文指導 作成進捗報告	論文作成 先行研究を検索 制作・教材研究
8	3年生 先行研究レビュー②	レビュー発表 ディスカッション 教科書	論文レビューを作成する 歳時記の記入 制作・教材研究
	4年生 論文作成⑫（先行研究レビュー） 調査の検討・確認	論文指導 作成進捗報告	論文作成 先行研究を検索 制作・教材研究

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
9	3年生 先行研究の検索③	興味・関心事から検索キーワードを抽出する 教科書	先行研究を検索 歳時記の記入 制作・教材研究
	4年生 論文作成⑬（先行研究レビュー） 調査の検討・確認	論文指導 作成進捗報告	論文作成 先行研究を検索 制作・教材研究
10	3年生 先行研究の探索④	演習 プリント 用具、材料等	先行研究を検索 歳時記の記入 制作・教材研究
	4年生 論文作成⑭（先行研究レビュー） 調査の検討・確認	論文指導 作成進捗報告	論文作成 先行研究を検索 制作・教材研究
11	3年生 先行研究レビュー③	演習 プリント 用具、材料等	先行研究を検索 歳時記の記入 制作・教材研究
	4年生 論文作成⑮（先行研究レビュー） 調査の検討・確認	論文指導 作成進捗報告	論文作成 先行研究の検索 制作・教材研究
12	3年生 先行研究レビュー④	レビュー発表 ディスカッション	論文レビューを作成する 歳時記の記入 制作・教材研究
	4年生 論文作成⑯（先行研究レビュー） 調査の検討・確認	論文指導 作成進捗報告	論文作成 先行研究を検索 制作・教材研究
13	3年生 調査方法について① 自分の研究にあった調査方法を検討する	演習 教科書	調査方法について事前に調べる 歳時記の記入
	4年生 論文作成⑰（先行研究確認・調査） 調査分析（データ整理）	論文指導 作成進捗報告	論文作成 制作・教材研究
14	3年生 調査方法について② 自分の研究にあった調査方法を検討する	演習 教科書	調査方法について事前に調べる 歳時記の記入
	4年生 論文作成⑱（先行研究確認・調査） 調査分析（データ整理）	論文指導 作成進捗報告	論文作成 制作・教材研究
15	3年生 分析方法について① 自分の研究にあった分析方法を検討する	講義・演習 教科書	分析方法について事前に調べる 歳時記の記入 制作・教材研究
	4年生 論文作成⑲（先行研究確認・調査） 調査分析（データ整理）	論文指導 作成進捗報告	論文作成 制作・教材研究
16	3年生 分析方法について② 自分の研究にあった分析方法を検討する	講義・演習 教科書	分析方法について事前に調べる 歳時記の記入 制作・教材研究
	4年生 論文作成⑳（先行研究確認・調査） 調査分析（データ整理）	論文指導 作成進捗報告	論文作成 制作・教材研究

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
17	3年生 分析方法について③ 自分の研究にあった分析方法を検討する	講義・演習 教科書	分析方法について事前に調べる 歳時記の記入 制作・教材研究
	4年生 論文作成①（先行研究確認・調査） 調査分析（データ整理）	論文指導 作成進捗報告	論文作成 制作・教材研究
18	3年生 研究計画書作成① 卒業研究及び論文執筆のタイムテーブルを作る	演習 プリント 用具、材料等	歳時記の記入 制作・教材研究
	4年生 論文作成②（先行研究確認・調査） 調査分析（データ整理）	論文指導 作成進捗報告	論文作成 制作・教材研究
19	3年生 研究計画書作成② 卒業研究及び論文執筆のタイムテーブルを作る	演習 プリント 用具、材料等	歳時記の記入 制作・教材研究
	4年生 論文作成③（仮説・調査） 調査分析（データ整理）	論文指導 作成進捗報告	論文作成 制作・教材研究
20	3年生 調査対象の検討 卒業研究の対象者の妥当性を検討する	演習 教科書	研究テーマの検討 歳時記の記入 制作・教材研究
	4年生 論文作成④（仮説・調査） 調査分析（データ整理）	論文指導 作成進捗報告	論文作成 制作・教材研究
21	3年生 調査方法の決定 卒業研究の調査方法の妥当性を検討する	演習 教科書	研究意義を考える 歳時記の記入 制作・教材研究
	4年生 論文作成⑤（仮説・調査） 調査分析（データ整理）	論文指導 作成進捗報告	論文作成 制作・教材研究 調査項目を検討し、抽出根拠を明確にする
22	3年生 調査項目の抽出・決定 卒業研究の調査にかかる項目の妥当性を検討する 調査項目を決定する	演習 プリント 用具、材料等	歳時記の記入 制作・教材研究
	4年生 論文作成⑥（仮説・調査） 調査分析（データ分析）	論文指導 作成進捗報告	論文作成 制作・教材研究
23	3年生 分析方法の検討 調査にかかる分析方法の妥当性を検討する	演習 プリント 用具、材料等	歳時記の記入 制作・教材研究
	4年生 論文作成⑦（仮説・調査） 調査分析（データ分析）	論文指導 作成進捗報告	論文作成 制作・教材研究
24	3年生 分析方法の決定 調査にかかる分析方法を決定する	演習 教科書	分析方法を検討する 歳時記の記入 制作・教材研究
	4年生 論文作成⑧（調査結果） 調査分析（データ分析）	論文指導 作成進捗報告	論文作成 制作・教材研究

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
25	3年生 研究計画書を完成させる 卒業研究及び論文執筆のタイムテーブルの作成 卒業論文構想の発表（12月中旬）	演習 教科書	計画書の再検討 発表練習 歳時記の記入 制作・教材研究
	卒業研究及び卒業論文の構想を発表する		
	4年生 論文作成 ²⁹ （調査結果） 調査分析（データ分析）	論文指導 作成進捗報告	論文作成 制作・教材研究
26	3年生 論文作成 ¹ 研究の背景・目的の検討	論文指導 ディスカッション 教科書	研究の背景・目的の検討・ 考察 歳時記の記入 制作・教材研究
	4年生 論文作成 ³⁰ （最終確認・提出準備）	論文指導 作成進捗報告	論文作成 制作・教材研究
27	3年生 論文作成 ² 研究の背景・目的の執筆	論文指導 ディスカッション 教科書	研究の背景・目的の執筆・ 考察 歳時記の記入 制作・教材研究
	4年生 論文発表準備 ¹	発表指導	発表資料作成 制作・教材研究
28	3年生 論文作成 ³ 研究の背景・目的の執筆	論文指導 ディスカッション 教科書	研究の背景・目的の執筆・ 考察 歳時記の記入 制作・教材研究
	4年生 論文発表準備 ²	発表指導	発表資料作成 制作・教材研究
29	3年生 論文作成 ⁴ 序章の検討	論文指導 ディスカッション 教科書	序章の検討・考察 歳時記の記入 制作・教材研究
	4年生 論文発表準備 ³	発表指導	発表資料作成 制作・教材研究
30	3年生 論文作成 ⁵ 序章の執筆 調査用紙の作成	論文指導 ディスカッション 教科書	序章の執筆・考察 歳時記の記入 制作・教材研究
	4年生 論文発表準備 ⁴ （リハーサル）	発表指導	発表練習
【到達度の評価（評価方法・基準）】 〈3年生〉 卒業研究のテーマの決定、研究方法の決定、研究対象の決定、調査方法および分析方法の決定をしたのち、研究計画書を作成する。 卒業論文（序章）の執筆を開始する。 〈4年生〉 卒業論文を執筆し、期日までに提出する。 〈3・4年生共通〉 授業への出席、研究の意欲や態度、提出物の状況 評価基準等の詳細は、初回授業で説明する。 成績評価は4年次に行う。			

【教科書】 3年生（2年間継続して使用）

書名：よくわかる卒論の書き方

著者名：白井 利明、高橋 一郎

発行所：ミネルヴァ書房

価格：2,500円（税別）

4年生（3年次より継続して使用）

書名：新版 論文の教室（3年生）

著者名：戸田山和久

発行所：NHK BOOKS

価格：1,200円（税別）

【参考書】

- (1) 書名：幼児教育法講座 新造形表現〈理論・実践編〉 ※表現 I で使用した教科書

著者名：花篤 實、岡田 愨吾 編著

発行所：三晃書房

価格：2,000円（税別）

- (2) 書名：幼児造形教育の基礎知識

著者名：花篤 実 監修、永守 基樹、清原 知二 編集

発行所：建帛社

価格：2,700円（税別）

- (3) 書名：科学の健全な発展のために ― 誠実な科学者の心得 ―

著者名：日本学術振興会「科学者の健全な発展のために」編集委員会 編

発行所：丸善出版

価格：900円（税別）

- (4) 書名：卒論執筆のための Word活用術

著者名：田中 幸夫

発行所：BLUE BACKS

価格：880円（税別）

- (5) 書名：新版 論文の教室（3年生対象）

著者名：戸田山和久

発行所：NHK BOOKS

価格：1,200円（税別）

【その他補足事項】

- 各自が使用する材料・用具は、基本的に自己負担となる。
- 感性や表現力を豊かにするため、自主的に美術館や博物館等で作品を鑑賞し、ワークショップや講演等にも、積極的に参加することが望ましい。（交通費や入場料他は自己負担となる）
- 保育現場でのボランティア等も推奨する。
- 学習の進捗等により、内容が一部変更になる場合がある。

授業科目名	ゼミナール		授業形態・単位数	演習・4単位
			開講年次	3～4年次
担当教員	職名：准教授 氏名：佐藤 佑貴		開講期	通年（2年間）
			授業回数	60回
			期末試験の有無	無
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		60時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	必修	
幼稚園教諭一種免許状		専門教育科目	必修	
保育士資格		専門教育科目	必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 保育および幼児教育における個性記述的理解に関する視点で、研究をしていく。3年次には問題意識を明確にもてるようになるため、実習やボランティア等実践体験を重ねることや先行研究のクリティークを行う。また、研究方法についても知識を深め、研究改革を立てられるようにする。4年次には、予備調査等研究の実践に入る。データの解釈等吟味のためのディスカッションを十分にを行い、保育・幼児教育の現場に役立つ知見を見出す。	【授業の概要との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
		B	技術・技能	
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力	
	<input type="radio"/>	D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
	<input type="radio"/>	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
	<input type="radio"/>	K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】		【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)		
先行研究のレビューおよびクリティークを行い、リサーチクエストを立てられる。		目標	C、K	
リサーチクエストに沿った方法論を選択できる。		目標	A	
先行研究およびリサーチクエストに則した考察ができる。		目標	C、D	
筋道を立てて説明およびプレゼンテーションができる。		目標	I	

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	• 研究とは何をするのか？(1) 問題意識を持つ	資料に基づくディスカッション	
2	• 研究とは何をするのか？(2) 問題意識を持つ	資料に基づくディスカッション	
3	• 研究とは何をするのか？(3) 問題意識を持つ	資料に基づくディスカッション	
4	• 研究とは何をするのか？(4) 仮説生成研究と仮説検証研究について 倫理的問題について	APA論文作成マニュアルを読んでディスカッション	資料の事前講読

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
5	<ul style="list-style-type: none"> 研究とは何をするのか？(5) 先行研究に学ぶ 論文の形式とルール 文献検索の仕方を体験する 	図書館での文献検索実習	関連する文献を3篇集める。
6	<ul style="list-style-type: none"> 先行研究を読もう(1) 	プレゼンテーションとディスカッション	資料作成
7	<ul style="list-style-type: none"> 先行研究を読もう(2) 	プレゼンテーションとディスカッション	資料作成
8	<ul style="list-style-type: none"> 先行研究を読もう(3) 	プレゼンテーションとディスカッション	資料作成
9	<ul style="list-style-type: none"> 先行研究を読もう(4) 	プレゼンテーションとディスカッション	資料作成
10	<ul style="list-style-type: none"> 先行研究を読もう(5) 	プレゼンテーションとディスカッション	資料作成
11	<ul style="list-style-type: none"> 先行研究を読もう(6) 	プレゼンテーションとディスカッション	資料作成
12	<ul style="list-style-type: none"> 先行研究を読もう(7) 	プレゼンテーションとディスカッション	資料作成
13	<ul style="list-style-type: none"> 先行研究を読もう(8) 	プレゼンテーションとディスカッション	資料作成
14	<ul style="list-style-type: none"> 先行研究を読もう(9) 	プレゼンテーションとディスカッション	資料作成
15	<ul style="list-style-type: none"> 先行研究を読もう(10) 	プレゼンテーションとディスカッション	資料作成
16	<ul style="list-style-type: none"> リサーチクエスチョンを立てよう(1) 	プレゼンテーションとディスカッション	資料作成
17	<ul style="list-style-type: none"> リサーチクエスチョンを立てよう(2) 	プレゼンテーションとディスカッション	資料作成
18	<ul style="list-style-type: none"> リサーチクエスチョンを立てよう(3) 	プレゼンテーションとディスカッション	資料作成
19	<ul style="list-style-type: none"> リサーチクエスチョンを立てよう(4) 	プレゼンテーションとディスカッション	資料作成
20	<ul style="list-style-type: none"> リサーチクエスチョンを立てよう(5) 	プレゼンテーションとディスカッション	資料作成
21	<ul style="list-style-type: none"> 研究方法について学ぼう(1) 量的研究についての文献講読 	文献講読とディスカッション	
22	<ul style="list-style-type: none"> 研究方法について学ぼう(2) 量的研究についての文献講読 	文献講読とディスカッション	
23	<ul style="list-style-type: none"> 研究方法について学ぼう(3) 質的研究についての文献講読 	文献講読とディスカッション	

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
24	・研究方法について学ぼう(4) 質的研究についての文献講読	文献講読とディスカッション	
25	・研究方法について学ぼう(5) 質的研究についての文献講読	文献講読とディスカッション	
26	・研究方法について学ぼう(6) 質的研究についての文献講読	文献講読とディスカッション	
27	・研究方法を選択しよう(1)	文献講読とディスカッション	
28	・研究方法を選択しよう(2)	文献講読とディスカッション	
29	・研究方法を選択しよう(3)	文献講読とディスカッション	
30	・研究方法を選択しよう(4)	文献講読とディスカッション	
【到達度の評価（評価方法・基準）】 授業時に活発に発言（意見・疑問等）しているか。 30% プレゼンテーション時に筋立てて説明できているか。 30% 先行研究を多く読んでいるか。 30% 方法論のメリットデメリットを把握しているか。 10%			
【参考書】 授業時にその都度紹介する。			

授業科目名	ゼミナール		授業形態・単位数	演習・4単位
			開講年次	3～4年次
担当教員	職名：准教授 氏名：島田貴広 しまだ たかひろ		開講期	通年（2年間）
			授業回数	60回
			期末試験の有無	無
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		60時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	必修	
幼稚園教諭一種免許状		専門教育科目	必修	
保育士資格		専門教育科目	必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 当ゼミナールでは子どもの運動発達とその支援、運動学習と指導に関する内容についての研究活動を行うこととする。「運動の『できる』『できない』はなぜ存在するのか。」「子どもが上手にできるようになるには指導者として何をどうすればよいのか。」といった基本的な問題を出発点に、体育科教育や運動学についての理解を深めていく。 3年次は主として体育学や運動学等の文献を輪読しながら、教育者あるいは保育者としての視点から子どもと運動にまつわる問題や課題を探り、自らの研究計画を立てていく。 4年次は卒論の作成と、途中経過のプレゼンテーションやディスカッションを中心に研究活動を行う。	【授業の概要との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
		B	技術・技能	
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力	
	<input type="radio"/>	D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
	<input type="radio"/>	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	<input type="radio"/>	J	多様性への理解力、応用力	
	<input type="radio"/>	K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】	【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)			
2年間の学びと研究活動の成果を卒業論文として纏める。	目標	A、C、D、I、J、K		
学術論文執筆の基本的なルールと方法を習得する。	目標	C、D、K		
学術論文等や専門書を読み込み、体育や運動学に関する知識を深める。	目標	A、K		

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション ゼミナールの年間計画と、内容の説明	体育分野の学術論文	
2	3年：「スポーツ運動学」文献の輪読と解説	スライド、DVD使用 グループディスカッション	輪読担当部分を事前に読んで、内容を説明できるようにしておく。
	4年：自分の研究計画の発表	スライド、DVD使用 グループディスカッション	報告担当者は資料をまとめておく。
3	3年：「スポーツ運動学」文献の輪読と解説	スライド、DVD使用 グループディスカッション	輪読担当部分を事前に読んで、内容を説明できるようにしておく。
	4年：先行研究のレビュー内容について報告	スライド、DVD使用 グループディスカッション	報告担当者は資料をまとめておく。

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
4	3年：「スポーツ運動学」文献の輪読と解説	スライド、DVD使用 グループディスカッション	輪読担当部分を事前に読んで、内容を説明できるようにしておく。
	4年：先行研究のレビュー内容について報告	スライド、DVD使用 グループディスカッション	報告担当者は資料をまとめておく。
5	3年：「スポーツ運動学」文献の輪読と解説	スライド、DVD使用 グループディスカッション	輪読担当部分を事前に読んで、内容を説明できるようにしておく。
	4年：先行研究のレビュー内容について報告	スライド、DVD使用 グループディスカッション	報告担当者は資料をまとめておく。
6	3年：「スポーツ運動学」文献の輪読と解説	スライド、DVD使用 グループディスカッション	輪読担当部分を事前に読んで、内容を説明できるようにしておく。
	4年：自分の研究の途中経過を報告	スライド、DVD使用 グループディスカッション	報告担当者は資料をまとめておく。
7	3年：「スポーツ運動学」文献の輪読と解説	スライド、DVD使用 グループディスカッション	輪読担当部分を事前に読んで、内容を説明できるようにしておく。
	4年：自分の研究の途中経過を報告	スライド、DVD使用 グループディスカッション	報告担当者は資料をまとめておく。
8	3年：「スポーツ運動学」文献の輪読と解説	スライド、DVD使用 グループディスカッション	輪読担当部分を事前に読んで、内容を説明できるようにしておく。
	4年：自分の研究の途中経過を報告	スライド、DVD使用 グループディスカッション	報告担当者は資料をまとめておく。
9	3年：「スポーツ運動学」文献の輪読と解説	スライド、DVD使用 グループディスカッション	輪読担当部分を事前に読んで、内容を説明できるようにしておく。
	4年：自分の論文の途中経過を報告	スライド、DVD使用 グループディスカッション	報告担当者は資料をまとめておく。
10	3年：論文の形式について	4年生の報告を聞きながら論文の形式について学ぶ	
	4年：論文の目次だての確認	それぞれ研究テーマと論文の目次だてについてプレゼンテーションを実施。	プレゼン担当者は資料を用意しておく。
11	3年：論文の形式について	4年生の報告を聞きながら論文の形式について学ぶ	
	4年：論文の目次だての確認	それぞれ研究テーマと論文の目次だてについてプレゼンテーションを実施。	プレゼン担当者は資料を用意しておく。
12	3年：論文の形式について	4年生の報告を聞きながら論文の形式について学ぶ	
	4年：論文の目次だての確認	それぞれ研究テーマと論文の目次だてについてプレゼンテーションを実施。	プレゼン担当者は資料を用意しておく。

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
13	3年：現時点で研究したいテーマについてプレゼンテーションをする。	ディスカッションを行いながら助言指導を受ける。	プレゼン担当者は資料を用意しておく。
	4年：研究目的と方法についてプレゼンテーションを行う。	ディスカッションを行いながら助言指導を受ける。	プレゼン担当者は資料を用意しておく。
14	3年：現時点で研究したいテーマについてプレゼンテーションをする。	ディスカッションを行いながら助言指導を受ける。	プレゼン担当者は資料を用意しておく。
	4年：研究目的と方法についてプレゼンテーションを行う。	ディスカッションを行いながら助言指導を受ける。	プレゼン担当者は資料を用意しておく。
15	3年：現時点で研究したいテーマについてプレゼンテーションをする。	ディスカッションを行いながら助言指導を受ける。	プレゼン担当者は資料を用意しておく。
	4年：研究目的と方法についてプレゼンテーションを行う。	ディスカッションを行いながら助言指導を受ける。	プレゼン担当者は資料を用意しておく。
16	3年：研究したい分野の先行研究を一つ持参し、概要をプレゼンテーションする	ディスカッションを行いながら助言指導を受ける。	プレゼン担当者は資料を用意しておく。
	4年：調査や実験の内容、結果についてプレゼンテーションを行う。	ディスカッションを行いながら助言指導を受ける。	プレゼン担当者は資料を用意しておく。
17	3年：研究したい分野の先行研究を一つ持参し、概要をプレゼンテーションする	ディスカッションを行いながら助言指導を受ける。	プレゼン担当者は資料を用意しておく。
	4年：調査や実験の内容、結果についてプレゼンテーションを行う。	ディスカッションを行いながら助言指導を受ける。	プレゼン担当者は資料を用意しておく。
18	3年：研究したい分野の先行研究を一つ持参し、概要をプレゼンテーションする	ディスカッションを行いながら助言指導を受ける。	プレゼン担当者は資料を用意しておく。
	4年：調査や実験の内容、結果についてプレゼンテーションを行う。	ディスカッションを行いながら助言指導を受ける。	プレゼン担当者は資料を用意しておく。
19	3年：研究したい分野の先行研究を一つ持参し、概要をプレゼンテーションする	ディスカッションを行いながら助言指導を受ける。	プレゼン担当者は資料を用意しておく。
	4年：考察からまとめについてのプレゼンテーションを行う。	ディスカッションを行いながら助言指導を受ける。	プレゼン担当者は資料を用意しておく。
20	3年：研究したい分野の先行研究を一つ持参し、概要をプレゼンテーションする	ディスカッションを行いながら助言指導を受ける。	プレゼン担当者は資料を用意しておく。
	4年：考察からまとめについてのプレゼンテーションを行う。	ディスカッションを行いながら助言指導を受ける。	プレゼン担当者は資料を用意しておく。
21	3年：研究したい分野の先行研究を一つ持参し、概要をプレゼンテーションする	ディスカッションを行いながら助言指導を受ける。	プレゼン担当者は資料を用意しておく。
	4年：考察からまとめについてのプレゼンテーションを行う。	ディスカッションを行いながら助言指導を受ける。	プレゼン担当者は資料を用意しておく。
22	3年：研究の構想（概要）をまとめる。	個別に作業を進め、適宜助言や指導を受ける。	先行研究を集めながら研究概要を文章にまとめる。
	4年：卒業論文の最終確認と提出準備	個別に論文作成作業を進め、助言指導を受ける。	論文作成作業を進める。助言指導を受けた点については修正しておく。

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
23	3年：研究の構想（概要）をまとめる。	個別に作業を進め、適宜助言や指導を受ける。	先行研究を集めながら研究概要を文章にまとめる。
	4年：卒業論文の最終確認と提出準備	個別に論文作成作業を進め、助言指導を受ける。	論文作成作業を進める。助言指導を受けた点については修正しておく。
24	3年：論文の目次だてをする。	個別に作業を進め、適宜助言や指導を受ける。	研究概要に沿って目次を作ってくる。
	4年：卒業論文の最終確認と提出準備	個別に論文作成作業を進め、助言指導を受ける。	論文作成作業を進める。助言指導を受けた点については修正しておく。
25	3年：論文の目次だてをする。	個別に作業を進め、適宜助言や指導を受ける。	研究概要に沿って目次を作ってくる。
	4年：卒業論文の最終確認と提出準備	個別に論文作成作業を進め、助言指導を受ける。	論文作成作業を進める。助言指導を受けた点については修正しておく。
26	3年：卒業研究計画の作成	個別に作業を進め、適宜助言や指導を受ける。	シラバスに沿って、論文作成に必要な作業スケジュールを考えてくる。
	4年：卒業論文の最終確認と提出準備	個別に論文作成作業を進め、助言指導を受ける。	論文作成作業を進める。助言指導を受けた点については修正しておく。
27	3年：卒業研究計画の作成	各自のテーマに従って個別に作業。	助言指導を受けた点については修正しておく。
	4年：卒業研究発表の準備（抄録やスライドなどプレゼン資料の作成）	個別に発表資料等の準備と、助言・指導を受ける。	助言指導を受けた点については修正しておく。
28	3年：卒業研究計画の作成	各自のテーマに従って個別に作業。	助言指導を受けた点については修正しておく。
	4年：卒業研究発表の準備（抄録やスライドなどプレゼン資料の作成）	個別に発表資料等の準備と、助言・指導を受ける。	助言指導を受けた点については修正しておく。
29	3年：卒業研究計画の作成。4年生の発表会のサポートについて打ち合わせ等を行う。	プレゼンテーションのサポートを行う。	助言指導を受けた点については修正しておく。
	4年：卒業研究発表の準備。リハーサル。	プレゼンテーションを行い助言指導を受ける。	助言指導を受けた点については修正しておく。
30	3年：卒業研究計画の提出。4年生の発表会のサポートについて打ち合わせ等を行う。	プレゼンテーションのサポートを行う。	
	4年：卒業研究発表の準備。リハーサル。	プレゼンテーションを行い助言指導を受ける。	助言指導を受けた点については修正しておく。
【到達度の評価（評価方法・基準）】			
2年間の継続履修を通して学習および研究した成果を卒業論文としてまとめること。			
【参考書】 書名：運動学講義 著者名：金子 明友、朝岡 正雄 編著 発行所：大修館書店 価格：2,000円（税別）			

- 【参考書】**
- (1) 書名：マイネル スポーツ運動学
著者名：クルト・マイネル 著、金子 明友 訳
発行所：大修館書店
価格：4,300円（税別）
 - (2) 書名：スポーツ運動学 ― 身体知の分析論 ―
著者名：金子 明友
発行所：大修館書店
価格：3,400円（税別）
 - (3) 書名：教師のための運動学
著者名：金子 明友 監修、吉田 茂、三木 四郎 編
発行所：大修館書店
価格：2,000円（税別）

【その他補足事項】

論文作成やプレゼンテーション資料作成のため、パソコンは自分のものを用意することが望ましい。

授業科目名	ゼミナール		授業形態・単位数	演習・4単位
			開講年次	3～4年次
担当教員	職名：准教授 氏名：今 清 孝		開講期	通年（2年間）
			授業回数	60回
			期末試験の有無	無
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		60時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	必修	
幼稚園教諭一種免許状		専門教育科目	必修	
保育士資格		専門教育科目	必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 子どもが育つ環境は、人的物的要素に様々な機能が加わり構成されている。こうした子どもの周辺環境を要素ごとに見つめながら、子育て社会の今日的課題と制度の変遷を整理し、子どもの最善の利益獲得を目指すために必要なことを考察していく。特に人間と社会の関係性に注目し、地域福祉やソーシャルワークの視点で「子育て支援」を考察できる、豊かな子育て社会の実現をめざす人材を育成する。 3年生は卒論構想発表を行い、4年生は中間報告を行ない、12月までに卒論の提出をする。	【授業の概要との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技術・技能	
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力	
	<input type="radio"/>	D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
	<input type="radio"/>	F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
	<input type="radio"/>	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	<input type="radio"/>	J	多様性への理解力、応用力	
	<input type="radio"/>	K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】	【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)			
卒業論文の形式と書き方を知る。	目標	A、B、C、D		
先行研究のレビューをし、問題のとらえ方を学ぶ。	目標	A、C、D、I、J、K		
調査方法を理解する。	目標	A、B、C		
分析方法を理解する。	目標	A、B、C		
調査を実施する。	目標	A、B、C		
分析を実施する。	目標	A、B、C		
研究計画書に則り、卒業論文を完成する。	目標	A、C、D、F、I、J、K		

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	卒業論文の書き方①	講義 卒業研究の形式を学ぶ	関係書籍等を熟読する
	論文作成⑥（先行研究レビュー） 調査開始（依頼・配布・回収）	論文指導 作成進捗報告	論文作成 調査依頼 調査用紙配布 先行研究検索

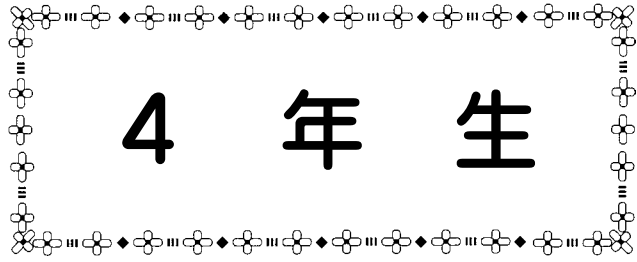
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
2	卒業論文の書き方②	講義 卒業論文の構成を学ぶ	関係書籍等を熟読する
	論文作成⑦（先行研究レビュー） 調査開始（依頼・配布・回収）	論文指導 作成進捗報告	論文作成 調査依頼 調査用紙配布 先行研究検索
3	興味・関心・価値観について	自分の価値観を自己検証する ディスカッション	自身の興味・関心事を整理する
	論文作成⑧（先行研究レビュー） 調査開始（依頼・配布・回収） 論文作成⑨（先行研究レビュー） 調査開始（依頼・配布・回収）	論文指導 作成進捗報告	論文作成 先行研究検索
4	先行研究検索の方法	講義 論文検索サイトの紹介 論文検索の体験	実際にインターネットで論文検索する
	論文作成⑩（先行研究レビュー） 調査開始（依頼・配布・回収）	論文指導 作成進捗報告	論文作成 先行研究検索
5	先行研究検索①	興味・関心事から検索キーワードを抽出する	先行研究を検索する
	論文作成⑪（先行研究レビュー） 調査開始（依頼・配布・回収）	論文指導 作成進捗報告	論文作成 先行研究検索
6	先行研究検索②	興味・関心事から検索キーワードを抽出する	先行研究を検索する
	論文作成⑫（先行研究レビュー） 調査開始（依頼・配布・回収）	論文指導 作成進捗報告	論文作成 調査用紙回収 先行研究検索
7	先行研究レビュー①	レビュー発表 ディスカッション	論文レビューを作成する
	論文作成⑬（先行研究レビュー） 調査開始（依頼・配布・回収）	論文指導 作成進捗報告	論文作成 調査用紙回収 先行研究検索
8	先行研究レビュー②	レビュー発表 ディスカッション	論文レビューを作成する
	論文作成⑭（先行研究レビュー） 調査開始（依頼・配布・回収）	論文指導 作成進捗報告	論文作成 調査用紙回収 先行研究検索
9	先行研究検索③	興味・関心事から検索キーワードを抽出する	再度、先行研究を検索する
	論文作成⑮（先行研究レビュー） 調査開始（依頼・配布・回収）	論文指導 作成進捗報告	論文作成 調査用紙回収 先行研究検索
10	先行研究検索④	興味・関心事から検索キーワードを抽出する	再度、先行研究を検索する
	論文作成⑯（先行研究レビュー） 調査開始（依頼・配布・回収）	論文指導 作成進捗報告	論文作成 調査用紙回収 先行研究検索

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
11	先行研究レビュー③	レビュー発表 ディスカッション	論文レビューを作成する
	論文作成⑰（先行研究レビュー） 調査開始（依頼・配布・回収） 論文作成⑱（先行研究確認） 調査分析（データ整理）	論文指導 作成進捗報告	論文作成 調査用紙回収 先行研究検索 調査データ整理
12	先行研究レビュー④	レビュー発表 ディスカッション	論文レビューを作成する
	論文作成⑲（先行研究確認） 調査分析（データ整理）	論文指導 作成進捗報告	論文作成 調査データ整理 先行研究検索
13	調査方法について①	自分の研究にあった調査方法を検討する	調査方法について事前に調べる
	論文作成⑳（先行研究確認） 調査分析（データ整理）	論文指導 作成進捗報告	論文作成 調査データ整理 先行研究検索
14	調査方法について②	自分の研究にあった調査方法を検討する	調査方法について事前に調べる
	論文作成㉑（先行研究確認） 調査分析（データ整理）	論文指導 作成進捗報告	論文作成 調査データ整理 先行研究検索
15	分析方法について①	講義 自分の研究にあった分析方法を検討する	分析方法について事前に調べる
	論文作成㉒（先行研究確認） 調査分析（データ整理） 中間報告発表	論文指導 作成進捗報告	論文作成 調査データ整理 先行研究検索 中間報告会
16	ゼミ合宿 ～保育園でのボランティア活動～ （筒井保育園・青森市）	保育ボランティアの体験から、保育園の生活の流れ、子どもとのかかわり方を学ぶ	ボランティアでの学びを記録する
	論文作成㉓（先行研究確認） 調査分析（データ整理）	論文指導 作成進捗報告	論文作成 調査データ整理 先行研究検索
17	分析方法について②	講義 自分の研究にあった分析方法を検討する	分析方法について事前に調べる
	論文作成㉔（仮説） 調査分析（データ整理）	論文指導 作成進捗報告	論文作成 調査データ整理 先行研究検索
18	研究計画書作成①	演習 卒業研究及び論文執筆のタイムテーブルを作る	研究テーマの検討をする
	論文作成㉕（仮説） 調査分析（データ整理）	論文指導 作成進捗報告	論文作成 調査データ整理 先行研究検索

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
19	研究計画書作成②	演習 卒業研究及び論文執筆のタイムテーブルを作る	研究意義を考える
	論文作成②⑥（仮説） 調査分析（データ整理） 論文作成②⑦（仮説・調査結果） 調査分析（データ分析）	論文指導 作成進捗報告	論文作成 調査データ整理 データ分析 図表作成
20	調査対象の検討	演習 卒業研究の対象者の妥当性を検討する	具体的な調査対象者を考える
	論文作成②⑧（仮説・調査結果） 調査分析（データ分析） 論文作成②⑨（調査結果） 調査分析（データ分析）	論文指導 作成進捗報告	論文作成 データ分析 図表作成
21	調査方法の決定	演習 卒業研究の調査方法の妥当性を検討する	調査方法の検討を重ねる
	論文作成③⑩（考察） 論文作成③⑪（考察）	論文指導 作成進捗報告	論文作成 データ分析 図表作成
22	調査項目の抽出 調査項目の決定	演習 卒業研究の調査にかかる項目の妥当性を検討する 調査項目を決定する	調査項目を検討し、抽出根拠を明確にする
	論文作成③⑫（考察）	論文指導 作成進捗報告	論文作成 図表作成
23	分析方法の検討	演習 調査にかかる分析方法の妥当性を検討する	分析方法の検討を重ねる
	論文作成③⑬（考察）	論文指導 作成進捗報告	論文作成 図表作成
24	分析方法の決定	演習 調査にかかる分析方法を決定する	分析方法の検討を重ねる
	論文作成③⑭（考察）	論文指導 作成進捗報告	論文作成 図表作成
25	研究計画書作成	演習 卒業研究及び論文執筆のタイムテーブルを作成する	計画書の再検討
	論文書式点検（図表確認、謝辞）	論文指導 作成進捗報告	論文作成 製本準備

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
26	研究計画書作成 論文作成①（研究の背景・目的）	演習 卒業研究及び論文執筆のタイムテーブルを作成する 論文指導 研究の背景・目的の検討 ディスカッション	研究の背景・目的の検討・考察
	論文作成③（考察） 論文書式点検（引用文献、参考文献整理）	論文指導 作成進捗報告	論文作成 製本準備
27	研究計画書作成 論文作成②（研究の背景・目的）	演習 卒業研究及び論文執筆のタイムテーブルを作成する 論文指導 研究の背景・目的の執筆 ディスカッション	研究の背景・目的の執筆・考察
	論文書式点検（引用文献、参考文献整理） 仮製本 卒業論文提出	論文指導 作成進捗報告	論文印刷 論文提出
28	研究計画書完成 論文作成③（研究の背景・目的）	演習 卒業研究及び論文執筆のタイムテーブルを完成させる 論文指導 研究の背景・目的の執筆 ディスカッション	研究の背景・目的の執筆・考察
	卒業研究発表会準備	発表資料作成	発表練習
29	論文作成④（序章）	論文指導 序章の検討 ディスカッション	序章の検討・考察
	卒業研究発表会準備	発表資料作成	発表練習
30	論文作成⑤（序章） 調査用紙作成 卒業論文構想発表（2月中旬）	論文指導 序章の執筆 ディスカッション 卒業研究及び卒業論文の構想を発表する	序章の執筆・考察 卒業論文構想発表会
	卒業研究発表会準備	発表資料作成	発表練習
<p>【到達度の評価（評価方法・基準）】</p> <p>① 卒業研究のテーマの決定、研究方法の決定、研究対象の決定、調査方法および分析方法の決定をしたのち、研究計画書を作成する。</p> <p>② 卒業論文（序章）の執筆を開始する。</p> <p>③ 卒業論文中間報告会にて、論文作成の状況を報告する。</p> <p>④ 卒業論文を完成させる。</p> <p>①②③④で評価する。</p> <p>成績評価は4年次に行う。</p> <p>評価基準等の詳細は、初回授業で説明する。</p>			

- 【参考書】
- (1) 書名：新版 論文の教室
著者名：戸田山和久
発行所：NHK BOOKS
価格：1,200円（税別）
 - (2) 書名：卒論執筆のためのWord活用術
著者名：田中 幸夫
発行所：BLUE BACKS
価格：880円（税別）
 - (3) 書名：日本社会福祉リーディングス8 子ども家庭福祉
著者名：岩田 正美 監修、山縣 文治 編著
発行所：日本図書センター
価格：3,800円（税別）
 - (4) 書名：社会調査のための計量テキスト分析
著者名：樋口 耕一
発行所：ナカニシヤ出版
価格：2,800円（税別）
 - (5) 書名：新版 質的研究入門〈人間科学〉のための方法論
著者名：ウヴェ・フリック 著、小田 博志 監訳
発行所：春秋社
価格：3,900円（税別）
 - (6) 書名：質的調査法入門 教育における調査法とケース・スタディ
著者名：S・B・メリアム 著、堀 薫夫、久保 真人、成島 美弥 訳
発行所：ミネルヴァ書房
価格：4,200円（税別）
 - (7) 書名：研究の進め方
著者名：ダン・レメニイ ほか 著、小樽商科大学ビジネス創造センター 訳
発行所：同文館出版
価格：1,900円（税別）



4 年 生

授業科目名	地域福祉論		授業形態・単位数	講義・2単位
			開講年次	4年次
担当教員	職名：兼担教授 氏名：日下輝美		開講期	前期
			授業回数	15回
			期末試験の有無	無
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		60時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
幼稚園教諭一種免許状		専門教育科目	選択	
保育士資格		専門教育科目	選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 地方分権化・社会サービスシステム・コミュニティワーク・住民参加の視点から地域福祉を捉え、その理念・対象・政策展開・構成要件・財源・主体・推進方法等の観点から、今日の地域福祉の基本的な論点を整理しながら、近未来の社会変動（経済・地域社会・家族関係）を視野に入れた地域福祉の体系と展開の方法について理解する。	【授業の概要との対応項目】			
		A	知識	
		B	技術・技能	
	○	C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	○	J	多様性への理解力、応用力	
	○	K	課題対処力	
○	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力		
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
地域福祉の歴史的展開（法律、制度等）過程に焦点を当てながら、新たな地域福祉の展開について自分の視点で理論化ができるようになる。			目標	C、J
地域福祉の基本的な考え方（人権尊重、権利擁護、自立支援、地域生活支援、地域移行、社会的包摂等を含む）について具体的な事例等を使い自分の言葉で説明できるようになる。			目標	J、K、L
ソーシャルサポートネットワークの考え方、NPO法人等のアソシエーション型組織や住民参加のあり方の事例からコミュニティソーシャルの実践能力を養う。			目標	J、K、L

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と目標（授業内容） (2) 評価方法・授業の進め方の留意点 現代の地域生活と地域福祉 1) 現代社会における生活上の問題 2) 地域社会とコミュニティの問題 3) 地域福祉の基本的な考え方	シラバス 配布資料に基づき講義	【予習】 新聞・雑誌を読んでくる。 【復習】 現代の地域生活と地域福祉の整理

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
2	地域福祉の思想と理論 1) 地域福祉の思想 2) 地域福祉の理論 3) 現代における地域福祉の思想と理論の課題	配布資料に基づき、ディスカッションを行う (ラーニングコモンズ)	【予習】 福祉に関する新聞記事を記述してくる。 【復習】 地域福祉の思想と理論の整理
3	地域福祉の形成と発展 1) 「地域福祉」成立期以前の流れ 2) 海外における地域福祉の歩み 3) わが国における地域福祉の歩み	配布資料に基づき講義	【予習】 福祉に関する新聞記事を記述してくる。 【復習】 海外の地域福祉の歩みを整理
4	地域福祉の法律と組織 1) 地域福祉の法律 2) 地域福祉の組織	配布資料に基づき、ディスカッションを行う (ラーニングコモンズ)	【予習】 福祉に関する新聞記事を記述してくる。 【復習】 地域福祉に関連する法律の整理
5	地域福祉における社会福祉協議会の役割 1) 社会福祉協議会の沿革と法的規定 2) 社会福祉協議会の組織と事業活動 3) 地域福祉における社会福祉協議会の役割と課題	配布資料に基づき講義	【予習】 福祉に関する新聞記事を記述してくる。 【復習】 社協活動の整理
6	地域福祉の主体と対象 1) 地域福祉における主体の考え方 2) 地域福祉における対象の考え方 3) 社会福祉法における地域福祉の主体と対象	配布資料に基づき、ディスカッションを行う (ラーニングコモンズ)	【予習】 福祉に関する新聞記事を記述してくる。 【復習】 住民主体の整理
7	地域福祉の専門職 1) 地域福祉を推進する専門職 2) 専門職間の連携と協働 3) 専門職と地域住民・当事者とのネットワーキング	配布資料に基づき講義	【予習】 福祉に関する新聞記事を記述してくる。 【復習】 地域福祉を支える専門職の役割について整理
8	地域福祉における社会資源 1) 社会資源の活用 2) 社会資源の調整 3) 社会資源の開発	配布資料に基づき、ディスカッションを行う (ラーニングコモンズ)	【予習】 福祉に関する新聞記事を記述してくる。 【復習】 地域福祉にある社会資源の整理
9	地域福祉における福祉ニーズの把握方法 1) 福祉ニーズの考え方 2) 量的福祉ニーズの把握の方法 3) 質的福祉ニーズの把握の方法	配布資料に基づき講義	【予習】 福祉に関する新聞記事を記述してくる。 【復習】 福祉ニーズの把握の方法の整理
10	地域トータルケアシステムの構築 1) 地域トータルケアシステムの考え方 2) 地域トータルケアシステムの実際 3) 地域トータルケアシステムの構築方法	配布資料に基づき、ディスカッションを行う (ラーニングコモンズ)	【予習】 福祉に関する新聞記事を記述してくる。 【復習】 地域トータルケアシステムの整理

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
11	地域福祉における福祉サービスの評価方法 1) 地域福祉における福祉サービスの評価の考え方 2) 地域福祉における福祉サービスの評価の実際 3) 地域福祉における福祉サービスの評価の方法	配布資料に基づき講義	【予習】 福祉に関する新聞記事を記述してくる。 【復習】 福祉サービスの評価の方法について整理
12	地域福祉と福祉計画 1) 社会福祉基礎構造改革と地域福祉計画 2) 地域福祉における福祉計画の実際 3) 地域福祉における福祉計画の課題	配布資料に基づき、ディスカッションを行う (ラーニングコモンズ)	【予習】 福祉に関する新聞記事を記述してくる。 【復習】 福祉計画の整理
13	地域福祉と福祉教育 1) 福祉教育の考え方 2) 福祉教育の実際 3) 福祉教育の課題	配布資料に基づき講義	【予習】 福祉に関する新聞記事を記述してくる。 【復習】 福祉教育のモデル作成
14	地域福祉とNPO・ボランティア活動 1) 地域福祉とNPO 2) 地域福祉とボランティア活動 3) 地域福祉とNPO・ボランティア活動課題	配布資料に基づき、ディスカッションを行う (ラーニングコモンズ)	【予習】 福祉に関する新聞記事を記述してくる。 【復習】 NPO法人の社会的役割について整理
15	地域福祉の財源基盤 1) 地域福祉推進のための公的な財源 2) 地域福祉推進のための民間の財源 3) 地域福祉の財源基盤の確立に向けて 振り返りと授業のまとめ	配布資料に基づき講義	【予習】 福祉に関する新聞記事を記述してくる。 【復習】 地域福祉推進のための財源基盤の整理
【到達度の評価（評価方法・基準）】 授業の参加態度（自発的発言・意欲的取り組み）10%、宿題・レポート50%、受講ノート提出（最終回）の評価40%により評価する。欠席1回につき3点減点、遅刻1回につき1点減点、自発的かつ適切な質疑応答であると認められる場合は1回につき2点加点により総合的に評価する。			
【教科書】 使用しない			
【参考書】 書名：地域福祉の理論と実際 著者名：都築 光一 監修 発行所：建帛社 価格：2,520円（税別）			
【その他補足事項】 ・「受講ノート」は必ず用意し、毎回、予習は福祉に関する新聞記事の記述。受講後（復習）は授業で学んだ事柄を整理すること。詳細については初回時に詳しく説明する。			

授業科目名	発達障害		授業形態・単位数	講義・2単位
			開講年次	4年次
担当教員	職名：兼担教授 氏名：星 野 仁 彦		開講期	前期
			授業回数	15回
			期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		60時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
幼稚園教諭一種免許状		専門教育科目	選択	
保育士資格		専門教育科目	選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 自閉症スペクトラム障害（広汎性発達障害）、アスペルガー症候群、ADHD（注意欠陥・多動性障害）児・者への児童精神医学的な概念と病態を理解する。またそれを基礎として彼らへの福祉、保育、教育、心理学的なケアとサポートの方法を学ぶ。また発達障害児の早期発見と対応法、療育指導法、特別支援教育と保育の在り方、福祉的ケア、家族支援の在り方などの多面的、多角的なアプローチについて学ぶ。更に虐待やネグレクトの予防、思春期以降の2次障害と、成人してからの合併症の予防についても学ぶ。	【授業の概要との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
	<input type="radio"/>	H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	<input type="radio"/>	J	多様性への理解力、応用力	
<input type="radio"/>	K	課題対処力		
<input type="radio"/>	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力		
【授業の到達目標】	【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)			
発達障害の医学的背景について学ぶとともに、その医学的、心理学的治療とSST、TEACCHなどについて学ぶ。	目標	A、B、H、J、K、L		

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	発達障害の総論 — 医学・心理・教育と福祉的アプローチ —	資料（レジュメ）とテキストを用いて	次回の予習と復習
2	自閉症スペクトラム障害（ASD）	資料（レジュメ）とテキストを用いて	次回の予習と復習
3	アスペルガー症候群	資料（レジュメ）とテキストを用いて	次回の予習と復習
4	注意欠陥・多動性障害（ADHD）	資料（レジュメ）とテキストを用いて	次回の予習と復習
5	学習障害（LD）	資料（レジュメ）とテキストを用いて	次回の予習と復習
6	発達障害児・者へのソーシャルスキルトレーニング	資料（レジュメ）とテキストを用いて DVD供覧	次回の予習と復習

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
7	発達障害児・者へのTEACCHプログラム	資料（レジュメ）とテキストを用いて DVD供覧	次回の予習と復習
8	発達障害児・者への家族指導と療育指導	資料（レジュメ）とテキストを用いて	次回の予習と復習
9	発達障害児・者への心理療法的アプローチ	資料（レジュメ）とテキストを用いて	次回の予習と復習
10	発達障害児・者への認知行動療法	資料（レジュメ）とテキストを用いて DVD供覧	次回の予習と復習
11	発達障害児・者への医学的治療	資料（レジュメ）とテキストを用いて	次回の予習と復習
12	発達障害児・者への就労支援	資料（レジュメ）とテキストを用いて	次回の予習と復習
13	正常児（健常児）の発育・発達	資料（レジュメ）とテキスト、人形を用いて	次回の予習と復習
14	発達障害児・者への脳科学的アプローチ	資料（レジュメ）とテキスト、脳の模型を用いて	次回の予習と復習
15	発達障害と反応性愛着障害（被虐待児症候群）	資料（レジュメ）とテキストを用いて	次回の予習と復習
期末試験	期末試験（筆記試験）		
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明する。			
【到達度の評価（評価方法・基準）】 毎回の豆テスト 30% 期末テスト 30% レポート提出 20% 出席状況 20%			
【教科書】 書名：まさか発達障害だったなんて 著者名：星野 仁彦、さかもと未明 発行所：PHP新書 価格：800円（税別）			
【参考書】 書名：奥さまは発達障害 著者名：さかもと未明、星野 仁彦 発行所：講談社 価格：1,300円（税別）			

授業科目名	子育て支援政策		授業形態・単位数	講義・2単位
			開講年次	4年次
担当教員	職名：客員教授 氏名：桜田葉子		開講期	後期
			授業回数	15回
			期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間	
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
幼稚園教諭一種免許状		専門教育科目	選択	
保育士資格		専門教育科目	選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		授業終了後に教室で質問等に対応する。		

【授業の概要】 この科目は、国や県等地方自治体における政策にスポットをあてて学ぶことを目的としている。少子化に歯止めがかからない少子高齢社会に対処するため、「安心して子どもを生み楽しんで子育てできる社会」を築くことを目的として、様々な政策が展開されている。子育てに対する不安や負担が増している状況を踏まえ、「子育て支援」が必要とされている社会背景や「子育て支援」政策を理解するため、具体的事例を題材とし、グループワークを取り入れた授業を行う。本授業により、子育てに深い関わりを持つ教育者に必要とされる知識と力を養成するものである。	【授業の概要との対応項目】			
	○	A	知識	
		B	技術・技能	
	○	C	論理的思考力	
	○	D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
	○	G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
	○	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	○	J	多様性への理解力、応用力	
	○	K	課題対処力	
	○	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
少子化・人口減少が社会に与える影響を理解する。			目標	A、C、D
子育て支援の重要性を理解する。			目標	A、C、D
子育て支援政策の現状を理解する。			目標	A、C、D
子育て支援政策を立案する。			目標	C、D、J、K
グループワークで意見を発表し、他人の意見を聞き、考えをまとめていく。			目標	C、D、G、I、K、L

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法 (アクティブラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 「子育て支援政策」とは？	講義・グループワーク 資料：【うつくしま子ども夢プラン】【子育てしやすい福島県づくり条例】	
2	少子化・人口減少社会の課題と子育て支援政策の必要性	講義・グループワーク 自作資料：【福島県の人口の推移】【国民生活基礎調査】	配布資料の予習復習 新聞記事の収集
3	親と子のための保健・医療態勢の整備と健康づくり ・安心して出産できる体制及び小児医療体制 ・親と子の健康づくりに対する支援	講義・グループワーク 自作資料：【福島県における子育て支援政策】	配布資料の予習復習 新聞記事の収集

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
4	子育てに関する支援について① ・子育て等に関する相談・情報提供体制づくり	講義・グループワーク 自作資料：【福島県における子育て支援政策】	配布資料の予習復習 新聞記事の収集
5	子育てに関する支援について② ・子育て家庭の経済的な負担軽減策 ・地域における支援策	講義・グループワーク 自作資料：【福島県における子育て支援政策】	配布資料の予習復習 新聞記事の収集
6	子育てに関する支援について③ ・保育サービスの充実策 ・子育てしやすい生活環境整備	講義・グループワーク 自作資料：【福島県における子育て支援政策】	配布資料の予習復習 新聞記事の収集
7	子育てと社会参加の両立のための環境づくりについて ・男女共同参画の推進 ・子育てと仕事の両立策 ・出産・子育てによる退職者に対する就業支援策 ・女性活躍推進法	講義・グループワーク 自作資料：【福島県における子育て支援政策】	配布資料の予習復習 新聞記事の収集
8	子どもの健やかな成長のための環境づくりについて ・地域教育の推進策 ・放課後児童に対する取り組み ・子どもの権利について ・援助を必要とする子どもや家庭に対する支援策	講義・グループワーク 自作資料：【福島県における子育て支援政策】	配布資料の予習復習 新聞記事の収集
9	フランス・イギリス・フィンランドにおける子育て支援政策について フィンランドにおける「ネウボラ」	講義・グループワーク 自作資料	配布資料の予習復習 新聞記事の収集
10	合計特殊出生率日本一の岡山県奈義町における子育て支援政策について	講義・グループワーク 奈義町資料	配布資料の予習復習 新聞記事の収集
11	「子育て支援」の現場研修① 県庁：県執行部からの説明 県庁内保育所「けやきの子」見学	特別講義（現場訪問）	配布資料の予習復習 新聞記事の収集
12	「子育て支援」の現場研修② 県立医科大学「こども医療センター」「総合周産期母子医療センター」見学	特別講義（現場訪問）	配布資料の予習復習 新聞記事の収集
13	「子育て支援」政策立案 グループディスカッション	グループワーク	配布資料の予習復習 新聞記事の収集
14	「子育て支援」政策立案 ディベート	グループワーク	配布資料の予習復習 新聞記事の収集
15	「子育て支援政策」の発表会	グループワーク	
期末試験	後期末試験（レポート）		
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、学科を通じて説明する。			
【到達度の評価（評価方法・基準）】 期末試験（レポート） 30% 政策立案・発表 40% 授業への参加態度 20% 新聞記事の収集 10%			

【教科書】 特になし。資料を配布する。

【参考書】 特になし。参考文献は必要に応じて提示する。

【その他補足事項】

少子化・人口減少の進展に伴い新しい政策が次々出されているので、新聞等による情報収集に努め、少子化・人口減少対策・子育て支援政策に関心をもって授業にのぞむこと。

授業科目名	保育・幼稚園教職実践演習		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	4年次
担当教員	職名：非常勤講師 氏名：宮前 貢		開講期	後期
			授業回数	15回
			期末試験の有無	無
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		60時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
幼稚園教諭一種免許状		専門教育科目	必修	
保育士資格		専門教育科目	必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		授業終了後、教室で質問等に対応する。		

【授業の概要】 保育現場に求められる指導上の諸問題（発達障害を含む）に対して、演習を主とした授業を通して、今後の保育実践に向けての自己課題を明確にするとともに、保育活動に必要とされる実践的な知識・技能の補完を図ることをねらいとする。ビデオ視聴（保育参観）や実践記録の分析・グループ討議・全体討議等を通して、保育現場に不可欠な幼児理解と適切な援助や望ましい環境構成のあり方等について再確認し合いながら、実践的指導力を身につける。	【授業の概要との対応項目】		
	<input type="radio"/>	A	知識
	<input type="radio"/>	B	技術・技能
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力
	<input type="radio"/>	D	文章表現力
	<input type="radio"/>	E	表情及び身体表現力
	<input type="radio"/>	F	感性及び感動表現力
	<input type="radio"/>	G	協働能力
	<input type="radio"/>	H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	<input type="radio"/>	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
	<input type="radio"/>	J	多様性への理解力、応用力
<input type="radio"/>	K	課題対処力	
<input type="radio"/>	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】	【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)		
実習を通して学んだ①子ども理解のむずかしさ②子どもの実態に寄り添った計画立案のしかた③保育・教育改善の必要性などをテーマに保育者としての実践的指導力を育てる。	目標	A、B、D、F、J	
①確かな子ども理解に向けた保育者の取り組み②よりよい保育・教育を実現するための計画立案③指導と評価の一体化による保育・教育の改善について保育現場の記録（DVD）などを手がかりに具体的に学び、保育者として求められる資質・能力を高める。	目標	E、H、I、L	

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	実習を振り返り、むずかしかったこと、苦労したことを考える。～個人経験の表示とグループ討議を通じた自己課題の整理～	実習での体験をもとにグループでの話し合いと課題の整理	自己課題をまとめる
2	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">確かな子ども理解</div> 子どもを理解する（understanding）ということ ・子どもを「見る」「看る」「視る」「診る」に関する整理、グループ討論	「みる」活動について考えグループ討議	「みる」活動の復習

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
3	子どもの見る眼差しと「加点法」 ・「ほめる」ということ “appreciation”（鑑賞） ・加点法でほめること	「ほめる」ことのロールプレイング	「ほめことば」を復習し、収集する
4	一人ひとりの子どもに寄り添うということ ・子どもと保育者の動き（一人ひとりへの心配りとフットワーク） ・経験者からの指導とその内容についてのグループ討論	一人ひとりの子どもへの対応についてグループ討議	子どもへの対応についての復習
5	ここまでの演習でいちばん深く学んだこと（わたしのまとめ→レポート①）	学びのふりかえりをしてグループで話し合う	レポートのまとめ①
6	よりよい保育・教育をめざした計画立案 子どもの活動への思い・願いを育てる ～内発的動機付け～	内発的動機づけについてグループでの話し合い	外発的動機づけの短所を調べる
7	子どもの活動（遊び）の総合性 ・経験者からの指導を受け、グループ討論を通じた整理 ・保育・教育の重点化、焦点化	遊びの総合性についてのグループでの話し合い	遊びと5領域との関係、復習
8	保育者の「指導・援助」 ・安全・子どもへのやさらかな対応	「子どもへのやさらかな対応」についてロールプレイング	安全確保の視点を復習する
9	週案・日案を書く ・よいモデルの日案に学び、自分案を作成する	グループで話し合い、自分案作成につなぐ	自分の日案を仕上げる
10	よい計画を立案するために ・ここまでの学びのふりかえりとまとめ（個人→グループ）	学びのふりかえりをしてグループで話し合う	レポートのまとめ②
11	保育、教育の改善・保育者像 子どもの活動の実際と計画のズレ ・指導の評価と計画の修正、指導と評価の一体化、経験者からの指導を受けてのまとめ	経験者からの指導を受けてグループで話し合う	実習をふりかえり、指導と評価についてまとめる
12	指導と評価～子どもの姿を見とる～ ・指導の評価と改善 ・あすにつなぐ指導評価のあり方	グループ討議を行う	指導と評価に基づく指導の改善をまとめる
13	「気になる子への対応」と関係機関と保護者との連携 ・様々な発達課題を抱える子どもたちへの対応	「気になる子への対応」について考え、グループで話し合う	「気になる子への対応」についてまとめる
14	「めざしたい保育者像」を考える ・あこがれの保育者…めざしたい保育者	個人意見の考えの発表とグループでの話し合い	めざしたい保育者像を考えまとめる
15	わたしがこの授業を通して学んだこと ・ここまで学んで考えたこと、学んだこと	学びのふりかえりをしてグループで話し合う	レポートのまとめ③
【到達度の評価（評価方法・基準）】 ・レポート作成 60%（3回×各20点） ・演習、授業への主体的な取り組み 40%			
【教科書】 使用しない。授業内容に関するプリント、資料を配布する。			

- 【参考書】**
- (1) 書名：幼稚園教育要領解説
著者名：文部科学省
発行所：フレーベル館
価格：149円（税別）
 - (2) 書名：保育所保育指針
著者名：厚生労働省
発行所：フレーベル館
価格：149円（税別）
 - (3) 書名：幼保連携型認定こども園教育・保育要領
著者名：内閣府・文部科学省・厚生労働省
発行所：フレーベル館
価格：149円（税別）

授業科目名	保育実習Ⅱ		授業形態・単位数	実習・2単位
			開講年次	4年次
担当教員	職名：准教授 氏名：今 清 孝		開講期	通年
			授業回数	時間割外
			期末試験の有無	無
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		無
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
幼稚園教諭一種免許状		専門教育科目	選択	
保育士資格		専門教育科目	必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 「保育実習Ⅰ（保育所実習）」の積み上げとして、保育所における実習の部分実習、指導実習を主に行い、保育内容の技術的修得、保育計画・指導計画等の理解と立案を実践する。保育士としての態度と技術の習熟、乳幼児の個々が抱える問題への事例研究等について実習を通して展開する。	【授業の概要との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
	<input type="radio"/>	D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
	<input type="radio"/>	H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
	<input type="radio"/>	K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】		【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)		
実習を通して保育所の役割や機能について具体的な実践を通して理解を深める。		目標	A、B	
子どもの観察やかかわりの視点を明確にし、保育の理解を深める。		目標	A、B	
既習の教科や保育実習Ⅰの経験を踏まえ、子どもの保育及び保護者支援について総合的に学ぶ。		目標	K	
保育の計画、実践、観察、記録及び自己評価等について実際に取り組み、理解を深め実践する。		目標	A、B、D、K	
保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践から理解する。		目標	A、B、D、K	
実習を通して保育士としての自己の課題を明確化する。		目標	A、B、H	

【実習期間】 7月～8月。(概ね10日間)
【評価方法】 1. 実習施設による「実習評価表」の評価と事前・事後指導における学生の履修状況等を勘案して評価する。 2. 実習の成績評価は次のとおりとする。 <ul style="list-style-type: none"> ・「A+」 90点～100点 ・「A」 80点～89点 ・「B」 70点～79点 ・「C」 60点～69点 ・「D」 50点～59点 ・「F」 49点以下 D、Fは不合格とし、F評価の場合は原則として年度内の再実習を認めないものとする。

【実習費】

- ① 保育実習Ⅱ委託費 10,000円
- ② 腸内感染症検査料 600円程度
- ③ 「麻疹予防接種証明書」または「麻疹抗体価証明書」 2,500～5,000円程度（検査料は医療機関により異なる）

【その他補足事項】

- ① 実習の履修制限・再実習等については、福島学院大学福祉学部履修規程（キャンパスライフに記載）を参照のこと。
- ② 履修にあたっては、次の事項を満たしていることが前提となる。
 - ・「保育実習指導Ⅰ」授業の出席が、5分の4以上であること。※詳細は福島学院大学福祉学部履修規程（キャンパスライフに記載）を参照のこと。
- ③ 学外実習を行うにあたり、腸内感染症検査証明書、麻疹の抗体を有する証明書（コピー）を実習先へ持参すること。
- ④ 実習先の評価に関し、学生もしくは家族等が直接実習先に照会を行ったときは、単位を認定しない場合がある。

授業科目名	保育実習Ⅲ		授業形態・単位数	実習・2単位
			開講年次	4年次
担当教員	職名：教授 氏名：板垣健太郎 <small>いた がき けんたろう</small>	開講期	通年	
		授業回数	時間割外	
		期末試験の有無	無	
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		—
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
幼稚園教諭一種免許状		専門教育科目	選択	
保育士資格		専門教育科目	必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワー、メールアドレスは初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 児童福祉施設等（保育所以外）の役割や機能について当該施設での実践を通して、理解を深める。施設の児・者の家庭状況や地域との関係にふれて、児童家庭福祉及び社会的養護に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を養う。保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結び付けて理解し、自己の課題を明確化する。	【授業の概要との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
	<input type="radio"/>	D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
	<input type="radio"/>	H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
	<input type="radio"/>	K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】		【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)		
児童福祉施設等（保育所以外）の役割や機能について実践を通して理解を深める。		目標	A、B、H	
家庭と地域の生活実態に触れて、児童家庭福祉及び社会的養護に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を養う。		目標	A、B、H、K	
保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。		目標	A、B、H、K	
保育士としての自己の課題を明確化する。		目標	A、B、D、H、K	

【実習期間】 7月～8月。(概ね10日間)
【評価方法】 1. 実習施設による「実習評価表」の評価と事前・事後指導における学生の履修状況等を勘案して評価する。 2. 実習の成績評価は次のとおりとする。 <ul style="list-style-type: none"> ・「A+」 90点～100点 ・「A」 80点～89点 ・「B」 70点～79点 ・「C」 60点～69点 ・「D」 50点～59点 ・「F」 49点以下 D、Fは不合格とし、F評価の場合は原則として年度内の再実習を認めないものとする。
【実習費】 ① 保育実習Ⅲ委託費 10,000円 ② 腸内感染症検査料 600円程度

【その他補足事項】

- ① 実習の履修制限・再実習等については、福島学院大学福祉学部履修規程（キャンパスライフに記載）を参照のこと。
- ② 履修にあたっては、次の事項を満たしていることが前提となる。
 - ・「保育実習指導Ⅲ」授業の出席が、5分の4以上であること。※詳細は福島学院大学福祉学部履修規程（キャンパスライフに記載）を参照のこと。
- ③ 学外実習を行うにあたり、腸内感染症検査証明書、麻疹の抗体を有する証明書（コピー）を実習先へ持参すること。
- ④ 食物アレルギーがある学生は、実習先へ必ず申し出ること。また、実習先から指示された際は、食物アレルギーに関する診断書を提出すること。
- ⑤ 実習先の評価に関し、学生もしくは家族等が直接実習先に照会を行ったときは、単位を認定しない場合がある。

授業科目名	教育内容指導法 算数		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	4年次
担当教員	職名：非常勤講師 氏名：笹川直樹		開講期	前期
			授業回数	15回
			期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		60時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
幼稚園教諭一種免許状		専門教育科目	選択	
保育士資格		専門教育科目	選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		授業終了後、教室で質問等に対応する。		

【授業の概要】 本科目では、算数科の学習指導に必要な不可欠な知識や素養を身に付けるために、算数科における学習と指導、評価について、模擬授業等の実践的な演習をとおして理解できるようにする。	【授業の概要との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技術・技能	
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力	
	<input type="radio"/>	D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	<input type="radio"/>	J	多様性への理解力、応用力	
		K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
算数科の授業に興味・関心を持つことができるようにする。			目標	A、B
算数科の学習指導法に関する基礎的・基本的な知識を持ち、模擬授業に積極的に生かすことができるようにする。			目標	A、B、C、J
学習指導法の理解を通して、今日的な算数教育の課題について考察を深めることができるようにする。			目標	C、D

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法 (アクティブラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	ガイダンス (1) 授業の概要と目標 (授業内容) (2) 評価方法・授業の進め方の留意点	授業計画	
2	「算数」の授業とは何か ・「算数科」の目標から、目指す授業を構想する。	自作資料① 小学校学習指導要領解説 算数編 (※以下、毎回使用)	自作資料①を事前に読む。
3	「算数科」の授業で何が見えるか。 ・「算数科」授業を視聴し、子どもの学びを視点として、授業で大切にしていけることを議論し合う。	自作資料② (事前配布※ 以下同じ)	自作資料②を事前に読む。

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
4	「算数科」における子どもの学び ・具体的な教材をもとに、子どもの学びを追究する。	自作資料③ ・平行四辺形の求積公式	自作資料③を事前に読む。
5	「算数科」の授業で子どもの意欲を育む。 ・「学びのスイッチ」を誘う「導入」の工夫について考察する。	自作資料④ ・「合併・増加」「求残・求差」の問題場面	自作資料④を事前に読む。
6	「算数科」の授業で数学的な考え方を育む。 ・「円の求積公式」を導き出す多様な考え方を生み出す思考パターンを追究する。	自作資料⑤ ・「円周率」と「円の求積公式」との関係性	自作資料⑤を事前に読む。
7	「算数科」の授業でコミュニケーション力を育む。 ・「問題解決学習」に不可欠な議論と傾聴	自作資料⑥ ・多様な考えの「ねりあげ」と数理発見	自作資料⑥を事前に読む。
8	数学的な考え方を高める「算数的活動」 ・学内探索活動における「算数的活動」の実際と活動に内在する数学的思考力の発見	自作資料⑦ ・1対1対応 ・十進法	自作資料⑦を事前に読む。
9	模擬授業①-1 ・数と計算領域「12-7」の計算方法に関する模擬授業案の作成	自作資料⑧ ・減加法と減々法	自作資料⑧を事前に読む。
10	模擬授業①-2 ・模擬授業の実践と考察	自作資料⑨ ・班ごとの模擬授業の実践 ・全体における授業考察	自作資料⑨を事前に読む。
11	模擬授業②-1 ・図形領域「三角形と四角形」の弁別に関する模擬授業案の作成	自作資料⑩ ・「三角形と四角形」の定義と弁別	自作資料⑩を事前に読む。
12	模擬授業②-2 ・模擬授業の実践と考察	自作資料⑪ ・班ごとの模擬授業の実践 ・全体における授業考察	自作資料⑪を事前に読む。
13	問題解決を視点とした算数科学習指導法 ・算数科における「問題解決学習」の理論と実践	自作資料⑫ ・「問題解決学習」における教師の役割	自作資料⑫を事前に読む。
14	学び合いを視点とした算数科学習指導法 ・算数科における「学び合い」の理論と実践	自作資料⑬ ・「学び合い」における教師の役割	自作資料⑬を事前に読む。
15	評価を生かした算数科学習指導法 ・算数科における「評価」の理論と実践	自作資料⑭ ・「評価」と「授業改善」	自作資料⑭を事前に読む。
期末試験	前期試験		
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、学科を通じて説明する。			
【到達度の評価（評価方法・基準）】 (1) 筆記試験 70点満点の記述方式のテストを学期末に実施。 (2) レポート レポートは30点満点の採点とする。課題は授業内容に沿い、その都度課題を設定する。 (3) その他 授業内容の理解度を確保するため2～3枚程度、小テストを実施する。採点は授業の中で答え合わせを行い、理解不足の箇所を補う。			

【教科書】 使用しない。

【参考書】 書名：小学校学習指導要領解説 算数編
著者名：文部科学省
発行所：東洋館出版社
価格：238円（税別）

授業科目名	創作ミュージカル		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	4年次
担当教員	職名：兼任教授 氏名：佐藤敦子		開講期	通年
			授業回数	30回
			期末試験の有無	無
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		30時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	必修	
幼稚園教諭一種免許状		専門教育科目	選択	
保育士資格		専門教育科目	選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワー・メールアドレスについては初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 学生が自ら現代の社会問題及び人類愛に関するテーマを一つ取り上げ、オリジナルの脚本を作成し、学生同士ディスカッションし合いながら、音楽、ダンス、振り付け、舞台構成、照明構成そして演出を行い、総合芸術であるミュージカルを作り上げ本学ホールで発表会を行う。そして、それらの創作過程と時間外に設定する時間外練習をとおして、協調性、連帯感、責任感、自主性、創造性を育成し、現代社会の学生に必要とされるコミュニケーション能力や自己表現能力を高めていく。	【授業の概要との対応項目】		
		A	知識
		B	技術・技能
		C	論理的思考力
	○	D	文章表現力
	○	E	表情及び身体表現力
	○	F	感性及び感動表現力
	○	G	協働能力
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	○	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J	多様性への理解力、応用力
		K	課題対処力
○	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】		【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
現代の社会問題を取り上げ、子どもの問題に結びつける内容の脚本を作成する。		目標	D、I
脚本に即して舞台美術、照明を考えうたって踊ってお芝居を完成させる。		目標	E、F
共同での創作活動を通じて、友人との協調性、連帯感、責任感、自主性、思いやりを育成する。		目標	G、L

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	授業概要 ミュージカルについて オリエンテーション 台本作成について 各係の説明 教室借用について	資料配布	時間割以外の空き時間決定 時間割外の教室借用決定
2	ミュージカルのDVD鑑賞	DVD	ミュージカル内容の時間外の話し合い
3	ミュージカルのDVD鑑賞	DVD	ミュージカル内容の時間外の話し合い
4	係の決定 各係の話し合い	係ごとの話し合い	係の決定

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
5	ミニ・ミュージカル台本制作 照明・音響	係ごとの話し合い	台本制作における話し合い
6	ミニ・ミュージカル台本制作 照明・音響	係ごとの話し合い	係ごとの話し合い
7	ミニ・ミュージカル台本決定 照明・音響 衣装作製	係ごとの話し合い	係ごとの話し合い
8	発表に向けての練習	演技、歌唱、振り付け、踊り、照明、音響の指導	ミニ・ミュージカルの自主練習
9	発表に向けての練習	演技、歌唱、振り付け、踊り、照明、音響の指導	ミニ・ミュージカルの自主練習
10	発表に向けての練習	演技、歌唱、振り付け、踊り、照明、音響の指導	ミニ・ミュージカルの自主練習
11	発表に向けての練習 リハーサル	演技、歌唱、振り付け、踊り、照明、音響の指導	ミニ・ミュージカルの自主練習
12	ミニ・ミュージカルの発表会①	発表	発表会
13	反省会 本発表に向けての話し合い	ディスカッション	本発表に向けての準備
14	ミュージカル台本制作 音響・照明	係ごとの話し合い	台本制作における話し合い
15	ミュージカル台本制作 音響・照明	係ごとの話し合い	台本制作における話し合い 係ごとの話し合い
16	ミュージカル台本制作 音響・照明 衣装作製	係ごとの話し合い	台本制作における話し合い 係ごとの話し合い
17	発表に向けての練習	演技、歌唱、振り付け、踊り、照明、音響の指導	ミュージカルの練習
18	発表に向けての練習	演技、歌唱、振り付け、踊り、照明、音響の指導	ミュージカルの自主練習
19	発表に向けての練習	演技、歌唱、振り付け、踊り、照明、音響の指導	ミュージカルの自主練習
20	発表に向けての練習	演技、歌唱、振り付け、踊り、照明、音響の指導	ミュージカルの自主練習
21	発表に向けての練習	演技、歌唱、振り付け、踊り、照明、音響の指導	ミュージカルの自主練習
22	ミュージカル台本制作 照明・音響の確認	演技、歌唱、振り付け、踊り、照明、音響の指導	ミュージカルの自主練習
23	発表に向けての練習	演技、歌唱、振り付け、踊り、照明、音響の指導	ミュージカルの自主練習 プログラム作製

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
24	発表に向けての練習	演技、歌唱、振り付け、踊り、照明、音響の指導	ミュージカルの自主練習 プログラム作製
25	発表に向けての練習	演技、歌唱、振り付け、踊り、照明、音響の指導	ミュージカルの自主練習 プログラム作製
26	発表に向けての練習	演技、歌唱、振り付け、踊り、照明、音響の指導	ミュージカルの自主練習 招待状作製
27	発表に向けての練習	演技、歌唱、振り付け、踊り、照明、音響の指導	ミュージカルの自主練習 招待状作製
28	発表に向けての練習	演技、歌唱、振り付け、踊り、照明、音響の指導	ミュージカルの自主練習
29	リハーサル	演技、歌唱、振り付け、踊り、照明、音響の指導	ミュージカルのリハーサル
30	リハーサル	演技、歌唱、振り付け、踊り、照明、音響の指導	ミュージカルのリハーサル
期末試験	試験に代えて、発表会を実施する。	発表	
<p>【到達度の評価（評価方法・基準）】</p> <p>(1) 脚本の内容が現代の社会問題を的確に表していたか。 音響、照明、大道具、衣装が脚本に即していたか。 演技、振り付け、歌唱の完成度は高かったか。 *係りごとに点数をつける。… <input type="text" value="60%"/></p> <p>(2) 友人との協調性が図れたか、自分の担当を責任もって遂行したかを評価の対象とする … <input type="text" value="20%"/></p> <p>(3) ミュージカル発表の準備に対する積極性（授業時間外での準備・練習などの活動が積極的になされたか） … <input type="text" value="20%"/></p> <p>自主的に活動している学生と、参加率の低い学生の評価点を明確にするために、自主練習記録表の提出を課し、担当教員がチェックする。 なお、参加率の悪い学生については担当教員が呼び出し、理由を聞き注意を与える。 また、授業以外であっても全体での練習等に正当な理由なく3回以上連続で参加しなかった場合は、学科の「欠席連絡報告書」に準じて担当教員から注意を与える。その後も無断欠席が続くようであれば欠席ごとに2点減点とする。</p> <p>(4) 正当な理由なく、発表当日およびリハーサルに参加しない場合については単位を認定しない。</p>			
<p>【教科書】 教科書は使用しない。 資料は必要に応じて印刷して配布する。</p>			
<p>【その他補足事項】</p> <p>(1) 授業は千葉記念ホールで行い空き時間も千葉ホールを使用する。自主練習において教室が必要な場合については、千葉記念ホール、リハーサルルーム、アンダルシア、図書館情報センタースタジオ、音楽館各教室を借用する。手続きは教務課にて行うこととする。</p> <p>(2) 発表当日については本学認定こども園3～5歳児に鑑賞してもらう。</p> <p>(3) 発表当日については、友人、家族等を招待しても良いこととする。</p> <p>(4) プログラムや招待状を作製する。</p>			

授業科目名	特別研究 I (お菓子づくり・パンづくり)		授業形態・単位数	演習・1単位
			開講年次	4年次
担当教員	職名：兼任講師 氏名：橋本ヨシイ		開講期	前期
			授業回数	15回
			期末試験の有無	無
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		15時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
幼稚園教諭一種免許状		専門教育科目	選択	
保育士資格		専門教育科目	選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		基本的に火曜日、木曜日	時間帯：食堂館の掲示板に掲示	

【授業の概要】 現代において、お菓子やパンはお金を出して買うことが当たり前になっている。しかし愛情を込めて作ったパンやお菓子には見た目は不揃いであるが、自分と他の人を幸せにする不思議な力がある。手作りする時の「おいしい匂いや音」そして「素朴な味」が心と感性を豊かにすることを保育者・教育者として実感する。また、お菓子やパンに使用する素材の知識をマスターして応用力を身につける。併せて社会に出て役立つ簡単な飲み物についても学習する。4～5人の班編成で行い、手作りの楽しさと協同作業の大切さを学ぶ。	【授業の概要との対応項目】			
	○	A	知識	
	○	B	技術・技能	
	○	C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
	○	F	感性及び感動表現力	
	○	G	協働能力	
	○	H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	○	J	多様性への理解力、応用力	
	○	K	課題対処力	
○	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力		
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
作って食べるのが健全な心、健康な体と深く関わることを学ぶ。			目標	A、H、J
簡単なお菓子とパンの基本知識、及び技術を習得する。			目標	A、B、C
実際の保育・教育の現場で役立つように応用力を身につける。			目標	A、B、F、G、K
協同作業の大切さを学ぶ。			目標	J、K、L

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法 (アクティブラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	オリエンテーション <ul style="list-style-type: none"> 授業内容の概要と授業の進め方、評価方法 調理室使用に際しての注意事項 調理室内の器具の確認 実習時の身支度や衛生面の注意事項 	シラバスの確認 調理室の器材の確認 安全な調理の確認 調理の手順の説明 配布プリント	シラバスを一読して来る こと
2	<ul style="list-style-type: none"> いちご大福 水ようかん 日本茶 学習のポイント <ul style="list-style-type: none"> 米粉の種類 寒天の性質 	実習 (エプロン、三角布準備) <ul style="list-style-type: none"> 配布プリント使用 レポート提出 	復習とそのアレンジなども試みる
3	<ul style="list-style-type: none"> いちごヨーグルトゼリー スコーン 学習のポイント <ul style="list-style-type: none"> ゼラチンの性質 小麦粉の種類と性質 	同上	同上

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】	
4	<ul style="list-style-type: none"> ・ミルクパンの講義（※簡単手法のみ実習） 	<u>学習のポイント</u> <ul style="list-style-type: none"> ・発酵 ・粉の種類、特徴 ・グルテン 	実習（エプロン、三角布準備） <ul style="list-style-type: none"> ・配布プリント使用 ・レポート提出 	復習とそのアレンジなども試みる
5	<ul style="list-style-type: none"> ・米粉蒸しパン 	<u>学習のポイント</u> <ul style="list-style-type: none"> ・米粉の特徴 ・蒸し器の使い方 	同上	同上
6	<ul style="list-style-type: none"> ・クレープのフルーツクリーム ・コーヒー 	<u>学習のポイント</u> <ul style="list-style-type: none"> ・生地焼き方 ・コーヒーの入れ方 	同上	同上
7	<ul style="list-style-type: none"> ・新茶のまんじゅう ・フルーツ葛餅 ・お茶（新茶を入れる） 	<u>学習のポイント</u> <ul style="list-style-type: none"> ・八十八夜と新茶 ・葛粉の性質 	同上	同上
8	<ul style="list-style-type: none"> ・カラフル白玉 ・抹茶ミルク 	<u>学習のポイント</u> <ul style="list-style-type: none"> ・野菜の色素 ・抹茶の溶き方 	同上	同上
9	<ul style="list-style-type: none"> ・フルーツゼリー ・マドレーヌ ・紅茶 	<u>学習のポイント</u> <ul style="list-style-type: none"> ・たんぱく質分解酵素 ・短時間の焼き菓子 ・紅茶の入れ方 	同上	同上
10	<ul style="list-style-type: none"> ・カスタードプディング ・コーヒーゼリー（黒蜜） 	<u>学習のポイント</u> <ul style="list-style-type: none"> ・卵の加熱温度 ・ゼラチンの性質 	同上	同上
11	<ul style="list-style-type: none"> ・アーモンドチョコクッキー ・シナモンミルクティー 	<u>学習のポイント</u> <ul style="list-style-type: none"> ・クッキー生地 ・スパイス 	同上	同上
12	<ul style="list-style-type: none"> ・クルミと果物のケーキ ・紅茶 	<u>学習のポイント</u> <ul style="list-style-type: none"> ・長時間の焼き菓子 	同上	同上
13	<ul style="list-style-type: none"> ・おやき（南瓜） ・いも餅 ・ほうじ茶 	<u>学習のポイント</u> <ul style="list-style-type: none"> ・素朴な日常のおやつ ・郷土食 	同上	同上
14	<ul style="list-style-type: none"> ・桃のレアチーズケーキ 	<u>学習のポイント</u> <ul style="list-style-type: none"> ・桃の扱い方 	同上	同上
15	課題食材で自由にお菓子、パンを作る ― 準備された食材で各班が時間内に創作 ―	レポート提出		

【到達度の評価（評価方法・基準）】

評価はレポート50%、授業への取り組み姿勢、向上心50%とする。

次に該当する場合は、総合評価から減点する。

- ・遅刻、早退は1回につき1点減点する。
- ・欠席1回につき3点減点する。
- ・欠席6回以上は単位認定をしない。
- ・私語、実習中の携帯操作、周囲への迷惑行為など「学生受講規定」に反する場合は注意1回につき2点減点する。
※特に調理実習は危険を伴うので教員の注意を良く聞くこと。
- ・レポートの未提出は5点減点する。
- ・調理実習用の服装（上履き、エプロン、三角布など）が整わない場合は5点減点する。
※特に上履きを持参しない場合は入室できないので要注意

【その他補足事項】

- ① 授業内容は進捗状況や食材の入手状況により、変更することがある。
- ② 食物アレルギーのある者は必ず予め申し出る事と、アレルギーを持つ者は調理中にアレルギー食品が口に入ることの無いように自分で十分に注意する事。
- ③ 調理実習中は火傷や怪我の無いよう、集中して作業を行い、全員で十分に気を配る事。
- ④ 教材費として7,000円が必要。

授業科目名	ゼミナール		授業形態・単位数	演習・4単位
			開講年次	3～4年次
担当教員	職名：教授 氏名：田 辺 稔		開講期	通年（2年間）
			授業回数	60回
			期末試験の有無	無
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		60時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	必修	
幼稚園教諭一種免許状		専門教育科目	必修	
保育士資格		専門教育科目	必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワー・メールアドレスについては初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 「パーソナリティの発達」をメインテーマとして掲げるが、特定の発達段階に注目するのではなく、乳児の状態から始まり、成長過程の各段階、すなわち幼児期・児童期・青年期前期、中期を連続的過程として「パーソナリティ」を論じ、履修者とともに考察していく。4年次のゼミナールではパーソナリティ発達について多面的な解釈と説明ができるようパーソナリティに関する諸理論を学びながら、履修者の興味関心の幅を広げ、自分自身で問題点や疑問点を探り継続的な研究が可能になるようにする。 4年生は卒論の中間発表を適宜行う。	【授業の概要との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
		B	技術・技能	
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
	<input type="radio"/>	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	<input type="radio"/>	J	多様性への理解力、応用力	
	<input type="radio"/>	K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】	【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)			
2ヵ年の継続履修を通し、卒業研究として纏めること。(単位認定は4年次となる)	目標	A、C、I、J、K		
4年次では教育心理学領域の学術論文を読み、内容を説明出来ること。	目標	A、C、K		
4年次では教育心理学領域の統計解析手法を理解し説明出来ること。	目標	A、C、K		

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション： 年間授業の流れと留意点。講義課題、授業の進め方の確認		
2	○教育心理学領域の学術論文輪読を通して、研究の着眼点や方法、結論の導き方を学ぶ。 ○教育心理学領域の統計解析手法を学ぶ。	指定された論文を読み、要約できるようにする。	用語の意味解釈、引用人物の理解。
3	3年 ○教育心理学領域の学術論文輪読を通して、研究の着眼点や方法、結論の導き方を学ぶ。 ○教育心理学領域の統計解析手法を学ぶ。	指定された論文を読み、要約できるようにする。	用語の意味解釈、引用人物の理解。
	4年 ○先行研究に関わる文献検索・ゼミ内発表 ○計画に基づく調査等の実施		

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
4	3年 ○教育心理学領域の学術論文輪読を通して、研究の着眼点や方法、結論の導き方を学ぶ。 ○教育心理学領域の統計解析手法を学ぶ。	指定された論文を読み、要約できるようにする。	用語の意味解釈、引用人物の理解。
	4年 ○先行研究に関わる文献検索・ゼミ内発表 ○計画に基づく調査等の実施		
5	3年 ○教育心理学領域の学術論文輪読を通して、研究の着眼点や方法、結論の導き方を学ぶ。 ○教育心理学領域の統計解析手法を学ぶ。	指定された論文を読み、要約できるようにする。	用語の意味解釈、引用人物の理解。
	4年 ○先行研究に関わる文献検索・ゼミ内発表 ○計画に基づく調査等の実施		
6	3年 ○教育心理学領域の学術論文輪読を通して、研究の着眼点や方法、結論の導き方を学ぶ。 ○教育心理学領域の統計解析手法を学ぶ。	指定された論文を読み、要約できるようにする。	用語の意味解釈、引用人物の理解。
	4年 ○先行研究に関わる文献検索・ゼミ内発表 ○計画に基づく調査等の実施		
7	3年 ○教育心理学領域の学術論文輪読を通して、研究の着眼点や方法、結論の導き方を学ぶ。 ○教育心理学領域の統計解析手法を学ぶ。	指定された論文を読み、要約できるようにする。	用語の意味解釈、引用人物の理解。
	4年 ○先行研究に関わる文献検索・ゼミ内発表 ○計画に基づく調査等の実施		
8	3年 ○教育心理学領域の学術論文輪読を通して、研究の着眼点や方法、結論の導き方を学ぶ。 ○教育心理学領域の統計解析手法を学ぶ。	指定された論文を読み、要約できるようにする。	用語の意味解釈、引用人物の理解。
	4年 ○先行研究に関わる文献検索・ゼミ内発表 ○計画に基づく調査等の実施		
9	3年 ○教育心理学領域の学術論文輪読を通して、研究の着眼点や方法、結論の導き方を学ぶ。 ○教育心理学領域の統計解析手法を学ぶ。	指定された論文を読み、要約できるようにする。	用語の意味解釈、引用人物の理解。
	4年 ○先行研究に関わる文献検索・ゼミ内発表 ○計画に基づく調査等の実施		
10	各自の研究課題・調査に関する中間報告		
11	各自の研究課題・調査に関する中間報告		

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
12	3年 各自の研究課題に添い、先行研究等の論文を選びゼミ内でプレゼンしてみる。 ----- 4年 調査結果等取り纏め・集計解析	事前に論文を探し、理解していくこと。	用語の意味解釈、引用人物の理解。
13	3年 各自の研究課題に添い、先行研究等の論文を選びゼミ内でプレゼンしてみる。 ----- 4年 調査結果等取り纏め・集計解析	事前に論文を探し、理解していくこと。	用語の意味解釈、引用人物の理解。
14	3年 各自の研究課題に添い、先行研究等の論文を選びゼミ内でプレゼンしてみる。 ----- 4年 調査結果等取り纏め・集計解析	事前に論文を探し、理解していくこと。	
15	3年 各自の研究課題に添い、先行研究等の論文を選びゼミ内でプレゼンしてみる。 ----- 4年 調査結果等取り纏め・集計解析	事前に論文を探し、理解していくこと。	
16	3年 各自の研究課題に関する再調整と中間報告 実証研究に伴うフィールド確認と方法論の検討 ----- 4年 論文制作		
17	3年 各自の研究課題に関する再調整と中間報告 実証研究に伴うフィールド確認と方法論の検討 ----- 4年 論文制作		
18	3年 各自の研究課題に添い研究計画の立案 ----- 4年 論文制作	資料等は各自で準備	
19	3年 各自の研究課題に添い研究計画の立案 ----- 4年 論文制作	資料等は各自で準備	
20	3年 研究課題についてのプレゼンと批評1 ----- 4年 論文制作	資料等は各自で準備	

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
21	3年 研究課題についてのプレゼンと批評2 ----- 4年 論文制作	資料等は各自で準備	
22	3年 各自の研究課題に添い研究計画の立案 ----- 4年 論文制作	資料等は各自で準備	
23	3年 研究課題についてのプレゼンと批評3 計画に基づく調査等の実施 ----- 4年 論文制作	資料等は各自で準備	
24	3年 研究課題についてのプレゼンと批評4 計画に基づく調査等の実施 ----- 4年 論文制作	資料等は各自で準備	
25	3年 研究課題の決定 ----- 4年 論文制作	資料等は各自で準備	
26	3年 研究課題の決定 ----- 4年 論文制作	資料等は各自で準備	
27	3年 計画に基づく調査等の実施 ----- 4年 論文制作、提出	資料等は各自で準備	
28	ゼミ内卒論発表会	資料等は各自で準備	
29	ゼミ内卒論発表会	資料等は各自で準備	
30	ゼミ内卒論発表会	資料等は各自で準備	
【到達度の評価（評価方法・基準）】 2カ年の継続履修を通し、卒業研究として纏めること。			
【教科書】 必要な資料はその都度印刷物で配布する。			
【参考書】 必要な書籍は履修者各自の研究領域により異なるため、授業内で逐次紹介する。			

授業科目名	ゼミナール		授業形態・単位数	演習・4単位
			開講年次	3～4年次
担当教員	職名：教授 氏名：板垣健太郎 <small>いた がき けんたろう</small>	開講期	通年（2年間）	
		授業回数	60回	
		期末試験の有無	無	
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		60時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	必修	
幼稚園教諭一種免許状		専門教育科目	必修	
保育士資格		専門教育科目	必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワー、メールアドレスは初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 「障害を抱えた子どもの理解を深めよう」をテーマとし、観察、記録、収集した情報の分析と統合、またそれに基づく（対象児理解の）所見の作成等、対象児理解に関する一連の知識と技能を具体的に養うことを目的とする。 自主的なフィールドワークとして、障害保育を実施している幼稚園等で保育を受けている障害児の観察を行い、その記録をもとに、グループ討議やグループワーク等を通してその対象児についての理解を試み、各履修生各々がそれを所見としてまとめる演習を展開する。 4年生は卒論をまとめる自主的研究が中心となる。	【授業の概要との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技術・技能	
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力	
	<input type="radio"/>	D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
	<input type="radio"/>	F	感性及び感動表現力	
	<input type="radio"/>	G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	<input type="radio"/>	J	多様性への理解力、応用力	
	<input type="radio"/>	K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】		【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)		
文献検索と文献研究の方法を知る。		目標	A、C	
保育記録の方法と記録の利用法を知る。		目標	A、B、C、F	
記録のもとに対象児理解を深める（事例検討ができるようになる）。		目標	B、C、F、G、J、K	
事例研究の方法を学ぶ。		目標	A、B、C	
4年次には事例を卒業研究としてまとめる。		目標	A、B、C、D	

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	授業説明	授業説明の他、代表者選定、テーマ分担など	
	卒論目次作成	目次の作成と発表	研究計画確認
2	事例検討法理解（事例検討の方法・特徴とフィールドワークの関係について学ぶ）	講義「事例検討の方法」資料「保育の構造」使用	事例検討に関する下調べと復習
	卒論作成日程表作成	日程の作成と発表	計立案準備
3	フィールドワーク準備	計画表作成、必要手続き確認等	研究内容確認
	事例検討①	〃	〃

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
4	文献検索法の習得	文献検索の実地練習（図書館利用）	興味ある文献の検索(事後)
	事例検討②	事例の発表と検討	記録作成、反省
5	事例検討①	発表事例に基づく事例検討	事例記録の作成 事後反省
	事例検討③	〃	〃
6	保育記録についての理解①（記録の目的）	保育記録の目的に関する発表と討論	発表準備・復習
	卒論「問題、目的、方法」の確認	発表と討論	レジュメ準備
7	事例検討②	発表事例に基づく事例検討	事例記録の作成 事後反省
	事例検討④	〃	〃
8	保育記録についての理解②（記録の方法）	保育記録の方法に関する発表と討論	発表準備・復習
	事例検討⑤	事例の発表と検討	記録作成、反省
9	事例検討③	発表事例に基づく事例検討	事例記録の作成 事後反省
	事例検討⑥	〃	〃
10	保育記録についての理解③（記録の活用）	保育記録の活用に関する発表と討論	発表準備・復習
	事例検討⑦	事例の発表と検討	記録作成、反省
11	事例検討④	発表事例に基づく事例検討	事例記録の作成 事後反省
	事例検討⑧	〃	〃
12	関係論文輪読①	文献の内容紹介と討論	発表準備
	卒論「結果」についての進捗状況確認	発表と討論	レジュメ準備
13	事例検討⑤	発表事例に基づく事例検討	事例記録の作成 事後反省
	事例検討⑨	〃	〃
14	関係論文輪読②	文献の内容紹介と討論	発表準備
	事例検討⑩	事例の発表と検討	事例記録の作成 事後反省
15	事例検討⑥	発表事例に基づく事例検討	事例記録の作成 事後反省
	卒論中間発表	発表、質疑応答	レジュメ準備
16	関係論文輪読③	文献の内容紹介と討論	発表準備
	事例検討⑪	発表事例に基づく事例検討	事例記録の作成 事後反省

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
17	事例検討⑦	発表事例に基づく事例検討	事例記録の作成 事後反省
	事例のまとめ①	発表と質疑応答	レジュメ準備
18	保育研究法理解	保育の研究方法についての発表と討論	発表準備 各自復習
	事例のまとめ②	発表と質疑応答	レジュメ準備
19	事例検討⑧	発表事例に基づく事例検討	事例記録の作成 事後反省
	事例のまとめ③	発表と質疑応答	レジュメ準備
20	事例研究法理解①	事例研究法についての発表と議論	発表準備 各自復習
	事例のまとめ④	事例の発表と検討	記録作成、反省
21	事例検討⑨	発表事例に基づく事例検討	事例記録の作成 事後反省
	事例のまとめ⑤	発表と質疑応答	レジュメ準備
22	事例検討法理解②	事例研究法についての発表と討論	発表準備 各自復習
	事例のまとめ⑥	発表と質疑応答	レジュメ準備
23	事例検討⑩	発表事例に基づく事例検討	事例記録の作成 事後反省
	事例検討⑫	〃	〃
24	事例検討法理解③	事例研究法についての発表と討論	発表準備 各自復習
	事例のまとめ⑦	発表と質疑応答	レジュメ準備
25	事例検討⑪	発表事例に基づく事例検討	事例記録の作成 事後反省
	事例検討⑬	〃	反省
26	卒業研究計画①	卒業計画の発表と討論	研究計画作成
	卒論「考察」の進捗状況確認と討論①	発表と質疑応答	レジュメ準備
27	事例検討⑫	発表事例に基づく事例検討	事例記録の作成 事後反省
	事例検討⑭	〃	〃
28	卒業研究計画②	卒業計画の発表と討論	研究計画作成
	卒論「考察」の進捗状況確認と討論②	発表と質疑応答	レジュメ準備

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
29	事例検討⑬	発表事例に基づく事例検討	事例記録の作成 事後反省
	事例検討⑮	〃	〃
30	卒業研究計画③	卒業計画の発表と討論	研究計画作成
	卒業研究発表	卒論の発表と質疑応答	発表準備
<p>【到達度の評価（評価方法・基準）】 卒業研究により評価する。演習における文献研究と事例検討の内容を反映していることと、研究の問題設定、目的、方法、結果、結論が十分論理的にまた明快に展開されているかどうかを基準とする。 ※遅刻・早退は1回につき1点の減点。欠席は1回につき3点の減点。</p>			
<p>【参考書】 適宜紹介する。</p>			
<p>【その他補足事項】 文献・著書による学習の他、幼稚園学童保育、フリースクール等で児童と関わる体験をもとにしたディスカッションを通して学ぶことを多く行う。子どもと関わる機関については、履修生と相談しながら決める（紹介する）。</p>			